

# 検 査 案 内 目 次

検査依頼要項	検査のご依頼方法 / ① 各種検査依頼書・検査報告書 / ② 検査のご利用にあたって / ③ 検査方法 / ④ 緊急報告検査値範囲 / ⑤ 実施料について / ⑥	①
診療報酬点数早見表	五十音 / ⑦ アルファベット / ⑧ ギリシャ文字・数字 / ⑨	⑦
生化学検査	酵素 / 1 生体色素 / 2 胆汁酸 / 2 含窒素成分 / 3 蛋白 / 4 脂質 / 5 糖代謝・有機酸 / 7 電解質 / 7 金属 / 8 アイソザイム / 9 ビタミン / 10 その他 / 10	1
機能検査	機能検査・クリアランス試験 / 13 機能検査・クリアランス試験実施スケジュール / 14	13
腫瘍関連検査	腫瘍関連 / 15	15
内分泌学検査	下垂体 / 17 甲状腺 / 18 副甲状腺 / 18 副腎髄質・交感神経・中枢神経 / 19 腎・副腎皮質 / 20 性腺・胎盤 / 22 膵臓・消化管 / 24 その他 / 24 内分泌負荷試験 / 26	17
免疫学検査	自己抗体 / 27 感染症 / 30 単純ヘルペスウイルス特異抗原 検体取扱い方法 / 33 梅毒血清反応 / 34 肝炎ウイルス / 34 免疫血液学 / 36 血漿蛋白 / 37 特異IgE関連セット項目 / 39 アレルゲン一覧表(分類別) / 40 アレルゲン一覧表(50音順) / 41 アレルゲン一覧表(所要日数) / 42	27
ウイルス関連検査	ウイルス抗体価 / 44 その他 / 55 ウイルス分離・同定検体取扱い方法 / 56 ヒトパピローマウイルス(HPV)ジェノタイプ型判定(S8容器)の採取方法 / 56 血清ウイルス抗体検査一覧表(依頼コード一覧) / 57 ウイルス抗原抗体検査参考資料 / 58	44
細胞性免疫検査	細胞性免疫 / 61 細胞性免疫検査 検体取扱い方法 / 62 モノクローナル抗体一覧表 / 63	61
血液学検査	血球計数・形態 / 64 その他 / 65 凝固・線溶 / 65 $\beta$ -トロンボグロブリン ( $\beta$ -TG)、血小板第4因子 (PF <sub>4</sub> ) 検体取扱い方法 / 67	64
薬物検査	抗てんかん剤 / 68 強心剤 / 69 気管支拡張剤 / 69 不整脈用剤 / 69 抗生剤 / 69 免疫抑制剤 / 70 その他 / 70 TDM (薬物血中濃度モニタリング) における採血について / 71 特定薬剤治療管理料の算定について / 71	68
染色体・HLA検査	血液疾患染色体検査 / 72 先天異常染色体検査 / 72 HLA検査 / 72 遺伝子関連検査 / 72 HLA型の種類 / 73	72
尿・糞便検査	尿検査 / 74 糞便検査 / 76 糞便中ヒトヘモグロビン採取方法 / 76	74
穿刺液・採取液検査	髄液検査 / 77 胸水・腹水検査 / 77 関節液検査 / 77 精液検査 / 77	77
産業医学関連検査	有機溶剤業務 / 78 鉛業務 / 78	78
特殊分析	結石・アミノ酸分析 / 79 アミノ酸分析 [39種類、9種類(血漿)] 基準値 / 79 男性 AICS(5種)、女性 AICS(6種)、男性 AIRS(8種)、女性 AIRS(9種) 検体取扱い方法 / 80 骨塩定量検査 / 80 DIP法における第二中手骨骨密度および骨皮質幅指数基準値 / 80	79
微生物学検査	一般細菌 / 81 真菌 / 81 抗酸菌 / 82 核酸同定 / 82 その他 / 83 感受性薬剤名一覧(系統別) / 84 感受性薬剤名一覧(50音順) / 85 薬剤感受性セット / 86 菌種別にみた有効とされる感受性薬剤一覧表 / 87 抗酸菌検査の進め方 / 88 クラミジアトラコマチス・淋菌核酸同定(クラミジア RT-PCR・淋菌 RT-PCR) / 89 細菌検査材料採取方法 / 89 喀痰の採取法 / 91 血液培養採血時の皮膚の消毒方法 / 91	81
病理検査	細胞診 / 92 細胞診検査を提出時の留意点 / 92 固定方法について / 93 スライドガラスの返却について / 93 病理組織 / 94 病理組織検査実施上の留意点 / 95 検査実施料の算定方法 / 95 検査材料の提出方法 / 95 病理スライド、パラフィンブロックの返却について / 95 免疫染色抗体一覧 / 96 各種染色一覧 / 97	92
検体情報	検査データに影響を与える要因 / 98 放置によるおもな血中成分の変化と対策 / 99 検体採取のタイミングによる血中成分の変動 / 99 全血放置による血清成分の変動例 / 99 便中ヒトヘモグロビンの保存状態による経時変化 / 99 生化学検査 / 100 尿検査 / 101 髄液・穿刺液検査 / 101 感染症法に基づく届け出疾患一覧 / 102	98
検査方法参考文献	生化学検査 / 104 機能検査 / 105 腫瘍関連検査 / 106 内分泌学検査 / 106 免疫学検査 / 107 ウイルス関連検査 / 109 細胞性免疫検査 / 110 血液学検査 / 110 染色体・HLA検査 / 111 薬物検査 / 111 遺伝子関連検査 / 112 尿・糞便検査 / 112 穿刺液・採取液検査 / 113 産業医学関連検査 / 113 特殊分析 / 113 骨塩定量検査 / 113 微生物学検査 / 113 病理学検査 / 114	104
容器一覧	A～F容器 / 115 G～I7容器 / 116 I9～Ik容器 / 117 J～P2容器 / 118 P3～R容器 / 119 R2～Se容器 / 120 T1～Z容器 / 121	115
新規検査項目記入欄		122



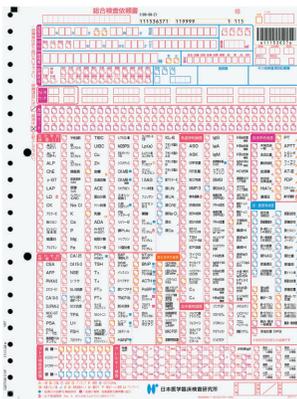
# 検査依頼要項

## 各種検査依頼書・検査報告書

### 検査依頼書の種類

総合検査依頼書／連名検査依頼書／細菌検査依頼書／細胞診検査依頼書／病理組織検査依頼書／細胞診連名依頼書／病理組織検査依頼書

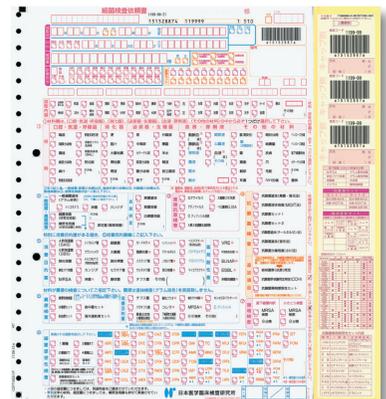
検査依頼要項



総合検査依頼書



連名検査依頼書



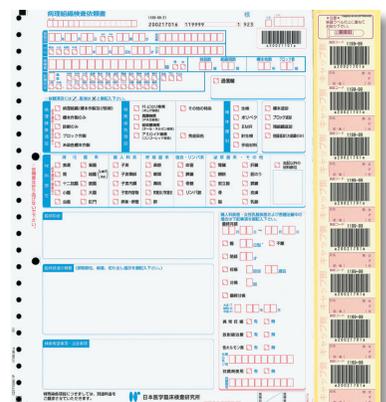
細菌検査依頼書



細胞診検査依頼書



細胞診連名依頼書



病理組織検査依頼書

### 検査報告書の種類

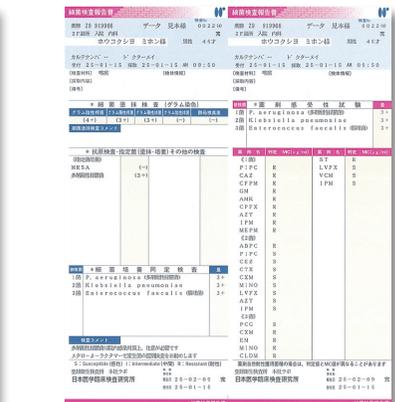
総合検査報告書（項目固定・項目フリー）／細菌検査報告書／アインザイム報告書／骨塩定量検査報告書／細胞診報告書／病理組織検査報告書



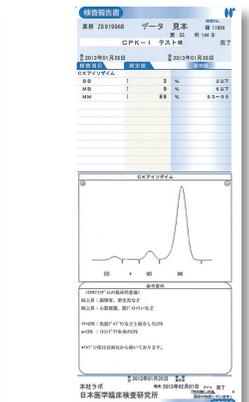
総合検査報告書（項目固定）



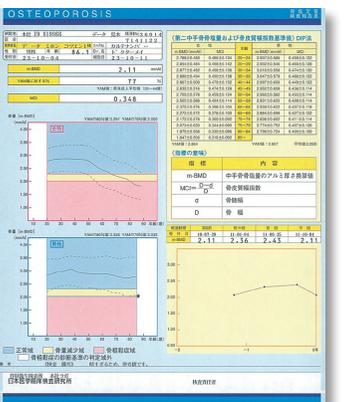
総合検査報告書（項目フリー）



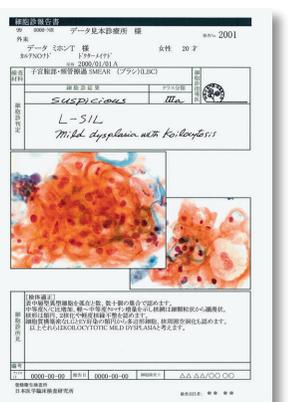
細菌検査報告書



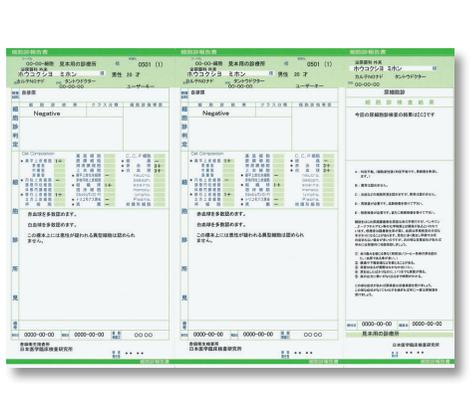
アインザイム報告書



骨塩定量検査報告書



細胞診報告書



細胞診報告書



病理組織検査報告書

# 検査依頼要項

## 検査のご利用にあたって

### 検査登録業務

1. 寄生虫学的検査
2. 血液学的検査
3. 生化学的検査
4. 血清学的検査
5. 微生物学的検査
6. 病理学的検査

### 検体の採取量・提出量

- 本案内書を参照の上、所定容器に必要量を採取して下さい。
- 本案内書は、おおむねの採取量、提出量を記してありますが、提出量は原則として再検査に応じられるように設定してあります。検体量不足とならないようご注意ください。
- 培養を伴う検査の検体採取は無菌的に行い、所定の滅菌容器にてご提出下さい。

### 予約検査

- 予約が必要な検査項目には「**予約検査**」を付しております。ご出検前には必ずご連絡をお願い致します。

### 検体容器

- 検体容器には検査目的別にラベルが貼付されており、容器記号が印刷されています。また、キャップの色によっても判別できるものもあります。
- 検査項目により検体容器や添加剤を正しく使い分けることが重要です。容器記号につきましては、巻末の容器一覧をご参照下さい。誤った検体容器では受託出来ませんので予めご了承下さい。

### 検体の保存方法

- 検査精度を維持するため、検体の採取後、ご提出されるまでの間、本案内書の指定の保存方法にてお願い致します。
- 血清、血漿を試料とする検査項目につきましては、上清を冷蔵あるいは凍結保存し、ご提出下さい。
 

<b>凍結</b> ……10℃以下にて保存して下さい。	<b>室温</b> ……16～30℃で保存して下さい。
<b>冷蔵</b> ……2～15℃で保存して下さい。	<b>遮光</b> ……直射日光または蛍光灯、紫外線を避けて保存して下さい。

### 所要日数

- 検体をお預かりした翌日を起算日とし、結果をお届けするまでの日数です。再検査の場合や祝祭日の前後はさらに日数を要することがあります。

### 検査方法・基準値

- 「基準値及び判定基準」を当社では「基準値」として記載しています。尚、機器及び試薬の新規導入等により変更する場合があります。

### 検体検査実施料

- 実施料 2020年4月1日現在の実施料を記載しております。尚、検体検査以外の生体検査、特定薬剤治療管理料等は点数に（ ）を付しております。
- 判断料 検体検査判断区分は下記の記号にて記載しております。

検査判断区分	略称	判断料	検査判断区分	略称	判断料
1 尿・糞便等検査判断料	尿便	34点	7 微生物学的検査判断料	微生	150点
2 遺伝子関連・染色体検査判断料	遺伝子	100点	8 病理診断・判断料	病理	450点
3 血液学的検査判断料	血液	125点	組織診断料 細胞診断料 病理判断料	200点	
4 生化学的検査(I)判断料	生I	144点		150点	
5 生化学的検査(II)判断料	生II	144点		—	
6 免疫学的検査判断料	免疫	144点	9 検体検査判断料なし	—	—

### 検体情報

- 検査測定値に影響を与える要因別にまとめています。また、保存条件による検体保存の可能時間を記載してあります。(P98～103をご参照下さい。)

### 検査方法参考文献

- 検査方法に関する基本的な参考文献名を記載しております。その検査についての概略や問題点等を示すものです。(P104～P114をご参照下さい。)

### 緊急報告検査値範囲

- 本案内書で指定した緊急項目で緊急報告範囲に該当する検査結果が得られた場合、電話等で緊急連絡させていただきます。(P⑧をご参照下さい。)

### 備考

[採取] 血液材料の場合は基本的に早朝、安静、空腹時に溶血しないよう注意してご採取下さい。細菌検査材料につきましては、P89～91「細菌検査材料採取方法」をご参照下さい。注意が必要な項目につきましてはその旨記載しております。

### ■検査結果のご報告

- 検査結果は当社所定の報告書にてお届け致します。(P②をご参照下さい。)

### ■検体の保管・廃棄

- 検査実施後の検体は、依頼日より10日間保管し、再検査および追加検査のご要望にお応え致します。但し、末梢血液検査等一部の変性しやすい材料は、検査実施後、血球検体については3日間、血糖及び尿検体については5日間の保管とさせていただきます。また、病理ホルマリン検体は依頼日より1ヶ月、病理スライド標本は5年間、パラフィンブロックは10年間保管致します。尚、保管期間が過ぎた検体は当社にて適正に廃棄処分させていただきます。また、お預かりした検体は個人情報保護法その他関係法規及びガイドラインに従った処理を行ったうえで、検査精度の維持、向上等のために使用させて頂くことがございますので、予めご了承下さい。
- 保管期間中、委託された医療機関より検体の返却を求められた場合は、検査実施済み検体を返却させていただきます。尚、第三者より検査実施済み検体の分与を求められた場合は、目的の如何にかかわらず分与は一切行いません。

### ■検査についてのお問い合わせ

- 検査案内等のお問い合わせ、ご意見、ご指摘につきましては、最寄りの営業所へお問い合わせ下さい。
 

京 阪 ☎(075)631-6181	京 都 北 ☎(075)781-7118	舞 鶴 ☎(0773)64-0828	敦 賀 ☎(0773)64-0828
關 西 中 央 ☎(06)6536-8527	大 阪 北 ☎(06)6384-4411	大 阪 東 ☎(06)6991-3958	堺・大 阪 南 ☎(072)265-4141
神 戸 ☎(078)811-0600	阪 奈 ☎(0743)75-6021	和 歌 山 中 央 ☎(073)421-8280	和 歌 山 南 ☎(0739)24-8582
新 宮 ☎(0735)23-1101	浜 田 ☎(0855)23-4755	出 雲 ☎(0853)53-5156	山 口 ☎(083)972-6853

### ■料金のご請求とお支払い方法

- 請求書は1ヶ月分をまとめてお届け致します。お支払い方法は契約に従ってお支払いいただきます。

## 検査方法

## 略称と概略

**CF** 補体結合反応  
Complement Fixation

ある抗原に対応する抗体が存在するかどうかを調べる。抗原 - 抗体複合物が存在すると抗体の Fc 部分に補体が結合する現象を応用した検査方法。主にウイルス抗体の検出に用いられる最も基本的なものである。CF 活性を持つのは IgG と IgM のみであるが、一般に C F 抗体は長期間持続せず、長くても数年で消失してしまう。ペア血清による測定が望ましい。

**CLEIA** 化学発光・酵素免疫測定法  
Chemiluminescent Enzyme Immunoassay

被検物質に対する抗体を固相化したものに検体および酵素標識抗体を反応させ、固相化抗体 - 被検物質 - 酵素標識抗体を形成させる（サンドイッチ法）。これに化学発光基質を加えると、基質は酵素により分解され酵素量に応じて発光する。その発光量をルミノメーターで測定し定量する検査方法である。

**CLIA** 化学発光免疫測定法  
Chemiluminescent Immunoassay

被検物質に対する抗体を固相化したものに検体および化学発光物質で標識した抗体を反応させ、固相化抗体 - 被検物質 - 化学発光物質標識抗体を形成させる（サンドイッチ法）。化学発光物質の発光強度を測定する検査方法である。

**CPBA** 競合性蛋白結合分析法  
Competitive Protein Binding Analysis

ラジオアイソトープを標識した物質と、これと結合する特異結合蛋白との反応に対してアイソトープを標識していない物質を競合反応させた後、結合型と遊離型を分離（B/F分離）してその放射能を測定することにより被検物質を測定する検査方法である。サイロキシン結合蛋白や総鉄結合能などの測定に用いられる。

**ECLIA** 電気化学発光免疫測定法  
Electro Chemiluminescence Immunoassay

電気化学反応により生成されるルテニウムピリジン錯体を励起して発光させる化学発光法の一つである。被検物質に対する抗体を結合したビーズと検体を反応させた後、ビーズに結合した被検物質にルテニウム標識抗体を反応させる（サンドイッチ法）。ビーズを洗浄し電極上に電気エネルギーを加えるとビーズに結合したルテニウム標識抗体の量に応じてルテニウム錯体が発光する。この発光量は被検物質の量と相関する。

**EIA** 酵素免疫測定法  
Enzyme Immunoassay

酵素標識した抗原または抗体に検体を反応させた後、その酵素に対する発色基質を加え発色させ、その吸光度により比色定量するものである。競合法と非競合法に大別され、各種ホルモン、ウイルス抗原・抗体価、薬物濃度などの測定に用いられる。標識酵素にはペルオキシダーゼやアルカリフォスファターゼなどが用いられている。

**ELISA** 酵素免疫測定法  
Enzyme-Linked Immunosorbent Assay

測定対象となる抗原に対する抗体を固相化し、検体を反応させた後に酵素を標識した2次抗体を加え、固相化抗体 - 被検物質 - 酵素標識抗体を形成させる（サンドイッチ法）。これに発色基質を加えて酵素活性を測定する方法である。

**FA** 蛍光抗体法  
Fluorescent Antibody Method

FITC などの蛍光色素を標識した抗原または抗体に検体を反応させ蛍光顕微鏡下で観察する。目的とする物質が存在すると特異的な蛍光が見られる。抗体（抗原）に蛍光色素を直接結合させる直接法と、抗原 - 抗体反応させた後、蛍光色素を標識した2次抗体で反応させる間接法がある。

**FEIA** 蛍光・酵素免疫測定法  
Fluorescence-Enzyme Immunoassay

EIA 法の一つで、主にアレルゲン特異的 IgE 抗体を測定するのに用いられる。酵素を標識した測定対象のアレルゲン（抗原）に検体を反応させた後、蛍光基質を加えて蛍光強度を測定する。この蛍光強度は IgE 抗体の量と相関する。

**FISH** 蛍光 in situ ハイブリダイゼーション  
Fluorescence in situ hybridization

検出を目的とする DNA に対応する蛍光色素で標識したプローブを用いてハイブリダイゼーションを行い、特定波長で発色させた蛍光部位を蛍光顕微鏡により検出する方法。

蛍光色素で標識したプローブと標的 DNA を直接結合させる直接法と、標識物質で標識したプローブと標的 DNA を結合させた後に、標識プローブと蛍光物質を結合させて発色させる間接法がある。

**FPIA** 蛍光偏光免疫測定法  
Fluorescence Polarization Immunoassay

血中薬物のような比較的分子量の小さい物質の測定に用いられる。蛍光で標識した抗原は分子量が小さい場合には液相中では活発に回転しており、偏光励起光をあてても蛍光の偏光度が小さいが、抗体と結合して分子量が大きくなると回転が抑制され、蛍光の偏光度が大きくなる。

**GC** ガスクロマトグラフィー  
Gas Chromatography

固定相と接して流れる移動相（キャリアーガス）のなかの被検物質は両相への親和性の差によって分離される。分離された分画は検出器により得られたクロマトグラム（移動距離やピークの高・ピーク面積）などにより、被検物質の同定および定量が行われる。

## GC-MS ガスクロマトグラフィー・マススペクトロメトリー

Gas Chromatography-Mas Spectrometry

マススペクトロメトリー（質量分析；MS）は測定試料を気化しイオン化した後、高電圧で加速し、これを磁場に導き、ここで得られたイオン化した物質のエネルギー分布や電荷分布の違いによる特異なスペクトルを解析することにより化合物の同定、定量、構造解析が行われる。GC-MSはこのMSにガスクロマトグラフィーを組み合わせたものである。

## HA 赤血球凝集反応

Hemagglutination

赤血球の表面に存在する特異抗原と検体中の抗体を反応させ、抗原-抗体反応による凝集の有無により抗体の存在を判定する方法である。

## HI 赤血球凝集抑制反応

Hemagglutination Inhibition

一般にウイルスは赤血球を凝集する性質を持っており、ウイルスが対応する抗体と結合すると赤血球凝集能が抑制される。この性質を利用してウイルスを検体と反応させた後、赤血球を加え、どの希釈倍率まで凝集が抑制されたかにより抗体価を判定する。

## HPLC 高速液体クロマトグラフィー

High Performance Liquid Chromatography

固定相と接して流れる移動相（液体）のなかの被検物質は両相への親和性の差によって分離される。分離された分画は検出器によって得られたクロマトグラム（移動距離やピークの高・ピーク面積）などにより、被検物質の同定および定量が行われる。

## IFA 間接蛍光抗体法

Indirect Fluorescence Antibody Method

FITCなどの蛍光色素を標識した抗原または抗体に検体を反応させ蛍光顕微鏡下で観察する。目的とする物質が存在すると特異的な蛍光が見られる。抗体（抗原）に蛍光色素を直接結合させる直接法と、抗原-抗体反応させた後、蛍光色素を標識した2次抗体で反応させる間接法がある。

## IR 赤外吸収スペクトロメトリー

Infrared Absorption Spectrometry

分子は各々固有の振動をしているので、測定試料に赤外線波長を連続的に変化させて照射していくと、試料中の分子の固有振動周波数と同じ周波数の赤外線が吸収され、その分子構造に応じた固有の振動スペクトルを得ることができる。赤外吸収波数を測定することにより試料の定性・定量分析を行なう方法である。

## IRMA 免疫放射定量法

Immuno Radio Metric Assay

RIA法（ラジオイムノアッセイ）の一つで、非競合的な反応に基づくものをいい、一般のRIA法より特異性が高いといわれる。固相化した抗体に抗原を反応させた後、放射性同位元素で標識した抗体を抗原に2次反応させると、固相化抗体と標識抗体が抗原を挟むように結合するため、サンドイッチ法と呼ばれる。

## LAMP Loop-Mediated Isothermal Amplification

Loop-Mediated Isothermal Amplification

PCRとは異なる原理で遺伝子（DNA）を増幅する方法。増幅効率が高く、短時間一定温度で増幅反応が起きることが特徴である。

## LPPIA ラテックス近赤外免疫比濁法

Latex Photometric Immunoassay

測定を目的とする抗原に対する抗体をラテックス粒子に結合させ、これに検体を反応させると抗原-抗体反応の結果凝集が起こって濁度が増加する。これに近赤外光を当てその透過率を測定する方法である。

## MAT 磁性化粒子凝集法

Magnetic Agglutination Test

抗体を結合させた磁性化粒子に検体を加え、目的とする抗原が存在すると抗原-抗体反応により凝集する。これを磁界下で行うことにより凝集反応を促進させ、判定時間を短縮することが可能となる。HBs抗原の検出に用いる。

## MALDI-TOF MS マトリックス支援レーザー脱離イオン化-飛行時間型質量分析法

Matrix Assisted Laser Desorption / Ionization - Time Of Flight Mass Spectrometry

MALDI-TOF（マトリックス支援レーザー脱離イオン化飛行時間型）質量分析計を使って生物特有の分子フィンガープリントを測定することで微生物を同定する。特にすべての微生物に存在する含有量の多いタンパク質を測定し、固有のパターンを多数の菌種が登録されているデータベースとマッチングさせることで、信頼性高くかつ正確に微生物を同定し、種レベルで菌名を決定する。

## MPHA 混合受身赤血球凝集法

Mixed Passive Hemagglutination

プレートのような担体に測定対象となる抗体に対する抗原を固相する。これに検体を加え一定時間反応させ、プレートを洗浄し指示血球を滴下した後、一定時間後に受身赤血球凝集反応と同様の基準で判定を行なう。

## NT 中和反応

Neutralization Test

ウイルス抗体価の測定によく用いられる。検体を段階希釈し目的とするウイルスを添加、混合し検体中の抗体と抗原-抗体反応を起こさせ、そのウイルスに感受性のある培養細胞に接種して一定期間培養を行う。中和抗体が存在するとウイルスの感染性が失われ（中和）細胞変性効果（CPE）が起こらなくなる。ウイルス抗体価の測定において最も特異性の高い検査方法である。

## PA 粒子凝集反応

Particle Agglutination

抗原または抗体を吸着させたゼラチン粒子（感作粒子）などを用いて抗原-抗体反応を行わせ、凝集の有無を観察する。凝集が起これば目的とする抗体または抗原の存在が示唆される。

## PCR ポリメラーゼ連鎖反応

Polymerase Chain Reaction

DNA の断片を増幅する方法である。DNA が加熱により2本鎖から1本鎖に解離し、冷却により1本鎖に戻る性質を利用する。1本鎖DNAを鋳型として目的とする領域のプライマーを結合させ、DNAポリメラーゼの転写反応によりDNAの合成を行う。この反応を繰り返すことにより、目的とするDNA領域を指数関数的に増幅させる方法である。RNAを増幅する場合は逆転写酵素（reverse transcriptase: RT）を用いて相補的DNA（cDNA）に転換して増幅する。

## PHA 受身赤血球凝集反応

Passive Hemagglutination

目的とする抗体に対する抗原を結合させた動物の赤血球（感作血球）に検体を反応させ、凝集の有無を確認する。凝集が起これば目的とする抗体の存在が示唆される。

## Real-time PCR リアルタイムポリメラーゼ連鎖反応

Real-time polymerase chain reaction

定量PCR(Q-PCR)のひとつ。ポリメラーゼ連鎖反応(PCR)による増幅を経時的(リアルタイム)に測定することで、増幅率に基づいて鋳型となるDNAの定量を行なう。この定量は蛍光色素を用いて行われ、二種類の方法がある。2本鎖DNAに特異的に挿入(インターカレート)して蛍光を発する色素(SYBR green)を用いる方法と、増幅するDNA配列に特異的なオリゴヌクレオチドに蛍光色素を結合させたプローブ(TaqMan プローブ等)を用いる方法である。

## RIA 放射線免疫測定法

Radio Immunoassay

目的とする抗原に対する抗体を用いて、検体に抗体を加え抗原-抗体反応を起こさせた後、さらにラジオアイソトープ(主に<sup>125</sup>I)で標識した抗体を加えて、複合物を形成した標識物質(bound)と未反応物質(free)を分離(B/F分離)し、放射活性を測定し、標準曲線より濃度を算出する。

## RRA ラジオレセプターアッセイ

Radio Receptor Assay

ホルモンやレセプター抗体などは標的レセプターと結合することで活性を有する。その性質を応用して通常の抗原-抗体反応と同じ様に、目的とする物質にレセプターを結合させ、その反応性により目的物質の量を測定する方法である。

## RT-PCR 逆転写酵素ポリメラーゼ連鎖反応

Reverse transcriptase-polymerase chain reaction

RNAが増幅対象の場合に、RNAを鋳型として逆転写酵素(reverse transcriptase-polymerase:RT)を用いて相補的DNA(cDNA)に転換してPCRを行う方法で、RNAウイルスなどの検出に用いる。

## TIA 免疫比濁法

Turbidimetric Immunoassay

目的とする物質に対応する抗体を検体に加えると抗原-抗体反応により、抗原-抗体複合物が生成され、複合物の量に応じて濁度が増加する。この濁度を測定し目的物質の量を測定する方法である。

## TM 解析法 融解温度解析法

melting temperature analysis

2本鎖DNAに熱を加えてゆくと、ある温度で1本鎖に変性する。その温度はDNAの塩基配列に依存し、そのDNAに特異的な値をとる。この温度をTM値(正確にはDNAの50%が熱変性により1本鎖になる温度)という。このTM値を求めることにより反応系中のDNAの同定を行うことをTM解析法という。

## UV 紫外外部吸光度分析

Ultraviolet Absorption Spectrophotometry

通常、比色法は可視部波長を用いて吸光度により測定するが、補酵素がNADHやNADPHなどの場合は340nm付近の紫外外部波長に最大吸収を持っているので、これらの補酵素が反応系に関与する場合はUV法が用いられる。

# 検査依頼要項

## 主な単位記号

L : liter	U : unit	pmol : picomole (= $10^{-12}$ mol)
dL : deciliter (= 0.1L)	mU : milliunit (= 0.001U)	fmol : femtomole (= $10^{-15}$ mol)
mL : milliliter (= 0.001L)	$\mu$ U : microunit (= $10^{-6}$ U)	mEq : milli Equivalent
$\mu$ L : microliter (= $10^{-6}$ L)	IU : international unit	Meg : mega Equivalent
kg : kilogram	mIU : milliinternational unit (= 0.001 IU)	LGE : Log Genome Equivalent
g : gram	AU : arbitrary unit	mOsm : milliosmole
mg : milligram (= 0.001g)	M : mol/L	% : percent
$\mu$ g : microgram (= $10^{-6}$ g)	mmol : millimole (= 0.001mol)	‰ : permilli
ng : nanogram (= $10^{-9}$ g)	$\mu$ mol : micromole (= $10^{-6}$ mol)	cpm : count per minute
pg : picogram (= $10^{-12}$ g)	nmol : nanomole (= $10^{-9}$ mol)	U <sub>A</sub> : unit allergen

## 検体受領と搬送時間

- ご依頼の検体は原則として貴院のご指定場所に当社営業担当者が受領に伺います。
- 検体の受領確認として、検査依頼書（ご依頼元控え）に受領印を押したものを受領証とさせていただきます。

検体受領場所

当検査所迄の検体平均搬送時間

約	時間
---	----

## 測定場所および測定委託先

備考欄に記号の記載がない検査項目につきましては、当社にて測定実施しております。  
その他、委託先につきましては備考欄に下記の記号にて記載しております。  
(※ P78 に関しましては備考欄未記載のため対象物質名に記載しています。)  
報告書へも下記番号を記載しております。

- ① LSI メディエンス
- ② エスアールエル

当所よりの平均搬送時間

①② : 30 時間以内

# 緊急報告検査値範囲

下表の検査項目につきましては、緊急報告範囲に該当する検査結果が得られた場合、電話等で緊急連絡をさせていただきます。

検査依頼事項

検査項目	基準値	単位	緊急報告範囲		備考
			低値	高値	
Na (ナトリウム) [血清]	136 ~ 147	mEq/L	110以下	170以上	専用容器で出検されたもの ※
K (カリウム) [血清]	3.6 ~ 5.0	mEq/L	2.5以下	6.5以上	※
Ca (カルシウム) [血清]	8.5 ~ 10.2	mg/dL	6.0以下	14.0以上	専用容器で出検されたもの (透析検体を除く) ※
アミラーゼ (AMY) [血清]	37 ~ 125	U/L		1000以上	
AST (GOT)	10 ~ 40	U/L		500以上	溶血検体を除く
ALT (GPT)	5 ~ 40	U/L		500以上	※
LD (LDH)	115 ~ 245	U/L		1000以上	※
血糖 (グルコース)	70 ~ 109	mg/dL	50以下	500以上	
総ビリルビン (T - Bil)	0.3 ~ 1.2	mg/dL		12.0以上	
尿素窒素 (UN) [血清]	8.0 ~ 22.0	mg/dL		80.0以上	透析検体を除く

【血液学的検査】					
白血球数 (WBC)	M3900 ~ 9800 F3500 ~ 9100	/ $\mu$ L	1000以下	25000以上	
色素量 (Hb)	M13.5 ~ 17.6 F11.3 ~ 15.2	g/dL	5.0以下		
血小板数 (PLT)	M13.1 ~ 36.2 F13.0 ~ 36.9	$\times 10^4 / \mu$ L	$3.0 \times 10^4$ 以下	$100.0 \times 10^4$ 以上	低値で凝固片・フィブリン・凝集のある場合を除く
血液像			blastoid cell(+)		
PT/INR				4.00以上	

【免疫学的検査】			
直接クームス試験	(-)		陽性(Baby)

【微生物学的検査】			
細菌培養			1類・2類・3類感染症原因菌の検出

【薬物検査】				
薬剤名	基準値 (治療濃度範囲)	単位	緊急報告範囲	備考
フェノバルビタール	10 ~ 40	$\mu$ g/mL	60以上	
プリミドン	5.0 ~ 12.0	$\mu$ g/mL	15以上	
フェニトイン	10.0 ~ 20.0	$\mu$ g/mL	30以上	
カルバマゼピン	4.0 ~ 12.0	$\mu$ g/mL	12以上	
エトスクシミド	40.0 ~ 100.0	$\mu$ g/mL	120以上	
バルプロ酸ナトリウム	50.0 ~ 100.0	$\mu$ g/mL	150以上	
リチウム	0.4 ~ 1.0	mEq/L	2.0以上	
ジゴキシン	0.8 ~ 2.0	ng/mL	2.5以上	
リドカイン	1.2 ~ 5.0	$\mu$ g/mL	6.0以上	
プロカインアミド	4.0 ~ 10.0	$\mu$ g/mL	12以上	
バンコマイシン	Trough 10 ~ 15	$\mu$ g/mL	60以上	
テイコブラニン	Trough 15 ~ 30	$\mu$ g/mL	Trough濃度 60以上	
サリチル酸	抗炎症作用として 100 ~ 250	$\mu$ g/mL	300以上	
メトトレキサート	危険限界濃度 24時間後 10以上 48時間後 1以上 72時間後 0.1以上	$\mu$ mol/L	48時間後 1.0以上	
テオフィリン	10.0 ~ 20.0	$\mu$ g/mL	25以上	

※ Na、K、Ca は全血保存や溶血により、偽異常値を呈します。その旨をご承知の上、緊急報告をご要望の場合は報告させていただきます。

# 検査依頼要項

## 実施料について

検査依頼要項

- 「実施料」欄は、2020年4月現在の検体検査実施料に準じております。
- 「実施料」欄中、検体検査以外の生体検査、特定薬剤治療管理料などは、点数に（ ）を付してあります。
- 検体検査判断料、病理学的検査診断・判断料の区分は「実施料」欄に下記の通り併記してあります。
 

1. 尿・糞便等検査判断料区分(34点) …………… 尿便	7. 微生物学的検査判断料区分(150点) …………… 微生物
2. 遺伝子関連・染色体検査判断料区分(100点) …… 遺伝子	8. 病理診断・判断料区分 …………… 病理
3. 血液学的検査判断料区分(125点) …………… 血液	組織診断料(450点)
4. 生化学的検査(I)判断料区分(144点) …………… 生I	細胞診断料(200点)
5. 生化学的検査(II)判断料区分(144点) …………… 生II	病理判断料(150点)
6. 免疫学的検査判断料区分(144点) …………… 免疫	9. 検体検査判断料なし
- 下記(適用項目)に掲げた検査を、1回に採取した材料を用いて複数行った場合、その点数は、項目数に応じて実施料欄に示したように算定されます。下記の内容は当検査案内に掲載している検査項目のうち、包括対象となる検査項目の一覧です。全ての包括対象検査項目につきましては、厚生労働省より告示されている診療報酬点数表をご確認ください。

### 包1 血液化学検査包括(生化学的検査(I))

項目名	項目名	項目名	項目名	項目数	実施料
総ビリルビン	直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン	総蛋白	アルブミン(BCP改良法・BCG法)	5項目以上 7項目以下	93
尿素窒素	クレアチニン	尿酸	コリンエステラーゼ(ChE)		
γ-グルタミルトランスフェラーゼ(γ-GT)	アルカリホスファターゼ(ALP)	中性脂肪	ナトリウム及びクロール	8項目又は 9項目	99
カリウム	カルシウム	マグネシウム	クレアチン	10項目以上	109
グルコース	乳酸デヒドロゲナーゼ(LD)	アミラーゼ	ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP)		
クレアチンキナーゼ(CK)	アルドラーゼ	遊離コレステロール	鉄(Fe)		
血中ケトン体・糖・クロール検査(試験紙法・アンブル法・固定化酵素電極によるもの)	不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法)	総鉄結合能(TIBC)(比色法)	リン脂質		
HDL-コレステロール	無機リン及びリン酸	総コレステロール	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(AST)		
アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT)	LDL-コレステロール	蛋白分画	銅(Cu)		
リパーゼ	イオン化カルシウム	マンガン(Mn)			

\*入院中の患者について算定した場合は、入院時初回加算として、初回に限り20点を所定点数に加算する。

### 包2 腫瘍マーカー包括

項目名	項目名	項目名	項目名	項目数	実施料
癌胎児性抗原(CEA)	α-フェトプロテイン(AFP)	扁平上皮癌関連抗原(SCC抗原)	組織ポリペプチド抗原(TPA)	2項目	230
DUPAN-2	NCC-ST-439	CA15-3	エラスターゼ1	3項目	290
前立腺特異抗原(PSA)	CA19-9	PIVKA-II半定量、PIVKA-II定量	CA125	4項目以上	408
CA72-4	SPan-1	シアリルTn抗原(STN)	神経特異エノラーゼ(NSE)		
核マトリックスプロテイン22(NMP22)定量(尿)	核マトリックスプロテイン22(NMP22)定性(尿)	シアリルLe <sup>x</sup> -i抗原(SLX)	塩基性フェトプロテイン(BFP)		
遊離型PSA比(PSA F/T比)	サイトケラチン8・18(尿)	BCA225	サイトケラチン19フラグメント(シフラ)		
抗p53抗体	シアリルLe <sup>x</sup> 抗原(CSLEX)	I型コラーゲン-C-テロペプチド(ICTP)	ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)		
CA54/61	癌関連ガラクトース転移酵素(GAT)	CA602	α-フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%)		
γ-セミノプロテイン(γ-Sm)	ヒト精巢上体蛋白4(HE4)	可溶性メソテリン関連ペプチド	癌胎児性抗原(CEA)定性(乳頭分泌液)		
癌胎児性抗原(CEA)半定量(乳頭分泌液)	HER2蛋白	可溶性インターロイキン-2レセプター(sIL-2R)			

\*診療及び腫瘍マーカー以外の検査の結果から悪性腫瘍の患者であることが強く疑われる者に対して、腫瘍マーカーの検査を行った場合に、1回に限り算定する。ただし、区分番号B001の3に掲げる悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定している患者については算定しない。

### 包3 自己抗体検査包括

項目名	項目名	項目名	項目名	項目数	実施料
抗Jo-1抗体定性	抗Jo-1抗体半定量	抗Jo-1抗体定量	抗サイログロブリン抗体	2項目	320
抗RNP抗体定性	抗RNP抗体半定量	抗RNP抗体定量	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体		
抗Sm抗体定性	抗Sm抗体半定量	抗Sm抗体定量	C1q結合免疫複合体	3項目以上	490
抗SS-B/La抗体定性	抗SS-B/La抗体半定量	抗SS-B/La抗体定量	抗Scl-70抗体定性		
抗Scl-70抗体半定量	抗Scl-70抗体定量	抗SS-A/Ro抗体定性	抗SS-A/Ro抗体半定量		
抗SS-A/Ro抗体定量	抗RNAポリメラーゼIII抗体	抗ARS抗体	抗MDA5抗体		
抗TIF1-γ抗体	抗Mi-2抗体				

# 検査依頼要項

検査依頼要項

## 包4 内分泌学的検査包括（生化学的検査（Ⅱ））

項目名	項目名	項目名	項目名	項目数	実施料
成長ホルモン(GH)	卵胞刺激ホルモン(FSH)	C-ペプチド(CPR)	黄体形成ホルモン(LH)	3項目以上 5項目以下	410
アルドステロン	テストステロン	遊離サイロキシン(FT4)	遊離トリヨードサイロニン(FT3)		
コルチゾール	サイロキシン結合グロブリン(TBG)	サイログロブリン	抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)	6項目又は 7項目	623
脳性Na利尿ペプチド(BNP)	脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)	ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット(HCG-β)	カルシトニン	8項目以上	900
ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定量	ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)半定量	サイロキシン結合能(TBC)	ヒト胎盤性ラクトゲン(HPL)		
グルカゴン	プロゲステロン	I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)		
低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)	骨型アルカリホスファターゼ(BAP)	オステオカルシン(OC)	遊離テストステロン		
インタクトI型プロコラーゲン-N-プロペプチド(IntactP I NP)	低単位ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)半定量	I型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体(β-CTX) (尿)	I型プロコラーゲン-N-プロペプチド(P I NP)		
セクレチン	I型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体(β-CTX)	副甲状腺ホルモン(PTH)	カテコールアミン分画		
デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体(DHEA-S)	サイクリックAMP (cAMP)	エストラジオール(E2)	エストリオール(E3)		
エストロゲン半定量	エストロゲン定量	副甲状腺ホルモン関連蛋白C端フラグメント(C-PTHrP)	デオキシピリジノリン(DPD) (尿)		
副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)	副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	カテコールアミン	17-ケトジェニックスステロイド(17-KGS)		
エリスロポエチン	17-ケトステロイド分画(17-KS分画)	17α-ヒドロキシプロゲステロン(17α-OHP)	抗IA-2抗体		
プレグナンジオール	メタネフリン	ソマトメジンC	17-ケトジェニックスステロイド分画(17-KGS分画)		
メタネフリン・ノルメタネフリン分画	心房性Na利尿ペプチド(ANP)	プレグナントリオール	抗利尿ホルモン(ADH)		
ノルメタネフリン	インスリン様成長因子結合蛋白3型(IGFBP-3)	遊離メタネフリン・遊離ノルメタネフリン分画			

## 包5 肝炎ウイルス関連検査包括

項目名	項目名	項目名	項目名	項目数	実施料
HBs抗原	HBs抗体	HBe抗原	HBe抗体	3項目	290
HCV抗体定性・定量	HCVコア蛋白	HbC抗体半定量・定量	HCVコア抗体	4項目	360
HA-IgM抗体	HA抗体	HbC-IgM抗体	HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体定性	5項目以上	438
HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体半定量	HE-IgA抗体定性	HCV血清群別判定	HBVコア関連抗原(HBcrAg)		
デルタ肝炎ウイルス抗体	HCV特異抗体価	HBVジェノタイプ判定			

## 包6 出血・凝固検査包括

項目名	項目名	項目名	項目名	項目数	実施料
Dダイマー定性	プラスミンインヒビター(アンチプラスミン)	Dダイマー半定量	vonWillebrand因子(VWF)活性	3項目又は 4項目	530
Dダイマー	α2-マクログロブリン	PIVKA-II	凝固因子インヒビター	5項目以上	722
vonWillebrand因子(VWF)抗原	プラスミン・プラスミンインヒビター複合体(PIC)	プロテインS抗原	プロテインS活性		
β-トロノボグロブリン(β-TG)	血小板第4因子(PF4)	トロンピン・アンチトロンピン複合体(TAT)	プロトロンピンフラグメントF1+2		
トロンボモジュリン	凝固因子(第II因子、第V因子、第VII因子、第VIII因子、第IX因子、第X因子、第XI因子、第XII因子、第XIII因子)	フィリンモノマー複合体	プロテインC抗原		
tPA・PAI-1複合体	プロテインC活性				

## 包7 悪性腫瘍組織検査包括

- 1 悪性腫瘍遺伝子検査
- イ. 処理が容易なもの
    - (1) 医薬品の適応判定の補助等に用いるもの 2,500点
    - (2) その他のもの 2,100点
  - ロ. 処理が複雑なもの、処理が複雑なもの 5,000点
    - (注1) 患者から1回に採取した組織等を用いて同一がん種に対してイに掲げる検査を実施した場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
- イ. 2項目 4,000点
- ロ. 3項目 6,000点
- ハ. 4項目以上 8,000点
  - (注2) 患者から1回に採取した組織等を用いて同一がん種に対してロに掲げる検査を実施した場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
- イ. 2項目 8,000点
- ロ. 3項目以上 12,000点
- 2 抗悪性腫瘍剤感受性検査 2,500点

その他、診療報酬、管理加算情報は、  
弊社ホームページピックアップ、弊社LINEより確認いただけます。  
日本医学臨床検査研究所HP； <https://www.jcl.co.jp/>



日本医学臨床検査研究所HP



日本医学臨床検査研究所LINE

# 診療報酬点数早見表

診療報酬  
点数早見表

コード	検査項目名称	診療報酬区分	保険収載名称 (レセプト名称)	実施料	判断料	P
<b>ア</b>						
553	亜鉛 (Zn) [血液]	D007 37	亜鉛 (Zn)	140	生 I	9
753	亜鉛 (Zn) [蓄尿]	D007 37	亜鉛 (Zn)	140	生 I	9
4363	悪性リンパ腫解析 (MLA)	D005 15	造血器腫瘍細胞抗原検査(一連につき)	1940	血液	61
3116	悪性リンパ腫解析検査 7AAD解析	D005 15	造血器腫瘍細胞抗原検査(一連につき)	1940	血液	61
3253	アスピリン (サリチル酸)	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	70
3567	アスペルギルス抗原	D012 28	アスペルギルス抗原	161	免疫	30
3156	アスペルギルス抗体	—	—	—	—	30
3065	アセタゾラミド	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	68
3247	アセトアミノフェン	D007 44	アセトアミノフェン	185	生 I	70
3526	アセトン [血液]	—	—	—	—	11
3575	アセトン [尿]	—	—	—	—	11
※	アデノウイルス	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(1項目当たり)	79	免疫	49
428	アデノシンデアミナーゼ (ADA) [血液]	D007 11	アデノシンデアミナーゼ (ADA)	32	生 I	1
601	アデノシンデアミナーゼ (ADA) [胸水]	D007 11	アデノシンデアミナーゼ (ADA)	32	生 I	1
602	アデノシンデアミナーゼ (ADA) [腹水]	D007 11	アデノシンデアミナーゼ (ADA)	32	生 I	1
2079	アデノシンデアミナーゼ(ADA) [その他]	D007 11	アデノシンデアミナーゼ (ADA)	32	生 I	1
4007	アプリンジン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	69
3012	アポリポ蛋白 (A I)	D007 10	アポリポ蛋白	1項目31,2項目62,3項目以上94	生 I	6
3013	アポリポ蛋白 (A II)	D007 10	アポリポ蛋白	1項目31,2項目62,3項目以上94	生 I	6
3014	アポリポ蛋白 (B)	D007 10	アポリポ蛋白	1項目31,2項目62,3項目以上94	生 I	6
3015	アポリポ蛋白 (C II)	D007 10	アポリポ蛋白	1項目31,2項目62,3項目以上94	生 I	6
3016	アポリポ蛋白 (C III)	D007 10	アポリポ蛋白	1項目31,2項目62,3項目以上94	生 I	6
3017	アポリポ蛋白 (E)	D007 10	アポリポ蛋白	1項目31,2項目62,3項目以上94	生 I	6
3243	アミオダロン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	69
1883	アミカシン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	69
3245	アミトリプチリン・ノルトリプチリン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	70
3091	アミノ酸分析 (39種類)	D010 04 口	アミノ酸 5種類以上	1176	生 II	79
3092	アミノ酸分析 (9種類)	D010 04 口	アミノ酸 5種類以上	1176	生 II	79
431	アミラーゼ (AMY) [血液]	D007 01	アミラーゼ	11	生 I (包1)	1
731	アミラーゼ (AMY) [尿]	D007 01	アミラーゼ	11	生 I (包1)	1
370	アミラーゼアイソザイム (AMY-I) [血液]	D007 14	アミラーゼアイソザイム	48	生 I	9
770	アミラーゼアイソザイム (AMY-I) [尿]	D007 14	アミラーゼアイソザイム	48	生 I	9
403	アルカリフォスファターゼ (ALP)	D007 01	アルカリホスファターゼ (ALP)	11	生 I (包1)	1
360	アルカリフォスファターゼアイソザイム (ALP-I)	D007 14	ALPアイソザイム	48	生 I	9
1151	アルドステロン [血液]	D008 14	アルドステロン	125	生 II (包4)	20
1161	アルドステロン [尿]	D008 14	アルドステロン	125	生 II (包4)	20
412	アルドラーゼ (ALD)	D007 01	アルドラーゼ	11	生 I (包1)	1
470	アルブミン (ALB) [血清]	D007 01	アルブミン (BCP改良法・BCG法)	11	生 I (包1)	4
3003	アルブミン (ALB) [尿]	D001 08	アルブミン定量 (尿)	102	尿便	75
3688	アルベカシン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	69
3509	アルミニウム (Al)	D007 29	アルミニウム (Al)	115	生 I	9
3461	アンギオテンシン I	—	—	—	—	24
3462	アンギオテンシン II	—	—	—	—	24
3463	アンギオテンシン転換酵素 (ACE)	D007 38	アンギオテンシン I 転換酵素 (ACE)	144	生 I	2
311	アンチトロンビンⅢ (AT-Ⅲ) [合成基質法]	D006 10	アンチトロンビン活性	70	血液	66
<b>イ</b>						
3471	イオン化カルシウム	D007 07	イオン化カルシウム	26	生 I (包1)	7
3705	胃癌HER2タンパク (IHC)	N002 03	HER2タンパク	690	病理	94
3990	胃癌HER2遺伝子 [FISH法]	N005 01	HER2 遺伝子標本作製	2700	病理	94
1301	インスリン (IRI)	D008 10	インスリン (IRI)	106	生 II	24
3331	インスリン抗体	D014 06	抗インスリン抗体	110	免疫	29

# 診療報酬点数早見表

コード	検査項目名称	診療報酬区分	保険収載名称 (レセプト名称)	実施料	判断料	P
※	インフルエンザウイルス	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(1項目当たり)	79	免疫	48
<b>ウ</b>						
3822	ウイルス同定	—	—	—	—	55
3823	ウイルス分離	—	—	—	—	55
141	ウロビリノーゲン定性 [尿]	D000	尿中一般物質定性半定量検査	26	—	74
3522	ウロボルフィリン定量	D001 10	ウロボルフィリン (尿)	105	尿便	75
<b>エ</b>						
※	エコーウイルス	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(1項目当たり)	79	免疫	50
639	エステラーゼ染色 [血液]	D005 06 注	末梢血液像の加算点として(特殊染色ごとに)	27 (加算)	血液	64
636	エステラーゼ染色 [骨髓液]	D005 14 注	注 骨髓像特殊染加算(特殊染色ごとに)	40 (加算)	血液	64
496	エステル型コレステロール (E-CH)	—	—	—	—	5
3354	エストラジオール (E2)	D008 34	エストラジオール (E2)	177	生Ⅱ 包4	22
3940	エストロゲンレセプター (IHC)	N002 01	エストロゲンレセプター-	720	病理	94
3499	エタノール (エチルアルコール)	D007 27	エタノール	111	生Ⅰ	11
3257	エトスクシミド	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	68
1365	エラスターゼ1	D009 07	エラスターゼ1	126	生Ⅱ 包2	15
3328	エリスロポエチン (EPO)	D008 39	エリスロポエチン	209	生Ⅱ 包4	11
4166	塩基性フェトプロテイン (BFP)	D009 14	塩基性フェトプロテイン (BFP)	150	生Ⅱ 包2	15
※	エンテロウイルス	—	—	—	—	54
3135	エンドトキシン定量	D012 44	エンドトキシン	243	免疫	11
<b>オ</b>						
1021	黄体化ホルモン (LH)	D008 13	黄体形成ホルモン (LH)	111	生Ⅱ 包4	17
3655	オーム病 (クラミドフィラシタシ) [血液]	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(1項目当たり)	79	免疫	31
3855	オーム病 (クラミドフィラシタシ) [髄液]	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(1項目当たり)	79	免疫	31
3215	オステオカルシン (BGP)	D008 27	オステオカルシン (OC)	161	生Ⅱ 包4	24
<b>カ</b>						
3571	覚せい剤検査	—	—	—	—	70
4651	喀痰好酸球	D005 03	好酸球 (鼻汁・喀痰)	15	血液	65
1351	ガストリン	D008 09	ガストリン	104	生Ⅱ	24
4433	ガストリン放出ペプチド前駆体 (Pro GRP)	D009 21	ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)	175	生Ⅱ 包2	16
303	活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT)	D006 07	活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)	29	血液	65
3409	カテコールアミン3分画 [血液]	D008 31	カテコールアミン分画	170	生Ⅱ 包4	19
1280	カテコールアミン3分画 [尿]	D008 31	カテコールアミン分画	170	生Ⅱ 包4	19
3507	カドミウム (Cd) [血液]	—	—	—	—	9
3508	カドミウム (Cd) [尿]	—	—	—	—	9
3474	ガバペンチン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	68
3592	可溶性インターロイキン2レセプター (sIL-2R)	D009 29	可溶性インターロイキン-2レセプター(sIL-2R)	438	生Ⅱ 包2	12
3027	可溶性フィブリンモノマー複合体 (SFMC)	D006 12	フィブリンモノマー複合体定性	93	血液	65
1030	可溶性メソテリン関連ペプチド	D009 26	可溶性メソテリン関連ペプチド	220	生Ⅱ 包2	16
542	カリウム (K) [血液]	D007 01	カリウム	11	生Ⅰ 包1	7
742	カリウム (K) [尿]	D007 01	カリウム	11	生Ⅰ 包1	7
543	カルシウム (Ca) [血液]	D007 01	カルシウム	11	生Ⅰ 包1	7
743	カルシウム (Ca) [尿]	D007 01	カルシウム	11	生Ⅰ 包1	7
3344	カルシトニン (CT)	D008 20	カルシトニン	137	生Ⅱ 包4	18
4265	カルニチン分画	D007 23	総カルニチン+遊離カルニチン	190 (95+95)	生Ⅰ	10
1805	カルバマゼピン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	68
4250	肝細胞増殖因子 (HGF)	D007 50	肝細胞増殖因子 (HGF)	227	生Ⅰ	12
3089	カンジダ抗原	D012 19	カンジダ抗原半定量	134	免疫	30
3649	カンジダ抗体	—	—	—	—	30

診療報酬  
点数早見表

# 診療報酬点数早見表

コード	検査項目名称	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）	実施料	判断料	P
995	間接クームス試験定性	D011 02 口	Coombs試験（間接）	47	免疫	36
3610	間接クームス同定（不規則抗体）	D011 04	不規則抗体	159	免疫	36
1502	癌胎児性抗原（CEA）	D009 02	癌胎児性抗原（CEA）	102	生Ⅱ 包2	15
820	寒冷凝集反応	D014 01	寒冷凝集反応	11	免疫	27
4400・4499	関節液一般検査	—	—	—	—	77

診療報酬  
点数早見表

キ						
3248	キニジン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	69
※	凝固因子活性検査	D006 30	凝固因子(第Ⅰ因子,第Ⅱ因子,第Ⅲ因子,第Ⅳ因子,第Ⅴ因子,第Ⅵ因子,第Ⅶ因子,第Ⅷ因子,第Ⅷ因子,第Ⅸ因子,第Ⅹ因子,第Ⅺ因子)	223	血液 包6	67
3380	凝固抑制因子検査 第Ⅶ因子★	D006 20	凝固因子インヒビター	148	血液 包6	67
3381	凝固抑制因子検査 第Ⅸ因子	D006 20	凝固因子インヒビター	148	血液 包6	67
4400	胸水一般検査	—	—	—	—	77
3633	強皮症抗体（抗Scl-70）（トポイソメラーゼ抗体）[オクタロニー法]	D014 14	抗Scl-70抗体半定量	161	免疫 包3	28
3819	強皮症抗体（抗Scl-70）（トポイソメラーゼ抗体）[CLEIA法]	D014 14	抗Scl-70抗体定量	161	免疫 包3	28

ク						
3476	クエン酸〔血液〕	—	—	—	—	11
3358	クエン酸〔尿〕	—	—	—	—	11
4633	クオンティフェロン4G ELISA	D015 27	結核菌特異的インターフェロン-γ産生能	612	免疫	33
4440	クラミジアトラコマチス核酸増幅同定	D023 02	クラミジア・トラコマチス核酸検出	198	微生物	31
3655	クラミドフィラシタシ（オーム病）〔血液〕	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(1項目当たり)	79	免疫	31
3855	クラミドフィラシタシ（オーム病）〔髄液〕	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(1項目当たり)	79	免疫	31
4332	クラミドフィラニューモニエIgG	D012 09	クラミドフィラ・ニューモニエIgG抗体	70	免疫	31
4334	クラミドフィラニューモニエIgA	D012 10	クラミドフィラ・ニューモニエIgA抗体	75	免疫	31
4336	クラミドフィラニューモニエIgM	D012 26	クラミドフィラ・ニューモニエIgM抗体	156	免疫	31
891	クリオグロブリン定性	D015 05	クリオグロブリン定性	42	免疫	38
3059	グリコアルブミン	D007 17	グリコアルブミン	55	生Ⅰ	7
1531	グリココール酸（CG）	D007 21	グリココール酸	80	生Ⅰ	2
3157	クリプトコックス・ネオフォルマンズ抗原	D012 32	クリプトコックス抗原定性	174	免疫	30
3947	グルカゴン（IRG）	D008 23	グルカゴン	150	生Ⅱ 包4	24
571	グルコース（血糖）	D007 01	グルコース	11	生Ⅰ 包1	7
525	クレアチニン（CRE）〔血液〕	D007 01	クレアチニン	11	生Ⅰ 包1	3
725	クレアチニン（CRE）〔尿〕	D007 01	クレアチニン	11	生Ⅰ 包1	3
681	クレアチニンクリアランス（Ccr）	—	—	—	—	13
526	クレアチン〔血液〕	D007 01	クレアチン	11	生Ⅰ 包1	3
726	クレアチン〔尿〕	D007 01	クレアチン	11	生Ⅰ 包1	3
411	クレアチンキナーゼ（CK（CPK））	D007 01	クレアチンキナーゼ（CK）	11	生Ⅰ 包1	1
3119	クロバザム	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	68
3517	クロム（Cr）〔血液〕	—	—	—	—	8
3516	クロム（Cr）〔尿〕	—	—	—	—	8
544	クロール（Cl）〔血液〕	D007 01	ナトリウム及びクロール	11	生Ⅰ 包1	7
744	クロール（Cl）〔尿〕	D007 01	ナトリウム及びクロール	11	生Ⅰ 包1	7
5937	クロストリジウムディフィシル抗原	D012 12	クロストリジオイデス・ディフィシル抗原定性	80	免疫	32
3262	クロナゼパム	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	68

ケ						
3998	頸管腔分泌液中癌胎児性フィブロネクチン	D015 22	癌胎児性フィブロネクチン定性（頸管腔分泌液）	204	免疫	25
991	血液型（ABO式）	D011 01	ABO血液型、Rh（D）血液型	24	免疫	36
992	血液型（Rh（D）因子）	D011 01	ABO血液型、Rh（D）血液型	24	免疫	36
3607	血液型（Rh-Hr式）	D011 03	Rh（その他の因子）血液型	152	免疫	36
3611	血液型不適合妊娠	—	—	—	—	36
—	血液疾患染色体検査	D006-5	染色体検査（すべての費用を含む）分染法加算あり	2631+397加算	遺伝子	72
699	血清浸透圧	D005 03	血液浸透圧	15	血液	10

# 診療報酬点数早見表

コード	検査項目名称	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）	実施料	判断料	P
220	血液像（白血球分類）	D005 03	末梢血液像（自動機械法）	15	血液	64
1834	結核菌群核酸同定（結核菌PCR）	D023 11	結核菌群核酸検出	410	微生物	82
5962	結核菌群（抗原）同定	D012 47	結核菌群抗原定性	291	免疫	82
3953	結核菌特異的IFN- $\gamma$ （Tスポット）	D015 27	結核菌特異的インターフェロン- $\gamma$ 産生能	612	免疫	33
4121	結核菌群核酸同定（結核菌LAMP）	D023 11	結核菌群核酸検出	410	微生物	82
3809	血小板関連IgG（PAIgG）	D011 06	血小板関連IgG（PA-IgG）	198	免疫	39
200	血小板数（PLT）	D005 05	末梢血液一般検査	21	血液	64
3369	血小板第4因子（PF4）	D006 26	血小板第4因子（PF4）	178	血液 包6	67
200	血色素量（Hb）	D005 05	末梢血液一般検査	21	血液	64
3231	血清抗p53抗体	D009 18	抗p53抗体	163	生Ⅱ 包2	16
3265	血清アミロイドA蛋白（SAA）	D015 06	血清アミロイドA蛋白（SAA）	47	免疫	38
831	血清補体価（CH50）	D015 04	血清補体価（CH50）	38	免疫	37
3114	結石分析	D010 02	結石分析	120	生Ⅱ	79
527	血中アンモニア（NH3）	D007 16	アンモニア	50	生Ⅰ	3
3476	血中クエン酸	—	—	—	—	11
3523	血中コプロポルフィリン	D007 48	赤血球コプロポルフィリン	210	生Ⅰ	11
3081	血中脂肪酸分画（4分画）	D010 07	脂肪酸分画	417	生Ⅱ	6
3503	血中鉛	—	—	—	—	9
571	血糖（グルコース）	D007 01	グルコース	11	生Ⅰ 包1	7
147	ケトン体定性〔尿〕	D000	尿中一般物質定性半定量検査	26	—	74
589	ケトン体定量〔血液〕	D007 09	ケトン体	30	生Ⅰ	7
3485	ケトン体分画	D007 19	ケトン体分画	59	生Ⅰ	7
4448	ケトン体分画（動脈血）	D007 19	ケトン体分画	59	生Ⅰ	7
5776	下痢原性大腸菌（大腸菌血清型別）	D018 02	大腸菌血清型別	180	微生物	81
5861	嫌気性培養	D018 注1	細菌培養同定検査 嫌気性培養加算	112	微生物	81
1881	ゲンタマイシン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	69

診療報酬  
点数早見表

コ						
4226	抗ARS抗体	D014 20	抗ARS抗体	190	免疫 包3	29
3422	抗BP180抗体	D014 31	抗BP180-NC16a抗体	270	免疫	29
3844	抗CCP抗体（抗シトルリン化ペプチド抗体）	D014 23	抗シトルリン化ペプチド抗体定量	204	免疫	27
3626	抗DNA抗体	D014 16	抗DNA抗体定量	168	免疫	27
3617	抗ds-DNA IgG抗体	D014 16	抗DNA抗体定量	168	免疫	27
3618	抗ds-DNA IgM抗体	—	—	—	—	27
3103	抗EA-IgG〔EBウイルス〕	D012 40	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(1項目当たり)	212	免疫	47
4091	抗EBNA-IgG〔EBウイルス〕	D012 40	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(1項目当たり)	212	免疫	47
3352	抗GAD抗体	D008 18	抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)	134	生Ⅱ 包4	29
703	抗IA-2抗体	D008 40	抗IA-2抗体	213	生Ⅱ 包4	29
4065	抗Jo-1抗体〔オクタロニー法〕	D014 09	抗Jo-1抗体半定量	140	免疫 包3	28
3029	抗Jo-1抗体〔CLEIA法〕	D014 09	抗Jo-1抗体定量	140	免疫 包3	28
4086	抗LKM-1抗体	D014 24	抗LKM-1抗体	221	免疫	29
1746	抗MDA5抗体	D014 32	抗MDA5抗体	270	免疫 包3	29
1760	抗Mi-2抗体	D014 32	抗Mi-2抗体	270	免疫 包3	29
824	抗RNP抗体〔オクタロニー法〕	D014 10	抗RNP抗体半定量	144	免疫 包3	27
3952	抗RNP抗体〔CLEIA法〕	D014 10	抗RNP抗体定量	144	免疫 包3	27
3633	抗Scl-70抗体（強皮症抗体）（トポイソメラーゼ抗体）〔オクタロニー法〕	D014 14	抗Scl-70抗体半定量	161	免疫 包3	28
3819	抗Scl-70抗体（強皮症抗体）（トポイソメラーゼ抗体）〔CLEIA法〕	D014 14	抗Scl-70抗体定量	161	免疫 包3	28
825	抗Sm抗体〔オクタロニー法〕	D014 12	抗Sm抗体半定量	151	免疫 包3	27
3028	抗Sm抗体〔CLEIA法〕	D014 12	抗Sm抗体定量	151	免疫 包3	27
3643	抗SS-A / Ro抗体〔オクタロニー法〕	D014 15	抗SS-A/Ro抗体半定量	163	免疫 包3	27
4188	抗SS-A / Ro抗体〔CLEIA法〕	D014 15	抗SS-A/Ro抗体定量	163	免疫 包3	27
3644	抗SS-B / La抗体〔オクタロニー法〕	D014 14	抗SS-B/La抗体半定量	161	免疫 包3	27
4352	抗SS-B / La抗体〔CLEIA法〕	D014 14	抗SS-B/La抗体定量	161	免疫 包3	27

※本編にてご確認下さい。

# 診療報酬点数早見表

診療報酬  
点数早見表

コード	検査項目名称	診療報酬区分	保険収載名称 (レセプト名称)	実施料	判断料	P
3623	抗ss-DNA IgG抗体	D014 16	抗DNA抗体定量	168	免疫	27
3624	抗ss-DNA IgM抗体	—	—	—	—	27
1759	抗TIF1- $\gamma$ 抗体	D014 32	抗TIF1- $\gamma$ 抗体	270	免疫 包3	29
4070	抗VCA-IgG (EBウイルス)	D012 40	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(1項目当たり)	212	免疫	47
4074	抗VCA-IgM (EBウイルス)	D012 40	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(1項目当たり)	212	免疫	47
4389	抗アクアポリン4抗体	D014 43	抗アクアポリン4抗体	1000	免疫	29
3629	抗アセチルコリン受容体結合抗体	D014 41	抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)	822	免疫	28
4039	抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)	D014 31	抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)	270	免疫	29
841	抗胃壁細胞抗体	—	—	—	—	28
826	抗核抗体(ANA)	D014 05	抗核抗体(蛍光抗体法)半定量	105	免疫	27
4032	抗ガラクトース欠損IgG抗体	D014 08	抗ガラクトース欠損IgG抗体定量	117	免疫	29
4387	抗カルジオリピン- $\beta$ 2GPI複合体抗体	D014 25	抗カルジオリピン $\beta$ 2グリコプロテインI複合体抗体	223	免疫	29
3951	抗カルジオリピン抗体IgG	D014 27	抗カルジオリピン抗体	232	免疫	29
1543	高感度HCVコア抗原	D013 05	HCVコア蛋白	108	免疫 包5	35
2666	高感度PSAタンデム	D009 08	前立腺特異抗原(PSA)	127	生II 包2	16
3982	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体(MUSK抗体)	D014 43	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体	1000	免疫	29
3612	抗血小板抗体	D011 08	抗血小板抗体	262	免疫	36
3026	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(TPO抗体)	D014 11	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体	146	免疫 包3	28
3166	抗好中球細胞質抗体(PR3-ANCA)	D014 30	抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体(PR3-ANCA)	267	免疫	29
4215	抗好中球細胞質抗体(MPO-ANCA)	D014 29	抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体(MPO-ANCA)	265	免疫	29
3324	抗サイログロブリン抗体(Tg-Ab)	D014 10	抗サイログロブリン抗体	144	免疫 包3	28
214	好酸球数(Eos)	D005 04	好酸球数	17	血液	64
5960	抗酸菌液体培養(MGIT)	D020 01	抗酸菌分離培養(液体培地法)	280	微生物	82
5966	抗酸菌群核酸同定(DDH)	D023 11	結核菌群核酸検出	410	微生物	82
5951	抗酸菌塗抹	D017 03	排泄物,滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査(その他のもの)	61	微生物	82
5988	抗酸菌塗抹(蛍光法)	D017 01	排泄物,滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査(蛍光顕微鏡,位相差顕微鏡,暗視野装置等を使用するもの)	50	微生物	82
5953	抗酸菌塗抹(集菌・蛍光法)	D017 01 注	排泄物,滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査(蛍光顕微鏡,位相差顕微鏡,暗視野装置等を使用するもの)+(集菌塗抹法加算)	82	微生物	82
5955	抗酸菌分離培養(小川法)	D020 02	抗酸菌分離培養(それ以外のもの)	204	微生物	82
4105	抗酸菌薬剤感受性検査	D022	抗酸菌薬剤感受性検査(培地数に関係なく)	380	微生物	82
3844	抗シトルリン化ペプチド抗体(抗CCP抗体)	D014 23	抗シトルリン化ペプチド抗体定量	204	免疫	27
1001	甲状腺刺激ホルモン(TSH)	D008 09	甲状腺刺激ホルモン(TSH)	104	生II	17
802	抗ストレプトキナーゼ(ASK)	D012 03	抗ストレプトキナーゼ(ASK)半定量	29	免疫	30
801	抗ストレプトリジン-O(ASO)	D012 01	抗ストレプトリジンO(ASO)定量	15	免疫	30
3622	抗セントロメア抗体	D014 18	抗セントロメア抗体定量	179	免疫	28
843	抗平滑筋抗体	—	—	—	—	28
5597	酵母様真菌薬剤感受性検査	D019-2	酵母様真菌薬剤感受性検査	150	微生物	81
842	抗ミトコンドリア抗体(AMA)	D014 19	抗ミトコンドリア抗体半定量	186	免疫	28
3406	抗ミトコンドリアM2抗体	D014 21	抗ミトコンドリア抗体定量	194	免疫	28
3274	抗利尿ホルモン(AVP)	D008 47	抗利尿ホルモン(ADH)	235	生II 包4	17
※	コクサッキーウイルス	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(1項目当たり)	79	免疫	52
1181	骨塩定量[DIP法]	D217 2	骨塩定量検査(MD法,SEXA法等)	(140)	—	80
4035	骨型アルカリホスファターゼ(BAP)	D008 27	骨型アルカリホスファターゼ(BAP)	161	生II 包4	12
3259	骨型酒石酸抵抗性ACP(TRACP-5b)	D008 25	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)	156	生II 包4	12
285	骨髄像	D005 14	骨髄像	812	血液	65
156	コプロポルフィリン定性[尿]	—	—	—	—	75
3524	コプロポルフィリン定量[尿]	D001 14	コプロポルフィリン(尿)	135	尿便	75
404	コリンエステラーゼ(ChE)	D007 01	コリンエステラーゼ(ChE)	11	生I 包1	1
1201	コルチゾール	D008 15	コルチゾール	127	生II 包4	20
380	コレステロール分画	D007 18	コレステロール分画	57	生I	5

※本編にてご確認下さい。

# 診療報酬点数早見表

コード	検査項目名称	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）	実施料	判断料	P
<b>サ</b>						
—	細菌薬剤感受性検査（1菌種）	D019 01	細菌薬剤感受性検査 1菌種	1菌種170	微生物	81
—	細菌薬剤感受性検査（2菌種）	D019 02	細菌薬剤感受性検査 2菌種	2菌種220	微生物	81
—	細菌薬剤感受性検査（3菌種以上）	D019 03	細菌薬剤感受性検査 3菌種以上	3菌種以上280	微生物	81
5700	細菌塗抹	D017 03	排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査(その他のもの)	61	微生物	81
5721	細菌培養同定検査〔1〕 口腔、気道、呼吸器	D018 01	細菌培養同定検査(口腔、気道又は呼吸器からの検体)	160	微生物	81
5721	細菌培養同定検査〔2〕 消化管	D018 02	細菌培養同定検査(口腔、気道又は呼吸器からの検体)	180	微生物	81
5721	細菌培養同定検査〔3〕 血液、穿刺液	D018 03	細菌培養同定検査(口腔、気道又は呼吸器からの検体)	215	微生物	81
5721	細菌培養同定検査〔4〕 泌尿器、生殖器	D018 04	細菌培養同定検査(口腔、気道又は呼吸器からの検体)	170	微生物	81
5721	細菌培養同定検査〔5〕 その他の部位	D018 05	細菌培養同定検査(口腔、気道又は呼吸器からの検体)	160	微生物	81
5741	細菌培養同定検査〔6〕 簡易培養検査	D018 06	細菌培養同定検査（簡易培養）	60	微生物	81
3316	サイクリックAMP (C-AMP) [血液]	D008 33	サイクリックAMP (cAMP)	175	生Ⅱ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">包4</span>	24
3315	サイクリックAMP (C-AMP) [蓄尿]	D008 33	サイクリックAMP (cAMP)	175	生Ⅱ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">包4</span>	24
3111	サイトケラチン19フラグメント (シフラ)	D009 17	サイトケラチン19フラグメント(シフラ)	162	生Ⅱ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">包2</span>	16
※	サイトメガロウイルス [CF法]	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(1項目当たり)	79	免疫	46
※	サイトメガロウイルスIgG,IgM [EIA法]	D012 40	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(1項目当たり)	212	免疫	46
3110	サイトメガロウイルス抗原 (C7-HRP) [直接酵素抗体法]	D012 48	サイトメガロウイルスpp65抗原定性	377	免疫	55
3074	サイトメガロウイルス抗原 (C10,C11) [間接酵素抗体法]	D012 48	サイトメガロウイルスpp65抗原定性	377	免疫	55
2900	細胞診〔婦人科LBC〕	N004 01 注1	液状化検体細胞診加算(婦人科材料等)	150+36	病理	92
2990	細胞診〔婦人科材料〕	N004 01	婦人科材料等によるもの	150	病理	92
2991	細胞診〔その他材料〕	N004 02	穿刺吸引細胞診、体腔洗浄等によるもの	190	病理	92
2970	細胞診標本作製	—	—	—	—	92
828	サイロイドテスト	D014 03	抗サイログロブリン抗体半定量	37	免疫	28
1107	サイロキシン結合グロブリン (TBG)	D008 16	サイロキシン結合グロブリン(TBG)	130	生Ⅱ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">包4</span>	18
3325	サイログロブリン (Tg)	D008 17	サイログロブリン	133	生Ⅱ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">包4</span>	18
3253	サリチル酸 (アスピリン)	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	70
<b>シ</b>						
3263	ジアゼパム	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	68
3479	シアル化糖鎖抗原 KL-6	D007 28	KL-6	114	生Ⅰ	12
3206	シアルルLe <sup>x</sup> 抗原 (CSLEX)	D009 19	シアルルLe <sup>x</sup> 抗原 (CSLEX)	164	生Ⅱ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">包2</span>	15
4171	シアルルLe <sup>x</sup> -i抗原 (SLX)	D009 13	シアルルLe <sup>x</sup> -i抗原 (SLX)	148	生Ⅱ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">包2</span>	15
3451	シアルルTn抗原 (STN)	D009 11	シアルルTn抗原 (STN)	146	生Ⅱ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">包2</span>	16
3924	子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	D004 07	顆粒球エラスターゼ(子宮頸管粘液)	122	尿便	25
3127	シクロスポリン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	70
1841	ジゴキシン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	68
3880	シスタチンC	D007 31	シスタチンC	118	生Ⅰ	3
3256	ジソピラミド	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	69
3111	シフラ (サイトケラチン19フラグメント)	D009 17	サイトケラチン19フラグメント(シフラ)	162	生Ⅱ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">包2</span>	16
4487	シベンゾリン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	69
1434	小児スクリーニング13 (特異IgE)	D015 13	特異的IgE半定量・定量	1430	免疫	39
1439	小児スクリーニング9 (特異IgE)	D015 13	特異的IgE半定量・定量	990	免疫	39
4235	女性AICS (6種)	—	—	—	—	80
1435	女性AIRS (9種)	—	—	—	—	80
5714	真菌塗抹	D017 03	排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査(その他のもの)	61	微生物	81
4258	心筋トロポニンT	D007 29	心筋トロポニンT (TnT) 定性・定量	115	生Ⅰ	4
5881	真菌培養	—	—	—	微生物	81
3067	神経特異エノラーゼ (NSE)	D009 11	神経特異エノラーゼ (NSE)	146	生Ⅱ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">包2</span>	15
3397	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	D007 43	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	184	生Ⅰ	4
699	浸透圧 [血清]	D005 03	血液浸透圧	15	血液	10
799	浸透圧 [尿]	D001 03	尿浸透圧	16	尿便	10

 診療報酬  
点数早見表

# 診療報酬点数早見表

診療報酬  
点数早見表

コード	検査項目名称	診療報酬区分	保険収載名称 (レセプト名称)	実施料	判断料	P
<b>ス</b>						
4570	髄液一般検査	D004 03	髄液一般検査	62	尿便	77
4452	髄液蛋白定量	D007 01	総蛋白	11	生 I (包1)	77
4453	髄液糖定量	D007 01	グルコース	11	生 I (包1)	77
3505	水銀 (Hg) [血液]	-	-	-	-	9
3506	水銀 (Hg) [尿]	-	-	-	-	9
※	水痘・帯状疱疹ウイルス [CF法]	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(1項目当たり)	79	免疫	45
※	水痘・帯状ヘルペスウイルスIgG,IgM [EIA法]	D012 40	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(1項目当たり)	212	免疫	45
1367	腓ホスホリパーゼA2 (腓PLA2)	D007 47	ホスフォリパーゼA2 (PLA2)	204	生 I	2
<b>セ</b>						
4490	精液一般検査	D004 04	精液一般検査	70	尿便	77
3511	精子不動化抗体	-	-	-	-	28
3308	成長ホルモン (GH) [血清]	D008 13	成長ホルモン (GH)	111	生 II (包4)	17
200	赤血球数 (RBC)	D005 05	末梢血液一般検査	21	血液	64
3525	赤血球中遊離プロトポルフィリン	D007 54	赤血球プロトポルフィリン	272	生 I	78
216	赤血球沈降速度 (ESR)	D005 01	赤血球沈降速度 (ESR)	9	血液	64
875	セルロプラスミン	D015 09	セルロプラスミン	90	免疫	4
3425	セロトニン	-	-	-	-	19
146	潜血反応 [尿]	D000	尿中一般物質定性半定量検査	26	尿便	74
211	全血比重	-	-	-	-	64
3131	全脂質中脂肪酸分画	D010 07	脂肪酸分画	417	生 II	6
-	染色体検査	D006-5	染色体検査 (すべての費用を含む。) 分染法加算あり	2631+397加算	遺伝子	72
-	染色標本作製	-	-	-	-	94
1433	喘息スクリーニング13 (特異IgE)	D015 13	特異的IgE半定量・定量	1430	免疫	39
1438	喘息スクリーニング9 (特異IgE)	D015 13	特異的IgE半定量・定量	990	免疫	39
-	先天異常染色体	D006-5	染色体検査 (すべての費用を含む。) 分染法加算あり	2631+397加算	遺伝子	72
3062	前立腺特異抗原 (PSA)	D009 08	前立腺特異抗原 (PSA)	127	生 II (包2)	16
<b>ソ</b>						
4501	総エストロジェン [妊婦]	D008 35	エストロゲン半定量	180	生 II (包4)	23
494	総コレステロール (T-CH)	D007 03	総コレステロール	17	生 I (包1)	5
1103	総サイロキシン (T4)	D008 12	サイロキシン (T4)	111	生 II	18
3527	総三塩化物 (TTC) [テトラクロルエチレン]	-	-	-	-	78
4100	総三塩化物 (TTC) [I,I,I-トリクロルエタン]	-	-	-	-	78
4026	総三塩化物 (TTC) [トリクロルエチレン]	-	-	-	-	78
491	総脂質 (TL)	-	-	-	-	5
445	総胆汁酸 (TBA)	D007 13	胆汁酸	47	生 I	2
462	総蛋白 (TP)	D007 01	総蛋白	11	生 I (包1)	4
548	総鉄結合能 (TIBC)	D007 01	総鉄結合能 (TIBC) (比色法)	11	生 I (包1)	8
441	総ビリルビン (T-Bil)	D007 01	総ビリルビン	11	生 I (包1)	2
3234	総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比 (BTR)	D010 05	総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比(BTR)	288	生 II	25
3955	総ホモシスティン	D010 04 イ	アミノ酸 1種類につき	287	生 II	79
1515	組織ポリペプチド抗原 (TPA)	D009 05	組織ポリペプチド抗原 (TPA)	110	生 II (包2)	15
4008	ゾニサミド	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	-	68
3309	ソマトメジンC (IGF-I)	D008 42	ソマトメジンC	218	生 II (包4)	17
<b>タ</b>						
5807	大腸菌O157抗原	D012 29	大腸菌O157抗原定性	165	免疫	32・83
5749	大腸菌ベロトキシン検出検査 (ベロ毒素ELISA)	D023-2 03	大腸菌ベロトキシン定性	194	微生物	83
5919	大腸菌ベロトキシン検出検査 (ベロ毒素LA法)	D023-2 03	大腸菌ベロトキシン定性	194	微生物	81
3063	タクロリムス	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	-	70
4178	男性AICS (5種)	-	-	-	-	80

# 診療報酬点数早見表

コード	検査項目名称	診療報酬区分	保険収載名称 (レセプト名称)	実施料	判断料	P
1429	男性AIRS (8種)	—	—	—	—	80
※	単純ヘルペスウイルス [NT法] [CF法]	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(1項目当たり)	79	免疫	46
※	単純ヘルペスウイルス [EIA法]	D012 40	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(1項目当たり)	212	免疫	46
1811	単純ヘルペスウイルス特異抗原	D012 34	単純ヘルペスウイルス抗原定性	180	免疫	32
121	蛋白定性 [尿]	D000	尿中一般物質定性半定量検査	26	—	74
122	蛋白定量 [尿]	D001 01	尿蛋白	7	尿便	74
461	蛋白分画	D007 04	蛋白分画	18	生I (包1)	4
<b>チ</b>						
3775	チミジンキナーゼ活性	D005 12	デオキシチミジンキナーゼ (TK) 活性	233	血液	16
493	中性脂肪 (TG)	D007 01	中性脂肪	11	生I (包1)	5
199	虫体検出	D003 03	虫体検出 (糞便)	23	尿便	76
181	虫卵塗抹法	D003 02	糞便塗抹顕微鏡検査 (虫卵、脂肪及び消化状況観察を含む。)	20	尿便	76
182	虫卵集卵法	D003 01	虫卵検出 (集卵法) (糞便)	15	尿便	76
994	直接クームス試験定性	D011 02 イ	Coombs試験 (直接)	34	免疫	36
442	直接ビリルビン (D-Bil)	D007 01	直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン	11	生I (包1)	2
<b>テ</b>						
3241	低カルボキシル化オステオカルシン (ucOC)	D008 26	低カルボキシル化オステオカルシン (ucOC)	158	生II (包4)	24
3969	テイコプラニン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	69
1861	テオフィリン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	68
3363	テストステロン [血液]	D008 14	テストステロン	125	生II (包4)	23
3603	デスマグレイン1抗体	D014 35	抗デスマグレイン1抗体	300	免疫	29
3604	デスマグレイン3抗体	D014 31	抗デスマグレイン3抗体	270	免疫	29
547	鉄 (Fe) [血液]	D007 01	鉄 (Fe)	11	生I (包1)	8
3537	鉄 (Fe) [尿]	D007 01	鉄 (Fe)	11	生I (包1)	8
640	鉄染色 [血液]	D005 06 注	末梢血液像の加算点として (特殊染色ごとに)	27 (加算)	血液	64
635	鉄染色 [骨髓液]	D005 14 注	注 骨髓像特殊染加算 (特殊染色ごとに)	40 (加算)	血液	64
3456	デヒドロエピアンドロステロンサルフェート (DHEA-S)	D008 32	デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体 (DHEA-S)	174	生II (包4)	21
<b>ト</b>						
551	銅 (Cu) [血液]	D007 05	銅 (Cu)	23	生I (包1)	9
3536	銅 (Cu) [尿]	D007 05	銅 (Cu)	23	生I (包1)	9
3252	透析液中エンドトキシン A液	—	—	—	—	11
3347	透析液中エンドトキシン B液	—	—	—	—	11
3351	透析液中エンドトキシン RO水	—	—	—	—	11
3237	透析液中エンドトキシン 調整液	—	—	—	—	11
3613	透析液中エンドトキシン その他	—	—	—	—	11
130	糖定性 [尿]	D000	尿中一般物質定性半定量検査	26	—	74
131	糖定量 [尿]	D001 02	尿グルコース	9	尿便	74
3423	ドーパミン (総)	—	—	—	—	19
3120	トータルPAI-1	D006 33	tPA・PAI-1複合体	240	血液 (包6)	66
3830	トキソプラズマIgG抗体	D012 14	トキソプラズマ抗体	93	免疫	32
3831	トキソプラズマIgM抗体	D012 15	トキソプラズマIgM抗体	95	免疫	32
—	特異IgE	D015 13	特異的IgE半定量・定量	1種につき110	免疫	39
3510	トピラマート	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	68
1882	トブラマイシン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	69
3633	トボイソメラーゼ抗体 (抗Scl-70) (強皮症抗体) [オクタロニー法]	D014 14	抗Scl-70抗体半定量	161	免疫 (包3)	28
3819	トボイソメラーゼ抗体 (抗Scl-70) (強皮症抗体) [CLEIA法]	D014 14	抗Scl-70抗体定量	161	免疫 (包3)	28
876	トランスフェリン (Tf)	D015 07	トランスフェリン (Tf)	60	免疫	37
3528	トリクロル酢酸 (TCA) [テトラクロルエチレン]	—	—	—	—	78
4146	トリクロル酢酸 (TCA) [1,1,1-トリクロルエタン]	—	—	—	—	78
4148	トリクロル酢酸 (TCA) [トリクロルエチレン]	—	—	—	—	78

診療報酬  
点数早見表

# 診療報酬点数早見表

診療報酬  
点数早見表

コード	検査項目名称	診療報酬区分	保険収載名称 (レセプト名称)	実施料	判断料	P
3829	トリコスポロン・アサヒ抗体	D012 52	抗トリコスポロン・アサヒ抗体	873	免疫	32
3367	トリブシン	D007 45	トリブシン	189	生I	1
3271	トリメタジオン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	68
1101	トリヨードサイロニン (T3)	D008 08	トリヨードサイロニン (T3)	102	生II	18
4058	トロンピン・アンチトロンピンⅡ複合体 (TAT)	D006 27	トロンピン・アンチトロンピン複合体(TAT)	181	血液 包6	66
305	トロンボテスト (TT)	—	—	—	—	65
3087	トロンボモジュリン (TM)	D006 29	トロンボモジュリン	204	血液 包6	12
<b>ナ</b>						
541	ナトリウム (Na) [血液]	D007 01	ナトリウム及びクロール	11	生I 包1	7
741	ナトリウム (Na) [尿]	D007 01	ナトリウム及びクロール	11	生I 包1	7
3503	鉛 (Pb) [血液]	—	—	—	—	9
<b>ニ</b>						
3512	ニッケル (Ni)	—	—	—	—	8
3261	ニトラゼパム	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	68
※	日本脳炎ウイルス	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(1項目当たり)	79	免疫	48
3076	乳癌HER2タンパク (IHC)	N002 03	HER2タンパク	690	病理	94
4382	乳癌HER2遺伝子 (FISH法)	N005 01	HER2遺伝子標本作製 (単独の場合)	2700	病理	94
101	尿沈渣	D002	尿沈渣 (鏡検法) (染色標本)	36	尿便	74
121	尿蛋白定性	D000	尿中一般物質定性半定量検査	26	—	74
130	尿糖定性	D000	尿中一般物質定性半定量検査	26	—	74
141	尿ウロビリノーゲン定性	D000	尿中一般物質定性半定量検査	26	—	74
143	尿ビリルビン定性	D000	尿中一般物質定性半定量検査	26	—	74
144	尿pH	D000	尿中一般物質定性半定量検査	26	—	74
145	尿比重	D000	尿中一般物質定性半定量検査	26	—	74
146	尿潜血反応	D000	尿中一般物質定性半定量検査	26	尿便	74
147	尿ケトン体	D000	尿中一般物質定性半定量検査	26	—	74
122	尿蛋白定量	D001 01	尿蛋白	7	尿便	74
131	尿糖定量	D001 02	尿グルコース	9	尿便	74
799	尿浸透圧	D001 03	尿浸透圧	16	尿便	10
587	乳酸	D007 13	有機モノカルボン酸	47	生I	7
407	乳酸脱水素酵素 (LD (LDH))	D007 01	乳酸デヒドロゲナーゼ (LD)	11	生I 包1	1
524	尿酸 (UA) [血液]	D007 01	尿酸	11	生I 包1	3
724	尿酸 (UA) [尿]	D007 01	尿酸	11	生I 包1	3
4424	尿酸結晶 (関節液)	—	—	—	—	77
686	尿酸クリアランス	—	—	—	—	13
683	尿素クリアランス	—	—	—	—	13
3250	尿素呼気試験-IR	D023-2 02	尿素呼気試験 (UBT)	70	微生	83
523	尿素窒素 (UN) [血液]	D007 01	尿素窒素	11	生I 包1	3
723	尿素窒素 (UN) [尿]	D007 01	尿素窒素	11	生I 包1	3
1272	尿中カテコールアミン (総)	D008 37	カテコールアミン	194	生II 包4	19
3358	尿中クエン酸	—	—	—	—	11
3935	尿中デオキシピリジノリン (Dpd)	D008 36	デオキシピリジノリン (DPD) (尿)	191	生II 包4	12
3003	尿中微量アルブミン	D001 08	アルブミン定量 (尿)	102	尿便	75
3546	尿中トランスフェリン	D001 09	トランスフェリン (尿)	104	尿便	75
4037	尿中核マトリックスプロテイン22 (NMP22)	D009 12	核マトリックスプロテイン22(NMP22)定量(尿)	147	生II 包2	16
309	尿中FDP	D001 07	フィブリン・フィブリノゲン分解産物(FDP)(尿)	72	尿便	75
730	尿中NAG	D001 05	N-アセチルグルコサミニダーゼ(NAG)(尿)	41	尿便	75
3276	尿中Ⅳ型コラーゲン	D001 16	Ⅳ型コラーゲン (尿)	189	尿便	75
4502	妊娠反応定性	D008 01	ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 定性	55	生II	23

# 診療報酬点数早見表

コード	検査項目名称	診療報酬区分	保険収載名称 (レセプト名称)	実施料	判断料	P
<b>ノ</b>						
3230	農薬スクリーニング	-	-	-	-	70
2064	ノロウイルス RNA	-	-	-	-	83
<b>ハ</b>						
533	肺癌ALK遺伝子(FISH)	N005-2	ALK融合遺伝子標本作製	6520	病理	94
540	肺癌PD-L1タンパク(IHC)22C3	N005-3	PD-L1タンパク免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製	2700	病理	94
560	肺癌PD-L1タンパク(IHC)28-8	N005-3	PD-L1タンパク免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製	2700	病理	94
4134	肺サーファクタントプロテインA(SP-A)	D007 34	肺サーファクタント蛋白-A(SP-A)	130	生I	12
4036	肺サーファクタントプロテインD(SP-D)	D007 35	肺サーファクタント蛋白-D(SP-D)	136	生I	12
971	梅毒定性RPR法	D012 01	梅毒血清反応(STS)定性	15	免疫	34
974	梅毒定量RPR法	D012 05	梅毒血清反応(STS)半定量	34	免疫	34
977	梅毒定性TPHA	D012 04	梅毒トレポネーマ抗体定性	32	免疫	34
978	梅毒定量TPHA	D012 06	梅毒トレポネーマ抗体半定量	53	免疫	34
965	梅毒定性TP抗体(TPAb)	D012 04	梅毒トレポネーマ抗体定性	32	免疫	34
3090	ハイドロキシプロリンー総	D010 04 イ	アミノ酸 1種類につき	287	生II	79
200	白血球数(WBC)	D005 05	末梢血液一般検査	21	血液	64
220	白血球分類(血液像)	D005 03	末梢血液像(自動機械法)	15	血液	64
3720	白血病・リンパ腫解析検査(LLA)	D005 15	造血器腫瘍細胞抗原検査(一連につき)	1940	血液	61
3534	馬尿酸(HA)	-	-	-	-	78
3415	バニルマンデル酸(VMA定量)[蓄尿]	D008 04	バニールマンデル酸(VMA)	90	生II	19
3416	バニルマンデル酸(VMA定量)[血液]	D008 04	バニールマンデル酸(VMA)	90	生II	19
882	ハプトグロビン(Hp)[型判定]	D015 14	ハプトグロビン(型補正を含む。)	136	免疫	38
888	ハプトグロビン(Hp)[型判定なし]	D015 14	ハプトグロビン(型補正を含む。)	136	免疫	38
※	パラインフルエンザウイルス	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(1項目当たり)	79	免疫	48
3226	バラコート	-	-	-	-	70
1804	バルプロ酸ナトリウム	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	-	68
4181	ハロペリドール	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	-	70
3165	バンコマイシン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	-	69
<b>ヒ</b>						
3302	ヒアルロン酸[血液]	D007 43	ヒアルロン酸	184	生I	7
3481	ヒアルロン酸[胸水]	-	-	-	-	7
1431	鼻炎スクリーニング13(特異IgE)	D015 13	特異的IgE半定量・定量	1430	免疫	39
1436	鼻炎スクリーニング9(特異IgE)	D015 13	特異的IgE半定量・定量	990	免疫	39
145	比重[尿]	D000	尿中一般物質定性半定量検査	26	-	74
4601	鼻汁好酸球	D005 03	好酸球(鼻汁・喀痰)	15	血液	65
3201	ビタミンA(VA)	-	-	-	-	10
3202	ビタミンB1	D007 51	ビタミンB1	246	生I	10
3203	ビタミンB2	D007 52	ビタミンB2	249	生I	10
3885	ビタミンB6(VB6)	-	-	-	-	10
3209	ビタミンB12(VB12:コバラミン)	D007 38	ビタミンB12	144	生I	10
3210	ビタミンC(VC:アスコルビン酸)	D007 58	ビタミンC	314	生I	10
3214	ビタミンE	-	-	-	-	10
865	非特異IgE	D015 10	非特異的IgE定量	100	免疫	39
4096	ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)	D007 36	心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)定量	139	生I	12
3392	ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)	D008 45	心房性Na利尿ペプチド(ANP)	227	生II 包4	24
3337	ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)[尿・ECLA法]	D008 21	ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定量	138	生II 包4	22
4068	ヒト脳性Na利尿ペプチド(BNP)	D008 19	脳性Na利尿ペプチド(BNP)	136	生II 包4	24
590	ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)	D008 19	脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)	136	生II 包4	24
3448	ヒトパピローマウイルスDNA(ハイリスクグループ)	D023 09	HPV核酸検出	350	微生	55
3449	ヒトパピローマウイルスDNA(ローリスクグループ)	-	-	-	-	55
3944	ヒトパピローマウイルスDNA(16型・18型・その他ハイリスクグループ)	D023 10	HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	360	微生	55

診療報酬  
点数早見表

# 診療報酬点数早見表

診療報酬  
点数早見表

コード	検査項目名称	診療報酬区分	保険収載名称 (レセプト名称)	実施料	判断料	P
3197	ヒトパピローマウイルス (HPV) ジェノタイプ判定	D023 19	HPVジェノタイプ判定	2000	微生物	55
3304	ヒトパルボウイルスB19IgG	—	—	—	—	54
3718	ヒトパルボウイルスB19IgM	D012 40	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(1項目当たり)	212	免疫	54
3079	ヒトTARC定量 (Th2ケモカイン)	D015 18	TARC	184	免疫	39
1432	皮膚スクリーニング13 (特異IgE)	D015 13	特異的IgE半定量・定量	1430	免疫	39
1437	皮膚スクリーニング9 (特異IgE)	D015 13	特異的IgE半定量・定量	990	免疫	39
3454	非抱合型コルチゾール (遊離コルチゾール)	D008 15	コルチゾール	127	生Ⅱ 包4	20
614	百日咳菌DNA	D023 10	百日咳菌核酸検出	360	微生物	30
4051	百日咳菌抗体 (EIA法)	D012 45	百日咳菌抗体	264	免疫	30
1527	百日咳抗体IgA	D012 12	百日咳菌抗体半定量	80	免疫	30
1528	百日咳抗体IgM	D012 12	百日咳菌抗体半定量	80	免疫	30
—	病理組織 (標本作製+病理判定)	N000	組織切片によるもの (1臓器につき)	1臓器 860 2臓器 1720 3臓器以上 2580	病理	94
—	病理判定	—	—	—	—	94
143	ビリルビン定性 [尿]	D000	尿中一般物質定性半定量検査	26	—	74
3060	ピルシカイニド	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	69
3472	ピルビン酸	D007 13	有機モノカルボン酸	47	生Ⅰ	7
3929	ピルメノール	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	69
4423	ピロリン酸Ca結晶 [関節液]	—	—	—	—	77

フ						
310	フィブリノーゲン定量 (Fib)	D006 04	フィブリノーゲン定量	23	血液	65
3025	フィブリンモノマー複合体定量	D006 31	フィブリンモノマー複合体	227	血液 包6	65
※	風疹ウイルス [HI法]	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(1項目当たり)	79	免疫	44
※	風疹ウイルスIgG,IgM [EIA法]	D012 40	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(1項目当たり)	212	免疫	44
1803	フェニトイン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	68
1801	フェノバルビタール	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	68
1506	フェリチン	D007 26	フェリチン定量	108	生Ⅰ	4
4005	フォン・ウィルブラント因子活性 (リストセチンコファクター)	D006 16	von Willebrand因子 (VWF) 活性	132	血液 包6	67
3379	フォン・ウィルブラント因子抗原定量	D006 21	von Willebrand因子 (VWF) 抗原	151	血液 包6	67
3610	不規則性抗体 (間接クームス同定)	D011 04	不規則抗体	159	免疫	36
3345	副甲状腺ホルモンintact (PTH intact)	D008 31	副甲状腺ホルモン (PTH)	170	生Ⅱ 包4	18
3075	副甲状腺ホルモン関連蛋白 (PTHrP)	D008 37	副甲状腺ホルモン関連蛋白 (PTHrP)	194	生Ⅱ 包4	18
3310	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	D008 37	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	194	生Ⅱ 包4	17
4400	腹水一般検査	—	—	—	—	77
549	不飽和鉄結合能 (UIBC)	D007 01	不飽和鉄結合能 (UIBC) (比色法)	11	生Ⅰ 包1	8
312	プラスミノゲン (PLG)	D006 13	プラスミノゲン活性	100	血液	66
1829	フリーテストステロン	D008 28	遊離テストステロン	163	生Ⅱ 包4	23
3812	フリーライトチェーン(免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比)	D015 26	免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比	388	免疫	38
1802	プリミドン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	68
3335	フレカイニド	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	69
3010	プレアルブミン	D015 12	トランスサイレチン(プレアルブミン)	107	免疫	37
3361	プレグナンジオール (P2)	D008 40	プレグナンジオール	213	生Ⅱ 包4	23
3362	プレグナントリオール (P3)	D008 46	プレグナントリオール	234	生Ⅱ 包4	23
3255	プロカインアミド	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	69
3163	プロカルシトニン	D007 55	プロカルシトニン (PCT) 定量	292	生Ⅰ	12
902	プロコラーゲンⅢペプチド (P-Ⅲ-P)	D007 37	プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)	140	生Ⅰ	4
3360	プロゲステロン	D008 24	プロゲステロン	151	生Ⅱ 包4	22
3941	プロジェステロンレセプター (IHC)	N002 02	プロジェステロンレセプター	690	病理	94
4049	プロテインC (抗原量)	D006 32	プロテインC抗原	239	血液 包6	66
4056	プロテインC活性	D006 34	プロテインC活性	241	血液 包6	66
4040	プロテインS (抗原量)	D006 23	プロテインS抗原	162	血液 包6	66

# 診療報酬点数早見表

コード	検査項目名称	診療報酬区分	保険収載名称 (レセプト名称)	実施料	判断料	P
4048	プロテインS活性	D006 24	プロテインS活性	168	血液 包6	66
4055	プロテインS (遊離型抗原量)	D006 23	プロテインS抗原	162	血液 包6	66
301	プロトロンビン時間 (PT)	D006 02	プロトロンビン時間 (PT)	18	血液	65
4138	プロトロンビンフラグメントF1+2 (F1+2)	D006 28	プロトロンビンフラグメントF1+2	193	血液 包6	66
3225	プロパフェノン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	69
4594	ブロムペリドール	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	70
1071	プロラクチン (PRL)	D008 06	プロラクチン (PRL)	98	生Ⅱ	17
5936	糞便中アデノウイルス抗原	D012 07	アデノウイルス抗原定性 (糞便)	60	免疫	32・83
178	糞便中ヒトヘモグロビン定性	D003 05	糞便中ヘモグロビン定性	37	尿便	76
150	糞便中ヒトヘモグロビン定量	D003 07	糞便中ヘモグロビン	41	尿便	76
693	糞便中ヒトヘモグロビン・トランスフェリン	D003 08	糞便中ヘモグロビン及びトランスフェリン定性・定量	56	尿便	76

診療報酬  
点数早見表

へ						
200	平均赤血球容積 (MCV)	D005 05	末梢血液一般検査	21	血液	64
200	平均赤血球色素量 (MCH)	D005 05	末梢血液一般検査	21	血液	64
200	平均赤血球色素濃度 (MCHC)	D005 05	末梢血液一般検査	21	血液	64
3229	ヘパリン	D007 26	ヘパリン	108	生Ⅰ	11
4198	ベプシノーゲンⅠ, Ⅱ	—	—	—	—	2
833	ペプリジル	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	69
200	ヘマトクリット (Ht)	D005 05	末梢血液一般検査	21	血液	64
584	ヘモグロビンA1c (NGSP)	D005 09	ヘモグロビンA1c (HbA1c)	49	血液	65
4519	ヘリコバクター・ピロリ抗体	D012 12	ヘリコバクター・ピロリ抗体	80	免疫	32
1777	ペランパネル	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	68
295	ペルオキシダーゼ染色 [血液]	D005 06 注	末梢血液像の加算点として (特殊染色ごとに)	27 (加算)	血液	64
632	ペルオキシダーゼ染色 [骨髄液]	D005 14 注	注 骨髄像特殊加算 (特殊染色ごとに)	40 (加算)	血液	64
5749	ヘロ毒素ELISA (大腸菌ベロトキシン検出検査)	D023-2 03	大腸菌ベロトキシン定性	194	微生物	83
197	便原虫	D017 03	排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査 (その他のもの)	61	微生物	76・81
3020	ベンスジョーンズ蛋白同定	D015 21	Bence Jones蛋白同定 (尿)	201	免疫	75
924	便中カルプロテクチン	D003 09	カルプロテクチン (糞便)	276	尿便	76
3628	便中ヘリコバクター・ピロリ抗原	D012 23	ヘリコバクター・ピロリ抗原定性	142	免疫	76
5863	ヘリコバクター	—	—	—	—	81
5917	ヘリコバクター感受性検査	—	—	—	—	81
1514	扁平上皮癌関連抗原 (SCC抗原)	D009 04	扁平上皮癌関連抗原 (SCC抗原)	107	生Ⅱ 包2	15

ホ						
4035	骨型アルカリフォスファターゼ (BAP)	D008 27	骨型アルカリホスファターゼ (BAP)	161	生Ⅱ 包4	12
3419	ホモバニリン酸 (HVA定量) [蓄尿]	D008 03	ホモバニリン酸 (HVA)	69	生Ⅱ	19
3418	ホモバニリン酸 (HVA定量) [髄液]	D008 03	ホモバニリン酸 (HVA)	69	生Ⅱ	19
3542	ポリコナゾール	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	69
3521	ポルフォビリンノーゲン定量	D001 17	ポルフォビリンノーゲン (尿)	191	尿便	75
3716	ホールPTH	D008 31	副甲状腺ホルモン (PTH)	170	生Ⅱ 包4	18

マ						
827	マイクロゾームテスト	D014 03	抗甲状腺マイクロゾーム抗体半定量	37	免疫	28
1831	マイコバクテリウム・アビウム・イントラセラー核酸同定 (MAC-PCR)	D023 12	マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセラー (MAC) 核酸検出	421	微生物	82
921	マイコプラズマ抗体 [PA法]	D012 04	マイコプラズマ抗体半定量	32	免疫	30
3664	マイコプラズマ抗体 [CF法]	D012 04	マイコプラズマ抗体半定量	32	免疫	30
3985	マイコプラズマ核酸同定	D023 07	マイコプラズマ核酸検出	300	微生物	30
546	マグネシウム (Mg) [血液]	D007 01	マグネシウム	11	生Ⅰ 包1	8
746	マグネシウム (Mg) [尿]	D007 01	マグネシウム	11	生Ⅰ 包1	8
※	麻疹ウイルス [HI法] [NT法]	D012 11	ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)	79	免疫	44
※	麻疹ウイルスIgG, IgM [EIA法]	D012 40	グロブリンクラス別ウイルス抗体価 (1項目当たり)	212	免疫	44
200	末梢血液一般	D005 05	末梢血液一般検査	21	血液	64

※本編にてご確認下さい。

# 診療報酬点数早見表

コード	検査項目名称	診療報酬区分	保険収載名称 (レセプト名称)	実施料	判断料	P
3169	マトリックスメタロプロテイナーゼ-3 (MMP-3)	D014 07	マトリックスメタロプロテイナーゼ-3(MMP-3)	116	免疫	29
3496	マンガン (Mn) [血液・原子吸光法]	D007 08	マンガン (Mn)	27	生 I (包1)	8
3514	マンガン (Mn) [血液・原子吸光分光光度法]	D007 08	マンガン (Mn)	27	生 I (包1)	8
3515	マンガン (Mn) [尿・原子吸光法]	D007 08	マンガン (Mn)	27	生 I (包1)	8
3497	マンデル酸 (MA)	-	-	-	-	78

診療報酬  
点数早見表

ミ						
3648	ミエリン塩基性蛋白 (MBP)	D004 11	ミエリン塩基性蛋白 (MBP) (髄液)	577	尿便	28
1521	ミオグロビン [血液]	D007 36	ミオグロビン定量	139	生 I	11
1522	ミオグロビン [尿]	D007 36	ミオグロビン定量	139	生 I	11
-	未染標本作製	-	-	-	-	94
426	ミトコンドリアAST (m-AST) (m-GOT)	D007 15	ASTアイソザイム	49	生 I	9

ム						
545	無機燐 (IP) [血液]	D007 03	無機リン及びリン酸	17	生 I (包1)	7
745	無機燐 (IP) [尿]	D007 03	無機リン及びリン酸	17	生 I (包1)	7
740	無機燐クリアランス (リン再吸収率試験)	-	-	-	-	13
※	ムンプスウイルス [HI法] [NT法] [CF法]	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(1項目当たり)	79	免疫	45
※	ムンプスウイルスIgG,IgM [EIA法]	D012 40	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(1項目当たり)	212	免疫	45

メ						
3278	メキシレチン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	-	69
3277	メトトレキサート	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	-	70
3588	メタネフリン・ノルメタネフリン分画	D008 44	メタネフリン・ノルメタネフリン分画	221	生 II (包4)	19
3533	メチル馬尿酸 (MHA)	-	-	-	-	78
3018	免疫電気泳動 [抗ヒト全血清による同定]	D015 16	免疫電気泳動法 (抗ヒト全血清)	170	免疫	38
3019	免疫電気泳動 [特異抗血清による同定]	D015 23	免疫電気泳動法 (特異抗血清)	224	免疫	38
4093	免疫複合体 (モノクローナルRF)	D014 21	モノクローナルRF結合免疫複合体	194	免疫	28
887	免疫複合体 (C1q)	D014 13	C1q結合免疫複合体	157	免疫 (包3)	28

モ						
212	網状赤血球数 (Ret)	D005 02	網赤血球数	12	血液	64
-	モノクローナル抗体によるリンパ球検査	D016 02	T細胞サブセット検査 (一連につき)	190	免疫	61

ヤ						
3593	薬剤によるリンパ球刺激試験 (DLST)	D016 07 イ	リンパ球刺激試験(LST)(1薬剤につき)	345	免疫	61

ユ						
3454	遊離コルチゾール (非抱合型コルチゾール)	D008 15	コルチゾール	127	生 II (包4)	20
495	遊離コレステロール (F-CH)	D007 01	遊離コレステロール	11	生 I (包1)	5
1104	遊離サイロキシシン (FT4)	D008 15	遊離サイロキシシン (FT4)	127	生 II (包4)	18
498	遊離脂肪酸 (NEFA)	D007 19	遊離脂肪酸	59	生 I	5
3323	遊離トリヨードサイロニン (FT3)	D008 15	遊離トリヨードサイロニン (FT3)	127	生 II (包4)	18
3320	遊離フェニトイン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	-	68
3338	遊離HCG-β (HCG-βサブユニット) [血液]	D008 19	ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット (HCG-β)	136	生 II (包4)	22
3339	遊離HCG-β (HCG-βサブユニット) [尿]	D008 19	ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット (HCG-β)	136	生 II (包4)	22

ヨ						
3199	葉酸	D007 41	葉酸	154	生 I	10

ラ						
1041	卵胞刺激ホルモン (FSH)	D008 13	卵胞刺激ホルモン (FSH)	111	生 II (包4)	17
3949	ラモトリギン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	-	68

# 診療報酬点数早見表

コード	検査項目名称	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）	実施料	判断料	P
<b>リ</b>						
810	リウマチ因子RF	D014 02	リウマトイド因子（RF）定量	30	免疫	27
4005	リストセチンコファクター（フォン・ウィルブランド因子活性）	D006 16	von Willebrand因子（VWF）活性	132	血液 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 0 2px;">包6</span>	67
3466	リゾチーム [血液]	—	—	—	—	2
3465	リゾチーム [尿]	—	—	—	—	2
552	リチウム	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	70
3280	リドカイン	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	69
432	リパーゼ	D007 06	リパーゼ	24	生 I <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 0 2px;">包1</span>	1
—	リバビリン	—	—	—	—	70
330	リポ蛋白分画 [アガロース電気泳動法]	D007 15	リポ蛋白分画	49	生 I	5
4145	リポ蛋白分画 [ポリアクリルアミドゲルディスク電気泳動法]	D007 21	リポ蛋白分画 (PAGディスク電気泳動法)	80	生 I	5
3550	リポ蛋白 (a) (LP (a))	D007 25	リポ蛋白 (a)	107	生 I	6
3134	リポ蛋白リパーゼ (LPL)	D007 49	リポ蛋白リパーゼ (LPL)	223	生 I	5
4071	淋菌核酸増幅同定	D023 03	淋菌核酸検出	204	微生物	31
2191	淋菌・クラミジアトラコマチス核酸同時同定	D023 05	淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出	278	微生物	31
740	リン再吸収率試験（無機燐クリアランス）	—	—	—	—	13
492	燐脂質 (PL)	D007 02	リン脂質	15	生 I <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 0 2px;">包1</span>	5
3589	リンパ球幼若化試験Con-A	D016 07 イ	リンパ球刺激試験(LST)(1薬剤につき)	345	免疫	61
3586	リンパ球幼若化試験PHA	D016 07 イ	リンパ球刺激試験(LST)(1薬剤につき)	345	免疫	61

診療報酬  
点数早見表

<b>ル</b>						
3954	ループス抗凝固因子（ループスアンチコアグラント）	D014 33	ループスアンチコアグラント定量	281	免疫	29

<b>レ</b>						
3468	レチノール結合蛋白 (RBP)	D015 14	レチノール結合蛋白 (RBP)	136	免疫	37
1171	レニン活性 (PRA)	D008 07	レニン活性	100	生 II	24
4021	レニン定量	D008 11	レニン定量	108	生 II	24
3625	レペチラセタム	B001 02 イ	特定薬剤治療管理料	(470)	—	68
4482	レムナント様リポ蛋白コレステロール (RLPコレステロール)	D007 43	レムナント様リポ蛋白コレステロール (RLP-C)	184	生 I	6

<b>ロ</b>						
406	ロイシニアミノペプチダーゼ (LAP)	D007 01	ロイシニアミノペプチダーゼ (LAP)	11	生 I <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 0 2px;">包1</span>	1

# 診療報酬点数早見表

診療報酬  
点数早見表

コード	検査項目名称	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）	実施料	判断料	P
<b>A</b>						
472	A / G比	—	—	—	—	4
2557	ABC検診	—	—	—	—	2
991	ABO式血液型	D011 01	ABO血液型、Rh (D) 血液型	24	免疫	36
3463	ACE（アンギオテンシン転換酵素）	D007 38	アンギオテンシン I 転換酵素 (ACE)	144	生 I	2
3310	ACTH（副腎皮質刺激ホルモン）	D008 37	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	194	生 II 包4	17
428	ADA（アデノシンデアミナーゼ）[血液]	D007 11	アデノシンデアミナーゼ (ADA)	32	生 I	1
601	ADA（アデノシンデアミナーゼ）[胸水]	D007 11	アデノシンデアミナーゼ (ADA)	32	生 I	1
602	ADA（アデノシンデアミナーゼ）[腹水]	D007 11	アデノシンデアミナーゼ (ADA)	32	生 I	1
2079	ADA（アデノシンデアミナーゼ）[その他]	D007 11	アデノシンデアミナーゼ (ADA)	32	生 I	1
1501	AFP（ $\alpha$ -フェトプロテイン）	D009 03	$\alpha$ -フェトプロテイン (AFP)	104	生 II 包2	15
4235	女性AICS（6種）	—	—	—	—	80
1435	女性AIRS（9種）	—	—	—	—	80
4178	男性AICS（5種）	—	—	—	—	80
1429	男性AIRS（8種）	—	—	—	—	80
3509	Al（アルミニウム）	D007 29	アルミニウム (Al)	115	生 I	9
470	ALB（アルブミン）[血清]	D007 01	アルブミン (BCP改良法・BCG法)	11	生 I 包1	4
3003	ALB（尿中微量アルブミン）	D001 08	アルブミン定量（尿）	102	尿便	75
412	ALD（アルドラーゼ）	D007 01	アルドラーゼ	11	生 I 包1	1
403	ALP（アルカリフォスファターゼ）	D007 01	アルカリホスファターゼ (ALP)	11	生 I 包1	1
360	ALPアイソザイム (ALP-I)	D007 14	ALPアイソザイム	48	生 I	9
290	ALP染色	D005 06 注	末梢血液像の加算点として（特殊染色ごとに）	27（加算）	血液	64
402	ALT（GPT）	D007 03	アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)	17	生 I 包1	1
842	AMA（抗ミトコンドリア抗体）	D014 19	抗ミトコンドリア抗体半定量	186	免疫	28
431	AMY（アミラーゼ）[血液]	D007 01	アミラーゼ	11	生 I 包1	1
731	AMY（アミラーゼ）[尿]	D007 01	アミラーゼ	11	生 I 包1	1
370	AMYアイソザイム (AMY-I) [血液]	D007 14	アミラーゼアイソザイム	48	生 I	9
770	AMYアイソザイム (AMY-I) [尿]	D007 14	アミラーゼアイソザイム	48	生 I	9
826	ANA（抗核抗体）	D014 05	抗核抗体（蛍光抗体法）半定量	105	免疫	27
303	APTT（活性化部分トロンボプラスチン時間）	D006 07	活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT)	29	血液	65
4338	Ara h 2（ピーナッツ由来）	D015 13	特異的IgE半定量・定量	110	免疫	39
802	ASK（抗ストレプトキナーゼ）	D012 03	抗ストレプトキナーゼ (ASK) 半定量	29	免疫	30
801	ASO（抗ストレプトリジン-O）	D012 01	抗ストレプトリジンO (ASO) 定量	15	免疫	30
401	AST（GOT）	D007 03	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)	17	生 I 包1	1
311	AT-III（アンチトロンピンⅢ）[合成基質法]	D006 10	アンチトロンピン活性	70	血液	66
3194	ATLA抗体（HTLV-I抗体）[PA法]	D012 13	HTLV- I 抗体半定量	85	免疫	32
3160	ATLA抗体（HTLV-I抗体）[CLEIA法]	D012 30	HTLV- I 抗体	168	免疫	32
3274	AVP（抗利尿ホルモン）	D008 47	抗利尿ホルモン (ADH)	235	生 II 包4	17
5931	A群 $\beta$ 溶連菌迅速試験	D012 18	A群 $\beta$ 溶連菌迅速試験定性	127	免疫	30
<b>B</b>						
4035	BAP（骨型アルカリフォスファターゼ）	D008 27	骨型アルカリホスファターゼ (BAP)	161	生 II 包4	12
4164	BCA225	D009 17	BCA225	162	生 II 包2	15
4166	BFP（塩基性フェトプロテイン）	D009 14	塩基性フェトプロテイン (BFP)	150	生 II 包2	15
3215	BGP（オステオカルシン）	D008 27	オステオカルシン (OC)	161	生 II 包4	24
1503	BMG（ $\beta$ 2-マイクログロブリン）[血液]	D015 11	$\beta$ 2-マイクログロブリン	104	免疫	37
1504	BMG（ $\beta$ 2-マイクログロブリン）[尿]	D015 11	$\beta$ 2-マイクログロブリン	104	免疫	37
3234	BTR（総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比）	D010 05	総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比 (BTR)	288	生 II	25
4068	BNP（ヒト脳性Na利尿ペプチド）	D008 19	脳性Na利尿ペプチド (BNP)	136	生 II 包4	24
※	B細胞表面免疫グロブリン	D016 01	B細胞表面免疫グロブリン	157	免疫	61
<b>C</b>						
543	Ca（カルシウム）[血液]	D007 01	カルシウム	11	生 I 包1	7

# 診療報酬点数早見表

コード	検査項目名称	診療報酬区分	保険収載名称 (レセプト名称)	実施料	判断料	P
743	Ca (カルシウム) [尿]	D007 01	カルシウム	11	生 I 包1	7
3316	C-AMP (サイクリックAMP) [血液]	D008 33	サイクリックAMP (cAMP)	175	生 II 包4	24
3315	C-AMP (サイクリックAMP) [蓄尿]	D008 33	サイクリックAMP (cAMP)	175	生 II 包4	24
1311	C-ペプチド (CPR) [血液]	D008 13	C-ペプチド (CPR)	111	生 II 包4	24
1321	C-ペプチド (CPR) [尿]	D008 13	C-ペプチド (CPR)	111	生 II 包4	24
887	C1q (免疫複合体)	D014 13	C1q結合免疫複合体	157	免疫 包3	28
886	C1q	-	-	-	-	37
4054	C1インアクチベーター活性 (C1エステラーゼインヒビター活性)	D015 24	C1インアクチベーター	268	免疫	37
877	C3 (β1C / β1Aグロブリン)	D015 08	C3	70	免疫	37
879	C4 (β1Eグロブリン)	D015 08	C4	70	免疫	37
3110	C7-HRP (サイトメガロウイルス抗原) [直接酵素抗体法]	D012 48	サイトメガロウイルスpp65抗原定性	377	免疫	55
3074	C10,C11 (サイトメガロウイルス抗原) [間接酵素抗体法]	D012 48	サイトメガロウイルスpp65抗原定性	377	免疫	55
3056	CA125	D009 10	CA125	144	生 II 包2	15
3057	CA15-3	D009 06	CA15-3	118	生 II 包2	15
1512	CA19-9	D009 08	CA19-9	127	生 II 包2	15
4174	CA54/61	D009 22	CA54/61	184	生 II 包2	15
4175	CA602	D009 23	CA602	190	生 II 包2	15
4168	CA72-4	D009 11	CA72-4	146	生 II 包2	15
681	Ccr (クレアチニンクリアランス)	-	-	-	-	13
3507	Cd (カドミウム) [血液]	-	-	-	-	9
3508	Cd (カドミウム) [尿]	-	-	-	-	9
3223	CD38マルチ解析	D005 15	造血器腫瘍細胞抗原検査(一連につき)	1940	血液	61
1502	CEA (癌胎児性抗原)	D009 02	癌胎児性抗原 (CEA)	102	生 II 包2	15
1531	CG (グリココール酸)	D007 21	グリココール酸	80	生 I	2
404	ChE (コリンエステラーゼ)	D007 01	コリンエステラーゼ (ChE)	11	生 I 包1	1
831	CH50 (血清補体価)	D015 04	血清補体価 (CH50)	38	免疫	37
544	Cl (クロール) [血液]	D007 01	ナトリウム及びクロール	11	生 I 包1	7
744	Cl (クロール) [尿]	D007 01	ナトリウム及びクロール	11	生 I 包1	7
411	CK (CPK) (クレアチンキナーゼ)	D007 01	クレアチンキナーゼ (CK)	11	生 I 包1	1
3368	CK (CPK) -MB[免疫阻害-UV法]	D007 17	CKアイソザイム	55	生 I	9
444	CK (CPK) -MB[CLIA法]	D007 22	CK-MB (免疫阻害法・蛋白量測定)	90	生 I	9
340	CK (CPK) アイソザイム (CK (CPK)-I)	D007 17	CKアイソザイム	55	生 I	9
3517	Cr (クロム) [血液]	-	-	-	-	8
3516	Cr (クロム) [尿]	-	-	-	-	8
525	CRE (クレアチニン) [血液]	D007 01	クレアチニン	11	生 I 包1	3
725	CRE (クレアチニン) [尿]	D007 01	クレアチニン	11	生 I 包1	3
869	CRP定量 (C反応性蛋白)	D015 01	C反応性蛋白 (CRP)	16	免疫	37
3206	CSLEX (シアリルLe <sup>x</sup> 抗原)	D009 19	シアリルLe <sup>x</sup> 抗原 (CSLEX)	164	生 II 包2	15
3344	CT (カルシトニン)	D008 20	カルシトニン	137	生 II 包4	18
551	Cu (銅) [血液]	D007 05	銅 (Cu)	23	生 I 包1	9
3536	Cu (銅) [尿]	D007 05	銅 (Cu)	23	生 I 包1	9

診療報酬  
点数早見表

## D

442	D-Bil (直接ビリルビン)	D007 01	直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン	11	生 I 包1	2
5966	DDH (抗酸菌群核酸同定)	D023 11	結核菌群核酸検出	410	微生物	82
3456	DHEA-S (デヒドロエピアンドロステロンサルフェート)	D008 32	デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体 (DHEA-S)	174	生 II 包4	21
3593	DLST (薬剤によるリンパ球刺激試験)	D016 07 イ	リンパ球刺激試験 (LST)(1薬剤につき)	345	免疫	61
3935	Dpd (尿中デオキシピリジノリン)	D008 36	デオキシピリジノリン (DPD) (尿)	191	生 II 包4	12
3048	DUPAN-2	D009 06	DUPAN-2	118	生 II 包2	15
3124	Dダイマー [ラテックス免疫比濁法]	D006 17	Dダイマー	133	血液 包6	66

# 診療報酬点数早見表

診療報酬  
点数早見表

コード	検査項目名称	診療報酬区分	保険収載名称 (レセプト名称)	実施料	判断料	P
<b>E</b>						
496	E-CH (エステル型コレステロール)	—	—	—	—	5
3354	E2 (エストラジオール)	D008 34	エストラジオール (E2)	177	生Ⅱ 包4	22
※	EBウイルス[FA法]	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(1項目当たり)	79	免疫	47
※	EBウイルス[EIA法]	D012 40	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(1項目当たり)	212	免疫	47
3814	EGFR変異解析v2.0	D004 2 1イ	悪性腫瘍遺伝子検査 (イ処理が容易なもの)	2500	遺伝子 包7	94
214	Eos (好酸球数)	D005 04	好酸球数	17	血液	64
3328	EPO (エリスロポエチン)	D008 39	エリスロポエチン	209	生Ⅱ 包4	11
216	ESR (赤血球沈降速度)	D005 01	赤血球沈降速度 (ESR)	9	血液	64
<b>F</b>						
495	F-CH (遊離コレステロール)	D007 01	遊離コレステロール	11	生Ⅰ 包1	5
308	FDP [血液]	D006 11	フィブリン・フィブリノゲン分解産物 (FDP) 定量	80	血液	66
309	FDP [尿]	D001 07	フィブリン・フィブリノゲン分解産物(FDP)(尿)	72	尿便	75
547	Fe (鉄) [血液]	D007 01	鉄 (Fe)	11	生Ⅰ 包1	8
3537	Fe (鉄) [尿]	D007 01	鉄 (Fe)	11	生Ⅰ 包1	8
310	Fib (フィブリノーゲン定量)	D006 04	フィブリノゲン定量	23	血液	65
1041	FSH (卵巣刺激ホルモン)	D008 13	卵巣刺激ホルモン (FSH)	111	生Ⅱ 包4	17
3323	FT3 (遊離トリヨードサイロニン)	D008 15	遊離トリヨードサイロニン (FT3)	127	生Ⅱ 包4	18
1104	FT4 (遊離サイロキシシン)	D008 15	遊離サイロキシシン (FT4)	127	生Ⅱ 包4	18
981	FTA-ABS	D012 21	梅毒トレポネーマ抗体 (FTA-ABS試験) 定性	138	免疫	34
4138	F1+2 (プロトロンビンフラグメントF1+2)	D006 28	プロトロンビンフラグメントF1+2	193	血液 包6	66
<b>G</b>						
3308	GH (成長ホルモン) [血清]	D008 13	成長ホルモン (GH)	111	生Ⅱ 包4	17
1808	Gly m4 (大豆由来)	D015 13	特異的IgE半定量・定量	110	免疫	39
401	GOT (AST)	D007 03	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)	17	生Ⅰ 包1	1
402	GPT (ALT)	D007 03	アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)	17	生Ⅰ 包1	1
<b>H</b>						
3534	HA (馬尿酸)	—	—	—	—	78
3392	HANP (ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド)	D008 45	心房性Na利尿ペプチド (ANP)	227	生Ⅱ 包4	24
1491	HA抗体 (HAAb)	D013 08	HA抗体	146	免疫 包5	34
200	Hb (血色素量)	D005 05	末梢血液一般検査	21	血液	64
584	HbA1c (ヘモグロビンA1c)	D005 09	ヘモグロビンA1c (HbA1c)	49	血液	65
3300	HBc抗体 (HBcAb) [PHA法]	D013 06	HBc抗体半定量・定量	137	免疫 包5	34
1475	HBc抗体 (HBcAb) [CLIA法]	D013 06	HBc抗体半定量・定量	137	免疫 包5	34
3532	HBcrAg(B型肝炎ウイルスコア関連抗原)	D013 12	HBVコア関連抗原 (HBcrAg)	266	免疫 包5	34
1469	HBe抗原 (HBeAg)	D013 04	HBe抗原	104	免疫 包5	34
1473	HBe抗体 (HBeAb)	D013 04	HBe抗体	104	免疫 包5	34
931	HBs抗原 (HBsAg) [MAT法]	D013 01	HBs抗原定性・半定量	29	免疫	34
1461	HBs抗原 (HBsAg) [CLIA法]	D013 03	HBs抗原	88	免疫 包5	34
932	HBs抗体 (HBsAb) [PHA法]	D013 02	HBs抗体定性	32	免疫	34
1465	HBs抗体 (HBsAb) [CLIA法]	D013 03	HBs抗体	88	免疫 包5	34
528	HBV核酸定量 (IU)	D023 04	HBV核酸定量	271	微生物	34
4041	HBVゲノタイプ	D013 14	HBVジェノタイプ判定	340	免疫 包5	34
3996	HBVプレコア/コアプロモーター変異検出(PC変異)	D023 14	HBV核酸プレコア変異及びコアプロモーター変異検出	450	微生物	34
3336	HCG (ヒト絨毛性ゴナドトロピン) [血液・CLIA法]	D008 21	ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 定量	138	生Ⅱ 包4	22
3337	HCG (ヒト絨毛性ゴナドトロピン) [尿・ECLIA法]	D008 21	ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 定量	138	生Ⅱ 包4	22
3338	HCG-βサブユニット (遊離HCG-β) [血液]	D008 19	ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット (HCG-β)	136	生Ⅱ 包4	22
3339	HCG-βサブユニット (遊離HCG-β) [尿]	D008 19	ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット (HCG-β)	136	生Ⅱ 包4	22
3314	HCV核酸定量検査 (HCV-RNA定量)	D023 13	HCV核酸定量	437	微生物	35
909	HCV抗体-Ⅲ	D013 05	HCV抗体定性・定量	108	免疫 包5	35

# 診療報酬点数早見表

コード	検査項目名称	診療報酬区分	保険収載名称 (レセプト名称)	実施料	判断料	P
4434	HCVセロタイプ [群別]	D013 11	HCV血清群別判定	227	免疫 包5	35
4536	HCV RNAコアジェノタイプ	—	—	—	—	35
501	HDLコレステロール (HDL-C)	D007 03	HDL-コレステロール	17	生I 包1	5
3847	HER2蛋白 (血清)	D009 28	HER2蛋白	320	生II 包2	16
4096	H-FABP (ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白)	D007 36	心臓由来脂肪酸結合蛋白 (H-FABP) 定量	139	生I	12
3505	Hg (水銀) [血液]	—	—	—	—	9
3506	Hg (水銀) [尿]	—	—	—	—	9
4250	HGF (肝細胞増殖因子)	D007 50	肝細胞増殖因子 (HGF)	227	生I	12
3162	HIV抗原・抗体	D012 16	HIV-1,2抗原・抗体同時測定定性	115	免疫	32
3327	HIV-1RNA定量	D023 15	HIV- I 核酸定量	520	微生物	32
3841	HLA型判定A,B Locus	K920 注7	HLA型適合血小板輸血に伴って行ったHLA型クラスI (A,B,C)	1000	輸血料	72
3842	HLA型判定DR Locus	K920 注7	HLA型適合血小板輸血に伴って行ったHLA型クラスII (DR,DQ,DP)	1400	輸血料	72
882	Hp (ハプトグロビン) [型判定]	D015 14	ハプトグロビン (型補正を含む。)	136	免疫	38
888	Hp (ハプトグロビン) [型判定なし]	D015 14	ハプトグロビン (型補正を含む。)	136	免疫	38
3448	HPVDNA (ハイリスクグループ)	D023 09	HPV核酸検出	350	微生物	55
3449	HPVDNA (ローリスクグループ)	—	—	—	—	55
3944	HPVDNA (16型・18型・その他ハイリスクグループ)	D023 10	HPV核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定)	360	微生物	55
3197	HPVジェノタイプ判定 (ヒトパピローマウイルス)	D023 19	HPVジェノタイプ判定	2000	微生物	55
200	Ht (ヘマトクリット)	D005 05	末梢血液一般検査	21	血液	64
3194	HTLV-I抗体 (ATLA抗体) [PA法]	D012 13	HTLV- I 抗体半定量	85	免疫	32
3160	HTLV-I抗体 (ATLA抗体) [CLEIA法]	D012 30	HTLV- I 抗体	168	免疫	32
3419	HVA定量 (ホモバニリン酸) [蓄尿]	D008 03	ホモバニリン酸 (HVA)	69	生II	19
3418	HVA定量 (ホモバニリン酸) [髄液]	D008 03	ホモバニリン酸 (HVA)	69	生II	19
<b>I</b>						
670	ICGテスト	D289 02	肝機能テスト (ICG 1回法又は2回法、BSP 2回法)	100	—	13
862	IgA	D015 04	免疫グロブリン	38	免疫	37
3810	IgA-HEV抗体定性	D013 10	HE-IgA抗体定性	210	免疫 包5	35
—	IgE (特異IgE)	D015 13	特異的IgE半定量・定量	1種につき110	免疫	39
865	IgE (非特異IgE)	D015 10	非特異的IgE定量	100	免疫	39
3309	IGF-I (ソマトメジンC)	D008 42	ソマトメジンC	218	生II 包4	17
861	IgG	D015 04	免疫グロブリン	38	免疫	37
3719	IgG型リウマチ因子	D014 22	IgG型リウマトイド因子	203	免疫	27
3597	IgG-FcR+・T細胞百分率	D016 03	T細胞・B細胞百分率	198	免疫	61
847	IgG4 (LA)	D014 37	IgG4	377	免疫	37
863	IgM	D015 04	免疫グロブリン	38	免疫	37
3042	IgM FTA-ABS	—	—	—	—	34
1494	IgM HA抗体 (IgM HAAb)	D013 08	HA-IgM抗体	146	免疫 包5	34
3291	IgM HBc抗体 (IgM HBcAb)	D013 08	HBc-IgM抗体	146	免疫 包5	34
545	IP (無機燐) [血液]	D007 03	無機リン及びリン酸	17	生I 包1	7
745	IP (無機燐) [尿]	D007 03	無機リン及びリン酸	17	生I 包1	7
3947	IRG (グルカゴン)	D008 23	グルカゴン	150	生II 包4	24
1301	IRI (インスリン)	D008 10	インスリン (IRI)	106	生II	24
<b>K</b>						
542	K (カリウム) [血液]	D007 01	カリウム	11	生I 包1	7
742	K (カリウム) [尿]	D007 01	カリウム	11	生I 包1	7
3479	KL-6 (シアル化糖鎖抗原)	D007 28	KL-6	114	生I	12
<b>L</b>						
3272	L-ドーパ	—	—	—	—	70
3820	L型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP)	D001 19	L型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP) (尿)	210	尿便	75
406	LAP (ロイシニアミノペプチダーゼ)	D007 01	ロイシニアミノペプチダーゼ (LAP)	11	生I 包1	1

診療報酬  
点数早見表

# 診療報酬点数早見表

診療報酬  
点数早見表

コード	検査項目名称	診療報酬区分	保険収載名称 (レセプト名称)	実施料	判断料	P
407	LD (LDH) (乳酸脱水素酵素)	D007 01	乳酸デヒドロゲナーゼ (LD)	11	生 I (包1)	1
350	LD (LDH) アイソザイム (LD (LDH) -I)	D007 14	LDアイソザイム	48	生 I	9
3240	LDL-コレステロール (LDL-C)	D007 04	LDL-コレステロール	18	生 I (包1)	5
1021	LH (黄体化ホルモン)	D008 13	黄体形成ホルモン (LH)	111	生 II (包4)	17
3720	LLA (白血病・リンパ腫解析検査)	D005 15	造血器腫瘍細胞抗原検査(一連につき)	1940	血液	61
3550	Lp(a) (リポ蛋白(a))	D007 25	リポ蛋白 (a)	107	生 I	6
3134	LPL (リポ蛋白リパーゼ)	D007 49	リポ蛋白リパーゼ (LPL)	223	生 I	5

## M

426	m-AST (m-GOT) (ミトコンドリアAST)	D007 15	ASTアイソザイム	49	生 I	9
3497	MA (マンデル酸)	-	-	-	-	78
1831	MAC-PCR (マイコバクテリウム・アピウム・イントラセラー-核酸同定)	D023 12	マイコバクテリウム・アピウム及びイントラセラー (MAC) 核酸検出	421	微生	82
3889	MAST48mix	D015 13	特異的IgE半定量・定量	1430	免疫	38
4229	MajorBCR-ABL1mRNA/IS	D006-3 01	Major BCR-ABL1 (mRNA定量(国際標準値))	2520	遺伝子	72
3648	MBP (ミエリン塩基性蛋白)	D004 11	ミエリン塩基性蛋白 (MBP) (髄液)	577	尿便	28
200	MCH (平均赤血球色素量)	D005 05	末梢血液一般検査	21	血液	64
200	MCHC (平均赤血球色素濃度)	D005 05	末梢血液一般検査	21	血液	64
200	MCV (平均赤血球容積)	D005 05	末梢血液一般検査	21	血液	64
546	Mg (マグネシウム) [血液]	D007 01	マグネシウム	11	生 I (包1)	8
746	Mg (マグネシウム) [尿]	D007 01	マグネシウム	11	生 I (包1)	8
5960	MGIT (抗酸菌液体培養)	D020 01	抗酸菌分離培養 (液体培地法)	280	微生	82
3533	MHA (メチル馬尿酸)	-	-	-	-	78
4363	MLA (悪性リンパ腫解析)	D005 15	造血器腫瘍細胞抗原検査(一連につき)	1940	血液	61
3169	MMP-3 (マトリックスメタロプロテイナーゼ-3)	D014 07	マトリックスメタロプロテイナーゼ-3(MMP-3)	116	免疫	29
3496	Mn (マンガン) [血液・原子吸光法]	D007 08	マンガン (Mn)	27	生 I (包1)	8
3514	Mn (マンガン) [血液・原子吸光分光光度法]	D007 08	マンガン (Mn)	27	生 I (包1)	8
3515	Mn (マンガン) [尿・原子吸光法]	D007 08	マンガン (Mn)	27	生 I (包1)	8
4215	MPO-ANCA (抗好中球細胞質抗体)	D014 29	抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体 (MPO-ANCA)	265	免疫	29
807	M2BPGi (Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体)	D007 46	Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体	194	生 I	4

## N

3460	N-メチルホルムアミド	-	-	-	-	78
541	Na (ナトリウム) [血液]	D007 01	ナトリウム及びクロール	11	生 I (包1)	7
741	Na (ナトリウム) [尿]	D007 01	ナトリウム及びクロール	11	生 I (包1)	7
730	NAG [尿]	D001 05	N-アセチルグルコサミニダーゼ (NAG) (尿)	41	尿便	75
4170	NCC-ST-439	D009 06	NCC-ST-439	118	生 II (包2)	15
498	NEFA (遊離脂肪酸)	D007 19	遊離脂肪酸	59	生 I	5
527	NH3 (血中アンモニア)	D007 16	アンモニア	50	生 I	3
3512	Ni (ニッケル)	-	-	-	-	8
3602	NK細胞活性	-	-	-	-	61
4037	NMP22 (尿中核マトリックスプロテイン22)	D009 12	核マトリックスプロテイン22(NMP22)定量(尿)	147	生 II (包2)	16
3067	NSE (神経特異エノラーゼ)	D009 11	神経特異エノラーゼ (NSE)	146	生 II (包2)	15
3365	NTx(I型コラーゲン架橋N-テロペプチド) [血液]	D008 25	I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)	156	生 II (包4)	12
3928	NTx(I型コラーゲン架橋N-テロペプチド) [尿]	D008 25	I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)	156	生 II (包4)	12
3513	NTx(I型コラーゲン架橋N-テロペプチド) [腫瘍マーカー]	D008 25	I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)	156	生 II (包4)	16
590	NT-proBNP (ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント)	D008 19	脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント (NT-proBNP)	136	生 II (包4)	24

## P

902	P-III-P (プロコラーゲン III ペプチド)	D007 37	プロコラーゲン-III-ペプチド (P-III-P)	140	生 I	4
3361	P2 (プレグナンジオール)	D008 40	プレグナンジオール	213	生 II (包4)	23
3362	P3 (プレグナントリオール)	D008 46	プレグナントリオール	234	生 II (包4)	23
3809	PAIgG (血小板関連IgG)	D011 06	血小板関連IgG (PA-IgG)	198	免疫	39
291	PAS染色[血液]	D005 06 注	末梢血液像の加算点として(特殊染色ごとに)	27 (加算)	血液	64

# 診療報酬点数早見表

コード	検査項目名称	診療報酬区分	保険収載名称 (レセプト名称)	実施料	判断料	P
634	PAS染色[骨髓液]	D005 14 注	注 骨髓像特殊染加算(特殊染色ごとに)	40 (加算)	血液	64
3503	Pb (鉛) [血液]	—	—	—	—	9
3504	Pb (鉛) [尿]	—	—	—	—	9
3369	PF4 (血小板第4因子)	D006 26	血小板第4因子 (PF4)	178	血液 包6	67
691	PF4テスト	D289 01	脾機能テスト (PF4テスト)	100	—	13
144	pH [尿]	D000	尿中一般物質定性半定量検査	26	—	74
4045	PIC (α2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体)	D006 22	プラスミン・プラスミンインヒビター複合体 (PIC)	158	血液 包6	66
4057	PIVKA-II	D009 09	PIVKA-II 定量	139	生II 包2	15
492	PL (磷脂質)	D007 02	リン脂質	15	生I 包1	5
312	PLG (プラスミノゲン)	D006 13	プラスミノゲン活性	100	血液	66
200	PLT (血小板数)	D005 05	末梢血液一般検査	21	血液	64
3166	PR3-ANCA (抗好中球細胞質抗体)	D014 30	抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体 (PR3-ANCA)	267	免疫	29
1171	PRA (レニン活性)	D008 07	レニン活性	100	生II	24
1071	PRL (プロラクチン)	D008 06	プロラクチン (PRL)	98	生II	17
4433	Pro GRP (ガストリン放出ペプチド前駆体)	D009 21	ガストリン放出ペプチド前駆体 (ProGRP)	175	生II 包2	16
3062	PSA (前立腺特異抗原)	D009 08	前立腺特異抗原 (PSA)	127	生II 包2	16
3840	PSA-ACT	D009 08	前立腺特異抗原 (PSA)	127	生II 包2	16
3834	PSA F / T比	D009 15	遊離型PSA比 (PSA F/T比)	154	生II 包2	16
301	PT (プロトロンビン時間)	D006 02	プロトロンビン時間 (PT)	18	血液	65
3345	PTH intact (副甲状腺ホルモンintact)	D008 31	副甲状腺ホルモン (PTH)	170	生II 包4	18
3075	PTHrP (副甲状腺ホルモン関連蛋白)	D008 37	副甲状腺ホルモン関連蛋白 (PTHrP)	194	生II 包4	18
434	P型アミラーゼ (P-AMY)	D007 14	アミラーゼアインザイム	48	生I	9

診療報酬  
点数早見表

R						
1567	RAS・BRAF遺伝子変異解析	D004 2 2注1イ	悪性腫瘍遺伝子検査(イ処理が容易なもの 2項目)	4000	遺伝子	94
200	RBC (赤血球数)	D005 05	末梢血液一般検査	21	血液	64
3468	RBP (レチノール結合蛋白)	D015 14	レチノール結合蛋白 (RBP)	136	免疫	37
212	Ret (網状赤血球数)	D005 02	網赤血球数	12	血液	64
810	RF (リウマチ因子RF)	D014 02	リウマトイド因子 (RF) 定量	30	免疫	27
4482	RLPコレステロール(レムナント様リポ蛋白コレステロール)	D007 43	レムナント様リポ蛋白コレステロール (RLP-C)	184	生I	6
※	RSウイルス	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(1項目当たり)	79	免疫	54

S						
3265	SAA (血清アミロイドA蛋白)	D015 06	血清アミロイドA蛋白 (SAA)	47	免疫	38
1514	SCC抗原 (扁平上皮癌関連抗原)	D009 04	扁平上皮癌関連抗原 (SCC抗原)	107	生II 包2	15
3027	SFMC (可溶性フィブリンモノマー複合体)	D006 12	フィブリンモノマー複合体定性	93	血液	65
3592	sIL-2R (可溶性インターロイキン2レセプター)	D009 29	可溶性インターロイキン-2レセプター (sIL-2R)	438	生II 包2	12
4171	SLX (シアリルLe <sup>x</sup> -i抗原)	D009 13	シアリルLe <sup>x</sup> -i抗原 (SLX)	148	生II 包2	15
4167	SPan-1	D009 11	SPan-1	146	生II 包2	15
4134	SP-A (肺サーファクタント蛋白A)	D007 34	肺サーファクタント蛋白-A (SP-A)	130	生I	12
4036	SP-D (肺サーファクタント蛋白D)	D007 35	肺サーファクタント蛋白-D (SP-D)	136	生I	12
3451	STN (シアリルTn抗原)	D009 11	シアリルTn抗原 (STN)	146	生II 包2	16

T						
441	T-Bil (総ビリルビン)	D007 01	総ビリルビン	11	生I 包1	2
494	T-CH (総コレステロール)	D007 03	総コレステロール	17	生I 包1	5
1101	T3 (トリヨードサイロニン)	D008 08	トリヨードサイロニン (T3)	102	生II	18
1103	T4 (総サイロキシシン)	D008 12	サイロキシシン (T4)	111	生II	18
4058	TAT (トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体)	D006 27	トロンビン・アンチトロンビン複合体 (TAT)	181	血液 包6	66
445	TBA (総胆汁酸)	D007 13	胆汁酸	47	生I	2
1107	TBG (サイロキシシン結合グロブリン)	D008 16	サイロキシシン結合グロブリン (TBG)	130	生II 包4	18
3528	TCA (トリクロル酢酸) [テトラクロルエチレン]	—	—	—	—	78
4146	TCA (トリクロル酢酸) [1,1,1-トリクロルエタン]	—	—	—	—	78

# 診療報酬点数早見表

診療報酬  
点数早見表

コード	検査項目名称	診療報酬区分	保険収載名称 (レセプト名称)	実施料	判断料	P
4148	TCA (トリクロル酢酸) [トリクロルエチレン]	—	—	—	—	78
876	Tf (トランスフェリン)	D015 07	トランスフェリン (Tf)	60	免疫	37
493	TG (中性脂肪)	D007 01	中性脂肪	11	生 I 包1	5
3325	Tg (サイログロブリン)	D008 17	サイログロブリン	133	生 II 包4	18
3324	Tg-Ab (抗サイログロブリン抗体)	D014 10	抗サイログロブリン抗体	144	免疫 包3	28
3079	Th2ケモカイン (ヒトTARC定量)	D015 18	TARC	184	免疫	39
548	TIBC (総鉄結合能)	D007 01	総鉄結合能 (TIBC) (比色法)	11	生 I 包1	8
491	TL (総脂質)	—	—	—	—	5
3087	TM (トロンボモジュリン)	D006 29	トロンボモジュリン	204	血液 包6	12
591	total P1NP (I型プロコラーゲン-N-プロペプチド)	D008 30	I型プロコラーゲン-N-プロペプチド (PINP)	169	生 II 包4	12
462	TP (総蛋白)	D007 01	総蛋白	11	生 I 包1	4
1515	TPA (組織ポリペプチド抗原)	D009 05	組織ポリペプチド抗原 (TPA)	110	生 II 包2	15
965	TPAb (梅毒定性TP抗体)	D012 04	梅毒トレポネーマ抗体定性	32	免疫	34
3259	TRACP-5b (骨型酒石酸抵抗性ACP)	D008 25	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ (TRACP-5b)	156	生 II 包4	12
1001	TSH (甲状腺刺激ホルモン)	D008 09	甲状腺刺激ホルモン (TSH)	104	生 II	17
3326	TSHレセプター抗体 (TRAb) (TB I I)	D014 26	抗TSHレセプター抗体 (TRAb)	226	免疫	28
3168	TSH刺激性レセプター抗体 (TSAb)	D014 36	甲状腺刺激抗体 (TSAb)	340	免疫	28
305	TT (トロンボテスト)	—	—	—	—	65
3527	TTC (総三塩化物) [テトラクロルエチレン]	—	—	—	—	78
4100	TTC (総三塩化物) [1,1,1-トリクロルエタン]	—	—	—	—	78
4026	TTC (総三塩化物) [トリクロルエチレン]	—	—	—	—	78
3594	T細胞・B細胞百分率	D016 03	T細胞・B細胞百分率	198	免疫	61

## U

524	UA (尿酸) [血液]	D007 01	尿酸	11	生 I 包1	3
724	UA (尿酸) [尿]	D007 01	尿酸	11	生 I 包1	3
3241	ucOC (低カルボキシル化オステオカルシン)	D008 26	低カルボキシル化オステオカルシン (ucOC)	158	生 II 包4	24
549	UIBC (不飽和鉄結合能)	D007 01	不飽和鉄結合能 (UIBC) (比色法)	11	生 I 包1	8
523	UN (尿素窒素) [血液]	D007 01	尿素窒素	11	生 I 包1	3
723	UN (尿素窒素) [尿]	D007 01	尿素窒素	11	生 I 包1	3

## V

3201	VA (ビタミンA)	—	—	—	—	10
3885	VB6 (ビタミンB6)	—	—	—	—	10
3209	VB12 (ビタミンB12 : コバラミン)	D007 38	ビタミンB12	144	生 I	10
3210	VC (ビタミンC : アスコルビン酸)	D007 58	ビタミンC	314	生 I	10
3415	VMA定量 (バニルマンデル酸) [蓄尿]	D008 04	バニルマンデル酸 (VMA)	90	生 II	19
3416	VMA定量 (バニルマンデル酸) [血液]	D008 04	バニルマンデル酸 (VMA)	90	生 II	19

## W

200	WBC (白血球数)	D005 05	末梢血液一般検査	21	血液	64
-----	------------	---------	----------	----	----	----

## Z

553	Zn (亜鉛) [血液]	D007 37	亜鉛 (Zn)	140	生 I	9
753	Zn (亜鉛) [蓄尿]	D007 37	亜鉛 (Zn)	140	生 I	9

## α

1501	α-フェトプロテイン (AFP)	D009 03	α-フェトプロテイン (AFP)	104	生 II 包2	15
3021	α1-マイクログロブリン (α1-MG) [血液]	D015 14	α1-マイクログロブリン	136	免疫	4
3022	α1-マイクログロブリン (α1-MG) [尿]	D015 14	α1-マイクログロブリン	136	免疫	4
871	α1アンチトリプシン (α1-AT)	D006 11	α1-アンチトリプシン	80	血液	66
873	α1酸性糖蛋白 (α1AG)	—	—	—	—	38
313	α2プラスミンインヒビター (α2-PI)	D006 15	プラスミンインヒビター (アンチプラスミン)	128	血液 包6	66

# 診療報酬点数早見表

コード	検査項目名称	診療報酬区分	保険収載名称 (レセプト名称)	実施料	判断料	P
4045	$\alpha$ 2プラスミンインヒター・プラスミン複合体 (PIC)	D006 22	プラスミン・プラスミンインヒター複合体 (PIC)	158	血液 包6	66
874	$\alpha$ 2マクログロブリン ( $\alpha$ 2-MG)	D006 18	$\alpha$ 2-マクログロブリン	138	血液 包6	66
<b><math>\beta</math></b>						
3340	$\beta$ -トロンボグロブリン ( $\beta$ -TG)	D006 25	$\beta$ -トロンボグロブリン ( $\beta$ -TG)	177	血液 包6	67
877	$\beta$ 1C / $\beta$ 1Aグロブリン (C3)	D015 08	C3	70	免疫	37
879	$\beta$ 1Eグロブリン (C4)	D015 08	C4	70	免疫	37
1503	$\beta$ 2-マイクログロブリン (BMG) [血液]	D015 11	$\beta$ 2-マイクログロブリン	104	免疫	37
1504	$\beta$ 2-マイクログロブリン[尿]	D015 11	$\beta$ 2-マイクログロブリン	104	免疫	37
<b><math>\gamma</math></b>						
405	$\gamma$ -GT	D007 01	$\gamma$ -グルタミルトランスフェラーゼ ( $\gamma$ -GT)	11	生 I 包1	1
4046	$\gamma$ -アミノ酪酸	D010 04 イ	アミノ酸 1種類につき	287	生 II	79
3047	$\gamma$ -セミノプロテイン ( $\gamma$ -Sm)	D009 24	$\gamma$ -セミノプロテイン ( $\gamma$ -Sm)	194	生 II 包2	15
<b><math>\delta</math></b>						
3501	$\delta$ -アミノレブリン酸	D001 11	$\delta$ アミノレブリン酸 ( $\delta$ -ALA) (尿)	109	尿便	78
<b><math>\omega</math></b>						
3417	$\omega$ -5 グリアジン	D015 13	特異的IgE半定量・定量	110	免疫	39
<b>数字</b>						
3464	(1→3) - $\beta$ -D-グルカン	D012 38	(1→3) - $\beta$ -D-グルカン	207	免疫	30
3585	I型コラーゲンC末端テロペプチド (I CTP)	—	—	—	—	16
3365	I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド (NTx) [血液]	D008 25	I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)	156	生 II 包4	12
3928	I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド (NTx) [尿]	D008 25	I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)	156	生 II 包4	12
3513	I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド(NTx)[腫瘍マーカー]	D008 25	I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)	156	生 II 包4	16
591	I型プロコラーゲン-N-プロペプチド (total P1NP)	D008 30	I型プロコラーゲン-N-プロペプチド(PINP)	169	生 II 包4	12
3213	1,25ジヒドロキシビタミンD (1,25(OH)2D)	D007 59	1,25-ジヒドロキシビタミンD3	388	生 I	10
3285	1,5-アンヒドログルシトール (1,5AG)	D007 21	1,5-アンヒドロ-D-グルシトール(1,5AG)	80	生 I	7
3446	11-ヒドロキシコルチコステロイド (11-OHCS)	D008 02	11-ヒドロキシコルチコステロイド (11-OHCS)	60	生 II	21
3490	17-ケトステロイド3分画 (17-KS3分画)	D008 40	17-ケトステロイド3分画(17-KS分画)	213	生 II 包4	21
3426	17-ケトステロイド7分画 (17-KS7分画)	D008 40	17-ケトステロイド7分画(17-KS分画)	213	生 II 包4	21
681	24時間内因性クレアチニンクリアランス	—	—	—	—	13
704	25-OHビタミンD [ECLIA]	D007 30	25-ヒドロキシビタミンD	117	生 I	10
3212	25-OHビタミンD [RIA]	—	—	—	—	10
3467	2,5-ヘキサソジオン (2,5-HD)	—	—	—	—	78
3910	IV型コラーゲン・7S	D007 39	IV型コラーゲン・7S	148	生 I	4
3421	5-ヒドロキシインドール酢酸(5-HIAA) [蓄尿]	D008 05	5-ヒドロキシインドール酢酸(5-HIAA)	95	生 II	19
4092	5-ヒドロキシインドール酢酸(5-HIAA) [髄液]	D008 05	5-ヒドロキシインドール酢酸(5-HIAA)	95	生 II	19
3008	5-S-システィニルドーパ (5-S-CD)	—	—	—	—	16

診療報酬  
点数早見表

# 生化学検査

生化学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
401	AST (GOT)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	17 生I	JSCC標準化対応法	10 ~ 40 (U/L)	溶血で高値
402	ALT (GPT)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	17 生I	JSCC標準化対応法	5 ~ 40 (U/L)	溶血でやや高値
403	アルカリフォスファターゼ (ALP)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	11 生I	JSCC標準化対応法	115 ~ 359 (U/L)	小児は高値
404	コリンエステラーゼ (ChE)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	11 生I	JSCC標準化対応法	M 242 ~ 495 F 200 ~ 459 (U/L)	
405	γ-GT	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	11 生I	JSCC標準化対応法	M 70以下 F 30以下 (U/L)	
406	ロイシンアミノペプチダーゼ (LAP)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	11 生I	L-ロイシル-P-ニ トロアニリド基質法	35 ~ 73 (U/L)	妊娠で高値
407	乳酸脱水素酵素 (LD (LDH))	血液2.0 血清0.5	A	室温	1~2	11 生I	JSCC標準化対応法	115 ~ 245 (U/L)	溶血で高値
411	クレアチンキナーゼ (CK (CPK))	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	11 生I	JSCC標準化対応法	M 62 ~ 287 F 45 ~ 163 (U/L)	運動で高値
412	アルドラーゼ (ALD)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	3~5	11 生I	UV・酵素法	2.1 ~ 6.1 (U/L)	⑫
428	アデノシンデアミナーゼ (ADA)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	1~2	32 生I	酵素法	4.8 ~ 23.1 (U/L)	
601		胸水0.5	P1					(U/L)	
602		腹水0.5						(U/L)	
2079		その他 0.5						(U/L)	
431	アミラーゼ (AMY)	血液2.0 血清0.5		A	冷蔵	1~2	11 生I	JSCC標準化対応法	37 ~ 125 (U/L)
731	アミラーゼ (AMY) [尿]	尿1.0	J					65 ~ 700 (U/L)	
432	リパーゼ	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	1~2	24 生I	酵素法	11 ~ 59 (U/L)	
3367	トリプシン	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	2~3	189 生I	ELISA法	100 ~ 550 (ng/mL)	

# 生化学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考	
酵 素	4198	ペプシノーゲン I, II	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	1~2		ラテックス凝集比濁法	下記参照	
	2557	ABC検診	血液4.0 血清0.8	A	冷蔵	3		ラテックス凝集比濁法	下記参照	ペプシノーゲンと抗ヘリコバクター・ピロリ抗体を実施し、それぞれの検査結果とABC分類をご報告致します。
	1367	膵ホスホリパーゼA <sub>2</sub> (膵PLA <sub>2</sub> )	血液2.0 血清0.3	A	凍結	3~5	204 生I	RIA固相法	130 ~ 400 (ng/dL)	⑫
	3466	リゾチーム	血液2.0 血清0.4	A	冷蔵	3~5		比濁法	5.0 ~ 10.2 (μg/mL)	⑫
	3465		尿0.4	J					0.1未満 (μg/mL)	⑫
3463	アンギオテンシン転換酵素 (ACE)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	144 生I	笠原法	8.3 ~ 21.4 (IU/L/37℃)		

生 体 色 素	441	総ビリルビン (T-Bil)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	11 生I (画1)	バナジウム酸化法	0.3 ~ 1.2 (mg/dL)	新生児の場合は毛細管を使用して下さい。 遮光保存して下さい。
	442	直接ビリルビン (D-Bil)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	11 生I (画1)	バナジウム酸化法	0.4以下 (mg/dL)	

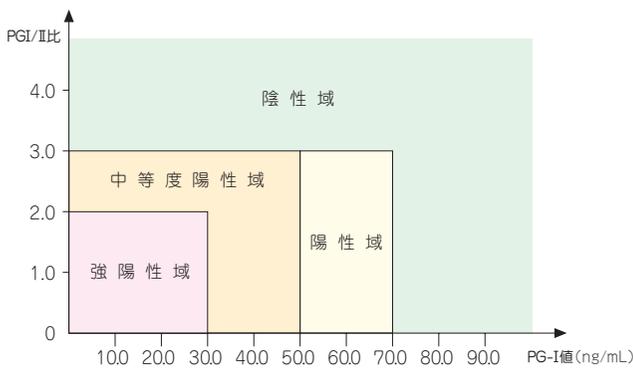
胆 汁 酸	445	総胆汁酸 (TBA)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	① 47 生I	酵素法 (3α-HSD比色法)	10以下 (nmol/mL)	食後で高値
	1531	グリココール酸 (CG)	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	3~7	80 生I	RIA PEG法	50以下 (μg/dL)	⑫

① 肝胆道疾患の診断の目的で「尿中硫酸抱合型胆汁酸測定」を酵素法により実施した場合は、「コレステロール分画」に準じて算定します。ただし、「胆汁酸」を同時に測定した場合はいずれか一方の所定点数のみ算定します。

## ペプシノーゲン I, II 検査値の解釈

慢性萎縮性胃炎の判定基準

陰性	下記条件以外		
陽性	PG-I値 70.0ng/mL以下	かつ	PG I / II比 3.0以下
中等度陽性	PG-I値 50.0ng/mL以下	かつ	PG I / II比 3.0以下
強陽性	PG-I値 30.0ng/mL以下	かつ	PG I / II比 2.0以下



## ABC検診

ABC分類 (ABCD分類)	ヘリコバクター・ピロリ菌抗体価検査	
	(-)	(+)
ペプシノーゲン 検査	(-)	<b>A</b>
	(+)	<b>D(C)</b>

**A 群** 健康な胃粘膜で胃の病気になる危険性は低いと考えられます。ただし、逆流性食道炎に注意しましょう。

**B 群** 少し弱った胃です。胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意しましょう。

**C 群** 弱った胃で、胃がんなどの病気になりやすい群です。内視鏡による定期的な検査を受け胃の病気の早期発見・早期治療に努めましょう。

**D(C)群** かなり弱った胃で、胃がんなどの病気になるリスクがあります。内視鏡による定期的な検査をおすすめします。



# 生化学検査

生化学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
523	尿素窒素 (UN)	血液2.0  血清0.5	A					8.0 ~ 22.0 (mg/dL)	
723	尿素窒素(UN)[尿]	部分尿5.0	J	冷蔵	1~2	11 生I 	ウレアーゼ・LED・UV法 (回避)	6.5 ~ 13.0 (g/day)	
	尿素窒素(UN)[蓄尿]	蓄尿5.0							
524	尿酸 (UA)	血液2.0  血清0.5	A					M 3.7 ~ 7.0 F 2.5 ~ 7.0 (mg/dL)	高尿酸血症：血清尿酸値が7.0mg/dLを超えるものと定義「日本痛風・核酸代謝学会」に基づき、上限値を7.0mg/dLに設定。
724	尿酸(UA)[尿]	部分尿5.0	J	冷蔵	1~2	11 生I 	酵素法 (ウリカーゼPOD法)	0.4 ~ 1.2 (g/day)	
	尿酸(UA)[蓄尿]	蓄尿5.0							
525	クレアチニン (CRE)	血液2.0  血清0.5	A					M 0.61 ~ 1.04 F 0.47 ~ 0.79 (mg/dL)	
725	クレアチニン(CRE)[尿]	部分尿5.0	J	冷蔵	1~2	11 生I 	酵素法	M 0.70 ~ 2.20 F 0.40 ~ 1.50 (g/day)	
	クレアチニン(CRE)[蓄尿]	蓄尿5.0							
526	クレアチン	血液2.0  血清0.5	A		3~5	11 生I 	酵素法	0.31 ~ 1.10 (mg/dL)	⑫
726		蓄尿5.0	J		4~6			M 0.20以下 F 0.43以下 (g/day)	蓄尿量を記入して下さい。 ⑫
3880	シスタチンC	血液2.0  血清0.3	A	冷蔵	1~2	118 生I	金コロイド凝集法	M 0.63 ~ 0.95 F 0.56 ~ 0.87 (mg/L)	
527	血中アンモニア (NH <sub>3</sub> )	血液1.0  除蛋白上清2.5	D	凍結	1~2	50 生I	奥田・藤井変法	30 ~ 80 (μg/dL)	D容器に血液1.0mLを注入混和し、遠心分離後上清2.5mLをWポリチューブで吸引しD容器(空)に入れ提出して下さい。

① 「シスタチンC」は「尿素窒素 (UN)」又は「クレアチニン (CRE)」により腎機能低下が疑われた場合に、3ヶ月に1回に限り算定できます。ただし「ペントシジン」を併せて実施した場合は主たるもののみ算定します。

# 生化学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
461	蛋白分画	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	① 18 生I(⑧1)	セルロース アセテート膜 電気泳動法	アルブミン 60.5~71.5 α1-グロブリン1.8~3.1 α2-グロブリン6.0~9.8 β1-グロブリン6.9~10.7 γ-グロブリン10.0~20.3 A/G比 1.5~2.5 (%)	
462	総蛋白 (TP)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	① 11 生I(⑧1)	Biuret法	6.7~8.3 (g/dL)	
470	アルブミン (ALB)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	① 11 生I(⑧1)	BCP改良法	3.8~5.2 (g/dL)	
472	A / G比	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2		BCP改良法/ Biuret法	1.1~2.1	
3021	α1-マイクログロブリン (α1-MG)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	136 免疫	ラテックス凝集免疫法	9.7~19.9 (mg/L)	
3022		尿3.0	J					M 0.8~14.1 F 0.5~7.0 (mg/L)	
902	プロコラーゲンⅢペプチド (P-Ⅲ-P) (CLIA)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	3~5	② 140 生I	CLIA法	3.62~9.52 (ng/mL)	カットオフ値(肝に繊維化のみ られる疾患)6.95ng/mL ⑫
3910	Ⅳ型コラーゲン・7S	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	4~6	② 148 生I	RIA2抗体法	6以下 (ng/mL)	⑫
875	セルプラスミン	血液2.0 血清0.4	A	冷蔵	3~5	90 免疫	ネフェロメトリー法	21~37 (mg/dL)	⑫
4258	心筋トロポニンT	血液2.0 血清0.5	A	凍結	3~5	③ 115 生I	ECLIA法	0.014以下 (ng/mL)	急性心筋梗塞診断のカットオフ値 0.100ng/mL ⑫
1506	フェリチン	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	108 生I	CLEIA法	M 39.4~340 F 3.6~114 (ng/mL)	
3397	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	3~6	④ 184 生I	EIA法	2.5以下 (ng/mL)	⑫
807	M2BPGi (Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	2	② 194 生I	CLEIA法	陰性(-):1.00未満 陽性(1+):1.00~2.99 陽性(2+):3.00以上 (C.O.I)	

- ① 「蛋白分画」、「総蛋白(TP)」及び「アルブミン(BCP改良法・BCG法)」を併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定できます。  
 ② 「Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体」、「プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)」、「Ⅳ型コラーゲン・7S」又は「ヒアルロン酸」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定します。  
 ③ 「心筋トロポニンT」と「心筋トロポニンⅠ」を同一月に併せて実施した場合は、主たるもののみ算定します。  
 ④ 「心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ」を同一の患者につき同一日に2回以上行った場合は、1回のみ算定します。



# 生化学検査

生化学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考			
491	総脂質 (TL)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2		酵素法 (加算法)	450 ~ 800 (mg/dL)	乳糜で高値			
492	磷脂質 (PL)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	15 生I (㊟)	酵素法	150 ~ 250 (mg/dL)				
493	中性脂肪 (TG)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	11 生I (㊟)	酵素法 (GK-GPO・遊離グリセロール消去)	50 ~ 149 (mg/dL)	乳糜で高値			
494	総コレステロール (T-CH)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	① 17 生I (㊟)	コレステロール酸化酵素法 (COD-POD法)	150 ~ 219 (mg/dL)				
495	遊離コレステロール (F-CH)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	11 生I (㊟)	酵素法	30 ~ 60 (mg/dL)				
496	エステル型コレステロール (E-CH)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2		酵素法	70 ~ 180 (mg/dL)				
498	遊離脂肪酸 (NEFA)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	59 生I	酵素法 (ACS-ACOD法)	150 ~ 600 ( $\mu$ Eq/L)	日内変動が大きいので採血時間に注意して下さい。運動で高値。			
501	HDLコレステロール (HDL-C)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	① 17 生I (㊟)	直接・酵素法	M 40 ~ 86 F 40 ~ 96 (mg/dL)				
3240	LDLコレステロール (LDL-C)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	① 18 生I (㊟)	酵素的測定法	70 ~ 139 (mg/dL)				
3134	リポ蛋白リパーゼ (LPL)	血液2.0 血漿0.3	M	凍結	3~9	② 223 生I	ELISA法	164 ~ 284 (ng/mL)	早朝空腹時にヘパリンを体重1kg当たり30単位静注し、15分後に指定のM容器に採取し、4℃で遠心分離後上清の血漿をW容器 (凍結保存) にてご提出下さい。EDTA血漿は避けて下さい。⑫			
330	リポ蛋白分画	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	3~5	49 生I	アガロース電気泳動法	M $\alpha$ 26.9 ~ 50.5 PRE $\beta$ 7.9 ~ 23.8 $\beta$ 35.3 ~ 55.5 F $\alpha$ 32.6 ~ 52.5 PRE $\beta$ 6.6 ~ 20.8 $\beta$ 33.6 ~ 52.0 (%)	凍結不可			
4145		血液2.0 血清0.5						5~9	80 生I	ポリアクリル アミドゲルディスク 電気泳動法	M HDL 22 ~ 47 LDL 46 ~ 68 VLDL 3 ~ 19 F HDL 27 ~ 50 LDL 44 ~ 66 VLDL 2 ~ 12 (%)	凍結不可
380		血液2.0 血清0.2									3~5	③ 57 生I

- ① 「HDLコレステロール」、「総コレステロール」及び「LDLコレステロール」を併せて測定した場合は主たるもの2つの所定点数を算定します。  
 ② 「リポ蛋白リパーゼ」は、高トリグリセライド血症及びLPL欠損症が疑われる場合の鑑別のために測定した場合のみ算定できます。また、ヘパリン負荷が行われた場合、投与したヘパリンは「D500」の薬剤として算定できませんが、注射料は算定できません。  
 ③ 肝胆道疾患の診断の目的で「尿中硫酸抱合型胆汁酸測定」を酵素法により実施した場合は、「コレステロール分画」に準じて算定します。ただし、「総胆汁酸」を同時に測定した場合には、いずれか一方の所定点数のみを算定します。



# 生化学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
3131	脂肪酸分画 (24成分)	血液2.0 血清0.5	A	凍結	12~16	417 生II	GC法	下記の全脂質中脂肪酸分画基準値を参照下さい。	血漿も検査可 ⑫
3081	脂肪酸分画 (4分画)	血液2.0 血清0.5	A	凍結	5~7	417 生II	GC法	DHLA 22.6 ~ 72.5 AA 135.7 ~ 335.3 EPA 10.2 ~ 142.3 DHA 54.8 ~ 240.3 ( $\mu\text{g/mL}$ ) EPA/AA比 0.05~0.61 DHA/AA比 0.27~1.07 (EPA+DHA)/AA比 0.32~1.66	血漿も検査可 ⑫
4482	レムナント様リポ蛋白コレステロール (RLPコレステロール)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	① 184 生I	酵素法	7.5以下 (mg/dL)	糖尿病、冠動脈疾患等の既往歴のある場合は5.2mg/dL以上がハイリスク域です。
3550	リポ蛋白 (a) (Lp (a))	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	② 107 生I	免疫比濁法	30以下 (mg/dL)	
3012	アポリポ蛋白	血液各2.0 血清各0.5	A	冷蔵	1~2	③ 1項目 31 2項目 62 3項目以上 94 生I	免疫比濁法	M 119 ~ 155 F 126 ~ 165 (mg/dL)	新鮮血清を4~6℃に保存して下さい。
3013								M 25.9 ~ 35.7 F 24.6 ~ 33.3 (mg/dL)	
3014								M 73 ~ 109 F 66 ~ 101 (mg/dL)	
3015								M 1.8 ~ 4.6 F 1.5 ~ 3.8 (mg/dL)	
3016								M 5.8 ~ 10.0 F 5.4 ~ 9.0 (mg/dL)	
3017								M 2.7 ~ 4.3 F 2.8 ~ 4.6 (mg/dL)	

- ① 「レムナント様リポ蛋白コレステロール」は3ヶ月に1回を限度として算定できます。
- ② 「リポ蛋白 (a)」は、3ヶ月に1回を限度として算定できます。
- ③ 「アポリポ蛋白」は、A I、A II、B、C II、C III及びEのうち測定した項目数に応じて、所定点数を算定します。

## 脂肪酸分画 (24成分)

No	脂肪酸名	略号 (炭素数)	基準値	
			$\mu\text{g/mL}$	重量%
1	ラウリン酸	C12:0	10.2以下	0.31以下
2	ミリスチン酸	C14:0	10.8 ~ 61.1	0.36 ~ 1.43
3	ミリストレイン酸	C14:1 $\omega$ 5	3.2以下	0.09以下
4	パルミチン酸	C16:0	495.1 ~ 918.3	19.18 ~ 23.84
5	パルミトレイン酸	C16:1 $\omega$ 7	23.8 ~ 117.3	0.87 ~ 3.18
6	ステアリン酸	C18:0	167.6 ~ 312.7	6.13 ~ 8.49
7	オレイン酸	C18:1 $\omega$ 9	433.9 ~ 910.1	16.19 ~ 23.66
8	リノール酸	C18:2 $\omega$ 6	708.1 ~ 1286.0	23.24 ~ 36.89
9	$\gamma$ -リノレン酸	C18:3 $\omega$ 6	2.5 ~ 25.6	0.09 ~ 0.72
10	リノレン酸	C18:3 $\omega$ 3	11.5 ~ 45.8	0.40 ~ 1.30
11	アラキジン酸	C20:0	6.9 ~ 14.4	0.24 ~ 0.46
12	エイコセン酸	C20:1 $\omega$ 9	2.6 ~ 9.5	0.09 ~ 0.30
13	エイコサジエン酸	C20:2 $\omega$ 6	4.3 ~ 9.3	0.15 ~ 0.26
14	5-8-11エイコサトリエン酸	C20:3 $\omega$ 9	6.0以下	0.17以下
15	ジホモ $\gamma$ -リノレン酸	C20:3 $\omega$ 6	22.6 ~ 72.5	0.79 ~ 2.05

No	脂肪酸名	略号 (炭素数)	基準値	
			$\mu\text{g/mL}$	重量%
16	アラキドン酸	C20:4 $\omega$ 6	135.7 ~ 335.3	4.21 ~ 9.30
17	エイコサペンタエン酸	C20:5 $\omega$ 3	10.2 ~ 142.3	0.36 ~ 3.99
18	ベヘニン酸	C22:0	14.6 ~ 30.3	0.43 ~ 0.91
19	エルシン酸	C22:1 $\omega$ 9	1.4以下	0.04以下
20	ドコサテトラエン酸	C22:4 $\omega$ 6	2.9 ~ 10.4	0.10 ~ 0.30
21	ドコサペンタエン酸	C22:5 $\omega$ 3	9.5 ~ 31.8	0.34 ~ 0.89
22	リグノセリン酸	C24:0	15.5 ~ 31.2	0.49 ~ 0.90
23	ドコサヘキサエン酸	C22:6 $\omega$ 3	54.8 ~ 240.3	1.88 ~ 6.86
24	ネルボン酸	C24:1 $\omega$ 9	27.1 ~ 53.0	0.78 ~ 1.64
T/T比 (C20:3 $\omega$ 9 / C20:4 $\omega$ 6)			0.02以下	/
EPA/AA比 (C20:5 $\omega$ 3 / C20:4 $\omega$ 6)			0.05 ~ 0.61	
*DHA/AA比 (C22:6 $\omega$ 3 / C20:4 $\omega$ 6)			0.27 ~ 1.07	
*(EPA+DHA)/AA比			0.32 ~ 1.66	
* $\omega$ 3/ $\omega$ 6比			0.09 ~ 0.36	

※追加された項目

# 生化学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
571	血糖 (グルコース)	血液2.0	B	冷蔵	1~2	11 生I (①)	HK-G6PDH法 (紫外吸光度法)	70 ~ 109 (mg/dL)	
3059	グリコアルブミン	血液2.0 血清0.5 (遠心)	A	冷蔵	1~2	① 55 生I	酵素法	12.4 ~ 16.3 (%)	血漿でも検査可
589	ケトン体定量	血液2.0 血清0.5 (遠心)	A	冷蔵	1~2	② 30 生I	酵素法	76以下 ( $\mu\text{mol/L}$ )	
3485	ケトン体分画	血液2.0 血清0.5 (遠心)	A	凍結	1~2	② 59 生I	酵素法	アセト酢酸 55以下 3-ヒドロキシ酢酸 85以下 総ケトン体 130以下 ( $\mu\text{mol/L}$ )	早朝空腹時採血して下さい。
4448	ケトン体分画 (動脈血)	血液2.0 血清0.5 (遠心)	A	凍結	3~5	② 59 生I	酵素法	ケトン体比 (アセト酢酸/3- ヒドロキシ酢酸比) 0.7以上	ブドウ糖投与または食後 (血糖120mg/dL以上) に動脈採血して下さい。採血後は速やかに冷却 遠心にて分離し、凍結保存して下さい。 ⑫
3472	ピルビン酸	血液1.0 除蛋白上清0.4 (遠心)	le	冷蔵	3~5	③ 47 生I	ピルビン酸オキシ ダーゼによる酵素法	0.30 ~ 0.94 (全血中) (mg/dL)	採血後、直ちに正確に血液1.0mL を専用容器 (le) に加え、充分攪 拌後3000rpm5分間遠心分離し、 その上清液をご提出下さい。 ⑫
587	乳酸	血液1.0 除蛋白上清0.4 (遠心)	le	冷蔵	3~5	③ 47 生I	乳酸オキシダーゼに よる酵素法	3.0 ~ 17.0 (全血中) (mg/dL)	⑫
3302	ヒアルロン酸	血液2.0 血清0.5 (遠心)	A	冷蔵	1~2	④ 184 生I	ラテックス凝集法	50以下 (ng/mL)	
3481		胸水0.5	P1		2				
3285	1,5-アンヒドログルシトール (1,5AG)	血液2.0 血清0.5 (遠心)	A	冷蔵	1~2	① 80 生I	酵素法	14.0以上 ( $\mu\text{g/mL}$ )	

541	ナトリウム (Na)	血液2.0 血清0.5 (遠心)	A	冷蔵	1~2	⑤ 11 生I (①)	電極法	136 ~ 147 (mEq/L)	注) 全血での冷蔵保存不可
741		蓄尿5.0	J					1.6 ~ 5.8 (g/day)	
544	クロール (Cl)	血液2.0 血清0.5 (遠心)	A	冷蔵	1~2	⑤ 11 生I (①)	電極法	98 ~ 109 (mEq/L)	
744		蓄尿5.0	J					2.5 ~ 8.9 (g/day)	
542	カリウム (K)	血液2.0 血清0.5 (遠心)	A	冷蔵	1~2	11 生I (①)	電極法	3.6 ~ 5.0 (mEq/L)	注) 全血での冷蔵保存不可 溶血で高値
742		蓄尿5.0	J					1.0 ~ 3.9 (g/day)	
543	カルシウム (Ca)	血液2.0 血清0.5 (遠心)	A	冷蔵	1~2	⑥ 11 生I (①)	アルセナソⅢ法	8.5 ~ 10.2 (mg/dL)	
743		蓄尿5.0	J					0.1 ~ 0.3 (g/day)	
3471	イオン化カルシウム	血液3.0 血清0.9 (遠心)	A	凍結	4~6	⑥ 26 生I (①)	イオン電極法	2.41 ~ 2.72 (mEq/L)	採血後速やかに血清分離し、血清 をポリチューブに採取後凍結保存 して下さい。 ⑫
545	無機燐 (IP)	血液2.0 血清0.5 (遠心)	A	冷蔵	1~2	17 生I (①)	モリブデン酸・UV法	2.4 ~ 4.3 (mg/dL)	小児は高値
745	無機燐 (IP) [尿]	部分尿5.0	J						
	無機燐 (IP) [蓄尿]	蓄尿5.0	J					0.5 ~ 1.0 (g/day)	

- ① 「ヘモグロビンA1C (HbA1C)」, 「グリコアルブミン」又は「1,5-アンヒドロ-D-グルシトール (1,5AG)」のうちいずれかを同一月中に併せて2回以上実施した場合は、月1回に限り主たるもののみ算定します。ただし、妊娠中の患者、1型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6ヶ月以内の患者、インスリン治療を開始して6ヶ月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定できます。また、クロザピンを投与中の患者については、「ヘモグロビンA1C (HbA1C)」を月1回に限り別に算定できます。
- ② 「ケトン体定量」及び「ケトン体分画」の検査を併せて実施した場合は、「ケトン体分画」の所定点数のみ算定します。
- ③ 「有機モノカルボン酸」については、「グルタチオン」、「乳酸」、「ピルビン酸」及び「 $\alpha$ -ケトグルタル酸」の各物質の測定を行った場合に、それぞれの測定ごとに所定点数を算定します。
- ④ 「ヒアルロン酸」は「Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体」、「プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド (P-Ⅲ-P)」、「Ⅳ型コラーゲン・7S」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定します。
- ⑤ 「ナトリウム」及び「クロール」については、両方を測定した場合もいずれか一方のみを測定した場合も、同一の所定点数により算定します。
- ⑥ 「カルシウム」及び「イオン化カルシウム」を同時に測定した場合には、いずれか一方についてのみ所定点数を算定します。

# 生化学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
546	マグネシウム (Mg)	血液2.0 血清0.5	A					1.8 ~ 2.6 (mg/dL)	
746	マグネシウム (Mg) [尿]	部分尿5.0	J	冷蔵	1~2	11 生I(国)	キシリジルブルー法		
	マグネシウム (Mg) [蓄尿]	蓄尿5.0						0.02 ~ 0.13 (g/day)	
547	鉄 (Fe)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	11 生I(国)	Nitroso-PSAP法	M 54 ~ 200 F 48 ~ 154 (μg/dL)	
3537		蓄尿10.0	N3					8~13	原子吸光法
548	総鉄結合能 (TIBC)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	11 生I(国)	Nitroso-PSAP法	M 253 ~ 365 F 246 ~ 410 (μg/dL)	
549	不飽和鉄結合能 (UIBC)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	11 生I(国)	Nitroso-PSAP法	M 104 ~ 259 F 108 ~ 325 (μg/dL)	
3517	クロム (Cr)	血液0.7	M	冷蔵	7~20		原子吸光分光光度法	1.0以下 (μg/dL)	凍結保存は避けて下さい。 ⑫
3516		尿1.0	N3					2以下 (μg/dL)	尿提出の際はN3容器をご使用下 さい。 ⑫
3512	ニッケル (Ni)	血液2.0 血清0.5	I5	冷蔵	8~13		原子吸光法	0.6以下 (μg/dL)	⑪
3496	マンガン (Mn)	血液2.0 血清0.5	A		8~13		原子吸光法	0.7 以下 (μg/dL)	⑪
3514		血液0.7	M	冷蔵	8~21	27 生I(国)	原子吸光分光光度法	0.8 ~ 2.5 (μg/dL)	凍結保存は避けて下さい。 ⑫
3515		尿1.0	N3		12~15		原子吸光法	2.0未満 (μg/L)	尿提出の際はN3容器をご使用下 さい。 ⑫

- ① 「総鉄結合能 (TIBC) (比色法)」と、「不飽和鉄結合能 (UIBC) (比色法)」を同時に実施した場合は、「総鉄結合能 (TIBC) (比色法)」又は「不飽和鉄結合能 (UIBC) (比色法)」の所定点数を算定します。
- ② 「マンガン」は、1ヶ月以上(胆汁排泄能の低下している患者については2週間以上)高カロリー静脈栄養法が行われている患者に対して、3ヶ月に1回に限り算定できます。

<b>A 一般容器</b>  【保存方法】①~③室温 【有効期限】①1年 ②1年 ③1年 分離剤入 (全血用)	<b>B 血糖容器 (フッ化Na入)</b>  【保存方法】①室温 ②室温 ③室温 【有効期限】①1年 ②1年3ヶ月 ③2年	<b>I5 アルミニウム専用容器</b>  【保存方法】●室温 【有効期限】●1年	<b>le 乳酸・ヒルビン酸専用容器</b>  【保存方法】●冷蔵 【有効期限】●1年
<b>J 尿管器</b>  【保存方法】●室温 【有効期限】●—	<b>M ヘパリンNa入容器</b>  【保存方法】●室温 【有効期限】●2年	<b>N3 金属分析専用容器</b>  【保存方法】●室温 【有効期限】●3年	<b>P1 滅菌容器</b>  【保存方法】●室温 【有効期限】●1年

# 生化学検査

生化学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
3503	鉛 (Pb)	血液3.0	M	冷蔵	4~6		原子吸光分析法	( $\mu\text{g}/\text{dL}$ )	P78をご参照下さい。 ⑫
3505	水銀 (Hg)	血液0.5	M	冷蔵	11~15		原子吸光法	5以下 ( $\mu\text{g}/\text{dL}$ )	⑫
3506		尿1.0	N3					25以下 ( $\mu\text{g}/\text{L}$ )	尿提出の際はN3容器をご使用下さい。 ⑫
3507	カドミウム (Cd)	血液0.5	M	冷蔵	10~15		原子吸光法	0.5以下 ( $\mu\text{g}/\text{dL}$ )	凍結保存は避けて下さい。 ⑫
3508		尿1.0	N3	9~15	3.8以下 ( $\mu\text{g}/\text{L}$ )			尿提出の際はN3容器をご使用下さい。 ⑫	
551	銅 (Cu)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	23 生I(⑩)	直接法	70 ~ 130 ( $\mu\text{g}/\text{dL}$ )	
3536		蓄尿5.0	N3		4~7		原子吸光分析法	M 4.2 ~ 33.0 F 2.5 ~ 20.0 ( $\mu\text{g}/\text{day}$ )	尿提出の際はN3容器をご使用下さい。 ⑫
553	亜鉛 (Zn)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	140 生I	Nitro-PAPS法	80 ~ 130 ( $\mu\text{g}/\text{dL}$ )	
753		蓄尿5.0	N3		4~7		原子吸光分析法	M 260 ~ 1000 F 160 ~ 620 ( $\mu\text{g}/\text{day}$ )	尿提出の際はN3容器をご使用下さい。 ⑫
3509	アルミニウム (Al)	血液3.0 血清0.6	I5	冷蔵	4~6	115 生I	原子吸光分析法	10以下 ( $\mu\text{g}/\text{L}$ )	ガラス容器は使用不可。1検体での重複依頼は避けて下さい。 凍結保存は避けて下さい。 ⑫
340	CK (CPK) アイソザイム (CK (CPK) -I)	血液2.0 血清0.3	A	凍結	3~5	55 生I	アガロース電気泳動法	BB 2以下 MB 6以下 MM 93 ~ 99 (%)	採血後、すみやかに血清分離して下さい。 ⑫
3368	CK (CPK) -MB	血液2.0 血清0.5	A	凍結	1~2	90 生I	免疫障害-UV法	25以下 (U/L/37°C)	
444						90 生I	CLIA法	6.0以下 (ng/mL)	
350	LD (LDH) アイソザイム (LD (LDH) -I)	血液2.0 血清0.3	A	室温	3~5	48 生I	アガロース電気泳動法	LD <sub>1</sub> 21 ~ 31 LD <sub>2</sub> 28 ~ 35 LD <sub>3</sub> 21 ~ 26 LD <sub>4</sub> 7 ~ 14 LD <sub>5</sub> 5 ~ 13 (%)	溶血でのご依頼は避けて下さい。 ⑫
360	ALPアイソザイム (ALP-I)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	48 生I	アガロース電気泳動法	ALP2 36 ~ 74 ALP3 25 ~ 59 ALP5 0 ~ 16 (%)	血液型BまたはO型でLewis分泌型の人では、ALP総活性値および、ALP5の出現率が高くなる可能性があります。 ⑫
370	AMYアイソザイム (AMY-I)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	48 生I	アガロース電気泳動法	TOTAL S 36.0 ~ 84.3 TOTAL P 15.7 ~ 64.0 (%)	⑫
770		尿0.5	J					TOTAL S 17.7 ~ 61.3 TOTAL P 38.7 ~ 82.3 (%)	⑫
434	P型アミラーゼ (P-AMY)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	48 生I	免疫障害法	15 ~ 50 (U/L)	
426	ミトコンドリアAST (m-AST) (m-GOT)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	49 生I	プロテアーゼ法	0 ~ 5 (U/L)	

# 生化学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
3201	ビタミンA (VA)	血液2.0 血清0.4	A ↓ lj	遮光 冷蔵	4~6		HPLC法	97 ~ 316 (IU/dL)	A容器に血液を採取後、遠心分離し、その血清をlj容器に採取してご提出下さい。 ⑫
3202	ビタミンB <sub>1</sub>	血液0.5	I4	凍結	4~6	246 生I	LC/MS/MS法	24 ~ 66 (ng/mL)	I4の容器に採血し、よく混和させ凍結してご提出下さい。 ⑫
3203	ビタミンB <sub>2</sub>	血液0.5	I4 ↓ lj	遮光 凍結	4~6	249 生I	HPLC法	66.1 ~ 111.4 (ng/mL)	I4の容器に採血し、よく混和させ必ずlj遮光ポリスピッツに移し替え凍結してご提出下さい。 ⑫
3885	ビタミンB <sub>6</sub> (VB <sub>6</sub> )	血液2.0 血清0.5	A ↓ lj	遮光 冷蔵	4~6		HPLC法	M PAM 0.6以下 PAL 6.0 ~ 40.0 PIN 3.0以下 F PAM 0.6以下 PAL 4.0 ~ 19.0 PIN 3.0以下 (ng/mL)	A容器に血液を採取後、遠心分離し、その血清をlj容器に採取してご提出下さい。 遮光して下さい。 ⑫
3209	ビタミンB <sub>12</sub> (VB <sub>12</sub> :コバラミン)	血液2.0 血清0.5	A	凍結	1~2	144 生I	CLIA法	232 ~ 892 (pg/mL)	
3210	ビタミンC (VC:アスコルビン酸)	血液3.0 除蛋白上清0.5	A ↓ lg ↓ lj	遮光 凍結	5~7	314 生I	HPLC法	5.5 ~ 16.8 (μg/mL)	A容器に血液を採取後、遠心分離し、血清0.5mLをlg容器に加えて混和後、遠心分離し、その上清をlj容器に採取してご提出下さい。 ⑫
3213	1,25ジヒドロキシビタミンD (1,25(OH) <sub>2</sub> D)	血液3.0 血清0.6	A	冷蔵	4~8	① 388 生I	RIA2抗体法	20.0 ~ 60.0 (成人) 20.0 ~ 70.0 (小児) (pg/mL)	⑫
704	25-OHビタミンD [ECLIA]	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	② 117 生I	ECLIA法	ビタミンD欠乏 20.0未満 ビタミンD不足 20.0 ~ 29.9 (ng/mL)	
3212	25-OHビタミンD [RIA]	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	6~12		RIA固相法	(ng/mL)	⑫
3214	ビタミンE	血液2.0 血清0.5	A ↓ lj	遮光 凍結	8~14		蛍光法	0.75 ~ 1.41 (mg/dL)	A容器に血液を採取後、遠心分離し、その血清をlj容器に採取してご提出下さい。 ⑫
3199	葉酸	血液3.0 血清0.8	A	凍結	1~2	154 生I	CLIA法	3.6 ~ 12.9 (ng/mL)	
4265	カルニチン分画	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	3~5	③ 190 (95+95) 生I	酵素サイクリング法	総カルニチン 45 ~ 91 遊離カルニチン 36 ~ 74 アンルカルニチン 6 ~ 23 (μmol/L)	⑫
699	血清浸透圧	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	2	15 血液	氷点降下法	270 ~ 295 (mOsm/Kg・H <sub>2</sub> O)	
799	尿浸透圧	尿3.0	J	冷蔵	2	16 尿便	氷点降下法	50 ~ 1300 (mOsm/Kg・H <sub>2</sub> O)	

ビタミン

その他

生化学検査

- 慢性腎不全、特異性副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症、ビタミンD依存症 I 型若しくは、低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病の診断時又はそれらの疾患に対する活性型ビタミンD<sub>3</sub>剤による治療中に測定した場合のみ算定できます。なお、活性型ビタミンD<sub>3</sub>剤による治療開始後1ヶ月以内においては2回を限度とし、その後は3ヶ月に1回を限度として算定します。
- 25-ヒドロキシビタミンDは、原発性骨粗鬆症の患者に対して、ECLIA法、CLIA法又はCLEIA法により測定した場合は、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回に限り算定できる。なお、本検査を実施する場合は関連学会が定める実施方針を遵守すること。また、ビタミンD欠乏性くる病若しくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時又はそれらの疾患に対する治療中にECLIA法、CLIA法又はCLEIA法により測定した場合は、診断時においては1回を限度とし、その後は3ヶ月に1回を限度として算定できる。
- 総カルニチン及び遊離カルニチンは、先天性代謝異常症の診断補助又は経過観察のために実施する場合は、月に1回を限度として算定する。静脈栄養管理若しくは経腸栄養管理を長期に受けている筋ストロフィー、筋萎縮性側索硬化症若しくは小児の患者、人工乳若しくは特殊治療用ミルクを使用している小児患者、バルプロ酸ナトリウム製剤投与中の患者、Fanconi症候群の患者又は慢性維持透析の患者におけるカルニチン欠乏症の診断補助若しくは経過観察のために、本検査を実施する場合は、6月に1回を限度として算定する。

**A 一般容器**

【保存方法】  
① ~ ③ 室温  
【有効期限】  
● 1年  
● 1年  
● 1年

分装用 (全血用)

**I4 シクロリン・タロリス専用容器  
ビタミンB<sub>1</sub>, B<sub>2</sub>**

【保存方法】  
● 室温  
【有効期限】  
● 1年

**I5 アルミニウム専用容器**

【保存方法】  
● 室温  
【有効期限】  
● 1年

**Ig ビタミンC専用容器**

【保存方法】  
● 冷蔵  
【有効期限】  
● 1年

**Ij 遮光ポリスピッツ**

【保存方法】  
● 室温  
【有効期限】  
● 3年

**J 尿容器**

【保存方法】  
● 室温  
【有効期限】  
● —

**M ヘパリンNa入容器**

【保存方法】  
● 室温  
【有効期限】  
● 2年

**N3 金属分析専用容器**

【保存方法】  
● 室温  
【有効期限】  
● 3年

# 生化学検査

生化学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考	
1521	ミオグロビン	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	① 139 生I	CLIA法	85以下 (ng/mL)		
1522		尿6.0	I7		3~6		RIA2抗体法	10以下 (ng/mL)	採尿後、速やかにI7容器に入れ冷蔵して下さい。 凍結保存は避けて下さい。⑫	
3523	血中コプロポルフィリン	血液1.5	If	遮光 冷蔵	8~12	210 生I	HPLC法	1以下 (μg/dLRBC)	凍結保存は避けて下さい。 遮光して下さい。⑫	
3328	エリスロポエチン (EPO)	血液3.0 血清0.8	A	冷蔵	2	② 209 生II(③4)	CLEIA法	4.2~23.7 (mIU/mL)		
3135	エンドトキシン定量	血液2.0	I6	冷蔵	3~5	③ 243 免疫	比濁時間分析法	カットオフ値 1.0以下 (pg/mL)	1.0pg/mLは、グラム陰性菌による敗血症診断の カットオフ値です。1.1pg/mL以上は、グラム陰 性菌による敗血症の疑いがあります。β-Dグル カン以外との重複依頼は避けて下さい。⑫	
3252	透析液中 エンドトキシン	透析液4.0	Ih	冷蔵	3~5		発色合成基質法		必ずIh容器を使用して下さい。電 解質、酸、アルカリの反応阻害を 防ぐためにA液は40倍希釈、B液 は20倍希釈して測定いたします。 1検体1依頼でお願いいたします。⑫	
3347										A液
3351										B液
3237										RO水
3613										調整液 その他
3229	ヘパリン	血液1.8 血漿0.3	F	凍結	5~9	④ 108 生I	発色性合成基質法	(IU/mL)	採血後、速やかに血漿分離して下 さい。⑫	
3499	エタノール (エチルアルコール)	血液1.0	M	凍結	4~7	111 生I	GC法	0.1未満 (mg/mL)	全血のまま凍結保存して下さい。採血に当 たってエタノール消毒を行う場合、血液中 への混入がないようご注意ください。⑫	
3526	アセトン	血液3.0 血清0.7	A	凍結	8~11		GC法	5未満  (μg/mL)	分離剤入容器は使用しないで下さ い。⑫	
3575		尿1.2	J							
3476	クエン酸	血液5.0 血清1.5	A	凍結	7~13		酵素法	1.3~2.6 (mg/dL)	⑫	
3358		尿0.5	J					138~1010 (mg/L)	⑫	

- ① 「H-FABP」と「ミオグロビン」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定します。  
 ② 「エリスロポエチン」は、赤血球増加症の鑑別診断及び重度の慢性腎不全患者又はエリスロポエチン若しくはダルベポエチン投与前の透析患者における腎性貧血の診断、  
 骨髄異形成症候群に伴う貧血の治療方針の決定のために行った場合に算定できます。  
 ③ 「エンドトキシン定量」と「プロカルシトニン定量」と「プレセプシン定量」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定します。  
 ④ 「ヘパリン」の血中濃度測定において、同一の患者につき1ヶ月以内に当該検査を2回以上行った場合は算定を1回とし、1回目の測定を行ったときに算定します。

<b>A 一般容器</b> 【保存方法】 ①~③室温 【有効期限】 ①1年 ②1年 ③1年 	<b>F 凝固容器 (クエン酸Na入)</b> 【保存方法】 ●室温 【有効期限】 ●1年 	<b>I6 エンドトキシン専用容器</b> 【保存方法】 ●室温 【有効期限】 ●1年 	<b>I7 ミオグロビン (尿) 専用容器</b> 【保存方法】 ●室温 【有効期限】 ●2年 
<b>If コプロポルフィリン専用容器</b> 【保存方法】 ●室温 【有効期限】 ●18ヶ月 (アルミシート開封後1ヶ月) 	<b>Ih 透析液エンドトキシン容器</b> 【保存方法】 ●冷蔵 【有効期限】 ●— 	<b>J 尿容器</b> 【保存方法】 ●室温 【有効期限】 ●— 	<b>M ヘパリンNa入容器</b> 【保存方法】 ●室温 【有効期限】 ●2年 

# 生化学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
4250	肝細胞増殖因子 (HGF)	血液2.0 血清0.3	A	凍結	3~9	① 227 生I	ELISA法	0.39以下 (ng/mL)	⑫
3592	可溶性インターロイキン2レセプター (sIL-2R)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	② 438 生II(④2)	CLEIA法	156.6~474.5 (U/mL)	
3087	トロンボモジュリン (TM)	血液2.0 血清0.3	A	凍結	3~5	③ 204 血液(④6)	EIA法	M 2.1~4.1 F 1.8~3.9 (FU/mL)	⑫
3479	シアル化糖鎖抗原 KL-6	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	1~2	④ 114 生I	ラテックス凝集比濁法	500以下 (U/mL)	
4036	SP-D (肺サーファクタントプロテインD)	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	3~5	④ 136 生I	EIA法	110未満 (ng/mL)	⑫
4134	SP-A (肺サーファクタントプロテインA)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	④ 130 生I	CLEIA法	43.8未満 (ng/mL)	⑫
4096	ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白 (H-FABP)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	3~5	⑤ 139 生I	ラテックス凝集法	6.2未満 (ng/mL)	⑫
3935	尿中デオキシピリジノリン (Dpd)	⑩ 尿3.0	J	冷蔵	4~6	⑥⑦ 191 生II(④4)	EIA法	M 2.1~5.4 F 2.8~7.6 (nmol/mmol・CRE)	[骨量低下リスクのcut off値] 5.9nmol/mmol・CRE [骨折リスクのcut off値] 7.6nmol/mmol・CRE ⑫
4035	BAP (骨型アルカリフォスファターゼ)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	2	⑧ 161 生II(④4)	CLEIA法	M 3.7~20.9 F 閉経前 2.9~14.5 閉経後 3.8~22.6 (μg/L)	
3365	I型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTx) (骨粗鬆症)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	⑥⑦ 156 生II(④4)	ELISA法	M 9.5~17.7 F 閉経前 7.5~16.5 閉経後 10.7~24.0 (nmolBCE/L)	[骨量低下リスクのcut off値] 13.6nmolBCE/L [骨折リスクのcut off値] 16.5nmolBCE/L ⑫
3928		⑩ 尿3.0	J					下記参照	[骨量低下リスクのcut off値] 35.3nmolBCE/mmol・CRE [骨折リスクのcut off値] 54.3nmolBCE/mmol・CRE ⑫
3259	TRACP-5b (骨型酒石酸抵抗性ACP)	血液2.0 血清0.5	A	凍結	3	⑦⑨ 156 生II(④4)	EIA法	M 170~590 F 120~420 (mU/dL)	
591	total P1NP (I型コラーゲンN-テロペプチド)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	1~2	⑧ 169 生II(④4)	ECLIA法	M 18.1~74.1 F 閉経前 16.6~69.6 閉経後 26.6~97.5 (ng/mL)	
3163	プロカルシトニン	血液2.0 血清0.4	A	凍結	3~5	292 生I	CLEIA法	0.05以下 (ng/mL)	敗血症(細菌性)鑑別診断のカットオフ値: 0.50ng/mL未満敗血症(細菌性)重症度判定の カットオフ値:2.00ng/mL以上 ⑫

- 「肝細胞増殖因子 (HGF)」は、肝炎にて劇症化が疑われる場合又は劇症肝炎の経過観察に用いた場合のみ算定できます。
- 「可溶性インターロイキン2(sIL-2R)」は、非ホジキンリンパ腫、ATLの診断の目的で測定した場合のみ算定できます。また、非ホジキンリンパ腫又はATLであることが既に確定診断された患者に対して、経過観察のために測定した場合は、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」により算定します。
- 「トロンボモジュリン (TM)」は、膠原病の診断若しくは経過観察又はDIC若しくはそれに引き続いて起こるMOF観察のために測定した場合のみ算定します。
- 「KL-6」「SP-A」「SP-D」のうちいずれか複数を実施した場合は、主たるもののみ算定します。
- 「H-FABP」は急性心筋梗塞の診断を目的に用いた場合のみ算定します。ただし、「H-FABP」と「ミオグロビン」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定します。
- 「尿中デオキシピリジノリン」及び「I型コラーゲン架橋N-テロペプチド」は、原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定又は骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定します。なお、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6ヶ月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、薬剤治療方針を変更したときは、変更後6ヶ月以内に1回に限り算定できます。
- 「I型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTx)」、「オステオカルシン (BGP)」又は「尿中デオキシピリジノリン (Dpd)」、「TRACP-5b」を併せて実施した場合は、いずれか1つのみ算定できます。
- 「BAP」、「total P1NP」及び「ALPアイソザイム (PAG電気泳動法)」のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定します。
- 「TRACP-5b」は、代謝性骨疾患及び骨転移(代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る)の診断補助として実施した場合に1回、その後6ヶ月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に1回に限り算定できます。また治療方針を変更した際には変更後6ヶ月以内に1回に限り算定できます。なお、肺癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当検査を行い、それに基づいて計画的な治療管理を行った場合は、特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」を算定します。
- 早期2番尿をご提出下さい。

## [3928] I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)基準値,判定基準

(単位: nmolBCE/mmol・CRE)

基準値(参考値)	男性	13.0~66.2	判定基準	骨吸収亢進の指標	55以上
	閉経前女性	9.3~54.3		副甲状腺摘出術の適応	200以上
	閉経後女性	14.3~89.0		悪性腫瘍(肺癌, 肺癌, 前立腺癌)の骨転移の指標	100以上

# 機能検査

機能検査

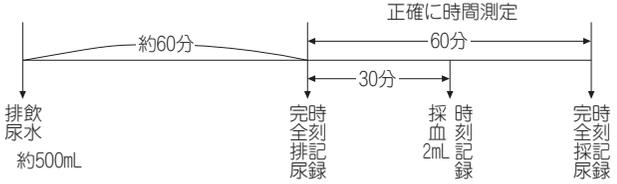
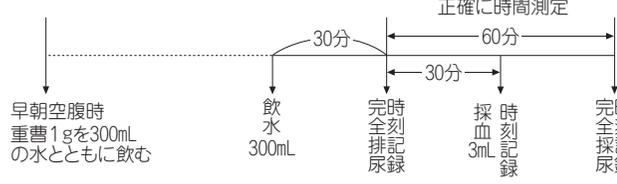
コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
681	クレアチニンクリアランス (Ccr)	血液2.0 血清0.5 尿5.0	A +	J 冷蔵	1~2		酵素法	70 ~ 156 (mL/min)	次頁実施スケジュールを参照して 下さい。
682	24時間内因性 クレアチニンクリアランス	血液2.0 血清0.5 尿5.0	A +	J				93.0 ~ 238.0 (L/day)	
683	尿素クリアランス	血液3.0 血清0.5 尿5.0	A +	J 冷蔵	1~2		ウレアーゼ・GLDH法	Cm 62 ~ 77 Cs 45 ~ 55 (mL/min)	
686	尿酸クリアランス	血液2.0 血清0.5 尿5.0	A +	J 冷蔵	1~2		ウリカーゼ・ F-DAOS法	6.2 ~ 12.6 (mL/min)	
740	無機燐クリアランス (リン再吸収率試験)	血液2.0 血清0.5 尿5.0	A +	J 冷蔵	1~2		モリブデン酸・UV法	85 ~ 98 (%)	
691	PFDTテスト	投与前尿3.0 6H蓄尿3.0	N	冷蔵	3~7	② (100)	DACA法	73.4 ~ 90.4 (%)	次頁実施スケジュールを参照して 下さい。⑫
670	ICGテスト	血液各3.0 血清各1.0	A	遮光 冷蔵	2	② (100)	比色法	15分血中停滞率 0 ~ 10 (%)	次頁実施スケジュールを参照して 下さい。 遮光保存して下さい。

① 検査の伴って行った注射、採血及び検体測定のコストは、所定点数に含まれます。

② 検査に伴って行った注射、検体採取、検体測定及びエックス線透視のコストは、すべて所定点数に含まれます。

<b>A 一般容器</b>  <small>分離剤入 (全血用)</small>	<b>J 尿容器</b> 	<b>N 尿容器 (蓄尿、遮光)</b> 
【保存方法】 ①~③室温 【有効期限】 ①1年 ②1年 ③1年	【保存方法】 ●室温 【有効期限】 ●—	【保存方法】 ●室温 【有効期限】 ●3年

## 機能検査・クリアランス試験実施スケジュール

<p><b>クレアチニン クリアランス</b> <b>尿素クリアランス</b> <b>無機燐クリアランス</b></p> 	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 排尿後微温水約500mLを飲ませる。</li> <li>2. 飲水後約60分後に完全排尿させ、この時刻を試験開始とする。</li> <li>3. 開始30分後、約2mL採血する。</li> <li>4. 開始1時間後、完全採尿する。尿量を測定し依頼書に記載。1時間尿量の一部を提出。</li> <li>5. 正確を期す場合は更にスケジュールを1時間延長する。 (開始1時間30分後、第2回目の採血。開始2時間後に第2回目の採尿)</li> </ol> <p>*身長、体重、採血時刻、採尿時刻、1時間尿量を依頼書に必ず記入して下さい。 *無機燐クリアランスの場合、少なくとも3日間位は普通量のカルシウム、リンを含む食事をとって下さい。</p>
<p><b>24時間内因性クレアチニン クリアランス</b></p> 	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 朝の一定時刻に完全に排尿させ、これを捨てる。</li> <li>2. 以後の尿を翌朝の同時刻まで蓄尿する。尿量を測定し依頼書に記載。24時間尿量の一部を提出。</li> <li>3. 昼前に約2mL採血する。</li> </ol> <p>*身長、体重、尿量を依頼書に必ず記入して下さい。</p>
<p><b>尿酸クリアランス</b></p> 	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 検査の3日前より低プリン食摂取とする。</li> <li>2. 早朝空腹時(検査当日の朝)重曹約1gを300mLの水とともに服用させる。</li> <li>3. 検査時さらに水300mLを飲水。</li> <li>4. 30分後放尿する。(0分とする)</li> <li>5. 0分より30分後に3mL採血する。</li> <li>6. さらに0分より60分後に採尿する。尿量を測定し、依頼書に記載。5mL提出。</li> </ol> <p>*身長、体重、採血時刻、採尿時刻、尿量を依頼書に必ず記入して下さい。</p>
<p><b>PFDテスト</b></p> 	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. PFD液服用前に採尿する。(一部を前尿として提出)</li> <li>2. PFD試験薬を200mLの水とともに飲ませる。</li> <li>3. 約1時間後、利尿のためコップ一杯相当の水を飲ませる。</li> <li>4. 開始から6時間まで蓄尿し、尿量を測定し依頼書に記載。尿量の一部を前尿とともに提出。</li> </ol>
<p><b>ICGテスト</b></p> 	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ジアグノグリーン25mgを添付の注射用水5mLに溶かし、体重10kgにつき1mLを静注する。</li> <li>2. 血中停滞率測定の場合には注射前と注射後15分に注射の反対側から各3mL採血する。</li> <li>3. 血中消失率測定の場合には注射前と注射後5、10、15分の3回、注射の反対側から各3mL採血する。</li> </ol>

# 腫瘍関連検査

腫瘍関連検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備 考
1502	癌胎児性抗原 (CEA)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	①②⑨ 102 生Ⅱ②	CLEIA法	5.0以下 (ng/mL)	
1501	α-フェトプロテイン (AFP)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	③⑨ 104 生Ⅱ②	CLEIA法	10.0以下 (ng/mL)	
3047	γ-セミノプロテイン (γ-Sm)	血液2.0 血清0.5	A	凍結	3~5	⑨ 194 生Ⅱ②	CLEIA法	4.0以下 (ng/mL)	⑫
1365	エラスターゼ1	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	④⑨ 126 生Ⅱ②	ラテックス免疫比濁法	300以下 (ng/dL)	
1512	CA19-9	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	⑨ 127 生Ⅱ②	CLEIA法	37以下 (U/mL)	
3048	DUPAN-2	血液2.0 血清0.4	A	冷蔵	3~5	②⑨ 118 生Ⅱ②	EIA法	150以下 (U/mL)	⑫
4167	SPan-1	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	3~5	⑨ 146 生Ⅱ②	RIA固相法 (IRMA)	30.0以下 (U/mL)	⑫
4171	シアリルLe <sup>x</sup> -i抗原 (SLX)	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	3~5	⑨ 148 生Ⅱ②	RIA固相法 (IRMA)	38以下 (U/mL)	溶血検体でのご依頼は避けて下さい。 ⑫
3206	シアリルLe <sup>x</sup> 抗原 (CSLEX)	血液2.0 血清0.4	A	冷蔵	3~7	⑤⑦⑨ 164 生Ⅱ②	EIA法	8.0未満 (U/mL)	⑫
1514	SCC抗原 (扁平上皮癌関連抗原)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	⑨ 107 生Ⅱ②	CLIA法	1.5以下 (ng/mL)	
3056	CA125	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	⑥⑨ 144 生Ⅱ②	CLEIA法	35.0以下 (U/mL)	
3057	CA15-3	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	⑦⑨ 118 生Ⅱ②	CLEIA法	25.0以下 (U/mL)	
4164	BCA225	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	⑨ 162 生Ⅱ②	CLEIA法	160未満 (U/mL)	⑫
4170	NCC-ST-439	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	3~5	⑨ 118 生Ⅱ②	EIA法	M 4.5未満 F 49歳以下 7.0未満 50歳以上 4.5未満 (U/mL)	⑫
4168	CA72-4	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	3~5	⑨ 146 生Ⅱ②	ECLIA法	10.0以下 (U/mL)	⑫
4174	CA54/61	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	4~7	⑨ 184 生Ⅱ②	ELISA法	12以下 (U/mL)	⑫
4175	CA602	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	4~10	⑨ 190 生Ⅱ②	ELISA法	63以下 (U/mL)	⑫
4166	塩基性フェトプロテイン (BFP)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	⑨ 150 生Ⅱ②	EIA法	75未満 (ng/mL)	採血後2時間以内に血清分離して下さい。溶血検体でのご依頼は避けて下さい。 ⑫
1515	組織ポリペプチド抗原 (TPA)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	2	⑨ 110 生Ⅱ②	CLIA法	75未満 (U/L)	
3067	神経特異エノラーゼ (NSE)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	⑧⑨ 146 生Ⅱ②	ECLIA法	16.3以下 (ng/mL)	採血後、1時間以内に血清分離し冷蔵保存して下さい。溶血でのご依頼は避けて下さい。(溶血の場合、赤血球からNSEが逸脱して高値となります。)
4057	PIVKA-II	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	③⑨ 139 生Ⅱ②	CLIA法	40未満 (mAU/mL)	ワーファリン投与で高値となります。
3451	シアリルTn抗原 (STN)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	⑨ 146 生Ⅱ②	RIA固相法	45以下 (U/mL)	⑫

- ① 悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、家族性大腸腺腫症の患者に対して「癌胎児性抗原 (CEA)」を行った場合、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に検査料を算定できます。
- ② 癌胎児性抗原 (CEA) と DUPAN-2 を併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。
- ③ 悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、肝硬変、HBs抗原陽性の慢性肝炎又はHCV抗体陽性の慢性肝炎の患者について、「α-フェトプロテイン」又は「PIVKA-II」を行った場合は月1回に限り、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に検査料を算定できます。
- ④ 悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、急性及び慢性膵炎の診断及び経過観察のために「エラスターゼ1」を行った場合、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に検査料を算定できます。
- ⑤ 「シアリルLe<sup>x</sup>抗原 (CSLEX)」は、診療及び他の検査の結果から乳癌の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に算定します。
- ⑥ 「CA125」、「CA602」、「CA130」のうち2項目又は3項目を併せて測定した場合は、主たるもの1つに限り算定します。悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、子宮内膜症の診断又は治療効果判定を目的として「CA125」を行った場合、診断又は治療前及び治療後の各1回に限り、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に検査料を算定できます。
- ⑦ 「シアリルLe<sup>x</sup>抗原 (CSLEX)」と「CA15-3」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定します。
- ⑧ 「Pro GRP」と「神経特異エノラーゼ (NSE)」を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定します。
- ⑨ 診療及び腫瘍マーカー以外の検査の結果から悪性腫瘍の患者であることが強く疑われる者に対して、腫瘍マーカーの検査を行った場合に、1回に限り算定する。ただし、区分番号B001の3に掲げる悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定している患者については算定しない。

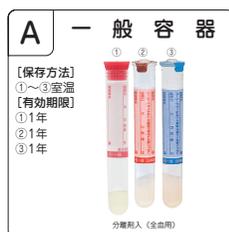
# 腫瘍関連検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
3111	シフラ (サイトケラチン19フラグメント)	血液2.0 血清0.4	A	冷蔵	1~2	①⑩ 162 生Ⅱ(⑩)	CLEIA法	3.5以下 (ng/mL)	
3775	チミジンキナーゼ活性	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	2	② 233 血液	CLIA法	7.5以下 (U/L)	
4433	ガストリン放出ペプチド前駆体 (Pro GRP)	血液2.0 血漿0.4	G	凍結	3~5	③⑩ 175 生Ⅱ(⑩)	CLEIA法	81.0未満 (pg/mL)	⑫
4037	尿中核マトリックスプロテイン22 (NMP22)	部分尿5.0	Id	冷蔵	3~5	④⑩ 147 生Ⅱ(⑩)	ELISA法	12.0未満 (U/mL)	検体採取後、速やかに遠心し、その上清をId容器にてご提出下さい。凍結不可。⑫
3008	5-S-システィニルドーパ (5-S-CD)	血液4.0 血清1.0	A	凍結	4~8		HPLC法	1.5~8.0 (nmol/L)	⑫
3513	I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド精密測定 (NTx) (腫瘍マーカー)	⑤ 尿3.0	J	冷蔵	4~6	⑥ 156 生Ⅱ(⑩)	ELISA法	骨吸収亢進の指標 55以上 副甲状腺摘出術の適応 200以上 悪性腫瘍の骨転移の指標 100以上 (nmolBCE/mmol・CRE)	⑫
3062	前立腺特異抗原 (PSA)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	⑦⑩ 127 生Ⅱ(⑩)	CLEIA法	4.000以下 (ng/mL)	
3840	PSA-ACT	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	3~5	⑦⑩ 127 生Ⅱ(⑩)	CLIA法	3.4以下 (ng/mL)	前立腺癌診断のcut off値としては7.0ng/mLが推奨されます。⑫
3834	PSA F/T比	血液3.0 血清0.8	A	凍結	3~5	⑧⑩ 154 生Ⅱ(⑩)	CLEIA法	25 (グレーゾーンにおける カットオフ値) (%)	本項目は、高感度PSAとフリーPSAの測定結果も併せてご報告いたします。(基準値について) 25%はPSAのグレーゾーン(4.00~10.0ng/mL)における前立腺肥大症と前立腺癌の判別に用いるカットオフ値です。(低値ほど前立腺癌の確率が高くなります)。⑫
2666	高感度PSAタンデム	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	2	⑦⑩ 127 生Ⅱ(⑩)	CLEIA法	4.000以下 (ng/mL)	
3231	血清抗p53抗体	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	⑨⑩ 163 生Ⅱ(⑩)	CLEIA法	1.30以下 (U/mL)	⑫
3585	I型コラーゲンC末端 テロペプチド (ICTP)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5		RIA2抗体法	4.5未満 (ng/mL)	⑫
3847	HER2蛋白 (血清)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	3~5	⑩ 320 生Ⅱ(⑩)	CLIA法	15.2以下 (ng/mL)	⑫
1030	可溶性メソテリン関連 ペプチド	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	5~11	⑩ 220 生Ⅱ(⑩)	CLEIA法	1.5未満 (nmol/L)	⑫

腫瘍  
関連

腫瘍  
関連  
検査

- 「サイトケラチン19フラグメント (シフラ)」は悪性腫瘍であることが既に確定診断された患者については、小細胞癌を除く肺癌の場合に限り、「B001」特定疾患治療管理料「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定できます。
- 「チミジンキナーゼ活性」は、造血管腫瘍の診断又は治療効果判定のために行った場合に算定します。
- 「Pro GRP」と「神経特異エノラーゼ (NSE)」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定します。
- 「尿中核マトリックスプロテイン22 (NMP22)」は、尿沈渣顕微鏡検査により赤血球が認められ、尿路上皮癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定できます。なお、尿路上皮癌の診断が確定した後に行った場合であっても、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料は算定できません。「NMP22」と「サイトケラチン8.18 (尿)」を同時に実施した場合は、いずれか一方の所定点数を算定します。
- 早期2番尿をご提出下さい。
- 「I型コラーゲン架橋N-テロペプチド精密測定」は、原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定又は骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施した場合に算定します。また、本検査と「TRACP-5b」、「オステオカルシン (OC)」、「尿中デオキシピリジノリン」と併せて実施した場合は、いずれか1つのみ算定します。
- 診察、腫瘍マーカー以外の検査、画像診断等の結果から、前立腺癌が強く疑われた場合に、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に原則として、1回を限度として算定します。ただし、検査結果が4.0ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3ヶ月に1回に限り、3回を上限として算定できます。なお、2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。
- 「PSA F/T比」は、診療及び他の検査 (PSA等) の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定します。なお、2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。
- 「血清抗p53抗体」は、食道癌、大腸癌又は乳癌が強く疑われる患者に対して行った場合に月1回に限り算定できます。
- 診療及び腫瘍マーカー以外の検査の結果から悪性腫瘍の患者であることが強く疑われる者に対して、腫瘍マーカーの検査を行った場合に、1回に限り算定する。ただし、区分番号B001の3に掲げる悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定している患者については算定しない。



# 内分泌学検査

内分泌学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
1001	甲状腺刺激ホルモン (TSH)	血液3.0 血清0.8	A	冷蔵	1~2	104 生Ⅱ	ECLIA法	0.500 ~ 5.000 (μIU/mL)	日内変動が大きいので採血時間に 注意して下さい。
3308	成長ホルモン (GH)〔血清〕	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	3~5	111 生Ⅱ(④)	ECLIA法	M 2.47以下 F 0.13 ~ 9.88 (ng/mL)	⑫
1021	黄体化ホルモン (LH)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	111 生Ⅱ(④)	ECLIA法	M 2.2 ~ 8.4 F 卵泡期 1.4 ~ 15 排卵期 8 ~ 100 黄体期 0.5 ~ 15 閉経後 11 ~ 50 (mIU/mL)	
1041	卵胞刺激ホルモン (FSH)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	111 生Ⅱ(④)	ECLIA法	M 1.8 ~ 12 F 卵泡期 3 ~ 10 排卵期 5 ~ 24 黄体期 1.3 ~ 6.2 閉経後 26 ~ 120 (mIU/mL)	
1071	プロラクチン (PRL)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	98 生Ⅱ	ECLIA法	M 4.29 ~ 13.69 F (閉経前)4.91 ~ 29.32 (閉経後)3.12 ~ 15.39 (ng/mL)	日内変動が大きいので採血時間に 注意して下さい。
3310	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	血液2.0 血漿0.5	G	凍結	2	194 生Ⅱ(④)	ECLIA法	7.2 ~ 63.3 (pg/mL)	
3274	抗利尿ホルモン (AVP)	血液7.0 血漿1.5	G	凍結	6~8	235 生Ⅱ(④)	RIA2抗体法	水制限 4.0以下 自由飲水 2.8以下 (pg/mL)	溶血でのご依頼は避けて下さい。 採血後、速やかに血漿分離して下 さい。⑫
3309	ソマトメジンC (IGF-I)	血液2.0 血清0.3	A	凍結	3~5	① 218 生Ⅱ(④)	RIA固相法 (IRMA)	下記参照	⑫

① 「ソマトメジンC」と「IGFBP-3」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。

## [3309] IGF-I(ソマトメジン-C)年齢別・性別における基準値(参考値)

(単位: ng/mL)

年齢(歳)	男 性	女 性	年齢(歳)	男 性	女 性	年齢(歳)	男 性	女 性
0	11~149	15~154	26	119~329	146~336	52	86~242	78~213
1	14~148	23~186	27	116~322	141~328	53	85~240	77~212
2	18~154	32~213	28	114~315	137~320	54	84~239	76~211
3	24~164	40~227	29	111~309	133~312	55	84~238	75~210
4	32~176	48~238	30	109~303	129~304	56	83~237	74~208
5	44~193	56~252	31	107~297	126~297	57	82~236	73~207
6	55~215	69~287	32	105~292	122~290	58	81~235	72~205
7	63~247	89~357	33	103~287	119~283	59	80~233	71~203
8	72~292	111~438	34	102~283	115~277	60	79~232	70~201
9	84~350	133~517	35	100~279	112~271	61	77~230	69~198
10	99~423	155~588	36	99~275	109~265	62	76~228	68~196
11	113~499	175~638	37	97~272	106~260	63	75~226	66~194
12	125~557	188~654	38	96~269	103~254	64	73~224	65~191
13	133~579	193~643	39	95~266	100~250	65	72~221	64~188
14	138~570	193~625	40	94~263	98~245	66	70~219	62~186
15	141~552	192~614	41	94~261	95~240	67	68~216	61~183
16	142~543	192~611	42	93~259	93~236	68	66~213	60~180
17	142~540	191~599	43	92~257	90~233	69	65~209	59~177
18	142~526	188~574	44	92~255	88~229	70	63~206	57~175
19	143~501	182~539	45	91~253	87~226	71	61~202	56~172
20	142~470	175~499	46	90~250	85~224	72	58~198	55~170
21	139~436	168~459	47	90~250	83~221	73	56~194	54~167
22	135~405	161~425	48	89~248	82~219	74	54~190	53~165
23	131~379	155~397	49	88~246	81~218	75	52~185	52~163
24	128~356	151~375	50	87~245	80~216	76	50~181	50~160
25	125~337	147~358	51	87~243	79~215	77	48~177	49~158

# 内分泌学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
甲状腺	1101 T <sub>3</sub> (トリヨードサイロニン)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	102 生Ⅱ	ECLIA法	0.8 ~ 1.6 (ng/mL)	
	1103 T <sub>4</sub> (総サイロキシン)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	111 生Ⅱ	ECLIA法	6.1 ~ 12.4 (μg/dL)	
	3323 FT <sub>3</sub> (遊離トリヨードサイロニン)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	127 生Ⅱ(包4)	ECLIA法	2.3 ~ 4.3 (pg/mL)	
	1104 FT <sub>4</sub> (遊離サイロキシン)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	127 生Ⅱ(包4)	ECLIA法	0.9 ~ 1.7 (ng/dL)	
	1107 サイロキシン結合グロブリン (TBG)	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	3~7	130 生Ⅱ(包4)	RIA PEG法	15.9 ~ 35.6 (μg/mL)	⑫
	3325 サイログロブリン (Tg)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	133 生Ⅱ(包4)	ECLIA法	33.70以下 (ng/mL)	
副甲状腺	3345 副甲状腺ホルモンintact (PTH-intact)	血液2.0 血清0.3	A	凍結	1~2	170 生Ⅱ(包4)	ECLIA法	10 ~ 65 (pg/mL)	
	3075 副甲状腺ホルモン関連蛋白 (PTHrP)	血液3.0 血漿0.5	I1	凍結	6~8	① 194 生Ⅱ(包4)	RIA固相法 (IRMA)	1.1以下 (pmol/L)	I1容器に血液3.0mLを注入混和し、 血漿分離後凍結保存して下さい。 ⑫
	3716 ホールPTH	血液2.0 血漿0.5	G	凍結	3~5	170 生Ⅱ(包4)	CLEIA法	8.3 ~ 38.7 (pg/mL)	⑫
	3344 カルシトニン (CT)	血液2.0 血清0.5	A	凍結	3~5	137 生Ⅱ(包4)	ECLIA法	M 9.52以下 F 6.40以下 (pg/mL)	速やかに血清分離後、凍結保存し て下さい。 ⑫

① 「副甲状腺ホルモン関連蛋白 (PTHrP)」は、高カルシウム血症の鑑別並びに悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症に対する治療効果の判定のために測定した場合のみ算定できます。

内分泌学検査

<p><b>A 一般容器</b></p> <p>【保存方法】 ①~③ 室温 【有効期限】 ① 1年 ② 1年 ③ 1年</p>  <p>分離系入 (全血用)</p>	<p><b>G EDTA2Na入容器</b></p> <p>【保存方法】 ● 室温 【有効期限】 ● 2年</p>  <p>5mL 7mL</p>	<p><b>I1 EDTA2Naアプロチニン入容器</b></p> <p>【保存方法】 ● 室温 【有効期限】 ● 2年</p> 
--	--	--

# 内分泌学検査

## 副腎髄質・交感神経・中枢神経

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
1272	尿中カテコールアミン (総)	酸性蓄尿 2.0	N	凍結	5~7	194 生II(34)	HPLC法	52.0~195.3  (μg/day)	所定量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出下さい。酸性蓄尿されていないものはデータに影響がみられますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れて下さい。蓄尿量を記入して下さい。⑫
3409	カテコールアミン3分画 (A:アドレナリン NA:ノルアドレナリン DA:ドーパミン)	血液5.0 血漿1.5	G	凍結	4~6	170 生II(34)	HPLC法	A 100以下 NA 100~450 DA 20以下 (pg/mL)	⑫
1280		酸性蓄尿 2.0	N		5~7			A 3.4~26.9 NA 48.6~168.4 DA 365.0~961.5 (μg/day)	
3588	メタネフリン・ノルメタネフリン分画	酸性蓄尿 2.0	N	凍結	5~7	221 生II(34)	LC/MS/MS法	メタネフリン 0.04~0.19 ノルメタネフリン 0.09~0.33 (mg/day)	所定量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出下さい。酸性蓄尿されていないものはデータに影響がみられますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れて下さい。蓄尿量を記入して下さい。メタネフリン総(mg/day)も報告いたします。⑫
3415	バニルマンデル酸 (VMA定量)	酸性蓄尿 1.5	N	凍結	5~7	90 生II	HPLC法	1.5~4.3 (mg/day)	⑫
3416		血液4.0 血漿1.5	G		4~7			3.3~8.6 (ng/mL)	
3419	ホモバニリン酸 (HVA定量)	酸性蓄尿 1.5	N	凍結	5~7	69 生II	HPLC法	2.1~6.3 (mg/day)	⑫
3418		髄液1.5	P1		4~7			(ng/mL)	
3421	5-ハイドロキシインドール酢酸 (5-HIAA)	酸性蓄尿 0.5	N	凍結	5~7	95 生II	HPLC法	1.0~6.0 (mg/day)	⑫
4092		髄液1.5	P1		4~7			(ng/mL)	
3423	ドーパミン(総)	血液5.0 血漿1.5	G	凍結	6~12		HPLC法	1.8~7.7 (ng/mL)	⑫
3425	セロトニン	血液1.0	I4	凍結	4~10		HPLC法	57~230 (ng/mL)	全血のまま凍結保存して下さい。⑫

# 内分泌学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
1151	アルドステロン	血液2.0 血清0.5	A	凍結	3~5	125 生Ⅱ(国4)	RIA固相法	随時 35.7~240 臥位 29.9~159 立位 38.9~307 (pg/mL)	⑫
		血液2.0 血漿0.5	G						
1161		蓄尿1.5	J		5~9			10.0以下 (μg/day)	蓄尿量を記入して下さい。 ⑫
1201	コルチゾール	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	1~2	127 生Ⅱ(国4)	ECLIA法	6.2~18.0 (μg/dL)	日内変動が大きいため採血時間を 注意して下さい。
		血液2.0 血漿0.3	G						
3454	遊離コルチゾール (非抱合型コルチゾール)	蓄尿5.0	N	冷蔵	4~8	127 生Ⅱ(国4)	RIA固相法	11.2~80.3 (μg/day)	蓄尿量を記入して下さい。 ⑫

## 尿の保存法と蓄尿の保存剤について

尿は細菌が繁殖しやすく尿中成分が変化を受けやすいため、24時間蓄尿や長時間保存する必要がある場合は、検査の目的に応じた保存剤を予め加えて採尿し冷蔵所に保存します。

### 保存剤の種類と用途

蓄尿保存剤 [特徴]	使用 方 法	検 査 目 的
・無添加冷蔵所保存 (24時間蓄尿以外)	4℃冷蔵庫 *採尿後、6時間以内なら殆どの尿検査はこの方法が最適	日常尿検査(定性・半定量、比重、沈渣)尿アルブミン、BMG、NAG、妊娠反応等
・酸性ユリメジャー・T [弱酸性蓄尿] [pHを弱酸性にする]	①と②袋の中身をすべて蓄尿前、あるいは初回排尿時に尿と同時に蓄尿容器に入れます。	尿カテコールアミン、尿VMA、尿HVA、尿メタネフィリン、5-HIAA等 *1)
・尿C-ペプチド安定化剤 [アルカリ性蓄尿] [pHをアルカリ性にする]	1袋全量を蓄尿前、あるいは初回排尿時に尿と同時に蓄尿容器に入れます。	尿C-ペプチド専用 *2)

★現在は6N塩酸・ホルマリン・アジ化ナトリウムは劇毒物扱いのため、使用しなくなりました。

\*1) 24時間蓄尿の酸性蓄尿は、細菌の繁殖を抑えるためにpHを弱酸性に維持する目的で使用されます。

主にHPLCなどの機器分析の検査方法に用いられています。  
尿浸透圧以外の生化学尿検査には同時測定での影響はありません。

\*2) 栄研化学 尿C-ペプチド安定化剤(商品コードトXB53)

尿C-ペプチド安定化剤を使用した検体は、他の項目に影響を与えるため、他の項目との共用依頼は避けてください。



# 内分泌学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
腎・副腎皮質	3490 17-ケトステロイド3分画 (17-KS3分画)	蓄尿12.0	N	冷蔵	8~9	213 生Ⅱ(④)	GC-MS法	下記参照	酸性蓄尿不可 蓄尿量を記入して下さい。 ⑫
	3426 17-ケトステロイド7分画 (17-KS7分画)	蓄尿12.0	N	冷蔵	8~9	213 生Ⅱ(④)	GC-MS法	下記参照	酸性蓄尿不可 蓄尿量を記入して下さい。 ⑫
	3446 11-ヒドロキシコルチコステロイド (11-OHCS)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	3~7	60 生Ⅱ	蛍光法 (De Moor変法)	7.0~23.0 (午前10時採血) ( $\mu\text{g/dL}$ )	⑫
	3456 デヒドロエピアンドロステロンサルフェート (DHEA-S)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	3~5	174 生Ⅱ(④)	CLEIA法	下記参照	⑫

## [3490]17-ケトステロイド3分画 (17-KS3分画)

(単位: mg/day)

	男性	女性
And	1.10~4.20	0.40~3.00
Etio	0.55~2.60	0.30~2.50
DHEA	0.12~5.20	0.04~2.60

## [3426]17-ケトステロイド7分画 (17-KS7分画)

(単位: mg/day)

	男性	女性
And	1.10~4.20	0.40~3.00
Etio	0.55~2.60	0.30~2.50
DHEA	0.12~5.20	0.04~2.60
110H And	0.40~2.30	0.22~1.60
110H Etio	0.03~0.65	0.02~0.65
11keto And	0.12以下	0.07以下
11keto Etio	0.04~0.65	0.03~0.50

## [3456]デヒドロエピアンドロステロン サルフェート(DHEA-S)

(単位:  $\mu\text{g/dL}$ )

年齢(歳)	男性	女性
18~20	24~537	51~321
21~30	85~690	18~391
31~40	106~464	23~266
41~50	70~495	19~231
51~60	38~313	8~188
61~70	24~244	12~133
71~	5~253	7~177

# 内分泌学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
3336	ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	3~5	① 138 生Ⅱ(包)	CLEIA法	2.7以下 (mIU/mL)	⑫
		尿1.0	J				ECLIA法	3.0以下 (mIU/mL)	
3338	HCG-βサブユニット (遊離HCG-β)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	①② 136 生Ⅱ(包)	RIA固相法 (IRMA)	0.1以下 (ng/mL)	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記入して下さい。 ⑫
		尿0.3	J						
3354	エストラジオール (E <sub>2</sub> )	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	177 生Ⅱ(包)	ECLIA法	下記参照	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記入して下さい。
3360	プロゲステロン	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	151 生Ⅱ(包)	ECLIA法	下記参照	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記入して下さい。

- ① 「妊娠反応定性」、「HCG」、「HCG-βサブユニット」を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定できます。  
② 「HCG-βサブユニット」は、HCG産生腫瘍患者に対して測定した場合のみ算定できます。

内分泌学検査

## [3354] エストラジオール(E<sub>2</sub>)

(単位: pg/mL)

	男性	14.6 ~ 48.8
非妊婦	卵胞期	28.8 ~ 196.8
	排卵期	36.4 ~ 525.9
	黄体期	44.1 ~ 491.9
	閉経後	47.0以下
	初期	208.5 ~ 4289
妊婦	中期	2808 ~ 28700
	後期	9875 ~ 31800

## [3360] プロゲステロン

(単位: ng/mL)

	男性	0.22以下
非妊婦	卵胞期	0.28以下
	排卵期	5.69以下
	黄体期	2.05 ~ 24.2
	閉経後	0.33以下
	初期	13.0 ~ 51.8
妊婦	中期	24.3 ~ 82.0
	後期	63.5 ~ 174

<p><b>A 一般容器</b></p> <p>【保存方法】 ①~③室温 【有効期限】 ① 1年 ② 1年 ③ 1年</p>  <p>分離剤入 (全血用)</p>	<p><b>J 尿管器</b></p> <p>【保存方法】 ●室温 【有効期限】 ●—</p> 	<p><b>N 尿管器 (蓄尿、遮光)</b></p> <p>【保存方法】 ●室温 【有効期限】 ●3年</p> 
--	---	--

# 内分泌学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
性 腺 ・ 胎 盤	3361 プレグナンジオール (P <sub>2</sub> )	蓄尿12.0	N	冷蔵	8~9	213 生II(④)	GC-MS法	下記参照	蓄尿量を記入して下さい。 性別を必ず記入して下さい。
	3362 プレグナントリオール (P <sub>3</sub> )	蓄尿12.0	N	冷蔵	8~9	234 生II(④)	GC-MS法	下記参照	
	3363 テストステロン	血液2.0 血清0.4	A	冷蔵	1~2	125 生II(④)	ECLIA法	M 1.31~8.71 F 0.11~0.47 (ng/mL)	性別を必ず記入して下さい。
	1829 フリーテストステロン	血液2.0 血清0.3	A	凍結	3~7	163 生II(④)	RIA固相法	下記参照	午前中に採血して下さい。性別・ 年齢を明記して下さい。
	4501 総エストロジェン [妊婦]	尿1.0	J	冷蔵	1~2	① 180 生II(④)	ラテックス凝集阻止法	妊婦36~42週 10以上 (μg/mL)	
	4502 妊娠反応定性	尿5.0	J	冷蔵	1~2	② 55 生II	免疫クロマト法		(感度25IU/L)

- ① 「総エストロジェン [妊婦]」については、「エストラジオール (E<sub>2</sub>)」又は「エストリオール (E<sub>3</sub>)」と同時に実施した場合には算定できません。  
② 「妊娠反応定性」、「ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG)」又は「HCG-βサブユニット」を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定します。

内分泌学検査

## [3361] プレグナンジオール(P<sub>2</sub>)

(単位: mg/day)

男性		0.16~0.79
非妊婦	卵胞期	0.28~1.42
	黄体期	0.79~6.83
妊婦	前期	1.29~6.08
	中期	3.05~24.22
	後期	9.10~60.51

## [3362] プレグナントリオール(P<sub>3</sub>)

(単位: mg/day)

男性		0.13~1.60
女性	卵胞期	0.13~1.30
	分泌期	0.13~1.90
	閉経期	0.02~0.83

## [1829] フリーテストステロン(RIA) 年齢別・性別における基準値(メーカー参考値)

(単位: pg/mL)

年齢	男性	女性
20~29	7.6~23.8	0.4~2.3
30~39	6.5~17.7	0.6~2.5
40~49	4.7~21.6	0.3~1.8
50~59	4.6~19.6	0.8~1.7
60~69	5.3~11.5	
70以上	4.6~16.9	

# 内分泌学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考	
膵臓・消化管	1301 インスリン (IRI)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	2	106 生Ⅱ	CLEIA法	負荷前1.84 ~ 12.2 ( $\mu$ IU/mL)	溶血で低値。	
	1311 C-ペプチド (CPR)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	2	111 生Ⅱ	CLEIA法	負荷前0.61 ~ 2.09 (ng/mL)	蓄尿保存剤を蓄尿前、あるいは初回排尿時に尿と同時に蓄尿容器に入れて下さい。尿C-ペプチド安定化剤を使用した検体は、他の項目に影響を与えるため、他の項目との共用依頼は避けて下さい。	
		1321	蓄尿3.0					J		24時間尿 29.2 ~ 167 随時尿 設定なし ( $\mu$ g/day)
	3947	グルカゴン (IRG)	血液3.0 血漿0.5	I1	凍結	5~11	150 生Ⅱ	RIA2抗体法	70 ~ 174 (pg/mL)	⑫
	1351	ガストリン	血液2.0 血清0.4	A	凍結	3~5	104 生Ⅱ	RIA PEG法	負荷前200以下 (pg/mL)	⑫
その他の	1171 レニン活性 (PRA)	血液3.0 血漿0.3	G	凍結	4~6	100 生Ⅱ	RIA2抗体法	臥位 0.3 ~ 2.9 立位 0.3 ~ 5.4 (ng/mL/hr)	採血時刻、安静度、体位によって測定値に差が出ますので、早朝空腹時30分間安静後の採血をお勧め致します。	
	4021 レニン定量 (活性型)	血液2.0 血漿0.5	G	凍結	3~6	108 生Ⅱ	RIA固相法 (IRMA)	随時 3.2 ~ 36 臥位 2.5 ~ 21 立位 3.6 ~ 64 (pg/mL)		
	3461 アンギオテンシン I	血液2.0 血漿0.2	G	凍結	6~8		RIA2抗体法	110以下 (pg/mL)		
	3462 アンギオテンシン II	血液2.0 血漿0.3	G	凍結	6~8		RIA2抗体法	22以下 (pg/mL)		
	3392 ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド (HANP)	血液3.0 血漿0.5	I1	凍結	2~4	227 生Ⅱ	CLEIA法	43以下 (pg/mL)	I1 (5mL用) 容器に血液3.0mL注入混和し、血漿分離後凍結保存して下さい。溶血で低値。	
	4068 ヒト脳性Na利尿ペプチド (BNP)	血液2.0 血漿0.5	G	凍結	2	136 生Ⅱ	CLEIA法	18.4以下 (pg/mL)		
	590 ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体 N端フラグメント (NT-proBNP)	血液2.0 血清0.4	A	冷蔵	1~2	136 生Ⅱ	ECLIA法	125以下 (pg/mL)		
	3215 オステオカルシン (BGP)	血液2.0 血清0.3	A	凍結	3~5	161 生Ⅱ	ECLIA法	閉経前女性 7.8 ~ 30.8 閉経後女性 14.2 ~ 54.8 男性 8.4 ~ 33.1 (ng/mL)		
	3241 低カルボキシル化オステオカルシン (ucOC)	血液2.0 血清0.5	A	凍結	3~5	158 生Ⅱ	ECLIA法	4.50未満 (ng/mL)	溶血でのご依頼は避けて下さい。	
	3316 サイクリックAMP (C-AMP)	血液2.0 血漿0.3	G	凍結	5~11	175 生Ⅱ	RIA DCC法	11 ~ 21 (pmol/mL)		
	3315	蓄尿1.0	N					1.8 ~ 6.3 ( $\mu$ mol/day)	トルエン1~2mL入容器に24時間蓄尿し、よく混和後必要量を凍結保存して下さい。蓄尿量を記入して下さい。	

内分泌学検査

- ① 同時に血液及び尿の両方の検体について測定した場合は、血液の場合の所定点数のみを算定します。
- ② 「レニン活性」と「レニン定量」を併せて行った場合は、一方の所定点数のみ算定します。
- ③ 「BNP」「NT-proBNP」「HANP」のうち2項目以上をいずれかの検査を行った日から起算して1週間以内に実施した場合は、主たるもの1つに限り算定できます。なお、「BNP」を実施した場合は、診療報酬明細書の摘要欄に本検査の実施日(「NT-proBNP」又は「HANP」を併せて実施した場合は、併せて当該検査の実施日)を記載して下さい。
- ④ 「BNP」または「NT-proBNP」は心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月1回に限り算定できます。
- ⑤ 「NTx」、「オステオカルシン」、「尿中Dpd」、「TRACP-5b」を併せて実施した場合は、いずれか1つのみ算定できます。「オステオカルシン」は、統廃性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定及び原発性又は統廃性の副甲状腺機能亢進症による副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術後の治療効果判定に際して実施した場合のみ算定できます。
- ⑥ 低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)は、骨粗鬆症におけるビタミンK<sub>2</sub>剤の治療選択目的で行った場合又は治療経過観察を行った場合に算定できます。ただし、治療開始前においては1回、その後は6ヶ月以内に1回に限り算定できます。





## 内分泌負荷試験

負荷試験	臨床的意義																		
<p><b>ブドウ糖負荷試験 (OGTT)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 早朝空腹時に採血する。(前)</li> <li>2. ブドウ糖75g (50gまたは100g) を250～350mLの水に溶かし5分以内に飲用。</li> <li>3. 飲用後30分、60分、90分、120分、150分、180分に採血する。</li> <li>4. 血糖、インスリン、C-ペプチドなどを測定する。</li> </ol> <p>注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>OGTTの結果に影響を与える因子として、長時間の絶食、薬物の服用などがあります。糖飲用時に悪心、嘔吐、下痢などを訴えることがあり、これらは血糖や血漿インスリン反応に影響を与えますので注意を要します。</li> </ul>	<p><b>Ⅰ「糖尿病型と判定する」検査結果と糖尿病の診断</b></p> <p>A. ①～③のいずれかに該当する場合には糖尿病型と判定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 随時血糖値200mg/dL以上が確認された場合。</li> <li>② 早朝空腹時血糖126mg/dL以上が確認された場合。</li> <li>③ 75g糖負荷試験で2時間200mg/dL以上が確認された場合。</li> </ol> <p>B. 別の日に検査して①～③の値いずれかで「糖尿病型」が確認できれば糖尿病と診断する。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>75g OGTTにおける判定区分と判定基準(注1)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;"></th> <th style="width: 25%;">空腹時</th> <th style="width: 25%;">血糖測定時間</th> <th style="width: 25%;">負荷後2時間</th> <th style="width: 20%;">判定区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed; font-size: small;">(静脈血糖)   グルコース濃度</td> <td style="text-align: center;">126mg/dL以上</td> <td style="text-align: center;">◀または▶</td> <td style="text-align: center;">200mg/dL以上</td> <td style="text-align: center;">糖尿病型</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">糖尿病型にも正常型にも属さないもの</td> <td style="text-align: center;">境界型</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">110mg/dL未満</td> <td style="text-align: center;">◀そして▶</td> <td style="text-align: center;">140mg/dL未満</td> <td style="text-align: center;">正常型</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p><b>Ⅱ血糖検査を繰り返さなくても糖尿病と診断できる場合</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>口渇、多飲、多尿、体重減少など糖尿病の特徴的な症状があって、さらに「糖尿病型」であれば糖尿病と診断してよい。</li> <li>血糖値には測定のばらつきがあるので、糖尿病の症状がない場合は1回の検査が「糖尿病型」であっても確診のためには再検査を必要とする。 ただし、HbA1c (注2、3) が6.5%以上であれば糖尿病と診断できる。</li> <li>現在糖尿病型であり、かつ過去に高血糖を示した資料(検査データ)がある場合には糖尿病と診断して良い。</li> <li>過去に糖尿病として診療された病歴などの資料がある場合および糖尿病網膜症が見出された場合も糖尿病と診断してよい。</li> </ul> <p style="font-size: small;">(注1) 正常型であっても1時間血糖値が180mg/dL以上の場合は、糖尿病型に移行する率が高いので境界型に準じた扱いとする。 (注2) HbA1cにはいろいろな測定法があるので、糖尿病学会の標準品で補正したものにする。 (注3) HbA1cの分布は正常型から糖尿病型のものとのオーバーラップが大きく、HbA1cが6.5%未満であっても「糖尿病」を否定する根拠にはならない。</p>		空腹時	血糖測定時間	負荷後2時間	判定区分	(静脈血糖) グルコース濃度	126mg/dL以上	◀または▶	200mg/dL以上	糖尿病型	糖尿病型にも正常型にも属さないもの			境界型	110mg/dL未満	◀そして▶	140mg/dL未満	正常型
	空腹時	血糖測定時間	負荷後2時間	判定区分															
(静脈血糖) グルコース濃度	126mg/dL以上	◀または▶	200mg/dL以上	糖尿病型															
	糖尿病型にも正常型にも属さないもの			境界型															
	110mg/dL未満	◀そして▶	140mg/dL未満	正常型															
<p><b>TRH試験 (TSH分泌負荷試験)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 早朝空腹時に採血する。(前)</li> <li>2. TRH注射液500μg1管(1mL)を静注する。</li> <li>3. 負荷後15分、30分、60分、90分、120分に約2mLずつ採血し、TSHを測定する。</li> </ol>	<p>正常者ではTRH静注後30～60分で10～40μIU/mLの最高値を示しますが、下垂体性甲状腺機能低下症では増加せず、視床下部性では増加します。 未治療のバセドウ病でも変化がみられません。</p>																		
<p><b>LH-RH試験</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 早朝空腹時に採血する。(前)</li> <li>2. LH-RH注射液100μg1管(1mL)を静注する。</li> <li>3. 負荷後15分、30分、60分、120分、180分に約2mLずつ採血し、LHとFSHを測定する。</li> </ol>	<p>血中LHは、LH-RH注射後15～30分で最高値を示し、成人男子で50～100mIU/mL女子で30～100mIU/mLを示します。排卵前期に行なえば数百mIU/mLに上昇します。性腺機能低下で、正常反応が認められれば視床下部障害、低反応では下垂体機能低下症が疑われます。原発性性腺機能不全の場合は過剰反応を示します。</p>																		
<p><b>Rapid ACTHテスト (副腎皮質・ACTH刺激試験)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 早朝空腹時に採血する。(前)</li> <li>2. 合成ACTH注射液を0.25～0.5mgを静注する。</li> <li>3. 負荷後30分、60分に約2mLを採血し、コルチゾールまたは11-OHCSを測定する。</li> </ol>	<p>負荷後30分値または、60分値が前値の2～4倍に増量すれば正常です。前値が正常であることを確認します。クッシング症候群のうち、腺腫では無反応または増加のいずれも認められ、過形成では反応陽性です。アジソン病や皮質ステロイド投与による医原性機能低下症では増加反応を示しません。</p>																		

# 免疫学検査

免疫学検査

自己抗体

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
810	リウマチ因子RF	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	①② 30 免疫	ラテックス凝集免疫比濁法	15以下 (IU/mL)	
3719	IgG型リウマチ因子	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	①③ 203 免疫	ELISA法	2.0未満	⑫
3844	抗シトルリン化ペプチド抗体 (抗CCP抗体)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	③④ 204 免疫	CLIA法	4.5未満 (U/mL)	
820	寒冷凝集反応	血液2.0 血清0.5	A	室温	4~6	11 免疫	HA法	256未満 (倍)	全血での冷蔵保存厳禁 ⑫
826	抗核抗体 (ANA)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	2	105 免疫	FA法	40未満 (倍)	
3626	抗DNA抗体	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	3~5	168 免疫	RIA硫酸塩折法	6.0以下 (IU/mL)	⑫
3617	抗ds-DNA	IgG抗体 血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	168 免疫	ELISA法	12以下 (IU/mL)	⑫
3618		IgM抗体 血液2.0 血清0.3			3~9			6未満 (U/mL)	⑫
3623	抗ss-DNA	IgG抗体 血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	168 免疫	ELISA法	25以下 (AU/mL)	⑫
3624		IgM抗体 血液2.0 血清0.3			3~9			17未満 (U/mL)	⑫
824	抗RNP抗体	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	4~6	144 免疫 <sup>③</sup>	オクタロニー法	陰性 (倍)	⑫
3952		血液2.0 血清0.3			3~5		CLEIA法	10.0未満 (U/mL)	不活化(非働化)検体ではデータ 影響を及ぼす場合がありますので 避けて下さい。 ⑫
825	抗Sm抗体	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	4~6	151 免疫 <sup>③</sup>	オクタロニー法	陰性 (倍)	⑫
3028		血液2.0 血清0.3			3~5		CLEIA法	10.0未満 (U/mL)	不活化(非働化)検体ではデータ 影響を及ぼす場合がありますので 避けて下さい。 ⑫
3643	抗SS-A/Ro抗体	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	4~6	163 免疫 <sup>③</sup>	オクタロニー法	陰性 (倍)	⑫
4188		血液2.0 血清0.3			3~5		CLEIA法	10.0未満 (U/mL)	不活化(非働化)検体ではデータ 影響を及ぼす場合がありますので 避けて下さい。 ⑫
3644	抗SS-B/La抗体	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	4~6	161 免疫 <sup>③</sup>	オクタロニー法	陰性 (倍)	⑫
4352		血液2.0 血清0.3			3~5		CLEIA法	10.0未満 (U/mL)	不活化(非働化)検体ではデータ 影響を及ぼす場合がありますので 避けて下さい。 ⑫
3633	抗Scl-70抗体(強皮症抗体) (トポイソメラーゼ抗体)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	4~6	161 免疫 <sup>③</sup>	オクタロニー法	陰性 (倍)	⑫
3819		血液2.0 血清0.3			3~5		CLEIA法	10.0未満 (U/mL)	不活化(非働化)検体ではデータ 影響を及ぼす場合がありますので 避けて下さい。 ⑫

- ① 「リウマチ因子RF」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体」、「MMP-3」、「免疫複合体 (C1q)」、「モノクローナルRF結合免疫複合体」、「IgG型リウマチ因子」、「C<sub>3</sub>d結合免疫複合体」のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの2つに限り算定できます。
- ② 「抗ガラクトース欠損IgG抗体」と「リウマチ因子RF」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。
- ③ 「抗CCP抗体」「抗ガラクトース欠損IgG抗体」「MMP-3」「免疫複合体 (C1q)」「モノクローナルRF結合免疫複合体」「IgG型リウマチ因子」「C<sub>3</sub>d結合免疫複合体」のうち2項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの1つに限り算定できます。
- ④ 関節リウマチと確定診断できない者に対して診断の補助として検査を行った場合に、原則として1回を限度として算定できます。  
ただし、当該検査結果が陰性の場合においては、3ヶ月に1回に限り算定できます。別に、関節リウマチ治療薬の選択のために行う場合においては、患者1人につき1回に限り算定できます。なお、当検査を2回以上算定するにあたっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。

# 免疫学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
4065	抗Jo-1抗体	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	4~6	140 免疫 <sup>③</sup>	オクタロニー法	陰性 (倍)	⑫
3029					3~5		CLEIA法	10.0未満 (U/mL)	
3622	抗セントロメア抗体	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	① 179 免疫	ELISA法	陰性 10.0未満 判定保留 10~15.9 陽性 16.0以上 (index)	⑫
842	抗ミトコンドリア抗体 (AMA)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	186 免疫	FA法	陰性20未満 (倍)	⑫
3406	抗ミトコンドリアM2抗体	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	194 免疫	CLEIA法	INDEX 7.0未満 判定 陰性(-)	不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けて下さい。 ⑫
843	抗平滑筋抗体	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5		FA法	陰性40未満 (倍)	⑫
841	抗胃壁細胞抗体	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5		FA法	陰性10未満 (倍)	⑫
827	マイクロソームテスト	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	② 37 免疫	PA法	陰性(100未満) (倍)	⑫
828	サイロイドテスト	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	37 免疫	PA法	陰性(100未満) (倍)	⑫
3026	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体 (TPO抗体)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	② 146 免疫 <sup>③</sup>	ECLIA法	16未満 (IU/mL)	
3324	抗サイログロブリン抗体 (Tg-Ab)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	144 免疫 <sup>③</sup>	ECLIA法	28未満 (IU/mL)	
3326	TSHレセプター抗体 (TRAb) (TBII)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	2	③ 226 免疫	ECLIA法	2.0未満 (IU/L)	TSHレセプターのTSH結合部位を認識するM22抗体(抗TSHレセプターヒトモノクローナル抗体)を用いた第3世代TRAbです。
3168	TSH刺激性レセプター抗体 (TSAb)	血液4.0 血清0.8	A	凍結	4~6	③ 340 免疫	Bioassay EIA	120以下 (%)	⑫
3629	抗アセチルコリン受容体結合抗体	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	4~8	④ 822 免疫	RIA法	0.2以下 (nmol/L)	⑫
3648	ミエリン塩基性蛋白 (MBP)	髄液0.3	P1	凍結	4~10	⑦ 577 尿便	ELISA法	102以下 (pg/mL)	⑫
887	免疫複合体 (C1q)	血液2.0 血清0.3	A	凍結	3~5	⑤⑥ 157 免疫 <sup>③</sup>	ELISA法	3.0以下 (μg/mL)	⑫
4093	免疫複合体 (モノクローナルRF)	血液2.0 血清0.2	A	凍結	3~9	194 免疫	EIA法	4.2未満 (μg/mL)	⑫
3511	精子不働化抗体	血液2.0 血清0.3	A	凍結	6~8	-	不働化法	(-) 判定基準: 下記参照	溶血・乳び検体などでは精子を観察できず検査できない場合がありますのでご注意ください。 ⑫

自己抗体

免疫学検査

- 「抗セントロメア抗体」は、原発性胆汁性肝硬変又は強皮症の診断又は治療方針の決定を目的に用いた場合のみ算定できます。
- 「抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体」を「マイクロソームテスト」と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定します。
- 「TSHレセプター抗体」と「TSH刺激性レセプター抗体」を同時に行った場合は、いずれか一方のみ算定できます。
- 「抗アセチルコリン受容体結合抗体」は、重症筋無力症の診断又は診断後の経過観察の目的で行った場合に算定できます。
- 「リウマチ因子RF」「抗ガラクトース欠損IgG抗体」「MMP-3」「免疫複合体(C1q)」「モノクローナルRF結合免疫複合体」「IgG型リウマチ因子」「C<sub>3</sub>d結合免疫複合体」のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの2つに限り算定できます。
- 「抗CCP抗体」「抗ガラクトース欠損IgG抗体」「MMP-3」「免疫複合体(C1q)」「モノクローナルRF結合免疫複合体」「IgG型リウマチ因子」「C<sub>3</sub>d結合免疫複合体」のうち2項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの1つに限り算定できます。
- 「ミエリン塩基性蛋白(MBP)(髄液)」は、多発性硬化症の診断の目的で行った場合に算定する。

## [3511] 精子不働化抗体 (判定基準)

SIV値	判定
1.40以下	(-)
1.41 ~ 1.99	判定保留
2.00 ~ 20.00	(+)
20.01以上	STRONG POSITIVE



# 免疫学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
4387	抗カルジオリピン-β <sub>2</sub> GPI複合体抗体	血液2.0 血清0.3	A	凍結	3~5	① 223 免疫	ELISA法	3.5未満 (U/mL)	⑫
3951	抗カルジオリピン抗体IgG	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	① 232 免疫	ELISA法	10未満 (U/mL)	⑫
3166	抗好中球細胞質抗体 (PR3-ANCA)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	267 免疫	CLEIA法	3.5未満 (U/mL)	不活化(非働化)検体ではデータ 影響を及ぼす場合がありますので 避けて下さい。
4215	抗好中球細胞質抗体 (MPO-ANCA)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	② 265 免疫	CLEIA法	3.5未満 (U/mL)	
4086	抗LKM-1抗体	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~6	③ 221 免疫	ELISA法	陰性 17未満 判定保留 17~49 陽性 50以上 (index)	⑫
4039	抗糸球体基底膜抗体 (抗GBM抗体)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	④ 270 免疫	CLEIA法	3.0未満 (U/mL)	不活化(非働化)検体ではデータ 影響を及ぼす場合がありますので 避けて下さい。
3331	インスリン抗体	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	4~8	110 免疫	RIA法	0.4未満 (U/mL)	⑫
3352	抗GAD抗体	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	⑤⑥ 134 生Ⅱ(④)	ELISA法	5.0未満 (U/mL)	⑫
703	抗IA-2抗体	血液3.0 血清0.6	A	冷蔵	4~7	⑥ 213 生Ⅱ(④)	ELISA法	0.6未満 (U/mL)	⑫
4032	抗ガラクトース欠損 IgG抗体	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	⑦⑧⑨ 117 免疫	ECLIA法	6.0未満 (AU/mL)	⑫
3169	MMP-3 (マトリックスメタロプロテイナーゼ-3)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	⑦⑨ 116 免疫	ラテックス凝集比濁法	M 36.9~121.0 F 17.3~59.7 (ng/mL)	
3954	ループス抗凝固因子 (ループスアンチコアグラント)	血液1.8 血漿1.0	F	凍結	3~5	281 免疫	希釈ラッセル蛇毒 時間法	1.3未満	⑫
3603	デスマグレイン1抗体	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	300 免疫	CLEIA法	20.0未満 (U/mL)	不活化(非働化)検体ではデータ 影響を及ぼす場合がありますので 避けて下さい。
3604	デスマグレイン3抗体	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	270 免疫	CLEIA法	20.0未満 (U/mL)	不活化(非働化)検体ではデータ 影響を及ぼす場合がありますので 避けて下さい。
3422	抗BP180抗体	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	270 免疫	CLEIA法	9.0未満 (U/mL)	不活化(非働化)検体ではデータ 影響を及ぼす場合がありますので 避けて下さい。
1746	抗MDA5抗体	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	270 免疫	ELISA法	INDEX 32未満 判定 陰性(-)	不活化(非働化)検体ではデータ 影響を及ぼす場合がありますので 避けて下さい。
1760	抗Mi-2抗体	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	270 免疫	ELISA法	INDEX 53未満 判定 陰性(-)	不活化(非働化)検体ではデータ 影響を及ぼす場合がありますので 避けて下さい。
1759	抗TIF1-γ抗体	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	270 免疫	ELISA法	INDEX 32未満 判定 陰性(-)	不活化(非働化)検体ではデータ 影響を及ぼす場合がありますので 避けて下さい。
3982	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体 (MUSK抗体)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	4~10	1000 免疫	RIA法	0.02未満 (nmol/L)	⑫
4389	抗アクアポリン4抗体	血液2.0 血清0.4	A	凍結	3~9	1000 免疫	ELISA法	3.0未満 (U/mL) 判定 陰性(-)	⑫
4226	抗ARS抗体	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	190 免疫	ELISA法	INDEX 25.0未満 判定 陰性(-)	不活化(非働化)検体ではデータ 影響を及ぼす場合がありますので 避けて下さい。

- ① 「抗カルジオリピン-β<sub>2</sub>GPI複合体抗体」と「抗カルジオリピン抗体IgG」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定します。
- ② 「抗好中球細胞質抗体 (MPO-ANCA)」は急速進行性糸球体腎炎の診断又は経過観察のために測定した場合に算定します。
- ③ 「抗LKM-1抗体」は、ウイルス肝炎、アルコール性肝障害及び薬剤性肝障害のいずれでもないことが確認され、かつ、抗核抗体陰性の自己免疫性肝炎が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できます。その際、診療報酬明細書の摘要欄に抗核抗体陰性であることを記載して下さい。
- ④ 「抗糸球体基底膜抗体 (抗GBM抗体)」は、抗糸球体基底膜抗体腎炎及びグッドパスチャー症候群の診断又は治療方針の決定を目的として行った場合に限り算定します。
- ⑤ 「抗GAD抗体」は、すでに糖尿病の診断が確定した患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合又は自己免疫介在性脳炎・脳症の診断に算定できます。
- ⑥ 「抗IA-2抗体」は、すでに糖尿病の診断が確定し、かつ、「抗GAD抗体」の結果、陰性が確認された患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合に算定できます。なお、算定に当たっては、その理由及び医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。
- ⑦ 「リウマチ因子RF」「RAPA」「抗ガラクトース欠損IgG抗体」「MMP-3」「免疫複合体 (C1q)」「モノクローナルRF結合免疫複合体」「IgG型リウマチ因子」「C<sub>3</sub>d結合免疫複合体」のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの2つに限り算定できます。
- ⑧ 「抗ガラクトース欠損IgG抗体」と「リウマチ因子RF」「RAPA」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。
- ⑨ 「抗CCP抗体」「抗ガラクトース欠損IgG抗体」「MMP-3」「免疫複合体 (C1q)」「モノクローナルRF結合免疫複合体」「IgG型リウマチ因子」「C<sub>3</sub>d結合免疫複合体」のうち2項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの1つに限り算定できます。

# 免疫学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
801	抗ストレプトリジン-O (ASO)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	15 免疫	ラテックス凝集比濁法	239以下 (IU/mL)	
802	抗ストレプトキナーゼ (ASK)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	29 免疫	PA法	2560未満 (倍)	⑫
5931	A群β溶連菌迅速試験	咽頭膿 扁桃膿	P2	冷蔵 又は 室温 2~30℃	2~4	① 127 免疫	イムノクロマト グラフィ法	(-)	スワブキットでの提出は反応に影響をおよぼす可能性があるため検査不能となります。
4051	百日咳菌抗体 (EIA法)	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	2~3	264 免疫	EIA法	PT-IgG 10未満 FHA-IgG 10未満 (EU/mL)	
1527	百日咳抗体IgA	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	3~5	80 免疫	ELISA法	8.5未満 判定基準 下記参照	⑫
1528	百日咳抗体IgM	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	3~5	80 免疫	ELISA法	8.5未満 判定基準 下記参照	⑫
614	百日咳菌DNA	後鼻腔 ぬぐい液	Se	凍結	3~5	360 微生物	LAMP法	陰性 (-)	後鼻腔ぬぐい液は、必ずフロックスワブ (Se) で採取し、滅菌容器 (P1) にスワブを入れて凍結保存して下さい。他項目との重複依頼は避けて下さい。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意下さい。 ⑫
921	マイコプラズマ抗体	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	2	32 免疫	PA法	40未満 (倍)	
3664		血液2.0 血清0.2			4~6		CF法	4未満 (倍)	⑫
3985	マイコプラズマ核酸同定	咽頭 鼻咽頭ぬぐい液	P1	凍結	2~3	300 微生物	Lamp法	陰性 (-)	咽頭もしくは鼻咽頭ぬぐい液は滅菌綿棒でぬぐい、滅菌容器 (P1) に綿棒を入れて凍結保存して下さい。肺炎マイコプラズマ (マイコプラズマ・ニューモニエ) を特異的に検出します。
		喀痰1.0	L						
3567	アスペルギルス抗原	血液3.0 血清1.0	A	冷蔵	3~5	②③ 161 免疫	ELISA法	陰性 (-) 0.5未満 陽性 (+) 0.5以上 (index)	⑫
3156	アスペルギルス抗体	血液3.0 血清1.0	A	冷蔵	6~8		オクタロニー法	陰性 (-)	⑫
3157	クリプトコックス・ ネオフォルマンズ抗原	血液3.0 血清0.8	A	冷蔵	3~5	③ 174 免疫	ラテックス凝集反応法	陰性 (-)	髄液でも可能 ⑫
3089	カンジダ抗原	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	③④ 134 免疫	ラテックス凝集反応法	陰性2未満 (倍)	⑫
3649	カンジダ抗体	血液4.0 血清1.0	A	凍結	15~17		免疫拡散法	(-)	⑫
3464	(1→3)-β-D-グルカン	血液2.0	I6	冷蔵	3~5	③⑤ 207 免疫	発色合成基質法	(カットオフ値) 20.0以下 (pg/mL)	無菌的に採血し、I6容器に注入して下さい。 凍結保存は避けて下さい。 ⑫

- 「A群β溶連菌迅速試験」と「細菌培養同定検査」を同時に実施した場合は、「A群β溶連菌迅速試験」の所定点数のみを算定します。この場合において、「A群β溶連菌迅速試験」の結果が陰性のため、引き続き「細菌培養同定検査」を実施した場合であっても、「A群β溶連菌迅速試験」の所定点数のみを算定します。
- 「アスペルギルス抗原」は、侵襲性肺アスペルギルス症の診断のために実施した場合にのみ算定できます。
- 「(1→3)-β-D-グルカン」を「カンジダ抗原」、「D-アラビニトール」、「アスペルギルス抗原」又は「クリプトコックス・ネオフォルマンズ抗原」と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定します。
- カンジダ血症又はカンジダ肺炎の診断の目的で行った場合に算定します。
- 深在性真菌感染症が疑われる患者に対する治療法の選択又は深在性真菌感染症に対する治療効果の判定に使用した場合に算定します。

## [1527-1528] 百日咳抗体 IgA, 百日咳抗体 IgM 判定基準

NTU値	判定
<8.5	陰性(-)
8.5 ~ 11.5	判定保留(±) ※
>11.5	陽性(+)

※2~4週間後に採血した血清による再検査をお勧めいたします。

### A 一般容器

【保存方法】  
①~③ 室温  
【有効期限】  
① 1年  
② 1年  
③ 1年



分離用 (全血用)

### F 凝固容器 (クエン酸Na入)

【保存方法】  
● 室温  
【有効期限】  
● 1年



### I6 エントキシン専用容器

【保存方法】  
● 室温  
【有効期限】  
● 1年



### Se フロックスワブ

【保存方法】  
● 室温  
【有効期限】  
● 1年



### L 喀痰容器

【保存方法】  
● 室温  
【有効期限】  
●



### P1 滅菌容器

【保存方法】  
● 室温  
【有効期限】  
● 1年



### P2 滅菌綿棒入容器

【保存方法】  
● 室温  
【有効期限】  
● 1年



# 免疫学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
感染症	4332 クラミドフィラニューモニエIgG	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	3~5	70 免疫	ELISA法	陰性 EIU値 30未満 判定基準下記参照	⑫
	4334 クラミドフィラニューモニエIgA	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	3~5	75 免疫	ELISA法	陰性 EIU値 8未満 判定基準下記参照	⑫
	4336 クラミドフィラニューモニエIgM	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	3~5	① 156 免疫	ELISA法	陰性 S/CO値 0.5未満 判定基準下記参照	⑫
	3655 オーム病 (クラミドフィラシッタシ)	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	4~6	79 免疫	CF法	血清 4未満 (倍)	⑫
	3855	髄液0.4	P1					髄液 1未満 (倍)	
	4440 クラミジアトラコマチス 核酸増幅同定	分泌物 初尿・ うがい水5.0	S9 Sa	冷蔵	2~3	④⑤ 198 微生物	リアルタイムPCR法	(-)	検体の取扱い方法は添付文書又はP89をご参照下さい。 容器中の液状検体は、こぼれないようにお願い致します。また、初尿・うがい水は容器の指定範囲内に収まる量を採取して下さい。
2191 淋菌・クラミジアトラコマチス 核酸同時同定	分泌物 初尿・ うがい水5.0	S9 Sa	冷蔵	2~3	③⑤ 278 微生物	リアルタイムPCR法	クラミジアトラコマチス (-) 淋菌 (-)	検体の取扱い方法は添付文書又はP89をご参照下さい。 容器中の液状検体は、こぼれないようにお願い致します。また、初尿・うがい水は容器の指定範囲内に収まる量を採取して下さい。	
4071 淋菌核酸増幅同定	分泌物 初尿・ うがい水5.0	S9 Sa	冷蔵	2~3	②④⑤ 204 微生物	リアルタイムPCR法	(-)	検体の取扱い方法は添付文書又はP89をご参照下さい。 容器中の液状検体は、こぼれないようにお願い致します。また、初尿・うがい水は容器の指定範囲内に収まる量を採取して下さい。	

免疫学検査

- ① 「クラミドフィラニューモニエIgM抗体」と「クラミジアニューモニエ抗体 (IgA・IgG)」を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定できます。
- ② 「淋菌核酸同定」又は「細菌培養同定」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定します。  
「淋菌核酸同定」は、泌尿器又は生殖器又は咽頭からの検体によるものです。ただし、男子尿を含み女子尿は含みません。
- ③ 「淋菌・クラミジアトラコマチス核酸同時同定」は、クラミジア・トラコマチス感染症若しくは淋菌感染症が疑われる患者又はクラミジア・トラコマチスと淋菌による重複感染が疑われる患者であって、臨床所見、問診又はその他の検査によっては感染因子の鑑別が困難なものに対して治療効果判定に実施した場合及び、クラミジア・トラコマチスと淋菌の重複感染者に対して治療効果判定に実施した場合に算定できます。
- ④ 「細菌培養同定検査」及び「淋菌核酸増幅同定」又は「クラミジアトラコマチス核酸増幅同定」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定します。
- ⑤ 「クラミジアトラコマチス核酸増幅同定」及び「淋菌核酸増幅同定」を併せて実施した場合は、「淋菌・クラミジアトラコマチス核酸同時同定」として算定します。

EIU値	判定
EIU < 30	陰性(-)
30 ≤ EIU ≤ 45	判定保留(±)※1
EIU > 45	陽性(+)

※1:28日以降に採血した血清による再検査をお勧めいたします。

EIU値	判定
EIU < 8	陰性(-)
8 ≤ EIU ≤ 12	判定保留(±)※1
EIU > 12	陽性(+)

※1:28日以降に採血した血清による再検査をお勧めいたします。

S/CO値	判定
S/CO < 0.5	陰性(-)
0.5 ≤ S/CO ≤ 1.1	判定保留(±)※1
S/CO > 1.1	陽性(+)

※1:10日以降に採血した血清による再検査をお勧めいたします。

<b>A 一般容器</b>  ① ② ③ 【保存方法】 ①~③ 室温 【有効期限】 ① 1年 ② 1年 ③ 1年 分離用入 (全血用)	<b>K 便容器</b>  【保存方法】 ● 室温 【有効期限】 ● 1年	<b>O2 ウイルス遺伝子容器</b>  【保存方法】 ● 室温 【有効期限】 ● 1年	<b>P1 滅菌容器</b>  【保存方法】 ● 室温 【有効期限】 ● 1年
<b>S3 単純ヘルペス特異抗原採取キット</b>  【保存方法】 ● 室温 【有効期限】 ● 1年	<b>S9 淋菌・クラミジアトラコマチス核酸増幅同定スワブ容器</b>  【保存方法】 ● 室温 【有効期限】 ● 1年	<b>Sa 淋菌・クラミジアトラコマチス核酸増幅同定尿・うがい液容器</b>  【保存方法】 ● 室温 【有効期限】 ● 1年	

# 免疫学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
1811	単純ヘルペスウイルス 特異抗原	塗抹標本 2枚	S3	凍結	3~5	① 180 免疫	FA法	I型抗原 陰性(-) II型抗原 陰性(-)	検体の取扱い方法はP33図を参照 して下さい。  ⑫
3194	HTLV-I抗体 (ATLA抗体)	血液1.0 血清0.2	A	冷蔵	2	85 免疫	PA法	(-)	
3160		血液2.0 血清0.5			3~5	168 免疫	CLEIA法	陰性(-)	測定対象は、抗HTLV-I抗体お よび抗HTLV-II抗体です。型別 の報告ではありません。  ⑫
3327	HIV-1 RNA定量	血液8.0 血漿1.8 (EDTA2K加)	O2	凍結	5~7	520 微生物	リアルタイムPCR法	検出せず (コピー/mL)	必ず専用採血管にて採取の上、正 しく遠心分離してご提出下さい。  ⑫
3162	HIV抗原・抗体	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	② 115 免疫	CLIA法	(-)	
3830	トキソプラズマ IgG抗体	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	93 免疫	ELISA法	6未満 (IU/mL)	判定基準は下記参照  ⑫
3831						95 免疫		0.8未満 (Cut off index)	
3829	トリコスポロン・アサヒ抗体	血液2.0 血清0.3	A	凍結	8~15	873 免疫	Antigen-captured ELISA法	CAI値 0.15未満 陰性(-) 判定基準下記参照	⑫
4519	ヘリコバクター・ピロリ抗体	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	1~2	③ 80 免疫	ラテックス凝集比濁法	10未満 (U/mL)	
5937	クロストリジウム ディフィシル抗原	便 小指頭大	K ※	冷蔵	2~4	80 免疫	イムノクロマト グラフィー法	CDトキシンAB (-)	下痢便をご提出の場合は1mLご提 出下さい。CDトキシンABの結果 を同時に報告させていただきます。
5936	糞便中アデノウイルス抗原	便 小指頭大	K ※	冷蔵	2~4	④ 60 免疫	イムノクロマト グラフィー法	(-)	下痢便を提出の場合は1mLご提出 下さい。
5807	大腸菌O157抗原	便 小指頭大	K ※	冷蔵	2~4	⑤ 165 免疫	イムノクロマト グラフィー法	(-)	下痢便をご提出の場合は1mLご提 出下さい。

- ① 「単純ヘルペスウイルス特異抗原」は、ヘルペスウイルスの型別確認を行った場合に算定できます。
- ② 「HIV抗原・抗体」の保険請求上の名称は「HIV-1, 2抗原・抗体同時測定定性」です。輸血料を算定した患者又は血漿成分製剤（新鮮液状血漿、新鮮凍結人血漿等）の輸注を行った患者に対し、一連として行われた当該輸血又は輸注の最終日から起算して、概ね2ヶ月後に行われた場合は、HIV感染症を疑わせる自他覚症状の有無に関らず、当該輸血又は輸注につき1回に限り、所定点数を算定します。また、他の保険医療機関において輸血料の算定又は血漿成分製剤の輸注を行った場合であっても同様とします。算定の際、診療報酬明細書の摘要欄に当該輸血又は輸注が行われた最終日を記載して下さい。
- ③ 「ヘリコバクター・ピロリ抗体」を含むヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」（平成12年10月31日保険発第180号；保医発0221第31号平成25年2月21日より一部改正）に即して行って下さい。
- ④ 「糞便中アデノウイルス抗原」と「ロタウイルス抗原」を同時に行った場合は、主たる検査のみ算定します。
- ⑤ 「大腸菌O157抗原」、「大腸菌O157抗体」及び「細菌培養同定検査」の「2」の消化管からの検体によるもののうち、いずれかを複数測定した場合は、主たるもののみ算定します。

※使用前の検体採取容器の保管方法について

提出はK容器をお願いします。

P2滅菌綿棒入容器や、P3輸送用スワブキットでの提出は必要検体量が得られませんので、少量不能となります。

IU/mL	判定	解釈
6未満	陰性	トキソプラズマの感染は認められません。
6~8	判定保留	低濃度の抗体が認められ、トキソプラズマ感染の疑いがあります。
9以上	陽性	トキソプラズマ感染が考えられます。

Cut off index	判定	解釈
0.8未満	陰性	最近のトキソプラズマ感染のないことが考えられます。
0.8~0.9	判定保留	10~20日後に再検査およびトキソプラズマIgG抗体検査による確認をお勧めします。
1.0以上	陽性	

CAI (Corrected Absorbance Index) ※	判定
0.15未満	陰性
0.15~0.30未満	判定保留
0.30以上	陽性

※CAI (Corrected Absorbance Index)：補正吸光度

# 免疫学検査

	コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
感 染 症	4633	<b>予約検査</b> クオンティフェロン 4G ELISA	血液5.0	V	冷蔵	3~5	① 612 免疫	ELISA法	陰性 (-)	(注意事項) ◎検査受付可能日は月~土曜日。日・祝日は、受付不可。ただし、土曜日の受付につきましては、弊社営業担当にご確認下さい。 ◎検体は必ず冷蔵保存(2~8℃)。(室温保存不可) ◎結核菌と非結核性抗酸菌との鑑別につきましては、分離培養法・PCR法等を行い、菌の同定を実施して下さい。
	3953	<b>予約検査</b> 結核菌特異的 IFN-γ (Tスポット)	血液5.0	M	室温	4~6	① 612 免疫	ELISPOT法	陰性 (-)	◎検査受付可能日は月~土曜日です。(日・祝日は受付不可・一部地域により受付不可) ◎予約検査のため、ご依頼の際には、採血、採取前に弊社まで必ず連絡をお願い致します。 ◎他の検査項目との重複依頼は避けて下さい。 ◎採血量が5.0mL未満の場合は2本ご提出ください。 ◎検体は採取後、当日中にご提出下さい。(検体安定性は室温保存で32時間です。)

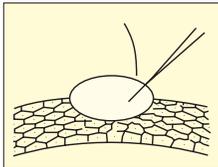
① 診断又は画像診断等により結核感染が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できます。

## (単純ヘルペスウイルス特異抗原 検体取扱い方法)

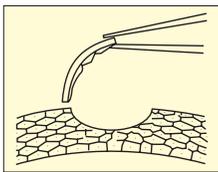
### 1. 検体の採取

#### I. 水疱の場合

小水疱、膿疱、痂皮



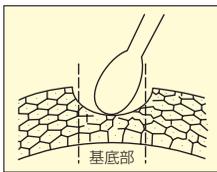
針を挿入し、上部の皮あるいは痂皮を剥がします。



ピンセットで、剥がした皮を除去します。

#### II. 水疱でない場合

#### 基底細胞の採取

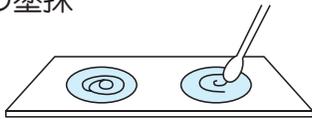


ポリエステル綿棒を生理食塩水や精製水で軽く湿らせ、病巣基底細胞全面を綿棒で強くぬぐいます。

〈注意〉

- ① 早期の水疱病巣が検体として最適です。
- ② 水疱内容液は検体として不適です。
- ③ ウイルス感染細胞は病巣基底細胞にありますので、患者が痛いというくらい強くぬぐい、基底細胞の細胞を採取します。
- ④ 膿が出ている場合は、病巣基底細胞をかき乱さないように注意し、綿棒でまず膿をぬぐい去り、別の綿棒で検体を採取して下さい。

### 2. 検体の塗抹



スライドガラスの2つのウェルに内側から円を描くようにこすらず、軽く叩くように塗抹して下さい。この際綿棒に付着している検体全てが、塗抹されるよう綿棒を少しずつ回転させ、ウェルからはみ出さないように塗抹して下さい。

#### 風 乾

操作中検体はがれ落ちる原因となりますので完全に乾燥させて下さい。ドライヤーの冷風で乾燥させることも可能です。

#### アセトン固定

検体の塗布してあるウェルにアセトンを滴下して固定し、蒸発させます。検体はスライドガラスをご提出下さい。

**A 一般容器**

【保存方法】  
①~③ 室温  
【有効期限】  
① 1年  
② 1年  
③ 1年

分離剤入 (全血用)

**X 肝炎関連核酸検査専用容器**

【保存方法】  
● 室温  
【有効期限】  
● 1年

**M ヘパリンNa入容器**

【保存方法】  
● 室温  
【有効期限】  
● 2年

**V ヘパリンリチウム入採血管(QFT用)**

【保存方法】  
● 4~25℃  
【有効期限】  
● —  
有効期限は採血管に表示  
【検査項目】  
● クオンティフェロン  
4G ELISA  
【採取量】  
● 6mL

# 免疫学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考	
梅毒血清反応	梅毒定性	RPR法	血液4.0 血清1.0	A	冷蔵	2	① 15 免疫	ラテックス凝集比濁法 および凝集法	(-)	
		TPHA	血液2.0 血清0.3				32 免疫	ラテックス凝集比濁法 およびPA法	(-)	
		TP抗体 (TPAb)	血液2.0 血清0.3				32 免疫	CLIA法	(-) 1.00未満 (S/CO)	
	梅毒定量	RPR法	血液4.0 血清1.0	A	冷蔵	2	① 34 免疫	凝集反応	1未満 (-) (倍)	
		TPHA	血液2.0 血清0.5				53 免疫	ラテックス凝集比濁法 およびPA法	80未満 (倍)	
	981	FTA-ABS	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	138 免疫	FA法	陰性 (-)	⑫
	3042	IgM FTA-ABS	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	4~7		FA法	5 (-) 20 (-) (倍)	⑫

肝炎ウイルス	1491	HA抗体 (HAAb)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	② 146 免疫 [⑤]	CLIA法	(-) 1.00未満 (S/CO)	判定基準についてはP35の「肝炎ウイルス検査判定基準」を参照して下さい。
	1494	IgM HA抗体 (IgM HAAb)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	② 146 免疫 [⑤]	CLIA法	(-) 0.80未満 (±) 0.80 ~ 1.20 (+) 1.21以上 (S/CO)	判定基準についてはP35の「肝炎ウイルス検査判定基準」を参照して下さい。
	931	HBs抗原 (HBsAg)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	2	29 免疫	MAT法	(-)	
	1461		血液2.0 血清0.5			1~2	⑦ 88 免疫 [⑤]	CLIA法	(-) 0.05未満 (IU/mL)	判定基準についてはP35の「肝炎ウイルス検査判定基準」を参照して下さい。
	932	HBs抗体 (HBsAb)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	2	32 免疫	PHA法	(-)	
	1465		血液2.0 血清0.5			1~2	⑦ 88 免疫 [⑤]	CLIA法	(-) 10.0未満 (mIU/mL)	判定基準についてはP35の「肝炎ウイルス検査判定基準」を参照して下さい。
	1469	HBe抗原 (HBeAg)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	104 免疫 [⑤]	CLIA法	(-) 1.00未満 (S/CO)	判定基準についてはP35の「肝炎ウイルス検査判定基準」を参照して下さい。
	1473	HBe抗体 (HBeAb)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	104 免疫 [⑤]	CLIA法	(-) インヒビション 50.0%未満	判定基準についてはP35の「肝炎ウイルス検査判定基準」を参照して下さい。
	3300	HBc抗体 (HBcAb)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	③ ⑦ 137 免疫 [⑤]	PHA法	64未満 陰性 (倍)	⑫
	1475		血液2.0 血清0.5			1~2		CLIA法	(-) 1.00未満 (S/CO)	判定基準についてはP35の「肝炎ウイルス検査判定基準」を参照して下さい。
	3291	IgM HBc抗体 (IgM HBcAb)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	③ 146 免疫 [⑤]	CLIA法	(-) 1.00未満 (S/CO)	判定基準についてはP35の「肝炎ウイルス検査判定基準」を参照して下さい。
	3532	HBcrAg (B型肝炎ウイルスコア関連抗原)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	3~6	266 免疫 [⑤]	CLEIA法	3.0未満 (LogU/mL)	⑫
	528	HBV核酸定量 (IU)	血液4.0 血清1.5	X	凍結	2~3	④ ⑥ 271 微生物	リアルタイムPCR法	1.3未満 (定量下限) 増幅反応シグナル： 検出せず (LogIU/mL)	X容器は開封厳禁です。コンタミネーションの影響が大きく検査データに反映しますので、採血時は充分ご注意ください。遠心分離前の凍結は絶対に行わないで下さい。
3996	HBVプレコア/コアプロモーター 変異検出 (PC変異)	血液4.0 血清0.5	X	凍結	7~9	④ ⑤ 450 微生物	PCR法		なお、他のX容器を用いた検査を同時に依頼の際は、別検体が必要です。必ず単独検体にてご提出下さい。⑫	
4041	HBVゲノタイプ	血液2.0 血清0.6	A	冷蔵	3~5	340 免疫 [⑤]	EIA法		HBs抗原量の少ない検体は、判定保留となる場合があります。⑫	

- 梅毒沈降反応(ガラス板法、VDRL法、RPR法、凝集法等)は、定性又は定量ごとに梅毒沈降反応を併せて2種類以上ずつ行った場合でも、それぞれ主たるもののみ算定します。
- 「HA抗体(HAAb)」と「IgM-HA抗体(IgM HAAb)」を同時に算定した場合は、一方の所定点数のみ算定します。
- 「HBc抗体」と「IgM HBc抗体」を同時に測定した場合は、一方の所定点数を算定します。
- P35の「肝炎関連核酸検査」採取・保存時の注意事項をご参照下さい。  
B型肝炎ウイルス既感染者であって、免疫抑制剤の投与や化学療法を行っている悪性リンパ腫等の患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、HBV核酸定量を行った場合は、当該治療中及び治療終了後1年以内に限り、月1回を限度として算定できます。
- 「HBVプレコア/コアプロモーター変異検出(PC変異)」は、下記の「ア」「イ」に掲げる患者に対し算定できます。  
ア B型肝炎急性肝炎患者に対しては、劇症肝炎が疑われる場合に限り、患者1人につき1回算定できます。  
イ B型肝炎慢性肝炎患者に対しては、経過観察中にALT異常値などにより肝炎増悪が疑われ、かつ、抗ウイルス薬等のB型肝炎治療薬の投与対象患者の選択のために行われた場合に限り算定できます。尚、本検査実施以降は、肝炎ウイルス関連検査のうちB型肝炎に関する検査(ただし抗ウイルス薬等のB型肝炎治療薬の治療効果判定に用いる検査を除く。)は算定できません。
- 「HBV核酸定量(IU)」は、「HBV核酸定量検査 基準値: 2.1未満(定量下限) 増幅反応シグナル: 検出せず(Logコピー/mL)」を併記して報告いたします。
- 免疫抑制剤の投与や化学療法を行う患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、当該治療開始前にHBs抗原(精密)、HBs抗体(精密)及びHBc抗体半定量・定量を同時に測定した場合は、患者1人につきそれぞれ1回に限り算定できます。

# 免疫学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
肝炎ウイルス	909	HCV抗体-Ⅲ 血液2.0 血清0.7	A	冷蔵	1~2	108 免疫(包5)	CLEIA法	陰性(-) 1.0未満 (COI)	判定基準については下記の「肝炎ウイルス検査判定基準」を参照して下さい。
	1543	高感度HCVコア抗原 血液2.0 血清0.4	A	冷蔵	1~2	108 免疫(包5)	CLIA法	3.0未満 (fmol/L)	
	4434	HCVセロタイプ [群別] 血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	① 227 免疫(包5)	CLEIA法		⑫
	3314	HCV核酸定量検査 (HCV-RNA定量) 血液4.0 血清1.5	X	凍結	2~3	②③ 437 微生物	リアルタイムPCR法	1.2未満(定量下限) 増幅反応シグナル: 検出せず (LogIU/mL)	X容器は開封厳禁です。コンタミネーションの影響が大きく検査データに反映しますので、採血時は充分ご注意下さい。遠心分離前の凍結は絶対に行わないで下さい。
	4536	HCV RNA コアジェノタイプ 血液4.0 血清0.5	X	凍結	5~7	③	リアルタイムPCR法	検出せず	なお、他のX容器を用いた検査を同時にご依頼の際は、別検体が必要です。必ず単独検体にてご提出下さい。⑫
	3810	IgA-HEV抗体定性 血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~6	210 免疫(包5)	EIA法	陰性(-)	⑫

- ① 「HCVセロタイプ [群別]」は、C型肝炎の診断が確定した患者に対して、C型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できます。
- ② 「HCV核酸定量検査」は、急性C型肝炎の診断、C型肝炎の治療法の選択及び治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できます。治療観察の場合において、「HCV核酸定量検査」及び「HCV核酸検出」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定します。
- ③ 下記の【肝炎関連核酸検査】採取・保存時の注意事項をご参照下さい。

免疫学検査

## 【肝炎関連核酸検査】

容器	対象項目	採取・保存時の注意事項
<b>X：肝炎関連核酸検査専用 (6mL分離剤入り真空採血管)</b> 	<b>HCV 核酸定量検査 (HCV-RNA 定量)</b>  <b>HCV RNA コアジェノタイプ</b>  <b>HBV 核酸定量検査</b>  <b>HBV プレコア / コアプロモーター 変異検出 (PC 変異)</b>	X容器は開封厳禁です。 コンタミネーションの影響が大きく検査データに反映しますので、採血時は充分ご注意下さい。 なお、他のX容器を用いた検査を同時にご依頼の際は、別検体が必要です。必ず単独検体にてご提出下さい。 指定の採取量を容器に採取後、4~5回静かに転倒混和し、室温にて30~60分放置して下さい。凝固完了を確認後、遠心分離しそのまま凍結してご提出下さい。

## 肝炎ウイルス検査判定基準

検査項目	単 位	陰 性	判定保留	陽 性
HA抗体 (CLIA)	s/co*	1.00未満		1.00以上
IgM-HA抗体 (CLIA)	s/co*	0.80未満	0.80~1.20	1.21以上
HBs抗原 (CLIA)	IU/mL	0.05未満		0.05以上
HBs抗体 (CLIA)	mIU/mL	10.0未満		10.0以上
HBe抗原 (CLIA)	s/co*	1.00未満		1.00以上
HBe抗体 (CLIA)	インヒビション%	50.0未満		50.0以上
HBc抗体 (CLIA)	s/co*	1.00未満		1.00以上
IgM-HBc抗体 (CLIA)	s/co*	1.00未満		1.00以上
HCV抗体-Ⅲ (CLEIA)	C.O.I**	1.0未満		1.0以上

\* S/CO……Sample RLU/cut off  
\*\* C.O.I……Cut Off Index

# 免疫学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
991	血液型	血液2.0	C	冷蔵	2	① 24 免疫	マイクロプレート法 ペーパー法 試験管法 カラム凝集法		年齢を必ず明記して下さい。
992									
3607					Rh-Hr式	G	4~6	② 152 免疫	
3611	血液型不適合妊娠	血液10.0 血清4.0 血液2.0 (EDTA2Na)	A + G	冷蔵 室温	5~7		2メルカプト エタノール法		血清と血液は必ずペアで提出して下さい。 年齢・輸血歴・疾患名を必ず明記して下さい。 ⑫
994	直接クームス試験定性	血液2.0	C	室温	2	34 免疫	カラム凝集法	(-)	
995	間接クームス試験定性	血液4.0 血清2.0	Y	室温 冷蔵	2	① 47 免疫	カラム凝集法	(-)	採血後は全血での冷蔵はさけ、速やかに提出して下さい。輸血歴を必ず明記して下さい。 他の項目とは別に単独検体にてご提出して下さい。
3610	不規則性抗体 (間接クームス同定)	血液10.0 血清5.0 血液2.0 (EDTA2K)	Y + C	室温 冷蔵 室温	2~5	①③ 159 免疫	カラム凝集法	(-)	他の項目とは別に単独検体にてご提出下さい。
3612	抗血小板抗体	血液2.0 血清0.4	A	冷蔵	4~7	262 免疫	MPHA法 (混合受身凝集法)	陰性 (-)	年齢・輸血歴・疾患名を必ず明記して下さい。 ⑫

- ① 輸血に伴って行った患者の血液型検査（ABO式及びRh式）の費用として54点を、不規則抗体検査の費用として検査回数にかかわらず1月につき197点を所定点数に加算する。ただし、頻回に輸血を行う場合にあつては、1週間に1回に限り、197点を所定点数に加算する。輸血に伴って、血液交叉試験、間接クームス検査又はコンピュータクロスマッチを行った場合は、血液交叉試験加算、間接クームス検査加算又はコンピュータクロスマッチ加算として、1回につき30点、47点又は30点をそれぞれ加算する。ただし、コンピュータクロスマッチを行った場合は、血液交叉試験加算及び間接クームス検査加算は算定できない。
- ② 「Rh（その他の因子）血液型」については、同一検体による検査の場合は因子の種類及び数にかかわらず、所定点数を算定します。
- ③ 第10部手術第7款の各区分に掲げる胸部手術、同部第8款の各区分に掲げる心・脈管手術、同部第9款の各区分に掲げる腹部手術又は同部第11款の各区分に掲げる性器手術のうち区分番号K898に掲げる帝王切開術等を行った場合に算定する。また、手術に際して輸血が行われた場合は、「不規則抗体」又は「K920」輸血の「注6」に定める不規則抗体検査加算のいずれかを算定します。この場合、診療報酬明細書の摘要欄に輸血歴又は妊娠歴がある旨を記載して下さい。

## ●ABO式血液型

生後1歳未満の乳幼児の場合は、抗A、抗B抗体の産生が不十分なため、表試験のみのご報告となります。成長後の再検査をお勧め致します。



# 免疫学検査

## 免疫学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備 考
869	CRP定量 (C反応性蛋白)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	① 16 免疫	ラテックス凝集比濁法	0.30以下 (mg/dL)	
831	血清補体価 (CH50)	血液2.0 血清0.5	A	凍結	2	38 免疫	リボソーム免疫測定法	31.6 ~ 57.6 (U/mL)	
886	C1q	血液2.0 血清0.4	A	凍結	3~9		ネフェロメトリー法	8.8 ~ 15.3 (mg/dL)	⑫
877	C3 (β <sub>1</sub> C/β <sub>1</sub> Aグロブリン)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	70 免疫	免疫比濁法	86 ~ 160 (mg/dL)	
879	C4 (β <sub>1</sub> Eグロブリン)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	70 免疫	免疫比濁法	17 ~ 45 (mg/dL)	
4054	C1インアクチベーター活性 (C1エステラーゼインヒター活性)	血液1.8 血漿0.2	F	凍結	3~9	268 免疫	発色性合成基質法	70 ~ 130 (%)	⑫
861	IgG	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	② 38 免疫	免疫比濁法	870 ~ 1700 (mg/dL)	
862	IgA	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	② 38 免疫	免疫比濁法	110 ~ 410 (mg/dL)	
863	IgM	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	② 38 免疫	免疫比濁法	M 33 ~ 190 F 46 ~ 260 (mg/dL)	
847	IgG4 (LA)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	3~5	377 免疫	ラテックス免疫比濁法	11 ~ 121 (mg/dL)	⑫
3468	レチノール結合蛋白 (RBP)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	3~5	136 免疫	ラテックス凝集比濁法	M 2.7 ~ 6.0 F 1.9 ~ 4.6 (mg/dL)	⑫
876	トランスフェリン (Tf)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	60 免疫	免疫比濁法	190 ~ 320 (mg/dL)	
3010	プレアルブミン	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	107 免疫	免疫比濁法	22.0 ~ 40.0 (mg/dL)	
1503	β <sub>2</sub> -ミクログロブリン (BMG)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	104 免疫	ラテックス凝集免疫法	1.0 ~ 1.9 (mg/L)	
1504	β <sub>2</sub> -ミクログロブリン [尿]	尿3.0	J					230以下 (μg/L)	早朝第一回尿を避け、 pH5.5 ~ 7.5に調整して下さい。

- ① 「CRP定量」と「血清アミロイドA蛋白 (SAA)」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定します。  
 ② 免疫グロブリンは、IgG、IgA、IgM及びIgDを測定した場合に、それぞれ所定点数を算定します。



# 免疫学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
873	<b>α1酸性糖蛋白</b> (α1AG)	血液2.0 血清0.4	A	冷蔵	3~5		ネフェロメトリー法	M 45~98 F 39~86 (mg/dL)	⑫
3265	<b>血清アミロイドA蛋白</b> (SAA)	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	3~5	① 47 免疫	ラテックス凝集免疫法	8.0以下 (μg/mL)	⑫
882	<b>型判定</b> <b>ハプトグロビン</b> (Hp)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	6~7	136 免疫	TIA法 薄層アクリルアミドゲル 電気泳動法	1-1型 43~180 2-1型 38~179 2-2型 15~116 (mg/dL)	感度(10mg/dL)未満の場合は 型判定ができません。 ⑪
888	<b>型判定 なし</b>				4~5		TIA法	19~170 (mg/dL)	⑪
891	<b>クリオグロブリン定性</b>	血液4.0 血清1.0	A	冷蔵	4~6	42 免疫	寒冷沈殿法	陰性	採血より血清分離まで37℃保存、 血清分離後は4℃保存して下さい。 ⑫
3018	<b>抗ヒト 全血清に よる同定</b> <b>免疫電気泳動</b>	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	6~8	② 170 免疫	免疫電気泳動法		年齢、病歴を必ず記入して下さい。 ⑫
3019	<b>特異 抗血清に よる同定</b>	血液2.0 血清0.4				② 224 免疫			
3812	<b>フリーライトチェーン</b> (免疫グロブリン遊離鎖κ/λ比)	血液4.0 血清0.8	A	冷蔵	3~5	388 免疫	ラテックス比濁法	κ型 3.3~19.4 (mg/L) λ型 5.7~26.3 (mg/L) κ/λ比 0.26~1.65	⑫
3809	<b>予約検査</b> <b>PAIgG</b> (血小板関連IgG)	血液7.5	I9	冷蔵	3~5	③ 198 免疫	ELISA法	46以下 (ng/10 <sup>7</sup> cells)	予約検査ですので、採血前に必ずご連絡 下さい。受託可能日は月曜日から金曜日 までです。末梢血の血小板が3万/μl以 下の場合は専用容器I9を2本使用し、必 ず10mL以上採血して下さい。 ⑫

- ① 「血清アミロイドA蛋白(SAA)」と「CRP定量」と併せて測定した場合は、主たるもののみ算定します。
- ② [免疫電気泳動法加算]免疫電気泳動法の判定について少なくとも5年以上の経験を有する医師が、当該保険医療機関内で作成された免疫電気泳動像を判定し、M蛋白血症等の診断に係る検査結果の報告書を作成した場合に50点を加算します。  
同一検体について免疫電気泳動(抗ヒト全血清)及び免疫電気泳動(特異抗血清)を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定します。
- ③ 「PAIgG(血小板関連IgG)」は、特発性血小板減少性紫斑病の診断又は経過判定の目的で行った場合に算定できます。

血漿  
蛋白

免疫学  
検査

# 免疫学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備 考
865	非特異IgE	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	2	100 免疫	CLEIA法	170以下 (IU/mL以下)	
	特異IgE シングル アレルゲン ミックス アレルゲン	1種につき 血清0.5	A	冷蔵	2~6	① 1種につき 110 免疫	CLEIA法	0.10未満 (IU <sub>A</sub> /mL)	アレルゲンについては、P40~43 の「アレルゲン一覧表」を参照し て下さい。
3889	MAST48mix	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	2~3	1430 免疫	CLEIA法	MASTクラス0 1.39以下 (LC)	判定基準、アレルゲン一覧表は本 頁下段をご参照下さい。
1808	Gly m4 (大豆由来)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	110 免疫	FEIA法	0.35未満 (UA/mL)	⑫
3417	ω-5 グリアジン	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	110 免疫	FEIA法	0.35未満 (UA/mL)	⑫
4338	Ara h 2 (ピーナッツ由来)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	110 免疫	FEIA法	抗体価 0.35未満 (UA/mL) 陰性 (-)	特異的IgEピーナッツの陽性者が 対象です。 判定基準は下記参照 ⑫
3079	ヒトTARC定量 (Th2ケモカイン)	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	2	② 184 免疫	CLEIA法	小児(6~12ヶ月): 1367未満 小児(1~2歳): 998未満 小児(2歳以上): 743未満 成人 450未満 (pg/mL)	

免疫学検査

- ① 特異抗原の種類ごとに所定点数を算定し、1,430点を限度として算定します。  
② 「ヒトTARC定量」は、血清中のTARC量を測定する場合に月1回を限度として算定できます。

【4338】 特異的IgE (Ara h 2) (ピーナッツ由来) (判定基準)	
判定	特異的IgE抗体値 (U <sub>A</sub> /mL)
陰 性	0.35未満
疑陽性	0.35 ~ 3.99
陽 性	4.00以上



## 【特異 IgE 関連セット項目】

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	(含まれるアレルゲン)
1431	鼻炎スクリーニング13	血液5.0 血清2.0	A	冷蔵	2	1430 免疫	CLEIA法	0.10未満	スギ, ヒノキ, カモガヤ, ヤケヒョウヒダニ, ヨモギ, ガ, ブタクサ, ユスリカ (属), イヌ皮膚, ネコ上皮・皮膚, 真菌パネル, ハウスダスト1, ハンノキ (属)
1432	皮膚スクリーニング13								スギ, ヤケヒョウヒダニ, カンジダ, 穀物 パネル, マラセチア, イヌ皮膚, ネコ上皮・ 皮膚, 大豆, 卵白, 牛乳, エンテロトキシンB, ハウスダスト1, エビ
1433	喘息スクリーニング13								スギ, カンジダ, アルテルナリア, アスペルギルス, ヤケヒョウヒダニ, ガ, ユスリカ (属), イヌ皮膚, ネコ上皮・皮膚, 雑草パネル, イネ科パネル, ハウスダスト1, ヒノキ
1434	小児スクリーニング13								ヤケヒョウヒダニ, 卵白, 大豆, 米, 小麦, 牛乳, ソバ, オボムコイド, イヌ皮膚, ネコ上皮・皮膚, 真菌パネル, ハウスダスト1, ピーナッツ
1436	鼻炎スクリーニング9	血液3.0 血清1.2	A	冷蔵	2	990 免疫	CLEIA法	0.10未満	スギ, ヒノキ, ヤケヒョウヒダニ, カモガヤ, ガ, 動物上皮パネル, 雑草パネル, ハウスダスト1, ユスリカ (属)
1437	皮膚スクリーニング9								スギ, ヤケヒョウヒダニ, カンジダ, 食物パネル, 動物上皮パネル, マラセチア, エンテロトキシンB, 穀物パネル, ハウス ダスト1
1438	喘息スクリーニング9								スギ, ヤケヒョウヒダニ, カモガヤ, ガ, ユスリカ (属), 動物上皮パネル, 真菌パネル, イネ科パネル, ハウス ダスト1
1439	小児スクリーニング9								ヤケヒョウヒダニ, 卵白, 大豆, 米, 小麦, 牛乳, 動物上皮パネル, オボムコイド, ハウスダスト1

# 免疫学検査

実施料/各110点 (1430点限度)  
判断料/免疫学的検査 144点

## アレルギー一覧表 (分類別)

アレルギー	コード	成分	アレルギー	コード	成分	アレルギー	コード	成分			
イネ科植物花粉	1789	T80	ヒノキ	動物	1722	F215	レタス	4665	F96	アボカド	
1631 G1	ハルガヤ ※	4133	T70	クワ (属)	1761	E1	ネコ上皮・皮膚 ※	1725	F25	トマト	
1632 G2	ギョウギシバ ※	1563	T23	ホソイトスギ	1763	E3	ウマ皮膚	1726	F26	豚肉	
1633 G3	カモガヤ ※	真菌			1764	E4	ウシ皮膚	1727	F27	牛肉	
1634 G4	ヒロハウシノケガサ	1771	M1	ペニシリウム ※	1765	E5	イヌ皮膚 ※	1730	F209	グレープフルーツ	
1635 G5	ホソムギ	1772	M2	クラドスポリウム ※	1766	E6	モルモット上皮 ※	1731	F31	ニンジン	
1636 G6	オオアワガエリ ※	1773	M3	アスペルギルス ※	1762	E2	イヌ上皮	1733	F33	オレンジ	
1637 G7	アシ ※	1774	M4	ムコール	1551	E71	マウス上皮	1735	F35	ジャガイモ	
1638 G8	ナガハグサ	1775	M5	カンジダ ※	1553	E73	ラット上皮	1736	F36	ココナッツ	
1639 G9	コヌカグサ (属)	1776	M6	アルテルナリア ※	1555	E75	ラット血清蛋白	1737	F37	ムラサキイガイ	
1640 G10	セイバンモロコシ	4132	M8	ヘルミントスポリウム	1757	E78	セキセイインコ羽毛	1740	F40	マグロ	
1645 G15	小麦 (属) (花粉)	3933	O72	黄色ブドウ球菌・エンテロキシンA	4108	E80	ヤギ上皮	1430	F41	サケ	
1646 G16	オオスズメノテッポウ	3934	O73	黄色ブドウ球菌・エンテロキシンB	1752	E81	羊上皮	1744	F44	イチゴ	
1647 G17	スズメノヒエ (属)	3621	M70	マラセチア	4109	E82	家兎上皮	1745	F45	ビール酵母	
雑草花粉			1779	M9	フザリウム	1753	E83	豚上皮	1747	F47	ニンニク
1601 W1	ブタクサ ※	1590	M10	ステムフィリウム	4034	E84	ハムスター上皮	1748	F48	タマネギ	
1602 W2	ブタクサモドキ	1591	M11	リゾプス	1755	E86	アヒル羽毛	3179	F49	リンゴ	
1603 W3	オオブタクサ	1592	M12	オーレオバシジウム	1459	E87	ラット ※	1787	F50	サバ	
1605 W5	ニガヨモギ	1593	M13	フォーマ	1460	E88	マウス ※	1872	F51	タケノコ	
1606 W6	ヨモギ ※	1594	M14	エビコッカム	職業性アレルギー			1873	F54	サツマイモ	
1607 W7	フランスギク ※	1596	M16	カーブラリア	3396	K82	ラテックス	1877	F58	イカ	
1608 W8	タンポポ (属) ※	室内塵			4357	O1	綿	1878	F59	タコ	
1609 W9	ヘラオオバコ	1681	H1	ハウスダスト1	食餌性アレルギー			1788	F60	アジ	
1610 W10	シロザ	1682	H2	ハウスダスト2	1701	F1	卵白 ※	1879	F61	イワシ	
1612 W12	アキノキリンソウ ※	1686	H6	ハウスダスト6	1702	F2	牛乳 ※	1749	F75	卵黄	
1618 W18	ヒメスイバ	ダニ			1703	F3	タラ	4112	F76	α-ラクトアルブミン	
1620 W20	イラクサ	1691	D1	ヤケヒョウヒダニ	1704	F4	小麦 ※	4113	F77	β-ラクトグロブリン	
4230 W90	カナムグラ	1692	D2	コナヒョウヒダニ	1705	F5	ライ麦	4114	F78	カゼイン	
1604 W4	ニセブタクサ	3171	D70	アシプトコナダニ	1706	F6	大麦	4115	F79	グルテン	
1614 W14	アオゲイトウ	3172	D71	サヤアシコナダニ	1707	F7	オート麦	4116	F80	ロブスター	
樹木花粉			4136	D72	ケナガコナダニ	1708	F8	トウモロコシ ※	1797	F81	チェダーチーズ
1651 T1	カエデ (属)	1699	D73	イエニクダニ	1709	F9	米 ※	1750	F83	鶏肉	
1652 T2	ハンノキ (属)	昆虫			1710	F10	ゴマ ※	4117	F84	キウイ	
1653 T3	シラカンバ (属)	1791	I1	ミツバチ	1711	F11	ソバ ※	4118	F85	セロリ	
1655 T5	ブナ (属)	1793	I3	スズメバチ	1712	F12	エンドウ	4119	F86	パセリ	
1656 T6	ビャクシン (属)	1794	I4	アシナガバチ	1713	F13	ピーナッツ ※	4110	F87	メロン	
1657 T7	コナラ (属)	1796	I6	ゴキブリ	1714	F14	大豆 ※	4120	F88	羊肉	
1658 T8	ニレ (属)	1458	I8	ガ	1715	F15	インゲン	4122	F89	マスタード	
1659 T9	オリーブ	1792	I2	スズメバチ (ホワイトフェイス)	1717	F17	ハシバミの実	4139	F90	麦芽	
1660 T10	クルミ (属)	1795	I5	スズメバチ (イエローフェイス)	1718	F18	ブラジルナッツ	4095	F91	マンゴー	
1662 T12	ヤナギ (属)	4240	I73	ユスリカ (属)	1720	F20	アーモンド	4559	F92	バナナ	
1666 T16	マツ (属)	寄生虫			1723	F23	カニ	4081	F93	カカオ	
1667 T17	スギ	1871	P4	アニサキス	1724	F24	エビ	4629	F94	洋ナシ	
4135 T19	アカシア (属)				1721	F201	ペカンナッツ	4003	F95	モモ	

※……ミックスアレルギーの内容アレルギーです。

### MAST48mix アレルギー

含まれるアレルギー
ハウスダスト I、ヨモギ、スギ、ヒノキ、ハンノキ、シラカンバ、カンジダ、アスペルギルス、ラテックス、トマト、モモ、キウイ、バナナ、ゴマ、ソバ、小麦、ピーナッツ、大豆、米、マグロ、サケ、エビ、カニ、ミルク、豚肉、牛肉、鶏肉、オボムコイド、卵白、サバ、木の实ミックス (ハーゼルナッツ・アーモンド・クルミ)、カビミックス (アルテルナリア・ペニシリウム・クラドスポリウム)、ブタクサミックス (ブタクサ・オオブタクサ・ブタクサモドキ)、イネ科ミックス (オオアワガエリ・カモガヤ・ナガハグサ・ハルガヤ・ギョウギシバ)、イヌ・ネコ皮膚ミックス (イヌ皮膚・ネコ皮膚)、ダニミックス (コナヒョウヒダニ・ヤケヒョウヒダニ)
( ) 中は含まれるアレルギー

厚生労働省により食品の原材料表記を定められた特定原材料7品目 (エビ、カニ、卵、小麦、ソバ、落花生、乳) 全てが含まれます。

### MAST48mix アレルギー (判定基準)

判定	MAST クラス	ルミカウント (LC)
陰性	0	0 ~ 1.39
疑陽性	1	1.40 ~ 2.77
陽性	2	2.78 ~ 13.4
	3	13.5 ~ 58.0
	4	58.1 ~ 119
	5	120 ~ 159
	6	160 ~ 200

### ●特異IgEの判定基準

クラス	判定基準 (IU <sub>A</sub> /mL)	判定
0	0.10未満	陰性
	0.10 ~ 0.34	微弱陽性
1	0.35 ~ 0.69	陽性
	0.70 ~ 3.49	
	3.50 ~ 17.4	
	17.5 ~ 52.4	
5	52.5 ~ 99.9	陽性
6	100以上	

# 免疫学検査

## アレルギー一覧表 (50音順)

実施料/各110点 (1430点限度)  
判断料/免疫学的検査 144点

食	1720	F20	アーモンド	真	1772	M2	クラドスポリウム ※	食	4119	F86	パセリ	食	1701	F1	卵白 ※
雑	1614	W14	アオゲイトウ	食	3388	F256	クルミ	食	4559	F92	バナナ	真	1591	M11	リゾブス
樹	4135	T19	アカシア (属)	樹	1660	T10	クルミ (属)	動	4034	E84	ハムスター上皮	食	3179	F49	リンゴ
雑	1612	W12	アキノキリンソウ ※	樹	4133	T70	クワ (属)	イ	1631	G1	ハルガヤ ※	食	1722	F215	レタス
食	3638	F207	アサリ	食	4115	F79	グルテン	樹	1652	T2	ハンノキ (属)	食	4116	F80	ロブスター
昆	1794	I4	アシナガバチ	食	1730	F209	グレープフルーツ	動	1752	E81	羊上皮	職	4357	O1	綿
ダ	3171	D70	アシプトコナダニ	ダ	4136	D72	ケナガコナダニ	樹	1789	T80	ヒノキ				
イ	1637	G7	アシ ※	昆	1796	I6	ゴキブリ	雑	1618	W18	ヒメスイバ				
食	1788	F60	アジ	食	1736	F36	ココナッツ	イ	1634	G4	ヒロハウシノケグサ	ミ	1671	MP1	真菌パネル
真	1773	M3	アスペルギルス ※	ダ	1692	D2	コナヒョウヒダニ	食	1745	F45	ビール酵母				ペニシリウム、クラドスポリウム、アスペルギルス、カンジダ、アルテルナリア
寄	1871	P4	アニサキス	樹	1657	T7	コナラ (属)	樹	1656	T6	ビャクシン (属)	ミ	1669	GP5	イネ科
動	1755	E86	アヒル羽毛	イ	1639	G9	コヌカグサ (属)	食	1713	F13	ピーナッツ ※				ハルガヤ、ギョウギシバ、カモガヤ、オオアワガエリ、アシ
食	4665	F96	アボカド	食	1704	F4	小麦 ※	真	1593	M13	フォーム	ミ	1670	WP5	雑草パネル
真	1776	M6	アルテルナリア ※	イ	1645	G15	小麦 (属) (花粉)	真	1779	M9	フザリウム				ブタクサ、ヨモギ、フランスギク、タンポポ (属)、アキノキリンソウ
食	4112	F76	α-ラクトアルブミン	食	1709	F9	米 ※	雑	1602	W2	ブタクサモドキ	ミ	1672	EP2	動物上皮
動	4109	E82	家兎上皮	食	1710	F10	ゴマ ※	雑	1601	W1	ブタクサ ※				ネコ上皮・皮膚、イヌ皮膚、モルモット上皮、ラット、マウス
ダ	1699	D73	イエニクダニ	食	1430	F41	サケ	動	1753	E83	豚上皮	ミ	1673	FP7	食物パネル
食	1877	F58	イカ	食	1873	F54	サツマイモ	食	1726	F26	豚肉				卵白、牛乳、小麦、ピーナッツ、大豆、米
食	1888	F349	イクラ	食	1787	F50	サバ	樹	1655	T5	ブナ (属)	ミ	1674	FP4	穀物パネル
食	1744	F44	イチゴ	ダ	3172	D71	サヤアシニクダニ	食	1718	F18	ブラジルナッツ				小麦、トウモロコシ、米、ゴマ、ソバ
動	1762	E2	イヌ上皮	樹	1653	T3	シラカンバ (属)	雑	1607	W7	フランスギク ※				
動	1765	E5	イヌ皮膚 ※	雑	1610	W10	シロザ	食	1721	F201	ペカンナッツ				
雑	1620	W20	イラクサ	食	1735	F35	ジャガイモ	真	1771	M1	ペニシリウム ※				
食	1879	F61	イワシ	食	3389	F329	スイカ	雑	1609	W9	ヘラオオバコ	ミ			
食	1715	F15	インゲン	樹	1667	T17	スギ	真	4132	M8	ヘルミントスポリウム				
動	1764	E4	ウシ皮膚	イ	1647	G17	スズメノヒエ (属)	食	4113	F77	β-ラクトグロブリン				
動	1763	E3	ウマ皮膚	昆	1793	I3	スズメバチ	食	3228	F214	ハウレンソウ				
食	1724	F24	エビ	昆	1795	I5	スズメバチ (イエローフェイス)	樹	1563	T23	ホソイトスギ				
真	1594	M14	エビコッカム	昆	1792	I2	スズメバチ (ホワイトフェイス)	イ	1635	G5	ホソムギ				
食	1712	F12	エンドウ	真	1590	M10	ステムフィリウム	食	3640	F338	ホタテ				
食	1707	F7	オート麦	イ	1640	G10	セイバンモロコシ	動	1460	E88	マウス ※				
真	1592	M12	オーレオバシジウム	動	1757	E78	セキセイインコ羽毛	動	1551	E71	マウス上皮				
真	3933	O72	黄色ブドウ球菌・エンテロトキシンA	食	4118	F85	セロリ	食	1740	F40	マグロ				
真	3934	O73	黄色ブドウ球菌・エンテロトキシンB	食	1711	F11	ソバ ※	食	4122	F89	マスタード				
イ	1636	G6	オオアワガエリ ※	食	1714	F14	大豆 ※	樹	1666	T16	マツ (属)				
イ	1646	G16	オオスズメノテッポウ	食	1872	F51	タケノコ	真	3621	M70	マラセチア				
雑	1603	W3	オオブタクサ	食	1878	F59	タコ	食	4095	F91	マンゴー				
食	1706	F6	大麦	食	1748	F48	タマネギ	昆	1791	I1	ミツバチ				
食	1880	F233	オボムコイド	食	1703	F3	タラ	真	1774	M4	ムコール				
樹	1659	T9	オリーブ	食	1889	F350	タラコ	食	1737	F37	ムラサキイガイ				
食	1733	F33	オレンジ	雑	1608	W8	タンポポ (属) ※	食	4110	F87	メロン				
樹	1651	T1	カエデ (属)	食	1797	F81	チェダーチーズ	食	4003	F95	モモ				
食	4081	F93	カカオ	食	1708	F8	トウモロコシ ※	動	1766	E6	モルモット上皮 ※				
食	3639	F290	カキ (貝)	食	1725	F25	トマト	動	4108	E80	ヤギ上皮				
食	4114	F78	カゼイン	食	1750	F83	鶏肉	ダ	1691	D1	ヤケヒョウヒダニ				
雑	4230	W90	カナムグラ	イ	1638	G8	ナガハグサ	樹	1662	T12	ヤナギ (属)				
食	1723	F23	カニ	雑	1605	W5	ニガヨモギ	食	3387	F97	ヤマイモ				
食	3290	F225	カボチャ	雑	1604	W4	ニセブタクサ	昆	4240	I73	ユスリカ (属)				
イ	1633	G3	カモガヤ ※	樹	1658	T8	ニレ (属)	食	4629	F94	洋ナシ				
食	3383	F254	カレイ	食	1731	F31	ニンジン	食	4120	F88	羊肉				
真	1775	M5	カンジダ ※	食	1747	F47	ニンニク	雑	1606	W6	ヨモギ ※				
真	1596	M16	カーブラリア	動	1761	E1	ネコ上皮・皮膚 ※	食	1705	F5	ライ麦				
昆	1458	I8	ガ	室	1681	H1	ハウスダスト1	動	1459	E87	ラット ※				
食	4117	F84	キウイ	室	1682	H2	ハウスダスト2	動	1555	E75	ラット血清蛋白				
食	1727	F27	牛肉	室	1686	H6	ハウスダスト6	動	1553	E73	ラット上皮				
食	1702	F2	牛乳 ※	食	4139	F90	麦芽	職	3396	K82	ラテックス				
イ	1632	G2	ギョウギシバ ※	食	1717	F17	ハシバミの実	食	1749	F75	卵黄				

※……ミックスアレルギーの内容アレルギーです。

イ……イネ科植物花粉 雑……雑草花粉 樹……樹木花粉 真……真菌 ダ……ダニ 昆……昆虫  
寄……寄生虫 動……動物 職……職業性アレルギー 食……食餌性アレルギー ミ……ミックスアレルギー

# 免疫学検査

## アレルギー一覧表（所要日数）

実施料/各110点（1430点限度）  
判断料/免疫学的検査 144点

コード	区分	項目名称	所要日数
イネ科植物花粉			
1631	G1	ハルガヤ ※	2
1632	G2	ギョウギシバ ※	2
1633	G3	カモガヤ ※	2
1634	G4	ヒロハウシノケグサ	2
1635	G5	ホソムギ	2
1636	G6	オオアワガエリ ※	2
1637	G7	アシ ※	2
1638	G8	ナガハグサ	2
1639	G9	コヌカグサ（属）	2
1640	G10	セイバンモロコシ	2
1645	G15	小麦（属）（花粉）	2
1646	G16	オオスズメノテッポウ	2
1647	G17	スズメノヒエ（属）	2
雑草花粉			
1601	W1	ブタクサ ※	2
1602	W2	ブタクサモドキ	2
1603	W3	オオブタクサ	2
1605	W5	ニガヨモギ	2
1606	W6	ヨモギ ※	2
1607	W7	フランスギク ※	2
1608	W8	タンポポ（属） ※	2
1609	W9	ヘラオオバコ	2
1610	W10	シロザ	2
1612	W12	アキノキリンソウ ※	2
1618	W18	ヒメスイバ	2
1620	W20	イラクサ	2
4230	W90	カナムグラ	2
1604	W4	ニセブタクサ	3～5
1614	W14	アオゲイトウ	3～5
樹木花粉			
1651	T1	カエデ（属）	2
1652	T2	ハンノキ（属）	2
1653	T3	シラカンバ（属）	2
1655	T5	ブナ（属）	2
1656	T6	ビャクシン（属）	2
1657	T7	コナラ（属）	2
1658	T8	ニレ（属）	2
1659	T9	オリーブ	2
1660	T10	クルミ（属）	2

コード	区分	項目名称	所要日数
1662	T12	ヤナギ（属）	2
1666	T16	マツ（属）	2
1667	T17	スギ	2
4135	T19	アカシア（属）	3～5
1789	T80	ヒノキ	2
4133	T70	クワ（属）	3～5
1563	T23	ホソイトスギ	3～5
真菌			
1771	M1	ペニシリウム ※	2
1772	M2	クラドスポリウム ※	2
1773	M3	アスペルギルス ※	2
1774	M4	ムコール	2
1775	M5	カンジダ ※	2
1776	M6	アルテルナリア ※	2
4132	M8	ヘルミントンスポリウム	3～5
3933	O72	黄色ブドウ球菌・エンテロトキシンA	2
3934	O73	黄色ブドウ球菌・エンテロトキシンB	2
3621	M70	マラセチア	2
1779	M9	フザリウム	3～5
1590	M10	ステムフィリウム	3～5
1591	M11	リゾプス	3～5
1592	M12	オーレオバシジウム	3～5
1593	M13	フォーマ	3～5
1594	M14	エピコッカム	3～5
1596	M16	カーブラリア	3～5
室内塵			
1681	H1	ハウスダスト1	2
1682	H2	ハウスダスト2	2
1686	H6	ハウスダスト6	2
ダニ			
1691	D1	ヤケヒョウヒダニ	2
1692	D2	コナヒョウヒダニ	2
3171	D70	アシプトコナダニ	2
3172	D71	サヤアシニクダニ	2
4136	D72	ケナガコナダニ	2
1699	D73	イエニクダニ	3～5
昆虫			
1791	I1	ミツバチ	2
1793	I3	スズメバチ	2
1794	I4	アシナガバチ	2

コード	区分	項目名称	所要日数
1796	I6	ゴキブリ	2
1458	I8	ガ	2
1792	I2	スズメバチ（ホワイトフェイス）	3～5
1795	I5	スズメバチ（イエローフェイス）	3～5
4240	I73	ユスリカ（属）	2
寄生虫			
1871	P4	アニサキス	2
動物			
1761	E1	ネコ上皮・皮膚 ※	2
1763	E3	ウマ皮膚	2
1764	E4	ウシ皮膚	2
1765	E5	イヌ皮膚 ※	2
1766	E6	モルモット上皮 ※	2
1762	E2	イヌ上皮	3～5
1551	E71	マウス上皮	3～5
1553	E73	ラット上皮	3～5
1555	E75	ラット血清蛋白	3～5
1757	E78	セキセイインコ羽毛	2
4108	E80	ヤギ上皮	3～5
1752	E81	羊上皮	2
4109	E82	家兎上皮	2
1753	E83	豚上皮	2
4034	E84	ハムスター上皮	2
1755	E86	アヒル羽毛	2
1459	E87	ラット ※	2
1460	E88	マウス ※	2
職業性アレルギー			
3396	K82	ラテックス	2
4357	O1	綿	3～5
食餌性アレルギー			
1701	F1	卵白 ※	2
1702	F2	牛乳 ※	2
1703	F3	タラ	2
1704	F4	小麦 ※	2
1705	F5	ライ麦	2
1706	F6	大麦	2
1707	F7	オート麦	2
1708	F8	トウモロコシ ※	2
1709	F9	米 ※	2
1710	F10	ゴマ ※	2

※……ミックスアレルギーの内容アレルギーです。

## アレルギー一覧表（所要日数）

実施料/各110点（1430点限度）  
判断料/免疫学的検査 144点

コード	区分	項目名称	所要日数
1711	F 11	ソバ ※	2
1712	F 12	エンドウ	2
1713	F 13	ピーナッツ ※	2
1714	F 14	大豆 ※	2
1715	F 15	インゲン	2
1717	F 17	ハシバミの実	2
1718	F 18	ブラジルナッツ	2
1720	F 20	アーモンド	2
1723	F 23	カニ	2
1724	F 24	エビ	2
1721	F 201	ペカンナッツ	3~5
1722	F 215	レタス	3~5
1725	F 25	トマト	2
1726	F 26	豚肉	2
1727	F 27	牛肉	2
1730	F 209	グレープフルーツ	3~5
1731	F 31	ニンジン	2
1733	F 33	オレンジ	2
1735	F 35	ジャガイモ	2
1736	F 36	ココナッツ	2
1737	F 37	ムラサキイガイ	2
1740	F 40	マグロ	2
1430	F 41	サケ	2
1744	F 44	イチゴ	2
1745	F 45	ビール酵母	2
1747	F 47	ニンニク	2
1748	F 48	タマネギ	2
3179	F 49	リンゴ	2
1787	F 50	サバ	2
1872	F 51	タケノコ	2
1873	F 54	サツマイモ	2
1877	F 58	イカ	2
1878	F 59	タコ	2
1788	F 60	アジ	2
1879	F 61	イワシ	2
1749	F 75	卵黄	2
4112	F 76	α-ラクトアルブミン	2
4113	F 77	β-ラクトグロブリン	2
4114	F 78	カゼイン	2
4115	F 79	グルテン	2

コード	区分	項目名称	所要日数
4116	F 80	ロブスター	3~5
1797	F 81	CHEDDARチーズ	2
1750	F 83	鶏肉	2
4117	F 84	キウイ	2
4118	F 85	セロリ	3~5
4119	F 86	パセリ	3~5
4110	F 87	メロン	2
4120	F 88	羊肉	3~5
4122	F 89	マスタード	3~5
4139	F 90	麦芽	2
4095	F 91	マンゴー	2
4559	F 92	バナナ	2
4081	F 93	カカオ	2
4629	F 94	洋ナシ	3~5
4003	F 95	モモ	2
4665	F 96	アボカド	3~5
3387	F 97	ヤマイモ	2
3638	F 207	アサリ	2
3228	F 214	ハウレンソウ	2
3290	F 225	カボチャ	2
1880	F 233	オボムコイド	2
3383	F 254	カレイ	2
3388	F 256	クルミ	3~5
3639	F 290	カキ（貝）	2
3389	F 329	スイカ	3~5
3640	F 338	ホタテ	2
1888	F 349	イクラ	2
1889	F 350	タラコ	2
ミックスアレルギー			
1671	MP1	真菌パネル	2
ペニシリウム、クラドスポリウム、 アスペルギルス、カンジダ、アルテルナリア			
1669	GP5	イネ科	2
ハルガヤ、ギョウギシバ、カモガヤ、 オオアワガエリ、アシ			
1670	WP5	雑草パネル	2
ブタクサ、ヨモギ、フランスギク、タンポポ（属）、 アキノキリンソウ			

コード	区分	項目名称	所要日数
1672	EP2	動物上皮	2
ネコ上皮・皮膚、イヌ皮膚、モルモット上皮、 ラット、マウス			
1673	FP7	食物パネル	2
卵白、牛乳、小麦、ピーナッツ、大豆、米			
1674	FP4	穀物パネル	2
小麦、トウモロコシ、米、ゴマ、ソバ			

免疫学検査

※……ミックスアレルギーの内容アレルギーです。

# ウイルス関連検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
941	風疹ウイルス	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	2	① 79 免疫	HI法	血清 8未満 (倍)	
3901		髄液0.4	P1		4~6			髄液 1未満 (倍)	
3806	風疹ウイルス	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	2~5	② 212 免疫	EIA法	(-)	判定基準は下記をご参照下さい。
3297		髄液0.4	P1		3~5				判定基準は下記をご参照下さい。
3807	風疹ウイルス	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	② 212 免疫	EIA法	(-)	判定基準は下記をご参照下さい。
3298		髄液0.4	P1		3~5				判定基準は下記をご参照下さい。
3690	麻疹ウイルス	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	4~6	① 79 免疫	HI法	血清 8未満 (倍)	
3890		髄液0.4	P1					髄液 1未満 (倍)	
3723	麻疹ウイルス 〔はしか〕	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	8~12	② 212 免疫	NT法	血清 4未満 (倍)	
3923		髄液0.4	P1					髄液 1未満 (倍)	
3776	麻疹ウイルス	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	2~5	② 212 免疫	EIA法	(-)	判定基準は下記をご参照下さい。
3289		髄液0.4	P1		3~5				判定基準は下記をご参照下さい。
3777	麻疹ウイルス	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	② 212 免疫	EIA法	(-)	判定基準は下記をご参照下さい。
3273		髄液0.4	P1		3~5				判定基準は下記をご参照下さい。

- ① 「ウイルス抗体価」は同一検体についてウイルス抗体価の測定を行った場合は、8項目を限度として算定します。  
 ② 「グロブリンクラス別ウイルス抗体価」は、下記①~⑧のウイルスのIgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定します。同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定します。ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)と併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定します。尚、同一検体について、「グロブリンクラス別ウイルス抗体価」の測定を行った場合は、2項目を限度として算定します。
- ①ヘルペスウイルス ②風疹ウイルス ③サイトメガロウイルス ④EBウイルス ⑤麻疹ウイルス ⑥ムンプスウイルス ⑦ヒトパルボウイルスB19  
 ⑧水痘・帯状疱疹ウイルス

\*NT(中和反応): 細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。  
 出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です) 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

\*HI(赤血球凝集抑制反応): 出発希釈 8倍(髄液の測定も可能です) 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

## 依頼方法および結果解釈

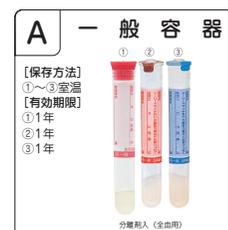
測定値は病状との関連で変動しますので、必ず急性期(発病後早期)および回復期(発病後2~3週間)の血清をペアで依頼して下さい。  
 なお、急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍(2管差)以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

## 麻疹ウイルスIgMの結果における注意事項

伝染性紅斑(パルボウイルスB19感染)、テング熱、突発性発疹(HHV6感染)などでも麻疹ウイルスIgMが陽性となる症例があることが報告されています。  
 診断においては臨床症状および他の検査法を加味し、総合的に判断して下さい。

IgG: [3806] [3297] IgM: [3807] 風疹ウイルス  
 IgG: [3289] [3776] IgM: [3777] 麻疹ウイルス (EIA判定基準)

判定	IgG (EIA価)		IgM (抗体指数)
	血清	髄液	血清
陰性 (-)	2.0未満	0.20未満	0.80未満
判定保留 (±)	2.0 ~ 3.9	0.20 ~ 0.39	0.80 ~ 1.20
陽性 (+)	4.0以上	0.40以上	1.21以上



# ウイルス関連検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考	
3700	ムンプスウイルス (おたふく風邪)	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	4~6	① 79 免疫	HI法	血清 8未満 (倍)	⑫	
3900		髄液0.4	P1					髄液 8未満 (倍)		⑫
3772		血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	8~14	① 79 免疫	NT法	血清 4未満 (倍)	⑫	
3974		髄液0.4	P1					髄液 1未満 (倍)		⑫
3679		血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	4~6	① 79 免疫	CF法	血清 4未満 (倍)	⑫	
3879		髄液0.4	P1					髄液 1未満 (倍)		⑫
3800		IgG	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	2~5	② 212 免疫	EIA法	(-)	判定基準は下記をご参照下さい。
3113			髄液0.4	P1		3~5				判定基準は下記をご参照下さい。
3801		IgM	血液2.0 血清0.3	A		3~5				判定基準は下記をご参照下さい。
3288			髄液0.4	P1		3~5				判定基準は下記をご参照下さい。
3652		水痘・帯状疱疹 ウイルス	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	4~6	① 79 免疫	CF法	血清 4未満 (倍)	⑫
3852			髄液0.4	P1					髄液 1未満 (倍)	
3797	水痘・帯状ヘルペス ウイルス	IgG	血液2.0 血清0.3	A	2~5	② 212 免疫	EIA法	(-)	判定基準は下記をご参照下さい。	
3321	水痘・帯状疱疹 ウイルス	IgG	髄液0.4	P1	3~5				判定基準は下記をご参照下さい。	
3798	水痘・帯状疱疹 ウイルス	IgM	血液2.0 血清0.3	A	3~5				判定基準は下記をご参照下さい。	
3322	水痘・帯状疱疹 ウイルス	IgM	髄液0.4	P1	3~5				判定基準は下記をご参照下さい。	

①② P44 欄外をご参照下さい。

\*CF (補体結合反応) : 補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存して下さい。  
出発希釈 4倍 (髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL (冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

\*NT (中和反応) : 細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。  
出発希釈 4倍 (髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL (冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

\*HI (赤血球凝集抑制反応) : 出発希釈 4倍 (髄液の測定も可能です ムンプスウイルス : 検体量 0.4mL (冷蔵) 基準値 8倍未満 出発希釈 8倍)

## 依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので、必ず急性期 (発病後早期) および回復期 (発病後2~3週間) の血清をペアで依頼して下さい。  
なお、急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍 (2管差) 以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

IgG : [3800] [3113] IgM : [3801] ムンプスウイルス  
IgG : [3797] [3321] IgM : [3798] 水痘・帯状疱疹ウイルス (EIA判定基準)

判定	IgG (EIA価)		IgM (抗体指数)
	血清	髄液	血清
陰性 (-)	2.0未満	0.20未満	0.80未満
判定保留 (±)	2.0~3.9	0.20~0.39	0.80~1.20
陽性 (+)	4.0以上	0.40以上	1.21以上



# ウイルス関連検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
3721	1型	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	7~13	① 79 免疫	NT法	血清 4未満 髄液 1未満	⑫
3921		髄液0.4	P1						
3722	2型	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	7~13	① 79 免疫	NT法	血清 4未満 髄液 1未満	⑫
3922		髄液0.4	P1						
3651	単純ヘルペス ウイルス	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	4~6	① 79 免疫	CF法	血清 4未満 (倍)	⑫
3851		髄液0.4	P1					髄液 1未満 (倍)	
3804	IgG	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	2~5	② 212 免疫	EIA法	(-)	判定基準は下記をご参照下さい。
4031		髄液0.4	P1						3~5
3805	IgM	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	② 212 免疫	EIA法	(-)	判定基準は下記をご参照下さい。
3498		髄液0.4	P1						3~5
3669	サイトメガロ ウイルス	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	4~6	① 79 免疫	CF法	血清 4未満 (倍)	⑫
3869		髄液0.4	P1					髄液 1未満 (倍)	
3802	IgG	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	② 212 免疫	EIA法	(-)	判定基準は下記をご参照下さい。
3458		髄液0.4	P1						3~5
3799	IgM	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	② 212 免疫	EIA法	(-)	判定基準は下記をご参照下さい。
3459		髄液0.4	P1						3~5

①② P44 欄外をご参照下さい。

\*CF (補体結合反応)：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存して下さい。  
出発希釈 4倍 (髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL (冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

\*NT (中和反応)：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意下さい。  
出発希釈 4倍 (髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL (冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

## 依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので、必ず急性期 (発病後早期) および回復期 (発病後2~3週間) の血清をペアで依頼して下さい。  
なお、急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍 (2管差) 以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

IgG：【3804】【4031】 IgM：【3805】 単純ヘルペスウイルス  
IgG：【3802】【3458】 IgM：【3799】 サイトメガロウイルス (EIA判定基準)

判定	IgG (EIA価)		IgM (抗体指数)
	血清	髄液	血清
陰性 (-)	2.0未満	0.20未満	0.80未満
判定保留 (±)	2.0 ~ 3.9	0.20 ~ 0.39	0.80 ~ 1.20
陽性 (+)	4.0以上	0.40以上	1.21以上

# ウイルス関連検査

## ウイルス抗体価

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
3778	抗VCA IgG	血液2.0 血清0.2	A		4~6	② 212 免疫	FA法	血清 10未満 (倍)	
3911		髄液0.4	P1					髄液 1未満 (倍)	
3779	抗VCA IgA	血液2.0 血清0.2	A		4~6	① 79 免疫	FA法	血清 10未満 (倍)	
3912		髄液0.4	P1					髄液 1未満 (倍)	
3780	抗VCA IgM	血液2.0 血清0.2	A		4~6	② 212 免疫	FA法	血清 10未満 (倍)	
3913		髄液0.4	P1					髄液 1未満 (倍)	
3784	抗EB NA	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	4~6	① 79 免疫	FA法	血清 10未満 (倍)	
3917		髄液0.4	P1					髄液 1未満 (倍)	
3781	抗EA-DR IgG	血液2.0 血清0.2	A		4~6	② 212 免疫	FA法	血清 10未満 (倍)	
3914		髄液0.4	P1					髄液 1未満 (倍)	
3782	抗EA-DR IgA	血液2.0 血清0.2	A		4~6	① 79 免疫	FA法	血清 10未満 (倍)	
3915		髄液0.4	P1					髄液 1未満 (倍)	
3783	抗EA-DR IgM	血液2.0 血清0.2	A		4~6		FA法	血清 10未満 (倍)	
3916		髄液0.4	P1					髄液 1未満 (倍)	
3103	抗EA- IgG	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	3~5	② 212 免疫	EIA法	0.5未満陰性	判定基準は下記をご参照下さい。
4070	抗VCA- IgG								
4074	抗VCA- IgM								
4091	抗EBNA- IgG								

①② P44 欄外をご参照下さい。

(EIA判定基準)  
【3103】【4070】【4074】【4091】EBウイルス

判定	抗体指数
陰性(-)	0.5未満
判定保留(±)	0.5~0.9
陽性(+)	1.0以上



# ウイルス関連検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
3702	日本脳炎 ウイルス	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	5~8	① 79 免疫	HI法	血清 10未満 (倍)	(ジャガー、ジャガー2ME)
3902		髄液1.0	P1					髄液 10未満 (倍)	
3681		血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	4~6	① 79 免疫	CF法	血清 4未満 (倍)	
3881		髄液0.4	P1					髄液 1未満 (倍)	
3707	A型	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	4~6	①② 79 免疫	HI法	血清 10未満 (倍)	(H1N1,H3N2)
3686	B型	血液2.0 血清0.2	A					血清 10未満 (倍)	(B-1,B-2)
3653	インフルエンザ ウイルス	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	4~6	①② 79 免疫	CF法	血清 4未満 髄液 1未満  (倍)	
3853		A型	髄液0.4						
3654		B型	血液2.0 血清0.2	A					
3854			髄液0.4	P1					
3695	パラ インフルエンザ ウイルス	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	4~6	① 79 免疫	HI法	血清 10未満 髄液 10未満  (倍)	
3895		1型	髄液0.4						
3696		2型	血液2.0 血清0.2	A					
3896			髄液0.4	P1					
3697		3型	血液2.0 血清0.2	A					
3897			髄液0.4	P1					
3698		4型	血液2.0 血清0.2	A					
3898			髄液0.4	P1					

① P44 欄外をご参照下さい。

② インフルエンザウイルスA型若しくはB型と、ノイラミニダーゼ定性、ヒトメタニューモニエウイルス抗原定性、インフルエンザウイルス抗原定性又はRSウイルス抗原定性のうち3項目を併せて実施した場合は主たるもの2つに限り算定できます。ただし、インフルエンザウイルスA型若しくはインフルエンザウイルスB型、ノイラミニダーゼ定性又はインフルエンザウイルス抗原定性を併せて実施した場合は1項目として数えます。

\*CF (補体結合反応)：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存して下さい。

出発希釈 4倍 (髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL (冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

\*HI (赤血球凝集抑制反応)：出発希釈 10倍 (髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL (冷蔵) 基準値 10倍未満 出発希釈 10倍)

## 依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので、必ず急性期 (発病後早期) および回復期 (発病後2~3週間) の血清をペアで依頼して下さい。

なお、急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍 (2管差) 以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

ウイルス抗体価

ウイルス関連検査

# ウイルス関連検査

## ウイルス抗体価

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
3760	1型	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	8~14	① 79 免疫	NT法	血清 4未満 髄液 1未満	
		髄液0.4	P1						
3761	2型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						
3762	3型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						
3763	4型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						
3764	5型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						
3765	6型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						
3766	7型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						
3767	8型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						
3768	11型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						
3769	19型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						
3678	アデノウイルス	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	4~6	① 79 免疫	CF法	血清 4未満	(倍)
3878		髄液0.4	P1					髄液 1未満	(倍)

① P44 欄外をご参照下さい。

\*CF (補体結合反応)：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存して下さい。  
 出発希釈 4倍 (髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

\*NT (中和反応)：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。  
 出発希釈 4倍 (髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

### 依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので、必ず急性期 (発病後早期) および回復期 (発病後2~3週間) の血清をペアで依頼して下さい。

なお、急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍 (2管差) 以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。



# ウイルス関連検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
3740	1型	血液2.0 血清0.2	A		8~12				
		髄液0.4	P1						
3741	3型	血液2.0 血清0.2	A		8~12				
		髄液0.4	P1						
3742	4型	血液2.0 血清0.2	A		8~12				
		髄液0.4	P1						
3743	5型	血液2.0 血清0.2	A		8~14				
		髄液0.4	P1						
3745	7型	血液2.0 血清0.2	A		8~12				
		髄液0.4	P1						
3746	9型	血液2.0 血清0.2	A		8~12				
		髄液0.4	P1						
3747	11型	血液2.0 血清0.2	A		8~14				
		髄液0.4	P1						
3748	12型	血液2.0 血清0.2	A		8~14				
		髄液0.4	P1						
3749	13型	血液2.0 血清0.2	A		8~12				
		髄液0.4	P1						
3750	14型	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	8~14	① 79 免疫	NT法	血清 4未満 髄液 1未満	
		髄液0.4	P1						
3751	16型	血液2.0 血清0.2	A		8~12				
		髄液0.4	P1						
3752	17型	血液2.0 血清0.2	A		8~12				
		髄液0.4	P1						
3753	18型	血液2.0 血清0.2	A		8~12				
		髄液0.4	P1						
3754	19型	血液2.0 血清0.2	A		8~14				
		髄液0.4	P1						
3755	21型	血液2.0 血清0.2	A		8~14				
		髄液0.4	P1						
3756	22型	血液2.0 血清0.2	A		8~14				
		髄液0.4	P1						
3757	24型	血液2.0 血清0.2	A		8~14				
		髄液0.4	P1						
3758	25型	血液2.0 血清0.2	A		8~12				
		髄液0.4	P1						
3759	30型	血液2.0 血清0.2	A		8~12				
		髄液0.4	P1						
3959								(倍)	⑫

ウイルス抗体価

エコーウイルス

ウイルス関連検査

① P44 欄外をご参照下さい。

\*NT (中和反応)：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意下さい。  
 出発希釈 4倍 (髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL (冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

### 依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので、必ず急性期 (発病後早期) および回復期 (発病後2~3週間) の血清をペアで依頼して下さい。  
 なお、急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍 (2管差) 以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

# ウイルス関連検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
ウイルス抗体価	エコーウイルス	3型	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	4~6	① 79 免疫	HI法	血清 8未満 髄液 8未満
			髄液0.4	P1					
		7型	血液2.0 血清0.2	A					
			髄液0.4	P1					
		11型	血液2.0 血清0.2	A					
			髄液0.4	P1					
		12型	血液2.0 血清0.2	A					
			髄液0.4	P1					

(倍)

⑫

① P44 欄外をご参照下さい。

\*HI (赤血球凝集抑制反応) : 出発希釈 8倍 (髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL (冷蔵) 基準値 8倍未満 出発希釈 8倍)

## 依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので、必ず急性期 (発病後早期) および回復期 (発病後2~3週間) の血清をペアで依頼して下さい。  
なお、急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍 (2管差) 以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

ウイルス関連検査



# ウイルス関連検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
3773	2型	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	8~14	① 79 免疫	NT法	血清 4未満 髄液 1未満	
		髄液0.4	P1						
3774	3型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						
3724	4型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						
4205	5型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						
3725	6型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						
3726	7型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						
3727	9型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						
3728	10型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						
3729	16型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						
3657	9型	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	4~6	① 79 免疫	CF法	血清 4未満	(倍)
3857		髄液0.4	P1					髄液 1未満	(倍)
3730	1型	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	8~14	① 79 免疫	NT法	血清 4未満 髄液 1未満	
		髄液0.4	P1						
3731	2型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						
3732	3型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						
3733	4型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						
3734	5型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						
3735	6型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						

ウイルス抗体価

ウイルス関連検査

① P44 欄外をご参照下さい。

\*CF (補体結合反応): 補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存して下さい。  
 出発希釈 4倍 (髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL (冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

\*NT (中和反応): 細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。  
 出発希釈 4倍 (髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL (冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

### 依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので、必ず急性期(発病後早期)および回復期(発病後2~3週間)の血清をペアで依頼して下さい。  
 なお、急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍(2管差)以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

# ウイルス関連検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考	
ウイルス抗体価	コクサッキーウイルス B群	1型	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	4~6	79 免疫	CF法	血清 4未満 髄液 1未満	(倍)
			髄液0.4	P1						
		2型	血液2.0 血清0.2	A						
			髄液0.4	P1						
		3型	血液2.0 血清0.2	A						
			髄液0.4	P1						
		4型	血液2.0 血清0.2	A						
			髄液0.4	P1						
		5型	血液2.0 血清0.2	A						
			髄液0.4	P1						
		6型	血液2.0 血清0.2	A						
			髄液0.4	P1						

① P44 欄外をご参照下さい。

\*CF (補体結合反応) : 補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存して下さい。  
出発希釈 4倍 (髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL (冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

\*NT (中和反応) : 細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意下さい。出発希釈 4倍 (髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL (冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

## 依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので、必ず急性期 (発病後早期) および回復期 (発病後2~3週間) の血清をペアで依頼して下さい。  
なお、急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍 (2管差) 以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。



# ウイルス関連検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
ウイルス抗体価	RSウイルス	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	8~12	① 79 免疫	NT法	血清 4未満 (倍)	
		髄液0.4	P1					髄液 1未満 (倍)	
		血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	4~6	① 79 免疫	CF法	血清 4未満 (倍)	
		髄液0.4	P1					髄液 1未満 (倍)	
エンテロウイルス	70型	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	7~13		NT法	血清 4未満 髄液 1未満  (倍)	
		髄液0.4	P1						
	71型	血液2.0 血清0.2	A						
		髄液0.4	P1						
ヒトパルボウイルスB19	IgG	血液2.0 血清0.2	A	冷蔵	3~5	①② 212 免疫	EIA法	陰性 (-) 0.80未満	判定基準は下記をご参照下さい。
	IgM	血液2.0 血清0.2	A						

① P44 欄外をご参照下さい。

② ヒトパルボウイルスB19は、紅斑が出現している15才以上の成人について、このウイルスによる感染症が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定します。

\*CF (補体結合反応)：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存して下さい。  
 出発希釈 4倍 (髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL (冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

\*NT (中和反応)：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意下さい。  
 出発希釈 4倍 (髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL (冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

## 依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので、必ず急性期 (発病後早期) および回復期 (発病後2~3週間) の血清をペアで依頼して下さい。  
 なお、急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍 (2管差) 以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

(EIA判定基準)

【3304】ヒトパルボウイルスB19 (IgG)

【3718】ヒトパルボウイルスB19 (IgM)

判定	抗体指数
陰性 (-)	0.80未満
判定保留 (±)	0.80 ~ 0.99
陽性 (+)	1.00以上

# ウイルス関連検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
3110	<b>予約検査**</b> サイトメガロウイルス抗原 (C7-HRP)	血液3.0 (EDTA加)	G	室温	3~5	① 377 免疫	直接酵素抗体法	陰性 (-)	受託可能日は月~金曜日です。 血液は採血後、速やかにご提出ください。採血後24時間以内の血液を使用しない場合、検出率の低下が認められます。 *予約検査ですので採血前に必ずご連絡下さい。⑫
3074	<b>予約検査**</b> サイトメガロウイルス抗原 (C10, C11)	血液5.0 (EDTA加)	G	冷蔵	3~5	① 377 免疫	間接酵素抗体法	陰性 (-)	凍結保存は避けてください。受託可能日は月~金曜日です。 血液は採血後、速やかにご提出ください。採血後24時間以内の血液を使用しない場合、検出率の低下が認められます。 *予約検査ですので採血前に必ずご連絡下さい。⑫
3448	ヒトパピローマウイルスDNA (ハイリスクグループ)	患部 ぬぐい液	S7	凍結	4~6	② 350 微生物	液相(核酸) ハイブリダイゼーション	陰性 (-)	測定対象は16, 18, 31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, 68型です。ただし型別の判定ではありません。⑫
3449	ヒトパピローマウイルスDNA (ローリスクグループ)	患部 ぬぐい液	S7	凍結	5~11		液相(核酸) ハイブリダイゼーション	陰性 (-)	測定対象は6, 11, 42, 43, 44型です。ただし型別の判定ではありません。⑫
3944	ヒトパピローマウイルスDNA (16型、18型、その他ハイリスクグループ)	子宮 頸部	S8 または R2	室温	3~4	② 360 微生物	リアルタイム PCR法	HPV16型: 陰性(-) HPV18型: 陰性(-) HPVその他: 陰性(-)	測定対象は16, 18, 31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, 66, 68型です。16, 18型は個別に残り12種類は「HPVその他」としてまとめて判定します。
3197	ヒトパピローマウイルス (HPV) ジェノタイプ判定	子宮 頸部	S8	室温	6~8	③ 2000 微生物	PCR-rSSO法	陰性	検出可能な型は16, 18, 31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, 68型です。本検査はあらかじめ組織診断によりC1N1またはC1N2と診断された患者から採取された検体を専用容器S8でご提出ください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取扱に十分ご注意ください。(採取方法はP56をご参照ください。)他項目との重複依頼は避けてください。⑫
3823	ウイルス分離		Z	冷蔵	6~23		細胞変性効果、 血球吸着現象、 赤血球凝集反応		分離、同定検査は以下の細胞を使用しています。 PHfb (ヒト繊維芽細胞)、 HEp-2 (ヒト喉頭癌細胞)、 Vero (ミドリザル腎細胞)、 MA104 (アカ毛ザル腎細胞)、 RD-18S (ヒト横紋筋腫細胞)、 MDCK (イヌ腎細胞)、 B95a (マーマセットB細胞)、 AGMK (アフリカミドリザル腎細胞)、 A549 (ヒト肺癌細胞)、 Caco-2 (ヒト結腸腺癌細胞)⑫
3822	ウイルス同定		Z	冷蔵	15~31		標準抗血清による 中和反応・ 免疫蛍光抗体法・ 赤血球凝集抑制反応		

- ① 「サイトメガロウイルス抗原(C7-HRP,C10,C11)」は、臓器移植後若しくは造血幹細胞移植後の患者又はHIV感染者又は高度細胞性免疫不全の患者に対して行った場合のみ算定できます。ただし、高度細胞性免疫不全の患者については、当該検査が必要であった理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。
- ② 予め行われた細胞診の結果、ベセスダ分類上ASC-US (意義不明異型扁平上皮)と判定された患者又は過去に子宮頸部円錐切除を行った患者に対して行った場合に限り算定できます。なお、細胞診と同時に実施した場合は算定できません。HPV核酸検出とHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定できます。
- ③ HPV核酸検出の施設基準を届け出ている保険医療機関において、予め行われた組織診断の結果、C1N1又はC1N2と判定された患者に対し、治療方針の決定を目的として、ハイリスク型HPVのそれぞれの有無を確認した場合に算定できます。当検査を算定するに当たり、予め行われた組織診断の結果及び組織診断の実施日及び、当検査により選択した治療法、また、当検査を2回目以降行う場合は、前回実施日及び前回選択した治療(その後通常の検診となった場合はその旨)を併せて診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。
- ④ P56の「ウイルス分離・同定検体取り扱い方法」をご参照下さい。



## ウイルス分離・同定検体取扱い方法

ウイルス分離・同定検査を実施するためには適切な分離用検査材料と、同時に発病後できるだけ早期に採取することが大切です。ウイルス分離材料の選択は分離率向上のため、できる限り複数の材料をご提出下さい。

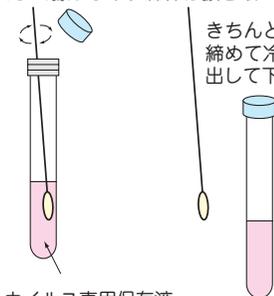
臨床症状	分離可能ウイルス	主要検査材料
上気道感染症	ライノ、パラインフルエンザ	咽頭ぬぐい液、鼻分泌液
	アデノ、コクサッキー、エコー	咽頭ぬぐい液、糞便
下気道感染症	インフルエンザ、パラインフルエンザ、アデノ、RS サイトメガロ	咽頭ぬぐい液、喀痰、気管支洗浄液
紅斑性発疹症	麻疹、風疹	咽頭ぬぐい液
	エコー、コクサッキー	咽頭ぬぐい液、糞便
水疱性発疹症	単純ヘルペス、水痘・带状疱疹	水疱内容
	コクサッキー、エンテロ71	水疱内容、咽頭ぬぐい液、糞便
中枢神経系疾患	エコー、コクサッキー、ポリオ	咽頭ぬぐい液、髄液、糞便
	水痘・带状疱疹、ムンプス	咽頭ぬぐい液、髄液
先天性異常	サイトメガロ、風疹	咽頭ぬぐい液、尿、髄液
	単純ヘルペス、水痘・带状疱疹	水疱内容
嘔吐下痢症	エコー、コクサッキー、アデノ	咽頭ぬぐい液、糞便
出血性膀胱炎	アデノ	尿
耳下腺炎	ムンプス	咽頭ぬぐい液
眼疾患	アデノ、単純ヘルペス、水痘・带状疱疹	結膜ぬぐい液

### ▶ 検体の採取方法

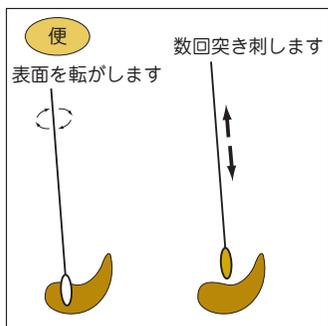
検査材料	ウイルス専用容器への採取方法
患部ぬぐい液・水疱内容 糞便など	滅菌綿棒でぬぐい、下記の採取方法でウイルス専用保存液に採取し、冷蔵保存して下さい。
尿・髄液・胸水・鼻汁など	下記の採取方法でウイルス専用保存液と等量の検体を採取し、冷蔵保存して下さい。
組織	組織小片（5mm角程度）をウイルス専用保存液に入れ冷蔵保存して下さい。

#### 患部ぬぐい液等

管壁でよく擦ります。綿棒は抜き取って下さい。  
きちんとキャップを締めて冷蔵保存し提出して下さい。



ウイルス専用保存液



表面を転がします  
数回突き刺します

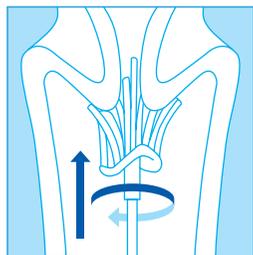
#### 尿、液状検体等

きちんとキャップを締めて冷蔵保存し提出して下さい。

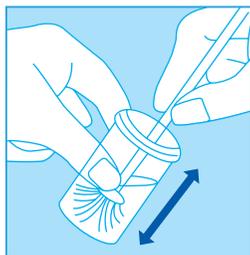


液状検体（尿等）は、ウイルス専用保存液と等量混合して下さい。検体量が保存液より少ない場合、保存液は捨てずに、そのままご提出可能な量の検体を入れて下さい。

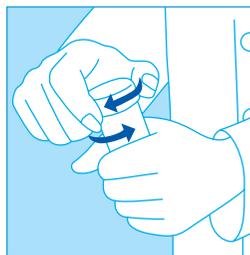
## ヒトパピローマウイルス (HPV) ジェノタイプ型判定 (S8 容器) の採取方法



①子宮頸部の細胞を採取する  
綿棒以外の採取器具（ブラシ、スパーテル）を用いて細胞を採取して下さい。



②細胞を洗い落とす  
採取器具を容器に入れ、容器の底で採取器具の先端が広がるように10回程度押し付けた後、強くかき回して採取した細胞を洗い落として下さい。



③しっかりフタを閉める  
採取器具を取り出し、蓋の黒いラインが容器本体の黒いラインを左に超えるように、しっかり蓋を閉め、室温保存して下さい。  
(注) 採取器具の先端は容器に残さないでください。

#### [ご注意]

妊婦より細胞を採取する場合は、安全性を考慮し、ブラシ、スパーテル等の採取器具の使用は避け、綿棒を使用して下さい。ただし、綿棒で検査に必要な細胞量を採取するために、採取前に別の綿棒で粘液を除去し、採取に使用した綿棒を保存液中で十分にすすぎ、採取した細胞を洗い落として下さい。容器には綿棒の先端を残さないで室温保存して下さい。また、綿棒では無理な力がかかると折れる可能性がありますので十分にご注意ください。

# ウイルス関連検査

## 血清ウイルス抗体検査一覧表（依頼コード一覧）

検査項目	実施料	HI	CF	FA	NT	EIA
風疹	79	941				
	IgG	218				3806
						IgM
麻疹	79	3690			3723	
	IgG	218				3776
						IgM
ムンプス	79	3700	3679		3772	
	IgG	218				3800
						IgM
日本脳炎	79	3702	3681			
インフル エンザ	79	A型 (H1N1)(H3N2)	3707			
		A型	79	3653		
		B型	79	3686	3654	
パライン フルエンザ	79	1型	3695			
		2型	3696			
		3型	3697			
		4型	3698			
エコー	79	1型			3740	
		3型	3691		3741	
		4型			3742	
		5型			3743	
		7型	3692		3745	
		9型			3746	
		11型	3693		3747	
		12型	3694		3748	
		13型			3749	
		14型			3750	
		16型			3751	
		17型			3752	
		18型			3753	
		19型			3754	
		21型			3755	
		22型			3756	
		24型			3757	
		25型			3758	
30型			3759			
単純ヘルペス	79		3651			
	IgG	218				3804
						IgM
	1型	79			3721	
2型	79			3722		
水痘・帯状疱疹	79		3652			
水痘・帯状 ヘルペス	IgG	218				3797
						IgM
RS	79		3670		3739	

ウイルス関連検査

検査項目	実施料	HI	CF	FA	NT	EIA			
アデノ	79		3678						
	79	1型				3760			
		2型				3761			
		3型				3762			
		4型				3763			
		5型				3764			
		6型				3765			
		7型				3766			
		8型				3767			
		11型				3768			
		19型				3769			
		ア群	79	2型				3773	
				3型				3774	
				4型				3724	
				5型				4205	
				6型				3725	
				7型				3726	
				9型		3657		3727	
				B群	79	10型			
16型									3729
1型		3658				3730			
2型		3659				3731			
3型		3660				3732			
4型		3661				3733			
B群	79	5型		3662		3734			
		6型		3663		3735			
サイトメガロ	79		3669						
	IgG	218				3802			
						IgM	3799		
E B	218	抗VCA-IgG			3778	4070			
		抗VCA IgA	79		3779				
		抗VCA-IgM	218		3780	4074			
		抗EBNA	79		3784				
		抗EBNA-IgG	218			4091			
		抗EA-DRIgG	218		3781				
		抗EA-DRIgA	79		3782				
		抗EA-IgG	218			3103			
		抗EA-DRIgM			3783				
		エンテロ	79	70型			3770		
71型					3771				
ヒトパルボ	218	B19IgG				3304			
		B19IgM				3718			

## ウイルス抗原抗体検査 参考資料

### ウイルス抗体検査の特徴

検査方法	原理	特徴
補体結合反応(CF)	抗原抗体複合体と結合した補体を感作血球の不溶血を指標として間接的に証明します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・群特異性が高い</li> <li>・比較的早期に抗体消失</li> <li>・感染スクリーニング用</li> </ul>
赤血球凝集抑制反応(HI)	赤血球凝集能をもつウイルスの場合、その凝集を抑制する抗体を証明します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・型特異性が高い</li> <li>・早期に抗体が上昇、持続する</li> </ul>
蛍光抗体法(FA)	感染細胞中のウイルス抗原と抗体との反応を蛍光標識抗体で証明します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抗体分画が可能</li> </ul>
中和反応(NT)	活性ウイルスを抗体により中和させ、感染防御抗体を証明します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・型特異性が高い</li> </ul>
酵素免疫法(EIA)	固相化したウイルス抗原と抗体を反応させ、酵素標識抗体との反応により証明します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抗体分画が可能</li> <li>・定量的データ</li> <li>・他法に比して高感度</li> </ul>
受身(粒子)凝集反応(PA)	固相化ゼラチン粒子にウイルスを吸着させ、これに抗体を反応させ、凝集の有無により証明します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高感度</li> </ul>
ウエスタンブロット法(WB)	転写膜に分画された抗原タンパクのバンドと特異的に反応する抗体を検出します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特異性が高い</li> <li>・確認試験</li> </ul>

### 検出抗体の性質

		性質			
		動態	抗ウイルス抗体活性	補体結合能	胎盤移行性
抗体	IgM	早期に産生されるが短時間で消失	+	+	-
	IgG	IgM に遅れて出現。漸減しながら長期間持続	+	+	+
	IgA	IgM より多少遅れて出現するがIgM より長期間検出可能	+	-	-

### 検査方法と抗体価判定基準の目安

疾患名	検査方法	十分な免疫なし(基準に満たさない)		(十分な免疫あり)
		(-)	(±)~(+)	(+)
麻疹(はしか)	EIA法(IgG)	2.0未満	2.0~15.9	16.0以上
	PA法	16倍未満	16、32、64、128倍	256倍以上
	NT法	4倍未満	4倍	8倍以上
風疹	EIA法(IgG)	2.0未満	2.0~7.9	8.0以上
	HI法	8倍未満	8、16倍	32倍以上
水痘(みずぼうそう)	EIA法(IgG)	2.0未満	2.0~3.9	4.0以上
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	EIA法(IgG)	2.0未満	2.0~3.9	4.0以上

注) ・4疾患とも補体結合反応(CF法)では測定しないこと  
 ・麻疹と流行性耳下腺炎は赤血球凝集抑制法(HI)では測定しないこと

医療関係者のためのワクチンガイドライン 第2版(一般社団法人 日本環境感染学会)より抜粋

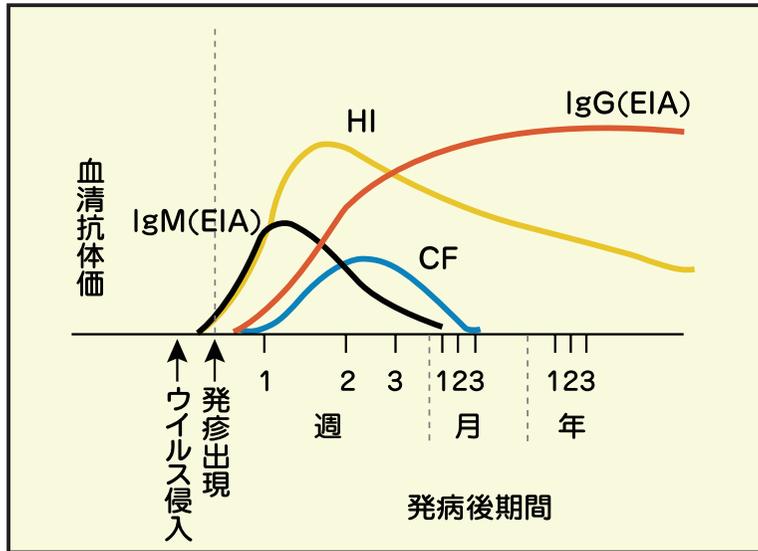
## ウイルス抗原抗体検査 参考資料

### 抗体価の解釈とペア血清検査の意義

ウイルス血清抗体価に正常値という概念はありません。ウイルス感染後に産生される抗体の検出は、過去にそのウイルスに感染したことを回顧的に示すだけで、現在の状態を必ずしも反映してはいません。

ウイルス抗体は感染の直後に高く、以後下降するパターンを示しますが、単一の血清の抗体価の高低だけで近い過去に感染があったかどうかの判定は出来ない場合が多いといえます。ウイルス感染後の抗体応答パターン、各検査法の特徴、検査意義を理解し、目的に応じた検査法を選択する必要があります。

急性期(発病後早期)と回復期(発病後14～21日)のペア血清の抗体価が4倍以上上昇した場合有意と判断しそのウイルスの感染を推定します。ただし、治療にγグロブリンを投与した場合の抗体価の上昇は、必ずしも有意とは考えられません。



ウイルス関連検査

### 目的別検査法選択のめやす

検査法の特徴により目的に合った検査の選択が必要です。自然感染では感染初期に应答するIgM抗体の検出やペア血清による抗体上昇をみるのが有用です。

また、既往の有無やワクチンの効果判定にはEIAによるIgG抗体の検査が有用です。

	自然感染	既往の有無	ワクチン効果判定
麻疹	HI, NT, EIA (IgM) (IgG)	NT, EIA (IgG)	PA, NT, EIA (IgG)
風疹	HI, EIA (IgM) (IgG)	HI, EIA (IgG)	HI, EIA (IgG)
ムンプス	CF, HI, NT, EIA (IgM) (IgG)	EIA (IgG)	NT, EIA (IgG)
水痘	CF, EIA (IgM) (IgG)	EIA (IgG)	IAHA, EIA (IgG)
日本脳炎	HI, CF		HI
インフルエンザ	CF, HI		HI

## ウイルス抗原抗体検査 参考資料

### ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の算定について

同一検体についてウイルス抗体価(定性・半定量・定量)の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。  
ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)は、治療上必要な場合に行うものとし、次に掲げるものを当該検査の対象とする。

- ①アデノウイルス ②コクサッキーウイルス ③サイトメガロウイルス ④EBウイルス ⑤エコーウイルス  
⑥ヘルペスウイルス ⑦インフルエンザウイルスA型 ⑧インフルエンザウイルスB型 ⑨ムンプスウイルス  
⑩パラインフルエンザウイルスI型 ⑪パラインフルエンザウイルスII型 ⑫パラインフルエンザウイルスIII型  
⑬RSウイルス ⑭風疹ウイルス ⑮麻疹ウイルス ⑯日本脳炎ウイルス ⑰オーム病クラミジア  
⑱水痘・帯状疱疹ウイルス

ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)にあたって、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

単純ヘルペスウイルス及び水痘・帯状疱疹ウイルス抗体価を測定した場合はそれぞれ算定できる。

### グロブリンクラス別ウイルス抗体価の算定について

同一検体について、グロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、2項目を限度として算定する。

グロブリンクラス別ウイルス抗体価は、下記の項目のウイルスのIgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。

ただし、⑦のヒトパルボウイルスB19は、紅斑が出現している妊婦について、このウイルスによる感染症が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。

- ①ヘルペスウイルス ②風疹ウイルス ③サイトメガロウイルス ④EBウイルス ⑤麻疹ウイルス  
⑥ムンプスウイルス ⑦ヒトパルボウイルスB19 ⑧水痘・帯状疱疹ウイルス

同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。

ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)と併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。

### ウイルス抗原検査の特徴

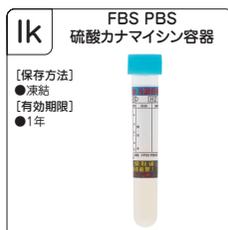
検査方法	原 理	特 徴
シェル・バイアル法	シェル・バイアル(円筒形容器)内のスライドグラスに感受性細胞を培養し、検体を接種した後遠心操作を行う。24～48時間培養後に、ウイルス特異的抗体を用いた蛍光抗体法(FA)により、培養で発現したウイルス特異抗原を検出。	感染性のあるウイルスの検索が、ウイルス分離培養に較べ短時間で可能
酵素免疫法(EIA)	ウイルス抗原と特異抗体を反応させ、酵素反応により検出。特異抗体に直接酵素を標識して検出する直接法と二次抗体に酵素標識する間接法がある。	高感度
蛍光抗体法(FA)	ウイルス抗原と特異抗体を反応させ、蛍光色素により検出。特異抗体に直接蛍光物質を標識して検出する直接法と二次抗体に蛍光物質を標識する間接法がある。	特異性が高い
遺伝子増幅法(PCR)	熱変性1本鎖DNAに目的のプライマー(特異的に増幅させたい領域の各DNA末端と相補的20～30塩基のDNA断片)を結合させ、DNAポリメラーゼによりDNA合成反応を行い、これを繰り返すことにより目的とするDNA配列を指数関数的に増幅。	高感度・特異性が高い
サザンブロット ハイブリダイゼーション	制限酵素で消化した検体DNAをアガロース電気泳動で分画、変性させた1本鎖DNAをメンブランに転写後、標識プローブとハイブリダイゼーションさせ、目的遺伝子を検出。	DNAの量的、質的变化の異常を解析

# 細胞性免疫検査

## 細胞性免疫検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備 考	
3594	<b>予約検査</b> T細胞・B細胞百分率	血液3.0 (ヘパリン加)	M	室温	4~6	198 免疫	フローサイトメトリー法	T細胞 66~89 B細胞 4~13 (%)	予約検査ですので採血前に必ずご 連絡下さい。受託可能日は月曜日 から金曜日です。	
3597	<b>予約検査</b> IgG-FcR+・T細胞 百分率	血液1.0 (ヘパリン加)						2~23 (%)		
3598	IgG	血液各1.0 (ヘパリン加)	M	室温	4~6	157 免疫	フローサイトメトリー法	1~3 (%)		
3599	IgA							1~3 (%)		
3600	<b>予約検査</b> B細胞表面免疫 グロブリン							IgM		3~12 (%)
3601	IgD							3項目 以上の 場合は 3.0		1~10 (%)
3908	K鎖							3~8 (%)		
3909	L鎖							1~5 (%)		
3586	<b>予約検査</b> リンパ球 幼若化試験							血液5.0 (ヘパリン加)		M
3589	Con-A	Con-A <sup>+</sup> 20300~65700 Control 127~456 (cpm)								
3593	<b>予約検査</b> 薬剤によるリンパ球刺激試験 (DLST)	血液12.0 (1薬剤) (ヘパリン加)	M	室温	9~11	④ 345 免疫	<sup>3</sup> H-サイミジン 取り込み能	陰性		
3602	<b>予約検査</b> NK細胞活性	血液5.0 (保存液加)	lb	冷蔵	4~6		<sup>51</sup> Cr遊離法	18~40 (参考値) (%)	⑫	
	<b>予約検査</b> モノクローナル抗体による リンパ球検査	血液3.0 (ヘパリン加)	M	室温	4~6	② (190) 免疫	フローサイトメトリー法		予約検査ですので採血前に必ずご 連絡下さい。受託可能日は月曜日 から金曜日です。 実施抗体一覧はP63を参照して下 さい。⑫	
3720	<b>予約検査</b> 白血病・リンパ腫解析検査 (LLA)	血液5.0 (ヘパリン加)	M	室温	4~6	③ 1940 血液	フローサイトメトリー法		予約検査ですので採血前に必ずご 連絡下さい。受託可能日は月曜日 から金曜日です。	
4363	<b>予約検査</b> 悪性リンパ腫解析 (MLA)	血液5.0 (ヘパリン加)	M	室温	4~6	③ 1940 血液	フローサイトメトリー法		⑫	
3116	<b>予約検査</b> 悪性リンパ種 7AAD解析	リンパ節 5×5×5mm	lk	冷蔵	5~7	③ 1940 血液	フローサイトメトリー法		凍結保存はさけて下さい。 予約検査ですので採血前に必ずご 連絡下さい。受託可能日は月曜日 から金曜日です。 末梢血、骨髄液は避けて下さい。 ⑫	
3223	<b>予約検査</b> CD38マルチ解析	骨髄液1.0	H3	冷蔵	5~7	③ 1940 血液	フローサイトメトリー法		凍結保存はさけて下さい。 予約検査ですので採血前に必ずご 連絡下さい。受託可能日は月曜日 から金曜日です。 ⑫	

- ① 「リンパ球幼若化試験」は、Con-A、PHA又は薬疹の被疑医薬品によるものです。
- ② T細胞サブセット検査は、免疫不全の診断目的に行う検査をいい、検査方法に関らず一連として算定します。
- ③ モノクローナル抗体を用いて蛍光抗体法、酵素抗体法、免疫ロゼット法等により白血病細胞又は悪性リンパ腫細胞の表面抗原又は細胞内抗原の検索を実施して病型分類を行った場合に算定します。対象疾患は白血病、悪性リンパ腫等です。検査に用いられるモノクローナル抗体は、医薬品として承認されたものであり、検査に当たって用いたモノクローナル抗体の種類、回数に関らず、一連として所定点数を算定します。
- ④ 1薬剤 345点、2薬剤 425点、3薬剤 515点



## 細胞性免疫検査 検体取扱い方法

検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	取扱い方法
<b>予約検査</b> T細胞百分率 B細胞百分率	血液 3.0	血液3.0 (ヘパリン加)	血液3.0mL (リンパ球の少ない患者さんは多めに) 採血し、ヘパリン入容器 (M) に注入し、よく混和させ、室温保存 (17～25℃) して下さい。
<b>予約検査</b> IgG-FcR+・ T細胞百分率	血液 1.0	血液1.0 (ヘパリン加)	血液1.0mL (リンパ球の少ない患者さんは多めに) 採血し、ヘパリン入容器 (M) に注入し、よく混和させ、室温保存 (17～25℃) して下さい。
<b>予約検査</b> B細胞表面免疫グロブリン	血液 各1.0	血液 各1.0 (ヘパリン加)	血液1.0mL (リンパ球の少ない患者さんは多めに) 採血し、ヘパリン入容器 (M) に注入し、よく混和させ、室温保存 (17～25℃) して下さい。
<b>予約検査</b> リンパ球幼若化試験	血液 各5.0	血液 各5.0 (ヘパリン加)	血液5.0mL (リンパ球の少ない患者さんは多めに) 採血し、ヘパリン入容器 (M) に注入し、よく混和させ、室温保存 (17～25℃) して下さい。
<b>予約検査</b> NK細胞活性	血液 5.0	血液 5.0 (保存液加)	血液5.0mL (リンパ球の少ない患者さんは多めに) 採血し、専用容器 (Ib) に注入し、よく混和させ、冷蔵保存して下さい。
<b>予約検査</b> 薬剤によるリンパ球 刺激試験 (DLST)	血液 12.0 (1薬剤)	1 薬剤 血液12.0 (ヘパリン加)	受託可能日は月～金曜日です。 1 薬剤増ごとに血液5.0mL必要となります。血液と同時にご依頼薬剤もご提出下さい。 (原則として皮内反応注射薬は検査できません。) ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は (Ib) 容器を使用して下さい。
<b>予約検査</b> モノクローナル抗体による リンパ球検査	血液 3.0	血液 3.0 (ヘパリン加)	血液3.0mL (リンパ球の少ない患者さんは多めに) 採血し、ヘパリン入容器 (M) に注入し、よく混和させ、室温保存 (17～25℃) して下さい。 10項目以上依頼の場合は血液5.0mL採血して下さい。
<b>予約検査</b> 白血病・リンパ腫解析検査 (LLA)	血液 5.0	血液 5.0 (ヘパリン加)	血液5.0mL採血し、ヘパリン入容器 (M) に注入し、よく混和させ、室温保存 (17～25℃) して下さい。
<b>予約検査</b> 悪性リンパ腫解析 (MLA)	血液 5.0	血液 5.0 (ヘパリン加)	血液5.0mL採血し、ヘパリン入容器 (M) に注入し、よく混和させ、室温保存 (17～25℃) して下さい。

### 薬剤によるリンパ球刺激試験 (DLST) の検体について

- 1 薬剤増ごとに血液5.0mL必要となります。
- 1 薬剤で500万個のリンパ球が必要となります。場合により検査に必要なリンパ球数が得られず、検査不能となる場合があります。
- 目安として白血球数が3,000mm<sup>3</sup>以下の場合は倍量程度を採血しご提出下さい。なお、詳しい白血球数とリンパ球%が判明している場合は、担当営業員までお問い合わせ下さい。
- 2項目以上ご依頼の場合は、必ず優先順位をご指示下さい。
- 血液と同時にご依頼薬剤もご提出下さい。  
錠剤 (1錠)、カプセル (1カプセル)、粉末 (1回投与量程度1包)、リキッドタイプの飲み薬 (0.5mL程度)、注射薬 (1バイアル【アンプル】)。皮内反作用テストアンプルは微量のため検査できません。その他の薬剤以外で検査をご依頼の場合は、担当営業員までご連絡下さい。
- ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は専用容器 (Ib) に採血しご提出下さい。
- 検査のご依頼に際しては、専用依頼書を用意しておりますのでご使用下さい。

# 細胞性免疫検査

## モノクローナル抗体一覧表

(注) 実施料 /200 点  
判断料 / 免疫学的検査 144 点 モノクローナル抗体の種類と健常者参考値 (検査方法: フローサイトメトリー法)

CD-No.	コード	基準値 (単位)	主として反応する細胞・代表的な反応性
CD1 <sub>a</sub>	3554	1.0 以下 (%)	胸腺皮質細胞
CD2	3558	71.0 ~ 91.0 (%)	汎 T 細胞・E ロゼット形成細胞
CD3	3552	58.0 ~ 84.0 (%)	成熟 (末梢) T 細胞
CD4	3553	25.0 ~ 54.0 (%)	インデューサー / ヘルパー T 細胞
CD8	3555	23.0 ~ 56.0 (%)	サプレッサー / 細胞障害性 T 細胞
CD4/CD8 比	3551	0.40 ~ 2.30	
CD5	3561	60.0 ~ 90.0 (%)	汎 T 細胞・一部の B 細胞
CD7	3637	72.0 ~ 90.0 (%)	汎 T 細胞
CD10	3579	1.0 以下 (%)	common-ALL・好中球
CD11b	3559	18.0 ~ 49.0 (%)	NK 細胞・サプレッサー T 細胞の一部
CD13	4077	9.0 以下 (%)	単球・顆粒球・骨髄細胞
CD14	4076	5.0 以下 (%)	単球
CD16	3569	6.0 ~ 39.0 (%)	NK 細胞 (Fcγレセプター)
CD19	4075	5.0 ~ 24.0 (%)	汎 B 細胞
CD20	3578	3.0 ~ 20.0 (%)	汎 B 細胞
CD21	3573	3.0 ~ 18.0 (%)	C3d/EBV レセプター・成熟 B 細胞
CD22		2.0 ~ 17.0 (%)	成熟 B 細胞
CD25	3395	8.0 ~ 34.0 (%)	IL-2 レセプター / p55Tac
CD30		1.0 以下 (%)	活性化 T・B 細胞・ホジキン細胞
CD33	4078	5.0 以下 (%)	未熟顆粒球・APL・AML
CD34	3173	1.0 以下 (%)	骨髄幹細胞・B 前駆細胞
CD38	3557	18.0 ~ 59.0 (%)	活性化および増殖細胞
CD56	3572	9.0 ~ 43.0 (%)	neural cell adhesion molecule (NCAM), NK 細胞・LAK 細胞
CD57	3566	4.0 ~ 45.0 (%)	NK 細胞・サプレッサー T 細胞の一部
HLA-DR	3576	11.0 ~ 46.0 (%)	B 細胞・活性化 T 細胞 (HLA-DR 抗原)

● CD 4 と CD 8 を同時に依頼の場合は CD 4/CD 8 比をご報告させていただきます。

(注) モノクローナル抗体法による T 細胞サブセット検査は、免疫不全の診断目的に行う検査であり、一連として算定することができます。

# 血液学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
200	末梢血液一般	血液2.0	C	冷蔵	1~2	① 21 血液	レーザー光学法	M 3900 ~ 9800 F 3500 ~ 9100 (/μL)	食後・運動直後の採血はさけて下さい。 採血方法を次頁に記載しておりますので、ご参照下さい。
							電気抵抗法	M 427 ~ 570 F 376 ~ 500 (×10 <sup>4</sup> /μL)	
							イミダゾール法	M 13.5 ~ 17.6 F 11.3 ~ 15.2 (g/dL)	
							赤血球パルス波高値 検出方式 計算法 (MCVより)	M 39.8 ~ 51.8 F 33.4 ~ 44.9 (%)	
							フォーカスフロー 電気抵抗検出法	M 82.7 ~ 101.6 F 79.0 ~ 100.0 (fL)	
							演算法	M 28.0 ~ 34.6 F 26.3 ~ 34.3 (pg)	
							演算法	M 31.6 ~ 36.6 F 30.7 ~ 36.6 (%)	
							レーザー光学法	M 13.1 ~ 36.2 F 13.0 ~ 36.9 (×10 <sup>3</sup> /μL)	
211	全血比重	血液2.0	C	冷蔵	1~2		計算法	M 1.055 ~ 1.063 F 1.052 ~ 1.060	
212	網状赤血球数 (Ret)	血液2.0	C	冷蔵	1~2	12 血液	レーザー光学法	M 2 ~ 27 F 2 ~ 26 (%)	
214	好酸球数 (Eos)	血液2.0	C	冷蔵	1~2	② 17 血液	レーザー光学法	70 ~ 440 (/μL)	
220	血液像 (白血球分類)	血液2.0	C	冷蔵	1~2	②④ 15 血液	レーザー光学法	好中球 40.0 ~ 74.0 好酸球 0.0 ~ 6.0 好塩基球 0.0 ~ 2.0 リンパ球 18.0 ~ 59.0 単球 0.0 ~ 8.0 (%)	
216	赤血球沈降速度 (ESR)	血液2.0	C	冷蔵	1~2	③ 9 血液	自動化法 (Westergren法)	M 1 ~ 7 F 3 ~ 11 (mm/h)	
290	ALP染色	一染色に付 血液塗抹 標本3枚	U		2	⑤ 27 (加算) 血液	アソ色素法	NAP Score M 170 ~ 335 F 189 ~ 367	採血後ただちに塗抹標本を製し 当日中に提出して下さい。抗凝固 剤は使用しないで下さい。
291	PAS染色	一染色に付 血液塗抹 標本3枚と 血液2.0	U + C		2~3	⑤ 27 (加算) 血液	PAS反応		採血後ただちに塗抹標本を製し 当日中に提出して下さい。
634		一染色に付 骨髓液塗抹 標本3枚	U	40 (加算) 血液					
295	ペルオキシダーゼ染色	一染色に付 血液塗抹 標本3枚と 血液2.0	U + C		2~3	⑤ 27 (加算) 血液	DAB法 (国際標準法)		採血後ただちに塗抹標本を製し 当日中に提出して下さい。
632		一染色に付 骨髓液塗抹 標本3枚	U	40 (加算) 血液					
640	鉄染色	一染色に付 血液塗抹 標本3枚と 血液2.0	U + C		2~3	⑤ 27 (加算) 血液	ベルリン青染色法		採血後ただちに塗抹標本を製し 当日中に提出して下さい。
635		一染色に付 骨髓液塗抹 標本3枚	U	40 (加算) 血液					
639	エステラーゼ染色	一染色に付 血液塗抹 標本3枚と 血液2.0	U + C		2~3	⑤ 27 (加算) 血液	α-NB法		採血後ただちに塗抹標本を製し 当日中に提出して下さい。
636		一染色に付 骨髓液塗抹 標本3枚	U	40 (加算) 血液					

- 「末梢血液一般」は、赤血球数、白血球数、色素測定、ヘマトクリット値、血小板数の全部又は一部を行った場合に算定します。
- 同一検体について「好酸球数」及び「血液像」又は「末梢血液像 (鏡検法)」を行った場合は、主たる点数のみを算定します。「血液像」又は「末梢血液像 (鏡検法)」及び「骨髓像」の検査については、少なくともリンパ球、単球、好中球、好酸球、好塩基球の5分類以上の同定・比率計算を行った場合に算定します。
- 当検査の対象患者の診療を行っている保険医療機関内で検査を行った場合に算定できます。ただし、当該検査を委託契約等に基づき当該医療機関内で実施された検査を行った、その検査結果が速やかに報告できる場合は、所定点数を算定できます。
- 血液像をご依頼いただき、検査を実施した結果が当社において再検査が必要と判断し、顕微鏡検査法を実施した場合、検査報告書に「血液像は鏡検法による検査結果です。」とのコメントを付けさせていただきます。
- 特殊染色を併せて行った場合は、特殊染色加算として、特殊染色ごとにそれぞれ40点を所定点数に加算する。



血液学検査

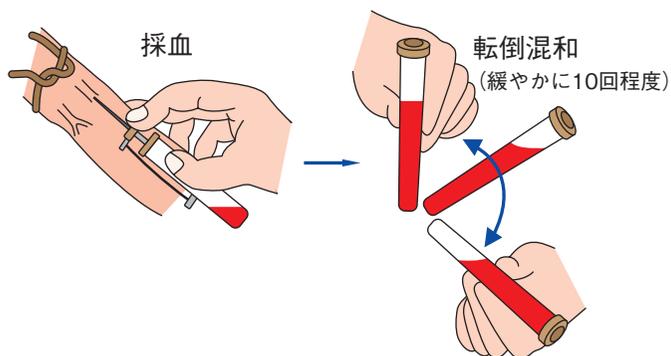
# 血液学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
その他	584 ヘモグロビンA1c (NGSP)	血液2.0	B	冷蔵	1~2	① 49 血液	酵素法	4.6~6.2 (%)	
	285 骨髓像	骨髓液塗抹 標本3枚	U	室温	3~6	812 血液	メイギムザ染色鏡検法 ライトギムザ染色鏡検法		別紙専用検査依頼書と併せて提出 して下さい。
	4601 鼻汁好酸球	塗抹標本 1枚	U	室温	2	15 血液	メイギムザ染色鏡検法	認めず	
	4651 喀痰好酸球	塗抹標本1枚 喀痰	U+ L	室温	2	15 血液	メイギムザ染色鏡検法	認めず	

凝固・線溶	301 プロトロンビン時間 (PT)	血液1.8 血漿0.5	F	凍結	1~2	18 血液	凝固時間測定法	秒 10.5~13.5 (秒) % 70~130 (%) 比 0.85~1.15	INR値も併せてご報告致します。
	303 活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT)	血液1.8 血漿0.5	F	凍結	1~2	29 血液	凝固時間測定法	24.3~36.0 (秒)	
	305 トロンボテスト (TT)	血液1.8 血漿0.5	F	凍結	1~2		凝固時間測定法	70以上 (%)	
	310 フィブリノーゲン定量 (Fib)	血液1.8 血漿0.5	F	凍結	1~2	23 血液	凝固時間測定法	150~400 (mg/dL)	
	3027 可溶性フィブリンモノマー複合体 (SFMC)	血液1.8 血漿0.3	F	凍結	3~5	93 血液	凝集反応	陰性 (-)	⑫
	3025 フィブリンモノマー 複合体定量	血液1.8 血漿0.5	F	凍結	3~5	② 227 血液 ②⑥	ラテックス 免疫比濁法	6.1以下 ( $\mu\text{g/mL}$ )	⑫

- ① 「ヘモグロビンA1C (HbA1C)」、「グリコアルブミン」又は「1,5-アンヒドロ-D-グルシトール (1,5AG)」のうちいずれかを同一月中に併せて2回以上実施した場合は、月1回に限り主たるもののみ算定します。ただし、妊娠中の患者、1型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6ヶ月以内の患者、インスリン治療を開始して6ヶ月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定できます。また、クロザピンを投与中の患者については、「ヘモグロビンA1C (HbA1C)」を月1回に限り別に算定できます。
- ② フィブリンモノマー複合体は、DIC、静脈血栓症又は肺動脈血栓塞栓症の診断及び治療経過の観察のために実施した場合に算定する。フィブリンモノマー複合体、「26」のトロンビン・アンチトロンビン複合体 (TAT) 及び「27」のプロトロンビンフラグメント F 1 + 2のうちいずれか複数を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

## ●採血方法及び転倒混和について



<b>A 一般容器</b> 【保存方法】 ①~③ 室温 【有効期限】 ① 1年 ② 1年 ③ 1年 分装別入 (全血用)	<b>B 血糖容器 (フッ化Na入)</b> 【保存方法】 ① 室温 ② 室温 ③ 室温 【有効期限】 ① 1年 ② 1年3ヶ月 ③ 2年
<b>F 凝固容器 (クエン酸Na入)</b> 【保存方法】 ● 室温 【有効期限】 ● 1年	<b>L 喀痰容器</b> 【保存方法】 ● 室温 【有効期限】 ● —
<b>U マップケース</b> 【保存方法】 ● 室温 【有効期限】 ● —	

# 血液学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
308	FDP	血液1.8 血漿0.5	F	凍結	1~2	80 血液	ラテックス免疫比濁法	5.0未満 ( $\mu\text{g/mL}$ )	
3124	Dダイマー	血液1.8 血漿0.5	F	凍結	1~2	133 血液 (㊦)	ラテックス免疫比濁法	1.00以下 ( $\mu\text{g/mL}$ )	
874	$\alpha_2$ マクログロブリン ( $\alpha_2$ -MG)	血液2.0 血清0.4	A	冷蔵	3~5	138 血液 (㊦)	ネフェロメトリー法	M 100~200 F 130~250 (mg/L)	(12)
871	$\alpha_1$ アンチトリプシン ( $\alpha_1$ -AT)	血液2.0 血清0.4	A	冷蔵	3~5	80 血液	ネフェロメトリー法	94~150 (mg/dL)	(12)
311	アンチトロンビンⅢ (AT-Ⅲ)	血液1.8 血漿0.2	F	凍結	1~2	70 血液	合成基質法	82~132 (%)	
312	プラスミノーゲン (PLG)	血液1.8 血漿0.5	F	凍結	2~4	100 血液	合成基質法	75~125 (%)	(12)
313	$\alpha_2$ プラスミンインヒビター ( $\alpha_2$ -PI)	血液1.8 血漿0.5	F	凍結	2~4	128 血液 (㊦)	合成基質法	85~115 (%)	(12)
4058	トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体 (TAT)	血液1.8 血漿0.5	F	凍結	3~5	① 181 血液 (㊦)	CLEIA法	3.0以下 (ng/mL)	(12)
4138	プロトロンビンフラグメントF1+2 (F1+2)	血液1.8 血漿0.3	F	凍結	3~5	① 193 血液 (㊦)	ELISA法	69~229 (pmol/L)	(12)
4045	$\alpha_2$ プラスミンインヒビター・ プラスミン複合体 (PIC)	血液1.8 血漿0.2	F	凍結	3~5	158 血液 (㊦)	LPIA法	0.8以下 ( $\mu\text{g/mL}$ )	(12)
3120	トータルPAI-1	血液1.8 血漿0.5	F	凍結	3~6	240 血液 (㊦)	LPIA法	50以下 (ng/mL)	採血後、速やかに低温(4℃)で血漿分離して下さい。速やかに遠心できない場合は、氷水中に保存し、1時間以内に血漿分離して下さい。 測定対象はトータルPAI-1 (tPA・PAI-1複合体および活性型、潜在型PAI-1) です。 (12)
4049	プロテインC (抗原量)	血液1.8 血漿0.3	F	凍結	3~6	239 血液 (㊦)	LPIA法	70~150 (%)	(12)
4056	プロテインC活性	血液1.8 血漿0.4	F	凍結	3~5	241 血液 (㊦)	凝固時間法	64~146 (%)	(12)
4055	プロテインS (遊離型抗原量)	血液1.8 血漿0.2	F	凍結	3~5	162 血液 (㊦)	ラテックス凝集反応法	60~150 (%)	測定対象は遊離型 (12)
4040	プロテインS (抗原量)	血液1.8 血漿0.2	F	凍結	3~7	162 血液 (㊦)	EIA法	65~135 (%)	測定対象はトータル (遊離型及び複合体型) (12)
4048	プロテインS活性	血液1.8 血漿0.4	F	凍結	3~5	168 血液 (㊦)	凝固時間法	M 67~164 F 56~126 (%)	(12)

① 「TAT」、「プロトロンビンフラグメントF1+2」、「フィブリンモノマー複合体」のうちいずれか複数を同時に測定した場合は主たるもののみ算定します。

凝固・線溶

血液学検査

# 血液学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
3370	凝固因子 活性検査	第Ⅱ因子 血液1.8 血漿0.4	F	凍結	3~5	223 血液(包6)	凝固時間法	75~135 (%)	
3371		第Ⅴ因子 血液1.8 血漿0.4						70~135 (%)	
3372		第Ⅶ因子 血液1.8 血漿0.4						75~140 (%)	
3373		第Ⅷ因子 血液1.8 血漿0.4						60~150 (%)	
3374		第Ⅸ因子 血液1.8 血漿0.4						70~130 (%)	
3375		第Ⅹ因子 血液1.8 血漿0.4						70~130 (%)	
3376		第Ⅺ因子 血液1.8 血漿0.4						75~145 (%)	
3377		第Ⅻ因子 血液1.8 血漿0.4						50~150 (%)	
3378		第Ⅻ因子 血液1.8 血漿0.4					合成基質法	70~140 (%)	
3380	凝固抑制 因子検査	第Ⅷ因子 血液5.4 (1.8×3本)	F	凍結	3~5	① 148 血液(包6)	ベセスダ法	検出せず	⑫
3381		第Ⅸ因子 血漿1.0							
4005	フォン・ウィルブランド因子活性 (リストセチンコファクター)	血液1.8 血漿0.5	F	凍結	3~5	132 血液(包6)	固定血小板凝集法	60~170 (%)	⑫
3379	フォン・ウィルブランド 因子抗原定量	血液1.8 血漿0.2	F	凍結	3~5	151 血液(包6)	ラテックス凝集反応法	50~155 (%)	⑫
3340	β-トロンボグロブリン (β-TG)	血液3.0 乏血小板 血漿0.3	I3	凍結	3~7	177 血液(包6)	EIA法	50以下 (ng/mL)	専用採血管が必要ですので、予め ご依頼下さい。 検体の取扱い方法は下図を参照し て下さい。
3369	血小板第4因子 (PF <sub>4</sub> )	血液3.0 乏血小板 血漿0.3	I3	凍結	3~7	178 血液(包6)	EIA法	20以下 (ng/mL)	⑫

① 「凝固抑制因子検査」は、第Ⅷ因子又は第Ⅸ因子の定量測定を行った場合に、それぞれの測定1回につきこの項で算定します。

血液学検査

**F 凝固容器 (クエン酸Na入)**

【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●1年

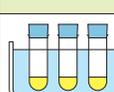
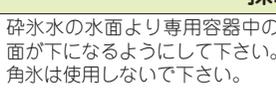
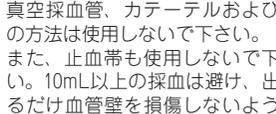
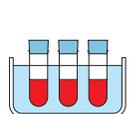
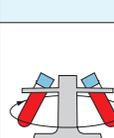
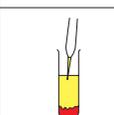


**I3 テオフィリン入容器**

【保存方法】  
●冷蔵・避光  
【有効期限】  
●1年



## β-トロンボグロブリン (β-TG)、血小板第4因子 (PF<sub>4</sub>) 検体取扱い方法

採取方法																																
	あらかじめ専用容器(I3)を冷却しておいて下さい。		砕氷水の水面より専用容器中の液面が下になるようにして下さい。角氷は使用しないで下さい。		針を取って静かに専用容器(I3)のフタを開け、血液2.7mLを静かに移し、ゆっくり2~3回反転倒混和して下さい。																											
	できるだけ20ゲージ (19~21ゲージでも可)の針を用いたプラスチック注射器で血液3.0mLを採取して下さい。(採血にあたって、専用容器(I3)を使用するの直接採血は絶対にしないで下さい。)		真空採血管、カテーテルおよび他の方法は使用しないで下さい。また、止血帯も使用しないで下さい。10mL以上の採血は避け、出来るだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取して下さい。		専用容器をすみやかに砕氷水と水の入れたラックに入れて下さい。																											
<b>以上の操作を2分以内に行ってください。</b>																																
	砕氷水に15~30分間放置後、採取血液を2,000Gで30分間、2~4℃で遠心分離して下さい。(右表は2,000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。) * 遠心器回転数の計算式 $G=1.118 \times 10^{-5} \times r \times n^2$ r : 遠心器のローター半径 (cm) n : 1分間あたりの回転数 (rpm)	1時間以内に必ず冷却下で遠心分離する。																														
	上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで各0.3mL検体容器へ採取して下さい。血餅に近い部分からの採取は絶対に避けて下さい。(血漿の全量採取は避けて下さい。) 検体は必ず凍結保存して下さい。(1ヶ月安定)	換算表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>半径 (cm)</th> <th>回転数 (rpm)</th> <th>半径 (cm)</th> <th>回転数 (rpm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>10</td><td>4,200</td><td>22</td><td>2,800</td></tr> <tr><td>12</td><td>3,800</td><td>24</td><td>2,700</td></tr> <tr><td>14</td><td>3,500</td><td>26</td><td>2,600</td></tr> <tr><td>16</td><td>3,300</td><td>28</td><td>2,500</td></tr> <tr><td>18</td><td>3,100</td><td>30</td><td>2,400</td></tr> <tr><td>20</td><td>3,000</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>		半径 (cm)	回転数 (rpm)	半径 (cm)	回転数 (rpm)	10	4,200	22	2,800	12	3,800	24	2,700	14	3,500	26	2,600	16	3,300	28	2,500	18	3,100	30	2,400	20	3,000		
半径 (cm)	回転数 (rpm)	半径 (cm)	回転数 (rpm)																													
10	4,200	22	2,800																													
12	3,800	24	2,700																													
14	3,500	26	2,600																													
16	3,300	28	2,500																													
18	3,100	30	2,400																													
20	3,000																															

# 薬物検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値 (治療濃度範囲)	採血時刻	備 考
1801	フェノバルビタール	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	(470)	EIA法	10~40 ( $\mu\text{g/mL}$ )	次回投与直前 (Trough濃度)	フェノバル、ルミナール
1802	プリミドン	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	(470)	EIA法	5.0~12.0 ( $\mu\text{g/mL}$ )	次回投与直前 (Trough濃度)	プリミドン、プリムロン <sup>⑫</sup>
1803	フェニトイン	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	(470)	EIA法	10.0~20.0 ( $\mu\text{g/mL}$ )	経口：次回投与直前 (Trough濃度) 静注：投与後 2~4時間	ジフェニルヒダントイン、 ヒダントール、アレピアチン
3320	遊離フェニトイン	血液4.0 血清1.0	A	凍結	5~11	(470)	限外ろ過法 EIA	( $\mu\text{g/mL}$ )	経口：次回投与直前 (Trough濃度) 静注：投与後 2~4時間	ジフェニルヒダントイン、ヒ ダントール、アレピアチン <sup>⑫</sup>
1805	カルバマゼピン	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	(470)	EIA法	4.0~12.0 ( $\mu\text{g/mL}$ )	次回投与直前 (Trough濃度)	テレスミン、テグレートール、 レキシシ
1804	バルプロ酸ナトリウム	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	(470)	EIA法	50.0~100.0 ( $\mu\text{g/mL}$ )	次回投与直前 (Trough濃度)	デパケン、デパケンR、パレ リン、ハイセレニン、セレニ カR
3257	エトスクシミド	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	3~5	(470)	EIA法	40.0~100.0 ( $\mu\text{g/mL}$ )	次回投与直前 (Trough濃度)	ザロンチン、エPILEオプチマル <sup>⑫</sup>
3271	トリメタジオン	血液2.0 血清0.5	A	凍結	8~14	(470)	LC-MS/MS法	300~500 ( $\mu\text{g/mL}$ )	—	ミノアレ（活性代謝物である ジメタジオンを測定） <sup>⑫</sup>
3262	クロナゼパム	血液2.0 血清0.3	[注] A	冷蔵	4~6	(470)	LC/MS/MS法	20~70 (ng/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	ランドセン、リボトリール <sup>⑫</sup>
3065	アセタゾラミド	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	4~10	(470)	HPLC法	( $\mu\text{g/mL}$ )	—	ダイアモックス <sup>⑫</sup>
3263	ジアゼパム	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	4~6	(470)	HPLC法	ジアゼパム 600~1000 (ng/mL)	次回投与直前 (Trough濃度) ただし、抗てんかん 剤として用いる場合	セルシン、ホリゾン、 ジアパックス、ソナコン <sup>⑫</sup>
3261	ニトラゼパム	血液2.0 血清0.3	[注] A	冷蔵	4~6	(470)	LC/MS/MS法	20~200 (ng/mL)	次回投与直前 (Trough濃度) ただし、抗てんかん 剤として用いる場合	ベンザリン、ネルボン <sup>⑫</sup>
4008	ゾニサミド	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	3~5	(470)	ラテックス凝集法	10~30 ( $\mu\text{g/mL}$ )	次回投与直前 (Trough濃度)	エクセグラン <sup>⑫</sup>
3119	クロバザム	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	4~6	(470)	LC/MS/MS法	(ng/mL)	—	マイスタン <sup>⑫</sup>
3949	ラモトリギン	血液2.0 血漿0.3	M	冷蔵	4~6	(470)	LC/MS/MS法	( $\mu\text{g/mL}$ )	—	ラミクタール <sup>⑫</sup>
3474	ガバペンチン	血液2.0 血漿0.3	M	冷蔵	4~6	(470)	LC/MS/MS法	( $\mu\text{g/mL}$ )	—	ガバペン錠 <sup>⑫</sup>
3510	トピラマート	血液2.0 血漿0.3	M	冷蔵	4~6	(470)	LC/MS/MS法	( $\mu\text{g/mL}$ )	—	トピナ <sup>⑫</sup>
3625	レベチラセタム	血液2.0 血清0.3	A	凍結	5~7	(470)	LC-MS法	12~46 ( $\mu\text{g/mL}$ )	次回投与直前 (Trough濃度)	イーケブラ <sup>⑪</sup>
1777	ペランパネル	血液2.0 血漿0.3	M	冷蔵	4~6	(470)	LC/MS/MS法	( $\mu\text{g/mL}$ )	—	フィコンパ <sup>⑫</sup>

抗てんかん剤

薬物検査

特定薬剤治療管理料の算定について（P71）をご参照下さい。

（P68~70の薬物検査におきましてA容器を用いる検査につきましては、血清分離剤が測定値に影響を及ぼす事はございません。当社指定A容器（分離剤入り）にてご提出して下さい。なお、〔注〕を付した薬物検査におきましては血清分離剤が測定値に影響を及ぼす場合がございます。ご依頼される場合は、無添加（分離剤なし）容器にてご提出して下さい。



# 薬物検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値 (治療濃度範囲)	採血時刻	備考	
強 心 剤	1841	ジゴキシ	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	(470)	EIA法	消失相濃度 0.8~2.0 (ng/mL)	投与後6時間~ 次回投与直前 (消失相)	ジゴキシ、ジゴシ、 ラニラビット
	抗 気 管 支	1861	テオフィリン	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	(470)	EIA法	10.0~20.0 (μg/mL)	経口：徐放性製剤では投与後 4時間、検錠では投与後2時 間 (Peak濃度)、次回投与直前 (Trough濃度) 静注：負荷投与後30分、点滴開 始後4~6,および12~18時間
不 整 脈 用 剤		3255	プロカインアミド	血液2.0 血清0.4	A	冷蔵	3~5	(470)	EIA法	4.0~10.0 (μg/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)
	3256	ジソピラミド	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	(470)	EIA法	Peak濃度 2.0~5.0 (μg/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	ノルベース、リスモダン、 カフィール、リスラミドR ⑫
	3060	ピルシカイニド	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	4~6	(470)	LC/MS/MS法	0.2~0.9 (μg/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	サンリズム ⑫
	3280	リドカイン	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	(470)	EIA法	1.2~5.0 (μg/mL)	静注：投与後2時間、 点滴静注： 6~12時間	キシロカイン ⑫
	3248	キニジン	血液2.0 血清0.4	[注] A	冷蔵	3~9	(470)	EIA法	2.0~6.0 (μg/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	硫酸キニジン ⑫
	4007	アプリンジン	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	4~6	(470)	LC/MS/MS法	0.25~1.25 (μg/mL)	経口：次回投与直前 (Trough濃度)、 投与後 2~4時間 (Peak濃度)、 静注：次回投与直前 (Trough濃度)	アスペノン ⑫
	3278	メキシレチン	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	4~6	(470)	LC/MS/MS法	0.5~2.0 (μg/mL)	経口：次回投与直前 (Trough濃度)、静注： 随時	メキシチール、メキシレート、トイ ⑫
	3335	フレカイニド	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	4~6	(470)	LC/MS/MS法	200~1000 (ng/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	タンボコール ⑫
	4487	シベンゾリン	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	4~6	(470)	LC/MS/MS法	Trough濃度 70~250 (ng/mL)	朝投与直前 (Trough濃度)	シベノール ⑫
	3929	ピルメノール	血液4.0 血漿1.3	M	冷蔵	4~7	(470)	HPLC法	400.0以上 (有効血中濃度) (ng/mL)	随時	ピメノール ⑫
	3225	プロパフェノン	血液2.0 血清0.3	[注] A	冷蔵	4~6	(470)	LC/MS/MS法	(ng/mL)	—	プロノン ソビラール ⑫
	3243	アミオダロン	血液2.0 血漿0.3	M	冷蔵	4~6	(470)	LC/MS/MS法	(ng/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	アミオダロン有効血中濃度：500~ 1000ng/mL (200mg/日投与、定常 状態、トラフ値) アンカロン ⑫
833	ベプリジル	血液2.0 血漿0.3	M	冷蔵	4~6	(470)	LC/MS/MS法	250~800 (ng/mL)	投与後3時間 (Peak値)	ベプリコール ⑫	
抗 生 剤	1881	ゲンタマイシン	血液2.0 血清0.4	A	凍結	3~5	(470)	EIA法	Peak濃度15~20 Trough濃度1未満 (μg/mL)	点滴開始1時間後 (30分 で投与した場合、終了30分 後) (Peak濃度) 投与前 30分以内 (Trough濃度)	ゲンタシン、エルタシン、 ルイネシン ⑫
	1882	トブラマイシン	血液2.0 血清0.4	A	凍結	3~5	(470)	EIA法	Peak濃度15~20 Trough濃度1未満 (μg/mL)	点滴開始1時間後 (30分 で投与した場合、終了30分 後) (Peak濃度) 投与前 30分以内 (Trough濃度)	トブラシン ⑫
	1883	アミカシン	血液2.0 血清0.4	A	凍結	3~5	(470)	EIA法	Peak濃度50~60 Trough濃度4未満 (μg/mL)	点滴開始1時間後 (30分 で投与した場合、終了30分 後) (Peak濃度) 投与前 30分以内 (Trough濃度)	アルベカシンとの交差反応が あるのでご注意ください。 アミカマイシン、ピクリン ⑫
	3688	アルベカシン	血液2.0 血清0.3	A	凍結	3~5	(470)	ラテックス凝集比濁法	Peak濃度15~20 Trough濃度1~2未満 (μg/mL)	点滴開始1時間後 (30分 で投与した場合、終了30分 後) (Peak濃度) 投与前 30分以内 (Trough濃度)	ハベカシン ⑫
	3165	バンコマイシン	血液2.0 血清0.4	A	冷蔵	1~2	① (470)	EIA法	Trough濃度 10~15 (μg/mL)	投与前30分以内 (Trough濃度)	塩酸バンコマイシン
	3969	テイコプラニン	血液2.0 血清0.3	A	冷蔵	3~5	(470)	ラテックス凝集比濁法	Trough濃度 15~30 (μg/mL)	投与前30分以内 (Trough濃度)	タゴシッド ⑫
	3542	ポリコナゾール	血液2.0 血漿0.3	M	冷蔵	4~6	(470)	LC/MS/MS法	(μg/mL)	—	ファイフェンド ⑫

特定薬剤治療管理料の算定について (P71) をご参照下さい。

① 入院中の患者であって、バンコマイシンを投与しているものに対して、同一暦月に血中のバンコマイシンの濃度を複数回測定し、その測定結果に基づき、投与量を精密に管理した場合は、1回目の特定薬剤治療管理料を算定すべき月に限り、530点を所定点数に加算できます。

(P68~70の薬物検査におきましてA容器を用いる検査につきましては、血清分離剤が測定値に影響を及ぼす事はありません。当社指定A容器(分離剤入り)にてご提出して下さい。なお、[注]を付した薬物検査におきましては血清分離剤が測定値に影響を及ぼす場合がございます。ご依頼される場合は、無添加(分離剤なし)容器にてご提出して下さい。

# 薬物検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値 (治療濃度範囲)	採血時刻	備考
免疫抑制剤	3127 シクロスポリン	血液0.7	I4	凍結	3~5	(470)	ECLIA法	(ng/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	ネオラル、サンディミュン 他の検査項目との同時依頼はできませんのでご注意ください。⑫
	3063 タクロリムス	血液0.7	I4	凍結	3~5	(470)	ECLIA法	(ng/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	プログラフ、グラセプター 他の検査項目との同時依頼はできませんのでご注意ください。⑫
その他の	4181 ハロペリドール	血液2.0 血清0.5	注A	冷蔵	1~2	(470)	金コロイド法	3.0~17.0 (ng/mL)	随時(ただし、採血時刻を一定とする)	セレネース、ハロステン、ハロペリドール
	4594 プロムペリドール	血液2.0 血清0.5	注A	冷蔵	3~5	(470)	金コロイド凝集法	至適血中濃度 15以下 (ng/mL)	随時(ただし、採血時刻を一定とする)	インプロメン、ルナブロン ⑫
	552 リチウム	血液2.0 血清0.5	A	冷蔵	1~2	(470)	比色法 (F28テトラフェニルポルフィリン法)	0.4~1.2 (mmol/L)	最終投与後12時間 または早朝投与前 (Trough濃度)	リーマス
	3245 アミトリプチリン・ノルトリプチリン	血液3.0 血清1.0	A	凍結	6~8		LC-MS/MS法	アミトリプチリン+ノルトリプチリン 80~200 ノルトリプチリンのみ 50~150 (ng/mL)	-	トリプタノール、ノリトレン、ノーマルン ⑪
	3277 メトトレキサート	血液3.0 血清0.5	A	冷蔵	3~5	(470)	EIA法	危険限界濃度 24時間値 10以上 48時間値 1以上 72時間値 0.1以上 (μmol/L)	メトトレキサート・ロイコボリン救護療法時24、48、72時間	メトトレキサート ⑫
	3253 サリチル酸(アスピリン)	血液2.0 血清0.4	A	冷蔵	3~5	(470)	酵素法	抗炎症作用として 100~250 (μg/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	アスピリン、バファリン ⑫
	3247 アセトアミノフェン	血液2.0 血清0.4	A	冷蔵	3~9	① 185生I	EIA法	中毒域 200.1以上(4時間) 100.1以上(8時間) 50.1以上(12時間) (μg/mL)	-	ピリナジン、アセトアミノフェン、ナバ ⑫
	3272 L-ドーパ	血液5.0 血漿1.5	G	凍結	6~12		HPLC法	1.2~2.2 (ng/mL)		⑫
	3226 パラコート	血液3.0 血清1.0	A	凍結	6~12		HPLC法	0.1未満 (μg/mL)		⑪
	3230 農薬スクリーニング	血液5.0 (ヘパリン加) 尿5.0	M J	凍結	9~14		GC-MS法 LC-MS/MS法	対象薬物 【定量分析】 スミチオン、マラチオン、CYAP エチルチオメトン、EPN、ダイアジノン、MPP メチダチオン、フェンバレード、シベルメトリン ベルメトリン、メトリブジン、フェノプロカルブ シマジン、アラクロール、プロパニル、 【定性分析】 カルバリル、メソミル、DDVP トリクロルフォン、イソキサチオン、ピリミホスメチル 上記以外の農薬曝露の可能性が示唆された場合、その農薬名をご報告いたします。 なお、パラコート曝露が疑われる際は、個別の定量検査をお勧めいたします。⑪		
3571 覚せい剤検査	尿8.0	J	冷蔵	5~7		EMIT法 LC-MS/MS法 (確認検査)	検出せず		(対象薬物) ●覚せい剤：アンフェタミン、メタンフェタミン(ヒロボン) ⑪	

特定薬剤治療管理料の算定について(P71)をご参照下さい。

① 1ヶ月以内に2回以上行った場合は、第1回の測定を行ったとき1回に限り算定できます。

(P68~70の薬物検査におきましてA容器を用いる検査につきましては、血清分離剤が測定値に影響を及ぼす事はありません。当社指定A容器(分離剤入り)にてご提出して下さい。なお、(注)を付した薬物検査におきましては血清分離剤が測定値に影響を及ぼす場合がございます。ご依頼される場合は、無添加(分離剤なし)容器にてご提出して下さい。

**A 一般容器**

【保存方法】  
①~③室温  
【有効期限】  
①1年  
②1年  
③1年

分離剤入(全血用)

**G EDTA2Na入容器**

【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●2年

5mL 7mL

**I4 シクロスポリン・タクロリム専用容器  
ビタミンB<sub>12</sub>**

【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●1年

1mL

**J 尿容器**

【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●-

**M ヘパリンNa入容器**

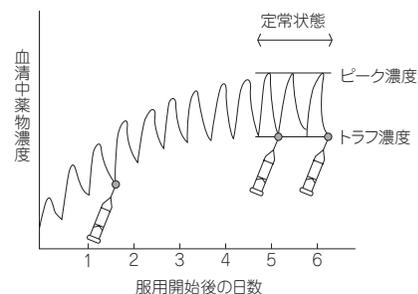
【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●2年

5mL 10mL

## TDM（薬物血中濃度モニタリング）における採血について

一般に、抗てんかん剤や循環器用剤のように長期間服用する薬物では、定常状態（半減期の4～5倍の時間）に達した後の朝の服用直前（最低濃度を示すとき、その値をトラフ濃度という）に採血してTDMを行います。

また、メトトレキサート、アセトアミノフェン、アミノ配糖体抗生物質については、治療あるいは中毒発現の指標にする採血時期が明確に指示されています。



## 特定薬剤治療管理料の算定について

特定薬剤治療管理料は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を管理した場合、月1回に限り算定できます。薬剤の血中濃度、治療計画の要点を診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。

薬 剤 名	検 査 項 目	特定薬剤治療管理料		加 算 点
		1～3ヶ月	4ヶ月以降	
抗てんかん剤	フェノバルビタール プリミドン フェニトイン カルバマゼピン ラモトリギン バルプロ酸ナトリウム エトスクシמיד トリメタジオン クロナゼパム レベチラセタム ニトラゼパム ジアゼパム アセタゾールアミド ソニサミド クロバザム ②③	470点	235点	280点 (薬剤の投与を行った 初回月に限る) ①
ジギタリス製剤	ジゴキシン			
アミノ配糖体抗生物質(入院中)	ゲンタマイシン トブラマイシン アミカシン アルベカシン			
グリコペチド系抗生物質(入院中)	バンコマイシン④、 テイコブラニン			
抗真菌剤	ホリコナゾール			
テオフィリン製剤	テオフィリン		235点	
不整脈用剤	プロカインアミド シンピラミド ピルメノール キニジン アプリンジン リドカイン ピルシカイニド アミオダロン プロパフェノン メキシレチン フレカイニド シベンゾリン			
ハロペリドール製剤	ハロペリドール			
プロムペリドール製剤	プロムペリドール			
リチウム製剤	リチウム			
免疫抑制剤 (臓器移植後)	シクロスポリン タクロリムス		2740点 (臓器移植を行った 月を含め3月に限る)	
免疫抑制剤 (再生不良性貧血、赤芽球 癆、ベーチェット症候群、 尋常性乾癬、膿疱性乾癬、 乾癬性紅皮症、関節症性 乾癬、ネフローゼ症候群)	シクロスポリン	235点	280点 (薬剤の投与を行った 初回月に限る) ①	
免疫抑制剤 (全身型重症筋無力症)	タクロリムス			
その他	サリチル酸 メトトレキサート	235点		

- ① 初回月加算は、投与中の薬剤の安定した血中至適濃度を得るため頻回の測定が行われる初回月に限り算定できるものであり、薬剤を変更した場合においては算定できません。
- ② てんかんの患者であって、2種類以上の抗てんかん剤を投与している者について、同一暦月に血中の複数の抗てんかん剤の濃度を測定し、その測定結果に基づいて個々の投与量を精密に管理した場合、当該管理を行った月においては2回に限り所定点数を算定します。
- ③ ジギタリス製剤の急速飽和又はてんかん重積状態の患者に対して、抗てんかん剤の注射等を行った場合は、1回に限り急速飽和完了日に740点を算定することとし、当該算定を行った急速飽和完了日の属する月においては、別に特定薬剤治療管理料は算定できません。なお、急速飽和とは、重症うっ血性心不全の患者に対して2日間程度のうちに数回にわたりジギタリス製剤を投与し、治療効果が得られる濃度にまで到達させることをいいます。
- ④ 入院中の患者であって、バンコマイシンを投与しているものに対して、同一暦月に血中のバンコマイシンの濃度を複数回測定し、その測定結果に基づき、投与量を精密に管理した場合は、1回目の特定薬剤治療管理料を算定すべき月に限り、530点を所定点数に加算できます。

# 染色体・HLA検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備 考
血液疾患染色体検査	予約検査 Gバンド分染法	ヘパリン加血液5.0 骨髄液1.0	M H3	冷蔵	9~15	① 2631 + 397 加算血液	分染法		⑫
	予約検査 bcr-abl t(9;22) 転座	ヘパリン加血液5.0 骨髄液1.0	血液はM 髄液はH3	冷蔵	8~11	① 2631 + 397 加算血液	FISH法		⑫
	予約検査 AML1-ETO (MTG8) t(8;21) 転座								
	予約検査 PML-RARA t(15;17) 転座								
	予約検査 MLL 11q23転座								
	予約検査 D7S486 de(7)長腕欠失/7染色体(7モノソミー)								
	予約検査 8染色体								
	予約検査 TEL-AML1 t(12,21) 転座								
	予約検査 IgH-bcl1 t(11,14) 転座								
	予約検査 IgH-bcl2 t(14,18) 転座								
	予約検査 D13S319 del(13) 長腕欠失								
	予約検査 異性間BMT (骨髄移植) (X,Y染色体)								
先天異常染色体検査	予約検査 Gバンド分染法	ヘパリン加血液3.0	M	冷蔵	8~17	① 2631 + 397 加算血液	分染法		⑫
	予約検査 Qバンド分染法				21~25		高精度分染法	ご依頼の際は先天異常染色体 [Gバンド] の検査結果をご記入下さい。 ⑫	
	予約検査 Cバンド分染法						G-bandによる脆弱X染色体の検出	臨床診断名および部位を指定できない場合は、[Gバンド] の検査から行って下さい。 ⑫	
	予約検査 高精度分染法	ヘパリン加血液3.0	M	冷蔵	15~17	① 2631 + 397 加算血液	FISH法		⑫
	予約検査 脆弱X染色体								
	予約検査 13染色体								
	予約検査 18染色体								
	予約検査 21染色体								
	予約検査 X染色体								
	予約検査 Y染色体								
	予約検査 7染色体 (ウイリアムス症候群)								
	予約検査 15染色体 (プラダーウイリ症候群)								
予約検査 15染色体 (アンジェルマン症候群)									
予約検査 17染色体 (ミラーディカー症候群)									
予約検査 22染色体 (DiGeorge症候群)									
HLA検査	3841 予約検査 HLA型判定	A,B Locus	血液2.0 (EDTA2Na加)	G	冷蔵	4~6	② (1000) 輸血料	PCR-rSSO法	他項目との重複依頼は避け、必ずPCR検査項目専用検体としてご提出下さい。 [A,B Locus]と[DR Locus]を同時にご依頼の場合は、血液2mLをご提出下さい。白血球数が1,000/μL以下の場合、倍量以上採血しご提出下さい。 ⑫
	3842	DR Locus				② (1000) 輸血料			
遺伝子関連検査	4229 予約検査 MajorBCR-ABL1mRNA/IS		血液7.0	G	冷蔵	6~8	2520 遺伝子	リアルタイム RT-PCR法	凍結保存はして下さい。予約検査ですの採血前に必ずご連絡下さい。受託可能日は月曜日から金曜日です。他項目との重複依頼は避けて下さい。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体の採取にあたっては取り扱いに充分ご注意下さい。 ⑫

染色体・HLA検査

- ① 所定点数にはフィルム代、現像代、引伸印画作成代を含みます。分染法加算は種類、方法にかかわらず1回の算定となります。
- ② HLA型適合血小板輸血に伴って「HLA型判定 A,B Locus」又は「HLA型判定 DR Locus」を行った場合、検査回数にかかわらず一連につきそれぞれ1000点又は1400点加算できます。この加算は、白血病又は再生不良性貧血の場合であって、抗HLA抗体のために血小板輸血に対して不応状態となり、かつ強い出血傾向を呈しているものに限りです。なお、この場合において、対象となる白血病及び再生不良性貧血の患者の血小板数は概ねそれぞれ2万/mm<sup>3</sup>以下及び1万/mm<sup>3</sup>以下を標準とします。

※容器につきましてはP73をご覧ください

## 染色体検査のご依頼について

### 【検査の予約と確認】

- 1) 予約検査となっておりますので、採血・採取前にご連絡願います。
- 2) 受付可能曜日、締切時刻等につきましては、営業担当者にご相談下さい。

### 【依頼書】

染色体検査ご依頼に際しては、専用依頼書を用意しておりますので、ご使用下さい。

### 【採血・採取】

- 1) 血液・骨髄液は、滅菌採取器具（ヘパリン加真空採血管）を用いて、無菌的に採取して下さい。
- 2) 採取後、速やかに転倒混和を4~5回行って下さい。検体に凝固が見られた場合、分装像が得られず、検査不可となる場合があります。
- 3) ご提出検体は、冷室温（4~20℃）で保存して下さい。

### 【検体保存時間】

- 1) 下記時間以上経過した検体では、検査できません。
- 2) 骨髄液は、専用保存液入り容器をご使用の場合、24時間保存可能です。

	ヘパリン加検体	専用保存液入り検体
血液	24時間以内	—
骨髄液	3時間以内	24時間以内

## HLA 型の種類

A Locus
A-1
A-2
A-3
A-9
A-10
A-11
A-23 (9)
A-24 (9)
A-25 (10)
A-26 (10)
A-28
A-29 (19)
A-30 (19)
A-31 (19)
A-32 (19)
A-33 (19)
A-34 (10)
A-36
A-43
A-66 (10)
A-68 (28)
A-69 (28)
A-74 (19)
A-80

B Locus	
B-7	B-51 (5)
B-8	B-52 (5)
B-12	B-53
B-13	B-54 (22)
B-14	B-55 (22)
B-15	B-56 (22)
B-16	B-57 (17)
B-18	B-58 (17)
B-21	B-59
B-22	B-60 (40)
B-27	B-61 (40)
B-35	B-62 (15)
B-37	B-63 (15)
B-38 (16)	B-64 (14)
B-39 (16)	B-65 (14)
B-40	B-67
B-41	B-70
B-42	B-71 (70)
B-44 (12)	B-72 (70)
B-45 (12)	B-73
B-46	B-75 (15)
B-47	B-76 (15)
B-48	B-77 (15)
B-49 (21)	B-78
B-50 (21)	B-81

DR Locus
DR-1
DR-2
DR-3
DR-4
DR-5
DR-6
DR-7
DR-8
DR-9
DR-10
DR-11 (5)
DR-12 (5)
DR-13 (6)
DR-14 (6)
DR-15 (2)
DR-16 (2)
DR-17 (3)
DR-18 (3)

(注)  
下記日本組織適合性学会のホームページにて最新情報をご確認ください。  
<http://jshi.umin.ac.jp/databank/index.html>



# 尿・糞便検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
101	尿沈渣	尿 10	J	冷蔵	1~2	① 36 尿便	染色検鏡法	赤血球 4個以下/HPF 白血球 4個以下/HPF	新鮮尿を提出して下さい。 尿性状への保存時間の影響は検体 によっては様々ではありませんが 一般的に赤血球、白血球、上皮と 円柱は減少し、細菌と真菌は増加 する傾向があります。
121	尿蛋白定性	尿 5.0	J	冷蔵	1~2	② 26	試験紙法	(-)	早朝起床直後の新鮮尿を提出して 下さい。
130	尿糖定性						試験紙法	(-)	
141	尿ウロビリノーゲン定性						試験紙法	(±)	
143	尿ビリルビン定性						試験紙法	(-)	
144	尿pH						試験紙法	5.0 ~ 7.5	
145	尿比重						屈折計法	1.005 ~ 1.030	
146	尿潜血反応						試験紙法	(-)	
147	尿ケトン体						試験紙法	(-)	
122	尿蛋白定量 [尿]	部分尿 5.0	J	冷蔵	1~2	7 尿便	ピロガロールレッド法	(mg/dL)	
120	尿蛋白定量 [蓄尿]	蓄尿 5.0						31.2 ~ 120.0 (mg/day)	
131	尿糖定量 [尿]	部分尿 5.0	J	冷蔵	1~2	9 尿便	HK-G6PDH法	(mg/dL)	
140	尿糖定量 [蓄尿]	蓄尿 5.0						40 ~ 85 (mg/day)	

- ① 同一検体について当該検査と区分番号D017に掲げる排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定する。当該保険医療機関内で検査を行った場合に算定する。ただし、委託契約等に基づき当該保険医療機関内で実施された検査について、その結果が当該保険医療機関に対して速やかに報告されるような場合は、所定点数を算定できる。染色標本による検査を行った場合は、染色標本加算として、9点を所定点数に加算する。
- ② 尿中一般物質定性半定量検査は当該検査の対象患者の診療を行っている保険医療機関内で実施した場合にのみ算定できるものであり、委託契約等に基づき当該保険医療機関外で実施された検査の結果報告を受けるのみの場合は算定できない。ただし、委託契約等に基づき当該保険医療機関内で実施された検査について、その結果が当該保険医療機関に対して速やかに報告されるような場合は、所定点数を算定できる。

コード：169 尿一般セット(4項目)

尿蛋白定性  
尿糖定性  
尿ウロビリノーゲン定性  
尿潜血反応

コード：129 尿一般検査(8項目)

尿蛋白定性  
尿糖定性  
尿ウロビリノーゲン定性  
尿潜血反応  
尿ビリルビン定性  
尿pH  
尿比重  
尿ケトン体



# 尿・糞便検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
309	尿中FDP	尿0.5	E	冷蔵	3~7	72 尿便	LPIA法	100以下 (ng/mL)	抗プラスミン剤入容器に尿2mL注入混和して下さい。 <sup>⑫</sup>
730	尿中NAG	尿2.0	J	冷蔵	1~2	41 尿便	MPT-NAG法	11.5以下 (IU/L)	
3020	ヘンズジョーンズ蛋白同定	尿10	Ij	冷蔵	5~7	201 免疫	免疫固定法		特異抗血清の検索は異常蛋白を中心に行いますので、ご了承ください。年齢、病歴を明記してください。使用する抗血清はIgG、IgA、IgM、κ、λの5つになります。 <sup>⑫</sup>
156	コプロポルフィリン定性	尿10	N	遮光 冷蔵	4~7		Fischer法	(-)	<sup>⑫</sup>
3524	コプロポルフィリン定量	尿2.0	Ij	遮光 冷蔵	5~8	135 尿便	HPLC法	170以下 (μg/g・CRE)	<sup>⑫</sup>
3522	ウロポルフィリン定量	尿2.0	Ij	遮光 冷蔵	5~8	105 尿便	HPLC法	36以下 (μg/g・CRE)	<sup>⑫</sup>
3521	ポルフォピリノーゲン定量	蓄尿3.0	N	遮光 冷蔵	5~8	191 尿便	比色法 (M-G変法)	2.0以下 (mg/day)	蓄尿量を記入して下さい。 <sup>⑫</sup>
3003	尿中微量アルブミン	尿5.0	J	冷蔵	1~2	① 102 尿便	免疫比濁法	2~20 (mg/day) 10.0以下 (mg/g・CRE)	糖尿病性腎症病期分類では30mg/g・CREが一つの指標とされ、これを超えると異常と考えられます。
3820	L型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP)	尿2.0	J	冷蔵	4~6	② 210 尿便	CLEIA法	L-FABPクリアチニン換算値 8.4以下 (μg/gCr)	凍結保存は避けて下さい。酸性蓄尿は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けて下さい。室温保存ではデータ影響が認められるため速やかに冷蔵保存にてご提出下さい。 <sup>⑫</sup>
3546	尿中トランスフェリン	尿1.0	J	冷蔵	4~6	① 104 尿便	ラテックス凝集比濁法	尿中トランスフェリン換算値 1.00以下 (mg/g・CRE)	凍結保存は避けて下さい。 <sup>⑫</sup>
3276	尿中IV型コラーゲン	尿5.0	I2	冷蔵	5~11	① 189 尿便	EIA法	30才代 4.0以下 40才以上 4.9以下 (μg/g・CRE)	必ず安静就寝後の起床時に採取した尿を専用容器にてご提出下さい。 <sup>⑫</sup>

- ① 「尿中微量アルブミン」、「尿中トランスフェリン」、「尿中IV型コラーゲン」は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの（糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。）に対して行った場合に3ヶ月に1回に限り算定できます。なお、これらを行なった場合は、主たるもののみ算定します。
- ② 「L型脂肪酸結合蛋白（L-FABP）（尿）」は、原則として3ヶ月に1回に限り算定できます。ただし、医学的な必要性からそれ以上に算定する場合においては、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。

**E** 尿中FDP容器（抗プラスミン剤入）



【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●2年

**I2** 尿中IV型コラーゲン専用採取キット



【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●2年

**Ij** 遮光ポリスピッツ



【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●3年

**J** 尿容器



【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●—

**N** 尿容器（蓄尿、遮光）



【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●3年

**K** 便容器



【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●—

**T1** ヒトヘモグロビン（LA）採取容器



【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●1年6ヶ月

**T3** ヒトヘモグロビン・トランスフェリン専用容器



【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●2年

# 尿・糞便検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
181	虫卵		便小指頭大	K	冷蔵	1~2	20 尿便	薄層塗抹法	(-)
182							15 尿便	沈殿法 浮遊法	(-)
693	糞便中ヒトヘモグロビン・ トランスフェリン	専用容器	T3	冷蔵	1~2	56 尿便	金コロイド法	(-) ヘモグロビン100未満 トランスフェリン50未満 (ng/mL)	
178	糞便中ヒトヘモグロビン定性	専用容器	T1	冷蔵	1~2	① 37 尿便	ラテックス凝集比濁法	(-)	採取方法は下図を参照して下さい。
150	糞便中ヒトヘモグロビン定量	専用容器	T1	冷蔵	1~2	① 41 尿便	ラテックス凝集比濁法	100以下 (ng/mL)	
3628	便中 ヘリコバクター・ピロリ抗原	便小指頭大	K	冷蔵	2~3	② 142 免疫	ELISA法	(-)	⑫
197	便原虫	便拇指頭大	K	冷蔵	1~2	61 微生物	新鮮標本染色法	(-)	
199	虫体検出	便小指頭大 虫体	K または 各種※	冷蔵	1~2	23 尿便	鏡検法	(-)	便の場合は無添加で、虫体の場合は生理的食塩水に浮遊させて出検するのが望ましい。
924	便中カルプロテクチン	糞便 1g	K	凍結	6~10	276 尿便	ELISA法	カットオフ値 240 (μg/g)	潰瘍性大腸炎の病態把握のカットオフ値 240 (μg/g) 他項目との重複依頼は避けて下さい。 ⑫

※密閉容器（無添加）で出検をお願いします。

- ① 免疫クロマト法で実施した場合は「糞便中ヘモグロビン定性」、金コロイド凝集法による定量法にて行った場合は「糞便中ヘモグロビン」により算定します。
- ② 「尿素呼吸気試験-IR」、「便中ヘリコバクター・ピロリ抗原」を含むヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」（平成12年10月31日保険発第180号；保医発0221第31号平成25年2月21日より一部改正）に即して行って下さい。

## 糞便中ヒトヘモグロビン採取方法

(ラテックス凝集)

1. 採便棒をとりだします。
2. 表面をまんべんなくこすり取ります。  
便の量（採便棒のくぼみがうまる位）
3. 採便棒を容器にもどし、もれないようにキャップを強くしめて縦に数回強くふります。
4. 検体袋に入れて提出して下さい。

# 穿刺液・採取液検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
4570	髄液一般 検査	髄液5.0	P1	冷蔵	1~2	① 62 尿便	Ross-Jones変法	(-)	血液混入で誤差が生じることがありますので採取には注意して下さい。 パンディは正常髄液でも(+)程度の反応を示す場合があります。
							飽和石炭酸法	(-)	
							里見変法	(-)	
							Fuchs-Rosenthal法	0/3 ~ 15/3 (個/mm <sup>3</sup> )	
							サムソン染色 メイギムザ染色		
4445	髄液 クロール	髄液0.5	P1	冷蔵	1~2	11 生I	電極法	120 ~ 130 (mEq/L)	
4452	髄液 蛋白定量	髄液1.0	P1	冷蔵	1~2	11 生I(㊟)	ピロガロール レッド法	10 ~ 40 (mg/dL)	
4453	髄液 糖定量	髄液0.5	P1	冷蔵	1~2	11 生I(㊟)	HK-G6PDH法	50 ~ 75 (mg/dL)	

4400	胸水一般 検査	胸水5.0	M	冷蔵	2		リバルタ反応		必ず抗凝固剤入り容器で提出して下さい。
							細胞数	Bürker-Türk法	
							細胞分類	メイギムザ染色	
	腹水一般 検査	腹水5.0	M	冷蔵	2		リバルタ反応		
							細胞数	Bürker-Türk法	
							細胞分類	メイギムザ染色	
4455	穿刺液 蛋白定量	穿刺液 1.0	P1	冷蔵	1~2	11 生I	ピロガロール レッド法		
4456	穿刺液 糖定量	穿刺液 0.5	P1	冷蔵	1~2	11 生I	HK-G6PDH法		

4400 4499	関節液一般 検査	関節液 5.0	M	冷蔵	2		リバルタ反応		必ず抗凝固剤入り容器で提出して下さい。
							細胞数	Bürker-Türk法	
							細胞分類	メイギムザ染色	
4423	ピロリン酸Ca結晶	関節液 5.0	M または P1	冷蔵	2		簡易偏光装置による 鏡検		抗凝固剤としてEDTAは使用しないで下さい。
4424	尿酸結晶	関節液 5.0	M または P1	冷蔵	2		簡易偏光装置による 鏡検		

4490	精液一般 検査	精液1.0			2	② 70 尿便	顕微鏡検査	採取直後50×10 <sup>6</sup> 以上 (/mL)	採取後長時間経過すると正確さを 欠きますので速やかに提出して下 さい。採取時刻を記載して下さい。
								採取直後70以上 (%)	
								採取直後15以下 (%)	

- ① 「髄液一般検査」の所定点数には、外見、比重、ノンネアペルト、パンディ、ワイヒプロート等のグロブリン反応、トリプトファン反応、細胞数、細胞の種類判定及び蛋白、グルコース、ビリルビン、ケトン体等の定性半定量の検査等が含まれます。
- ② 「精液一般検査」の所定点数には、精液の量、顕微鏡による精子の数、奇形の有無、運動能等の検査のすべての費用が含まれます。



# 産業医学関連検査

産業医学関連検査は、有機溶剤作業・鉛作業を対象として、体内に有機溶剤や鉛がどの程度取り込まれているかを定期的にチェックすることを主な目的としているため、結果の評価については、正常・異常の鑑別を目的としたものではなく、作業環境を含めた総合的な判断が必要とされています。

また、労働安全衛生法に基づく各中毒予防規則では、各健康診断結果報告書を所轄の労働基準監督署長に提出することが定められています。

有機溶剤等健康診断結果報告書（有機溶剤中毒予防規則、様式第3号）

鉛健康診断結果報告書（鉛中毒予防規則、様式第3号）

対象物質名	コード	測定項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	単 位	分 布			
										1	2	3	
有機溶剤業務	キシレン	3533	メチル馬尿酸(MHA) <small>注1</small>	尿2.0	J	冷蔵	3~5		HPLC法 <small>注3</small>	g/L	≦0.5	0.5<,≦1.5	1.5<
	スチレン	3497	マンデル酸(MA) <small>注1</small>	尿2.0	J	冷蔵	3~5		HPLC法 <small>注3</small>	g/L	≦0.3	0.3<,≦1	1<
	トルエン	3534	馬尿酸(HA) <small>注1</small>	尿2.0	J	冷蔵	3~5		HPLC法 <small>注3</small>	g/L	≦1	1<,≦2.5	2.5<
	N,N-ジメチルホルムアミド <sup>⑫</sup>	3460	N-メチルホルムアミド <small>注1</small>	尿5.0	J	冷蔵	5~11		GC法	mg/L	≦10	10<,≦40	40<
	ノルマンヘキサ <sup>⑫</sup>	3467	2,5-ヘキサジオン(2,5-HD) <small>注1</small>	尿5.0	J	冷蔵	5~11		GC法	mg/L	≦2	2<,≦5	5<
	テトラクロルエチレン <sup>⑫</sup>	3528	トリクロル酢酸(TCA) <small>注2</small>	尿2.0	J	冷蔵	5~11		GC法	mg/L	≦3	3<,≦10	10<
		3527	総三塩化物(TTC) <small>注2</small>	尿2.0	J	冷蔵	5~11		GC法	mg/L	≦3	3<,≦10	10<
	1,1,1-トリクロルエタン <sup>⑫</sup>	4146	トリクロル酢酸(TCA) <small>注2</small>	尿2.0	J	冷蔵	5~11		GC法	mg/L	≦3	3<,≦10	10<
		4100	総三塩化物(TTC) <small>注2</small>	尿2.0	J	冷蔵	5~11		GC法	mg/L	≦10	10<,≦40	40<
	トリクロルエチレン <sup>⑫</sup>	4148	トリクロル酢酸(TCA) <small>注2</small>	尿2.0	J	冷蔵	5~11		GC法	mg/L	≦30	30<,≦100	100<
4026		総三塩化物(TTC) <small>注2</small>	尿2.0	J	冷蔵	5~11		GC法	mg/L	≦100	100<,≦300	300<	
鉛業務	3503	血中鉛	血液3.0	M	冷蔵	4~6		原子吸光分析法	μg/dL	≦20	20<,≦40	40<	
	3501	δ-アミノレブリン酸	尿1.0	lj	遮光 冷蔵	4~6	109 尿便	HPLC法	mg/L	≦5	5<,≦10	10<	
	3525 <sup>⑫</sup>	赤血球中遊離プロトポルフィリン	血液1.0	lf	遮光 冷蔵	4~7	272 生I	蛍光法	μg/dL RBC	≦100	100<,≦250	250<	

注1 連続した作業日の初日を除いた作業終了時に採尿して下さい。ただし、採尿2時間前に一度排尿して下さい。

注2 週末の作業日の作業終了時に採尿して下さい。ただし、採尿2時間前に一度排尿して下さい。

注3 本検査は検査室で開発した検査（LDT）です。

産業医学関連検査

**J** 尿容器



【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●—

**M** ヘパリンNa入容器



【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●2年

**lj** 遮光ポリスピッツ



【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●3年

**lf** コプロポルフィン専用容器



【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●18ヶ月  
(アルミシート密封後1ヶ月)

# 特殊分析

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
結石・アミノ酸分析	3114 結石分析	結石10mg	P1	室温	6~8	120 生Ⅱ	赤外線吸収スペクトロフォトメトリー	成分比率 (%)	サンプルは乾燥させてP1容器にてご提出下さい。血液の付着したサンプルは蒸留水で洗浄後、乾燥させてご提出下さい。⑫
	3091 アミノ酸分析 (39種類)	血液2.0 血漿0.5	G	凍結	6~8	1176 生Ⅱ	LC/MS法	39種類 基準値は下記を参照下さい。	採血後直ちに遠心分離し速やかに血漿を凍結して下さい。⑫
	3092 アミノ酸分析 (9種類)	血液2.0 血漿0.5	G	凍結	4~6	1176 生Ⅱ	LC/MS法	分画範囲 [バリン、メチオニン、イソロイシン、ロイシン、チロシン、フェニルアラニン、ヒスチジン、リジン、アルギニン]	採血後直ちに遠心分離し速やかに血漿を凍結して下さい。⑫
	4046 γ-アミノ酪酸	血液4.0 血漿1.0	M	凍結	6~12	287 生Ⅱ	HPLC法	120 ~ 210 (pmol/mL)	採血後、速やかに血漿分離して下さい。⑫
	3090 ハイドロキシプロリン-総	蓄尿1.0	J	凍結	6~12	287 生Ⅱ	HPLC法	83 ~ 330 (μmol/day)	蓄尿量を記入して下さい。⑫
3955 総ホモシスチン	血液2.0 血漿0.3	G	冷蔵	4~6	287 生Ⅱ	HPLC法	3.7 ~ 13.5 (nmol/mL)	⑫	

## アミノ酸分析〔39種類, 9種類(血漿)〕基準値

単位 血漿：nmol/mL

アミノ酸名	略号	基準値
		血漿
Taurine	Tau	39.5 ~ 93.2
Aspartic acid	Asp	2.4以下
Hydroxyproline	Hypro	21.6以下
Threonine	Thr	66.5 ~ 188.9
Serine	Ser	72.4 ~ 164.5
Asparagine	Asn	44.7 ~ 96.8
Glutamic acid	Glu	12.6 ~ 62.5
Glutamine	Gln	422.1 ~ 703.8
Sarcosine	Sarco	TR
α-Aminoadipic acid	α-AAA	ND
Proline	Pro	77.8 ~ 272.7
Glycine	Gly	151.0 ~ 351.0
Alanine	Ala	208.7 ~ 522.7
Citrulline	Cit	17.1 ~ 42.6
α-Aminobutyric acid	α-ABA	7.9 ~ 26.6
※Valine	Val	147.8 ~ 307.0
Cystine	Cys	13.7 ~ 28.3
Cystathionine	Cysthio	TR
※Methionine	Met	18.9 ~ 40.5
※Isoleucine	Ileu	43.0 ~ 112.8
※Leucine	Leu	76.6 ~ 171.3
※Tyrosine	Tyr	40.4 ~ 90.3
※Phenylalanine	Phe	42.6 ~ 75.7

アミノ酸名	略号	基準値
		血漿
γ-Amino β-hydroxy butyric acid	γ-A β-HBA	ND
β-Alanine	β-Ala	TR
β-Amino-iso-butyric acid	β-AIBA	TR
γ-Aminobutyric acid	γ-ABA	ND
Monoethanolamine	MEA	10.4以下
Homocystine	Homocys	ND
※Histidine	His	59.0 ~ 92.0
3-Methylhistidine	3-Me His	5.0以下
1-Methylhistidine	1-Me His	18.5以下
Carnosine	Carno	ND
Anserine	Ans	ND
Tryptophan	Trp	37.0 ~ 74.9
Hydroxylysine	Hylys	ND
Ornithine	Orni	31.3 ~ 104.7
※Lysine	Lys	108.7 ~ 242.2
※Arginine	Arg	53.6 ~ 133.6
Total AA(総アミノ酸:非必須アミノ酸の和+必須アミノ酸の和)		2068.2 ~ 3510.3
NEAA (非必須アミノ酸の和)		1381.6 ~ 2379.4
EAA (必須アミノ酸の和)		660.0 ~ 1222.3
BCAA (分岐鎖アミノ酸の和)		265.8 ~ 579.1
EAA/NEAA (必須アミノ酸の和/非必須アミノ酸の和)		0.40 ~ 0.63
BCAA/Total AA (分岐鎖アミノ酸の和/総アミノ酸)		0.11 ~ 0.18
フィッシャー比		2.43 ~ 4.40

EAA/NEAA, BCAA/Total AA, フィッシャー比においては単位なし

※印はアミノ酸分析(9種類)の実施アミノ酸名  
ND:測定感度以下 TR:痕跡

特殊分析

**G** EDTA2Na入容器

【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●2年

**J** 尿容器

【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●

**M** ヘパリンNa入容器

【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●2年

**P1** 滅菌容器

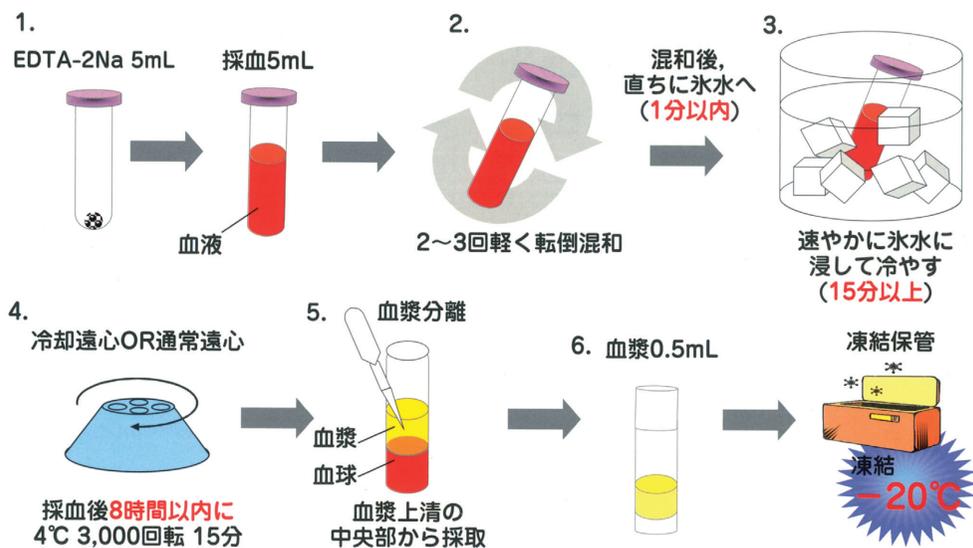
【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●1年

# 特殊分析

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
結石・アミノ酸分析	4178 予約検査 男性AICS (5種)	血液5.0 血漿0.5	G	凍結	11~14		LC/MS法		検体取扱い方法は下記をご参照下さい。 本項目は、血液中のアミノ酸濃度から、委託先(味の素株式会社)にてデータ解析することにより、胃がん・肺がん・大腸がん・膵臓がん・前立腺がんに罹患しているリスクを評価する検査です。なお、本検査結果は、その他の検査結果を考慮して総合的に判断して下さい。(12)
	4235 予約検査 女性AICS (6種)	血液5.0 血漿0.5	G	凍結	11~14		LC/MS法		検体取扱い方法は下記をご参照下さい。 本項目は、血液中のアミノ酸濃度から、委託先(味の素株式会社)にてデータ解析することにより、胃がん・肺がん・大腸がん・膵臓がん・乳がん・子宮がん(子宮頸がん・子宮体がん)・卵巣がんに罹患しているリスクを評価する検査です。子宮がん(子宮頸がん・子宮体がん)・卵巣がんは、いずれかのがんであるリスクについて評価することができますが、それぞれのがんのリスクについては分かりません。なお、本検査結果は、その他の検査結果を考慮して総合的に判断して下さい。(12)
	1429 予約検査 男性AIRS (8種)	血液5.0 血漿0.5	G	凍結	11~14		LC/MS法		検体取扱い方法は下記をご参照下さい。 本項目は、血液中のアミノ酸濃度から、委託先(味の素株式会社)にてデータ解析することにより、AICS及びAALS(糖尿病リスク・アミノ酸レベル)を報告する検査です。なお、本検査結果は、その他の検査結果を考慮して総合的に判断して下さい。(12)
	1435 予約検査 女性AIRS (9種)	血液5.0 血漿0.5	G	凍結	11~14		LC/MS法		検体取扱い方法は下記をご参照下さい。 本項目は、血液中のアミノ酸濃度から、委託先(味の素株式会社)にてデータ解析することにより、AICS及びAALS(糖尿病リスク・アミノ酸レベル)を報告する検査です。なお、本検査結果は、その他の検査結果を考慮して総合的に判断して下さい。(12)

## 男性AICS (5種)、女性AICS (6種)、 男性AIRS (8種)、女性AIRS (9種) 検体取扱い方法

- EDTA-2Na入り採血チューブにて血液約5mLを採取してください
- 採血直後、血液を2~3回軽く転倒混和してください(ローラでの混和は行わないでください)
- 混和後直ちに(1分以内)採血チューブを氷水中(血液の液面まで氷水につかる状態)で冷却(15分間以上、遠心操作まで冷却)してください
- 採血から8時間以内に冷却条件で遠心分離(4℃、3000回転、15分)または通常遠心分離(3000回転、15分、ローターが昇温していないこと)してください
- 遠心後、直ちに上清の血漿を血液との界面に触れないように血漿上清の中央部から採取し、分注してください
- 分注後、血漿を4時間以内に凍結保存してください



## 骨塩定量検査

コード	検査項目	材 料	所要日数	生体検査料	検査方法	備考
1181	骨塩定量	X線写真(四ツ切り)	3~5	① (140)	DIP法	撮影条件等の事前の設定が必要です。性別、生年月日、撮影日を必ず記入して下さい。

① 骨粗鬆症の診断及びその経過観察の際のみ、4ヶ月に1回を限度に算定できます。

## <DIP法における第二中手骨 骨密度および骨皮質幅指数基準値> (メーカー資料より作成)

女 性		年齢	男 性		女 性		年齢	男 性	
m-BMD (mmAl)	MCI		m-BMD (mmAl)	MCI	m-BMD (mmAl)	MCI		m-BMD (mmAl)	MCI
2.778±0.480	0.486±0.134	20~24	2.907±0.586	0.459±0.122	2.172±0.578	0.360±0.092	70~74	2.836±0.652	0.411±0.114
2.854±0.484	0.498±0.142	25~29	2.932±0.546	0.466±0.128	2.073±0.620	0.344±0.090	75~79	2.774±0.752	0.407±0.126
2.877±0.482	0.498±0.138	30~34	3.010±0.558	0.474±0.130	1.975±0.558	0.330±0.086	80~84	2.796±0.724	0.409±0.100
2.880±0.494	0.490±0.138	35~39	3.047±0.578	0.466±0.122	1.874±0.506	0.316±0.092	85~	—	—
2.867±0.500	0.479±0.132	40~44	2.997±0.600	0.449±0.122	(YAM値: 2.864) 平均値±2SD				
2.835±0.516	0.474±0.128	45~49	2.952±0.608	0.436±0.114	(YAM値: 2.907) 平均値±2SD				
2.705±0.578	0.459±0.124	50~54	2.960±0.582	0.433±0.114					
2.502±0.588	0.424±0.114	55~59	2.931±0.622	0.428±0.114					
2.375±0.576	0.398±0.104	60~64	2.939±0.622	0.437±0.118					
2.272±0.572	0.378±0.100	65~69	2.884±0.698	0.427±0.122					

# 微生物学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
5700	細菌塗抹	*		冷蔵	2~3	① 61 微生物	グラム染色	(-)	その他の染色については指示して下さい。
197	便原虫	便 拇指頭大	K	冷蔵	1~2	61 微生物	新鮮標本染色法	(-)	
5721	[1] 口腔・気道・ 呼吸器	*		冷蔵	4~5	②⑦ 160 微生物	使用培地は、目的菌・ 検査材料により異なり ます。基本的には、 血液寒天培地、BTB 培地を使用。 分離用培地について は、指定菌に応じた 分離用培地を使用。 同定については、 MALDI-TOF-MS法 を用いた質量分析及 び自動分析装置、各 種同定培地を用いた 生化学性状検査、免 疫血清を用いた免疫 学的検査です。		検査材料に応じた細菌の検索を実施 します。 同定菌名・菌種まで報告します。 (一部、属又は群までしか報告で きない場合があります。) 報告日より3日間菌株を保存しま す。 必ず材料名を明記して下さい。 淋菌・髄膜炎菌検査では、室温保 存して下さい。 トリコモナスの検査は専用培養容 器にて採取し、室温又は37℃保 存して下さい。
	[2] 消化管	*							
	[3] 血液・ 穿刺液	*		② 215 微生物					
	[4] 泌尿器・ 生殖器	*		② 170 微生物					
	[5] その他の 部位	*	冷蔵	② 160 微生物					
	[6] 簡易培養 検査	*		②⑦ 60 微生物					
5741									
5861	嫌気性培養	*		冷蔵	4~8	③⑦ 112 微生物	各種嫌気性菌用分離 及び増菌培地を使用		嫌気ポーター等専用輸送培地をご 利用下さい。
5776	下痢原性大腸菌 (大腸菌血清型別)				4~5	④ 180 微生物	血清抗体法		
5919	大腸菌ベロトキシン検出検査 (ベロ毒素 LA法)	菌株			5~6	194 微生物	RPLA法	(-)	
	細菌薬剤感受性検査	-			4~10	⑤ 1菌種 170 2菌種 220 3菌種以上 280 微生物	CLSIドキュメントに 基づく微量液体希釈 法及びディスク法		薬剤名一覧はP84, 85を参照して 下さい。
5863	ヘリコバクター	*	P7	冷蔵	6~7	一般細菌 培養に 準ずる	培養法	(-)	
5917	ヘリコバクター感受性検査	*	P7	冷蔵	9~10	一般細菌 培養に 準ずる	MIC測定法	AMPC(S) CAM(S) MZ(S)	感受性試験についてはヘリコバクター培養検査 と併せて依頼された場合のみ検査を実施します。 AMPC、CAM、MZの3薬剤のMIC値と判定値 の報告いたします。
5714	真菌塗抹	*		室温	2~3	61 微生物	グラム染色法 40% KOH使用	(-)	
	真菌培養	*		室温	8~16	一般細菌 培養同定 実施料を参照	真菌用培地使用		真菌の発育状態により日数を必要 とする場合があります。
	酵母様真菌薬剤感受性検査	培養後の 菌株		室温	9~15	⑥ 150 微生物	微量液体希釈法		MIC値での報告です。 実施薬剤はP86を参照して下さい。 <sup>⑫</sup>

\* 採取量、容器及び検体の採取方法についてはP89~91を参照して下さい。

① 同一検体について「尿沈渣」と「細菌塗抹」を同一日に併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定します。染色の有無及び方法の如何にかかわらず、また、これら各種の方法を2つ以上用いた場合であっても、1回として算定します。「細菌塗抹」と「尿沈渣」を同一日に併せて算定する場合は、当検査に用いた検体の種類を診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。

② 細菌培養同定検査  
ア 細菌培養同定検査は、抗酸菌を除く一般細菌、真菌、原虫等を対象として培養を行い、同定検査を行うことを原則とします。  
イ 同定検査を予定して培養したものであれば、菌が陰性の場合であっても、[1] から [5] までの項により算定しますが、あらかじめ培養により菌の有無のみを検索する場合は、検体の種類にかかわらず、[6] の簡易培養検査により算定します。  
ウ 細菌培養同定検査は、検体ごとに [1] から [5] までの所定点数を算定できませんが、同一検体を用いて簡易培養を併せて行った場合は、[6] の簡易培養検査は算定できません。  
エ 症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、当該起因菌を検索する目的で異なった部位から、又は同一部位の数か所から検体を採取した場合は、主たる部位又は1部位のみの所定点数を算定します。ただし、血液を2か所以上から採取した場合に限り、[3]の血液又は穿刺液を2回算定できます。この場合、嫌気性培養加算(115点)は2回算定できます。  
オ 各検体別の所定点数には、定量培養を行った場合を含みます。  
尚、[3]における「穿刺液」とは、胸水、腹水、髄液及び関節液をいい、[5]の「その他の部位からの検体」とは、[1]から[4]までに掲げる部位に含まれないすべての部位からの検体をいいます。

③ 同一検体について一般培養と併せて嫌気性培養を行った場合は、嫌気性培養加算として、112点を所定点数に加算する。

④ 本法は感染症疫学検査D012「33」別添記載の「細菌培養同定検査により大腸菌が確認され、及び大腸菌ベロトキシン定性により毒素が確認又は腸管出血性大腸菌用の選択培地に菌の発育が確認され、並びに血清抗体法により大腸菌のO抗原又はH抗原の同定を行った場合に、使用した血清の数、菌種等に関わらず算定する。」に当てはらない為、区分番号「D018」細菌培養同定検査で算定しています。

⑤ 細菌薬剤感受性検査は、結果として菌が検出できず実施できなかった場合には算定できません。

⑥ 酵母様真菌薬剤感受性検査は、深在性真菌症(カンジダ、クリプトコックスに限る)であり、原因菌が分離できた患者に対して行った場合に限り算定出来ます。また、結果として菌が検出できず実施出来なかった場合には算出できません。

⑦ 入院中の患者に対して、質量分析装置を用いて細菌の同定を行った場合は、質量分析装置加算として、40点を所定点数に加算する。

# 微生物学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考	
抗 酸 菌	5951 抗酸菌塗抹	喀痰等 2.0~5.0 推奨	L または P1	冷蔵	2~3	61 微生物	チール・ネルゼン染色	陰性	陽性の場合、Gaffky号数で報告 します。	
	5988 抗酸菌塗抹 (蛍光法)	喀痰等 2.0~5.0 推奨	L または P1	冷蔵	2~3	50 微生物	蛍光染色	陰性	陽性の場合、Gaffky号数で報告 します。	
	5953 抗酸菌塗抹 (集菌・蛍光法)	喀痰等 2.0~5.0 推奨	L または P1	冷蔵	2~3	82 微生物	蛍光染色	陰性		
	5955 抗酸菌分離培養 (小川法)	喀痰等 2.0~5.0 推奨	L または P1	冷蔵	4~8 週	① 204 微生物	小川培地使用	(-)	8週間の培養判定で打ち切ります。 培養結果は4週、6週、8週それぞ れについて報告します。	
	5960 抗酸菌液体培養 (MGIT法)	喀痰等 2.0~5.0 推奨	L または P1	冷蔵	4~44	① 280 微生物	酸素感受性 蛍光センサー法	(-)	6週間の培養判定で打ち切ります。 培養結果は2週、4週、6週それぞ れ報告しますが、陽性時の報告は 随時行います。	
	5962 結核菌群(抗原)同定	培養菌株			室温	3~4	291 免疫	免疫クロマトグラ フィー法		培養陽性分について検査を実施し ます。
	4105 抗酸菌薬剤感受性検査	培養菌株			冷蔵 (ただし 菌株で提 出の場合 は室温)	4週 以上	380 微生物	比率法		培養陽性分については、追加依頼 書にて受付いたします。 陽性菌株は2ヶ月間保存します。 培養陽性報告日より1ヶ月以内に 感受性検査を指示して下さい。

核 酸 同 定	5966 抗酸菌群核酸同定 (DDH)	培養菌株		室温	7~15	410 微生物	マイクロプレート ハイブリダイゼーション法		MGIT法を依頼された場合、左記 の所要日数は3週以上となります。
	1834 結核菌群核酸同定 (結核菌PCR)	喀痰等 1.0	L または P1	冷蔵	2~3	410 微生物	リアルタイムPCR法	(-) 陰性	
	4121 結核菌群核酸同定 (結核菌LAMP)	喀痰等 0.2			1~3		LAMP法	陰性 (-)	
	1831 マイコバクテリウムアビウム・ イントラセルラー核酸同定 (MAC-PCR)	喀痰等 1.0	L または P1	冷蔵	2~3	② 421 微生物	リアルタイムPCR法	アビウム (-) 陰性 イントラセルラー (-) 陰性	他検査にて結核菌が否定された場 合のみ実施可能。

- ① 抗酸菌分離培養は、検査の採取部位が異なる場合であっても、同時に又は一連として検体を採取した場合は、1回のみ所定点数を算定します。なお、結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できます。「抗酸菌液体培養(MGIT)」は、液体培地を用いて培養を行い、酸素感受性蛍光センサー、二酸化炭素センサー又は酸化還元呈色色素を用いて検出を行った場合に算定します。また、「抗酸菌分離培養(小川法)」は「抗酸菌液体培養(MGIT)」に掲げるもの以外について算定します。
- ② 「マイコバクテリウムアビウム・イントラセルラー核酸同定」は、他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できます。尚、「マイコバクテリウムアビウム・イントラセルラー核酸同定」と「抗酸菌同定」が併せて実施された場合にあっては、主たるもののみ算定します。

## 【核酸検査】

容 器	対 象 項 目	採 取 ・ 保 存 時 の 注 意 事 項
L : 喀痰容器 P1 : 滅菌容器 	結核菌群核酸同定 (結核菌PCR・結核菌LAMP) マイコバクテリウムアビウム・イント ラセルラー核酸同定 (MAC-PCR)	コンタミネーションの影響が大きく検査データに反映します ので、取り扱いには十分ご注意ください。 検体は必ず1.0mL以上採取して下さい。 血液の混入は検査データに大きく影響しますので、十分ご注 意下さい。 P1 : 滅菌容器で体液を提出する場合、抗凝固剤には必ずクエ ン酸Naをご使用下さい。 ヘパリン添加は検査できません。

<b>K 便容器</b> 【保存方法】 ●室温 【有効期限】 ●1年 	<b>L 喀痰容器</b> 【保存方法】 ●室温 【有効期限】 ●1年 	<b>P1 滅菌容器</b> 【保存方法】 ●室温 【有効期限】 ●1年 	<b>P7 ヘリコバクター培地</b> 【保存方法】 ●4~30℃ 【有効期限】 ●4ヶ月 
---	---	---	--

# 微生物学検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
5931	A群β溶連菌迅速試験	咽頭膿 扁桃膿	P2	冷蔵 又は 室温 2~30℃	2~4	① 127 免疫	イムノクロマト グラフィー法	(-)	スワブキットでの提出は反応に影響をおよぼす可能性があるため検査不能となります。
3250	尿素呼気試験-IR	250mL 以上	P6	室温	2~3	② 70 微生物	IR (赤外分光分析)	Δ <sup>13</sup> CO <sub>2</sub> 2.5未満 (%)	呼気採取バッグ提出時にはユービット錠服用前後のチェックをしキャップをして提出して下さい。
2064	ノロウイルスRNA	便1g	K	凍結	2~3		リアルタイム RT-PCR法	G1 (-) G2 (-)	
5937	クロストリジウム ディフィシル抗原	便 小指頭大	K※	冷蔵	2~4	80 免疫	イムノクロマト グラフィー法	C.デフィシル抗原(-) CDトキシンAB (-)	下痢便を提出の場合は1mLご提出下さい。CDトキシンABの結果を同時に報告させていただきます。
5936	糞便中アデノウイルス抗原	便 小指頭大	K※	冷蔵	2~4	③ 60 免疫	イムノクロマト グラフィー法	(-)	下痢便を提出の場合は1mLご提出下さい。
5749	大腸菌ペロトキシン検出検査 (ペロ毒素 直接法 ELISA)	便 小指頭大	K※	冷蔵	2~4	④ 194 微生物	ELISA法	(-)	下痢便を提出の場合は1mLご提出下さい。
5807	大腸菌O157抗原	便 小指頭大	K※	冷蔵	2~4	⑤ 165 免疫	イムノクロマト グラフィー法	(-)	下痢便を提出の場合は1mLご提出下さい。

- ① 「A群β溶連菌迅速試験」と「細菌培養同定検査」を同時に実施した場合、「A群β溶連菌迅速試験」の所定点数のみを算定します。この場合において、「A群β溶連菌迅速試験」の結果が陰性のため、引き続き「細菌培養同定検査」を実施した場合であっても、「A群β溶連菌迅速試験」の所定点数のみを算定します。
- ② 「尿素呼気試験-IR」、「便中ヘリコバクター・ピロリ抗原」を含むヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」（平成12年10月31日保険発第180号；保医発0221第31号平成25年2月21日より一部改正）に即して行って下さい。
- ③ 「ロタウイルス抗原」と「糞便中アデノウイルス抗原」を同時に行った場合は、主たる検査のみ算定します。
- ④ 「大腸菌ペロトキシン検出検査」は、大腸菌の抗原定性の結果により病原性大腸菌が疑われる患者に対して行った場合に算定します。また、細菌培養を行うことなく糞便から直接検出する方法であってELISA法によるものについては、臨床症状や流行状況から腸管出血性大腸菌感染症が強く疑われる場合に限り、大腸菌の抗原定性検査を踏まえることなく行った場合にも算定できます。
- ⑤ 「大腸菌O157抗原」、「大腸菌O157抗体」及び「細菌培養同定検査」の[2]の消化管からの検体によるものうち、いずれかを複数測定した場合は、主たるもののみ算定します。
- ※ 使用前の検体採取容器の保管方法について  
提出はK容器でお願いします。  
P2滅菌綿棒入容器や、P3輸送用スワブキットでの提出は必要検体量が得られませんので、少量不能となります。



## 感受性薬剤名一覧（系統別）

系統	投与	コード	略号	一般名	主な商品名
ペニシリン系	注 射	5001	PCG	ベンジルペニシリン	バイシリン ペニシリンG
		5002	ABPC	アンピシリン	ピクシリン ソルシリン
		5009	PIPC	ピペラシリン	ペントシリン ペンマリン
		5029	ASPC	アスポキシリン	ドイル
		5032	S/ABP	スルバクタム/アンピシリン	ユナシンS ユナスピン
		5033	T/PIP	タソバクタム/ピペラシリン	ゾシン
		5005	AMPC	アモキシシリン	サワシリン パセトシン
経口	5026	C/AMP	クラブラン酸/アモキシシリン	オーグメンチン	
	5030	SBTPC	スルタミシリン	ユナシン	
セファロソリン系	注 射	5101	CET	セファロチン	コアキシ
		5104	CEZ	セファゾリン	セファメジン セフマゾン
		5108	CMZ	セフメタゾール	セフメタゾン セフルトール
		5112	CPZ	セフェラゾン	セフォピット セフォペラジン
		5115	CZX	セフチゾキシム	エボセリン
		5119	CTX	セフォタキシム	クラフォラン セフォタックス
		5120	LMOX	ラタモキシセフ	シオマリン
		5125	CMX	セフメノキシム	ベストコール ベストロン
		5129	CAZ	セフトジジム	モダシン モダケミン
		5130	CTRX	セフトリアキソン	ロセフィン セロニード
		5131	S/CPZ	スルバクタム/セフォペラゾン	スルペラゾン バクフォーゼ
		5139	FMOX	フロモキシセフ	フルマリン
		5143	CETB	セフチブテン	セフテム
		5145	CPR	セフピロム	ケイテン プロアクト
		5147	CZOP	セフォソبران	ファーストシン
5148	CFPM	セフェピム	マキシピーム		
経口	5113	CTM	セフォチアム, セフォチアム-ヘキセチル	ハロスポア パンスポリン セフォチアロン	
	5103	CEX	セファレキシ	L-ケフレックス セファレックス	
	5121	CCL	セファクロル	ケフラール ケフボリン	
	5122	CXM	セフロキシム-アキセチル	オラセフ	
	5135	CFIX	セフィキシム	セフスパン セキシム	
	5138	CFTM	セフテラム-ピボキシ	トミロン セトラート	
	5140	CPDX	セボドキシム-プロキセチル	バナナ バナセファン	
	5142	CFDN	セフジニル	セフゾン セフニール	
	5146	CDTR	セフジトレン-ピボキシ	メイアクト	
	5149	CFPN	セフカペン-ピボキシ	フロモックス	
注 射	5601	LCM	リンコマイシン	ペランコシン リンコシン	
	5602	CLDM	クリンダマイシン	ダラシン ミドシン	

系統	投与	コード	略号	一般名	主な商品名
マクロライド系	注 射	5201	EM	エリスロマイシン	エリスロシン
		5208	RKM	ロキタマイシン	リカマイシン
		5210	CAM	クラリスロマイシン	クラリシッド クラリス
		5211	AZM	アジスロマイシン	ジスロマック
テトラサイクリン系	注 射	5301	TC	テトラサイクリン	アクロマイシンV
		5302	DOXY	ドキシサイクリン	ビブラマイシン
		5303	MINO	ミノサイクリン	ミノマイシン ミノペン
アミノグリコシド系	注 射	5404	GM	ゲンタマイシン	ルイネシン ゲンタシン
		5406	DKB	ジベカシン	パニマイシン
		5407	AMK	アミカシン	アミカマイシン ピクリン
		5408	TOB	トブラマイシン	トブラシン
		5415	NTL	ネチルマイシン	ネチリン ベクタシン
		5416	ABK	アルベカシン	ハベカシン ブルバトシン
		5417	ISP	イセパマイシン	イセパシン エクサシン
キノロン系	注 射	5501	CP	クロラムフェニコール	クロマイ クロロマイセチン
		5626	NFLX	ノルフロキサシン	バクシダーン キサフロール
		5628	OFLX	オフロキサシン	タリビット タリフロン
		5630	TFLX	トスフロキサシン	トスキサシン オゼックス
		5631	LFLX	ロメフロキサシン	バレオン ロメバクト
		5638	PUFX	ブルリフロキサシン	スオード
		5639	MFLX	モキシフロキサシン	アベロックス ベガモックス
		5640	GRNX	ガレノキサシン	ジェニナック
		5641	STFX	シタフロキサシン	グレースピット
		5629	CPFX	シプロフロキサシン	シプロキサン シプロキノ
		5634	LVFX	レボフロキサシン	クラビット
		5636	PZFX	パズフロキサシン	パズクロス パシル
		その他	注 射	5624	ST
5647	FOM			ホスホマイシン	ホスミン ホロサイル
5671	FRPM			ファロペネム	ファロム
5606	LZD			リネゾリド	ザイボックス
5653	VCM			バンコマイシン	バンコマイシン
5655	TEIC			テイコプラニン	タゴシッド
5661	AZT			アズトレオナム	アザクタム
5663	IPM	イミペネム	チエナム インダスト		
5665	MEPM	メロペネム	メロペン		
5666	BIPM	ピアペネム	オメガシン		
5667	DRPM	ドリペネム	フィニボックス		

  グラム陽性菌のみに使用可
   グラム陰性菌のみに使用可  
  MRSA・腸球菌のみに使用可

## 感受性薬剤名一覧（50音順）

系統	投与	コード	略号	主な商品名	一般名
テ	注	5301	TC	アクロマイシンV	テトラサイクリン
ソ	注	5661	AZT	アザクタム	アズトレオナム
キ	経	5639	MFLX	アベロックス ベガモックス	モキシフロキサシン
ア	注	5407	AMK	アミカマイシン ピクリン	アミカシン
ア	注	5417	ISP	イセパシム エクサシム	イセパマイシン
セ	注	5115	CZX	エボセリン	セフチゾキシム
マ	経	5201	EM	エリスロシン	エリスロマイシン
セ	経	5103	CEX	レケフレックス セファレックス	セファレキシム
ペ	経	5026	C/AMP	オーグメンチン	クラバン酸/アモキシシリン
ソ	注	5666	BIPM	オメガシン	ピアベネム
セ	経	5122	CXM	オラセフ	セフロキシム-アキセチル
キ	注	5634	LVFX	クラビット	レボフロキサシン
セ	注	5119	CTX	クラフォラン セフォタックス	セフォタキシム
マ	経	5210	CAM	クラリシッド クラリス	クラリスロマイシン
キ	経	5641	STFX	グレースビット	シタフロキサシン
C	注	5501	CP	クロマイ クロロマイセチン	クロラムフェニコール
セ	注	5145	CPR	ケイテン プロアクト	セフピロム
セ	経	5121	CCL	ケフラール ケフボリン	セファクロル
セ	注	5101	CET	コアキシム	セファロチン
ソ	注	5606	LZD	ザイボックス	リネソリド
ペ	経	5005	AMPC	サワシリン パセトシン	アモキシシリン
キ	経	5640	GRNX	ジェニナック	ガレノキサシン
セ	注	5120	LMOX	シオマリン	ラタモキセフ
マ	経	5211	AZM	ジスロマック	アジスロマイシン
キ	注	5629	CPFX	シプロキサシム シプロキノ	シプロフロキサシン
キ	経	5638	PUFX	スオード	ブルリフロキサシン
セ	注	5131	S/CPZ	スルペラゾン バクフォーゼ	スルバクタム/セフォペラゾン
セ	注	5104	CEZ	セファメジン セフマゾン	セファゾリン
セ	注	5112	CPZ	セフォビット セフォペラジン	セフペラゾン
セ	経	5135	CFIX	セフスパン セキシム	セフィキシム
セ	経	5142	CFDN	セフゾン セフニール	セフジニル
セ	注	5143	CETB	セフテム	セフチブテン
セ	注	5108	CMZ	セフメタゾン セフルトール	セフメタゾール
ペ	注	5033	T/PIP	ソシン	タゾバクタム/ピペラシリン
ソ	注	5655	TEIC	タゴシッド	テイコブラニン
リ	注	5602	CLDM	ダラシン ミドシン	クリンダマイシン
キ	経	5628	OFLX	タリビット タリフロン	オフロキサシン

系統	投与	コード	略号	主な商品名	一般名
ソ	注	5663	IPM	チエナム インダスト	イミペネム
ペ	注	5029	ASPC	ドイル	アスポキシリン
キ	経	5630	TFLX	トスキサシム オゼックス	トスフロキサシン
ア	注	5408	TOB	トブラシン	トブラマイシン
セ	経	5138	CFTM	トミロン セトラート	セフテラム-ピボキシル
ア	注	5415	NTL	ネチリン ベクタシン	ネチルマイシン
ペ	注	5001	PCG	バイシリン ペニシリンG	ベンジルペニシリン
キ	経	5626	NFLX	バクシダール キサフロー	ノルフロキサシン
ソ	経	5624	ST	バクタ バクトラミン	スルファメトキサゾール・トリメトプリム
キ	注	5636	PZFX	パズクロス パシル	パズフロキサシン
セ	経	5140	CPDX	バナナ バナセファン	セフボドキシム-プロキセチル
ア	注	5406	DKB	パニマイシン	ジベカシン
ア	注	5416	ABK	ハベカシン ブルバトシン	アルベカシン
キ	経	5631	LFLX	バレオン ロメバクト	ロメフロキサシン
セ	注	5113	CTM	ハロスボア パンスボリン セフォチアロン	セフォチアム、セフォチアム-ヘキセチル
ソ	注	5653	VCM	バンコマイシン	バンコマイシン
ペ	注	5002	ABPC	ビクシリン ソルシリン	アンピシリン
テ	注	5302	DOXY	ビブラマイシン	ドキシサイクリン
セ	注	5147	CZOP	ファーストシン	セフォゾラン
ソ	経	5671	FRPM	ファロム	ファロペネム
ソ	注	5667	DRPM	フィニボックス	ドリペネム
セ	注	5139	FMOX	フルマリン	フロモキセフ
セ	経	5149	CFPN	フロモックス	セフカペン-ピボキシル
セ	注	5125	CMX	ベストコール ベストロン	セフメノキシム
リ	注	5601	LCM	ペランコシン リンコシン	リンコマイシン
ペ	注	5009	PIPC	ペントシリン ペンマリン	ピペラシリン
ソ	経	5647	FOM	ホスミシン ホロサイル	ホスホマイシン
セ	注	5148	CFPM	マキシピーム	セフェピム
テ	注	5303	MINO	ミノマイシン ミノペン	ミノサイクリン
セ	経	5146	CDTR	メイアクト	セフジトレン-ピボキシル
ソ	注	5665	MEPM	メロペン	メロペネム
セ	注	5129	CAZ	モダシン モダケミン	セフトアジジム
ペ	経	5030	SBTPC	ユナシン	スルタミシリン
ペ	注	5032	S/ABP	ユナシンS ユナスピン	スルバクタム/アンピシリン
マ	経	5208	RKM	リカマイシン	ロキタマイシン
ア	注	5404	GM	ルイネシン ゲンタシン	ゲンタマイシン
セ	注	5130	CTRX	ロセフィン セロニード	セフトリアキソン

微生物学検査

     グラム陽性菌のみに使用可   
      グラム陰性菌のみに使用可  
 ペ……ペニシリン系      セ……セフェム系      マ……マクロライド系  
 ア……アミノグリコシド系    C……C P系      キ……キノロン系

     MRSA・腸球菌のみに使用可  
 テ……テトラサイクリン系  
 リ……リンコマイシン系    ソ……その他

## 薬剤感受性セット

### [4050] MICセット

薬剤略号	MIC値報告対象菌種					MIC値報告対象外菌種	
	腸内細菌	緑膿菌	ブドウ球菌	MRSA	腸球菌	*その他の グラム陰性菌	*その他の グラム陽性菌
PCG			●		●		●
ABPC	●					●	
PIPC	●	●				●	
CVA/AMPC	●					●	
TAZ/PIPC		●					
CEZ	●		●			●	●
CMZ	●						
CTM	●					●	
LMOX	●					●	
CXM			●				●
CAZ	●	●				●	
CTRX	●	●				●	
SBT/CPZ		●					
CFPM	●	●				●	
EM			●	●	●		●
MINO	●		●	●	●	●	●
GM	●	●	●	●			●
AMK	●	●				●	
ABK			●	●			
CP			●	●	●		●
CLDM			●	●			●
LZD				●	●		
ST	●		●	●			●
CPFX		●					
LVFX	●	●	●	●	●	●	●
FOM	●	●	●	●			
VCM			●	●	●		●
TEIC			●	●	●		
AZT	●	●				●	
IPM		●	●		●	●	
MEPM	●	●					

\*その他のグラム陰性菌、\*その他のグラム陽性菌の菌種については、栄養要求が厳しく、カードで発育できない菌種（ヘモフィルス属や肺炎球菌など）が対象となります。これらの菌種はディスク法で感受性検査を実施しますので、MIC値の報告はできません。  
\*MIC値報告のため、他の薬剤との同時依頼はできません。

### [5904] 材料別6薬剤セット (●)

### [5905] 材料別9薬剤セット (●+○)

薬剤略号	材料別セット									
	呼吸器系		消化器系		泌尿生殖器系		血液穿刺液系		その他	
	G+	G-	G+	G-	G+	G-	G+	G-	G+	G-
PCG							●			
ABPC	●		●	●	●			●	●	
PIPC		●		●		●		○		●
CVA/AMPC		●				○				○
SBT/ABPC							●			
CEZ	●								●	
CTM		○	○	●		●	●	●		●
CZX								●		●
CTX							●			
CCL			●		●					
CAZ		●								
CFIX					○					
CPDX		○		○		●			●	
CPR				○			○	○		
EM	●		●						●	
CAM					●					
MINO	●		●			○			●	●
GM								●		●
AMK		●		●		●				
ABK	○		○		○		○		○	
ISP		○								
CLDM	●								○	
ST						●				
OFLX	●		●		●	●			●	●
CPFX					●		●	●		
TFLX	○		●							
LVFX		●		●						
FOM	○		○	●	●				○	
VCM							○			
AZT								●		○
IPM		●		○	○	○	●	○	○	○

G+：グラム陽性菌 G-：グラム陰性菌

### [4051] 菌種別対応セット

薬剤略号	グラム陰性菌	緑膿菌	グラム陽性菌 (ブドウ球菌含む)	連鎖球菌
PCG			●	●
ABPC	●			
PIPC	●	●		
CEZ	●		●	
CTX	●			
CXM	●			●
CAZ		●		
CFPM		●		
EM			●	●
MINO	●		●	●
GM		●		
AMK		●		
ABK			●	
CLDM				●
ST				●
CPFX		●		
LVFX	●		●	●
FOM			●	
VCM			●	●
AZT	●	●		
IPM	●	●	●	●
MEPM		●		

### 糞便培養臨床症状セット

	【4201】 水様便セット	【4202】 粘血便セット	【4203】 食中毒セット	【4204】 海外渡航セット
赤痢菌	●	●	●	●
サルモネラ菌	●	●	●	●
コレラ菌	●		●	●
腸炎ピブリオ菌	●		●	●
下痢原性大腸菌	●	●	●	
カンピロバクター		●	●	
黄色ブドウ球菌			●	
エロモナス				●
ブレジオモナス				●
エルシニア				●

### [5597] 酵母様真菌感受性セット

薬剤略号	一般名
AMPH-B	Amphotericin B
5-FC	Flucytosine
FLCZ	Fluconazole
ITCZ	Itraconazole
MCZ	Miconazole
MCFG	Micafungin
VRCZ	Voriconazole
CPFG	Caspofungin

\*酵母様真菌感受性検査のご依頼時は、8薬剤すべてについて報告します。薬剤を個々に指定することはできません。

# 微生物学検査

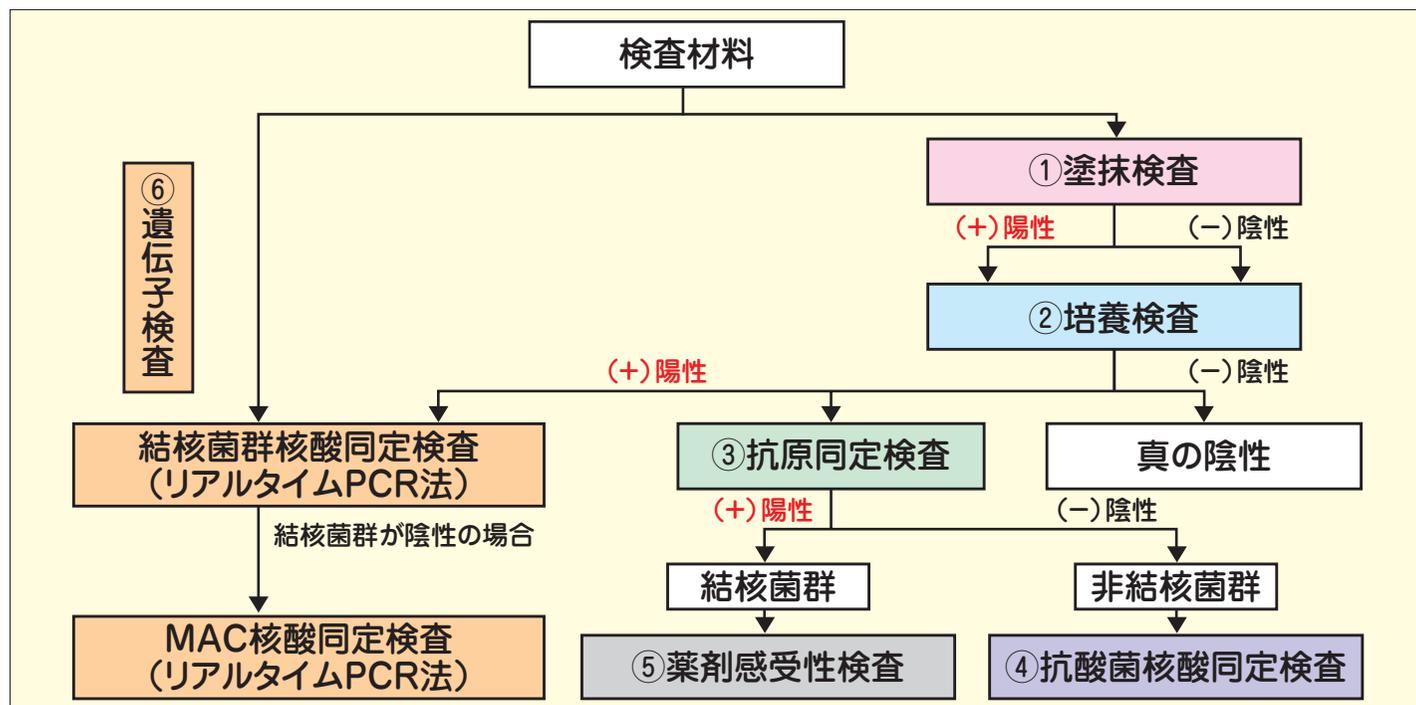
## 菌種別にみた有効とされる感受性薬剤一覧表

●承認済み有効菌種

▲未承認ではあるが臨床的に有効とされる菌種

系 統	投与	コード	略号	グラム陰性菌 (腸内細菌含む)	インフル エンザ菌	緑膿菌	グラム陽性菌 (MRSA以外のブドウ球菌)	MRSA	連鎖球菌 (溶連菌等)	腸球菌	嫌気性菌
ペニシリン系	注射	5001	PCG				●		●	●	
	注射	5002	ABPC	●	●		●		●	●	
	注射	5009	PIPC	●	●	●	●		●	●	●
	注射	5029	ASPC	●	●		●		●	●	●
	注射	5032	S/ABP	●	●		●		▲	▲	
	注射	5033	T/PIP	●	●	●	●		●	●	
	経口	5005	AMPC	●	●		●		●	●	
	経口	5026	C/AMP	●	●		●		●	●	●
	経口	5030	SBTPC	●	●		●		●	●	
セフェム系	注射	5101	CET				●		●		
	注射	5104	CEZ	●			●		●		
	注射	5112	CPZ	●	●	●			●		●
	注射	5115	CZX	●	●				●		●
	注射	5119	CTX	●	●		▲		●		●
	注射	5125	CMX	●	●		●		●		●
	注射	5129	CAZ	●	●	●	●		●		●
	注射	5130	CTRX	●	●		●		●		●
	注射	5131	S/CPZ	●	●	●			●		●
	注射	5145	CPR	●	●	●	●		●	●	●
	注射	5147	CZOP	●	●	●	●		●	●	●
	注射	5148	CFPM	●	●	●	●		●		●
	経口	5103	CEX	●	●		●		●		
	経口	5121	CCL	●	●		●		●		
	経口	5122	CXM	●	●		●		●	●	●
	経口	5135	CFIX	●	●				●		
	経口	5138	CFTM	●	●				●		●
	経口	5140	CPDX	●	●		●		●		●
	経口	5142	CFDN	●	●		●		●		●
	経口	5146	CDTR	●	●		●		●		●
経口	5149	CFPN	●	●		●		●		●	
注・口	5113	CTM	●	●		●		●			
セファマイシン系	注射	5108	CMZ	●	●		●				●
オキサセフェム系	注射	5120	LMOX	●	●						●
	注射	5139	FMOX	●	●		●		●		●
マクロライド系	経口	5201	EM				●		●		●
	経口	5208	RKM				●		●		●
	経口	5210	CAM		●		●		●		●
	経口	5211	AZM		●		●		●		●
テトラサイクリン系	注・口	5301	TC	●	●		●		●	●	●
	注・口	5302	DOXY	●	●		●	●	●		
	注・口	5303	MINO	●	●		●	●	●	●	▲
アミノグリコシド系	注射	5404	GM	●	▲	●	●	●			
	注射	5406	DKB	●	▲	●	●	●			
	注射	5407	AMK	●	▲	●					
	注射	5408	TOB	●	▲	●	●	●			
	注射	5415	NTL	●	●	●	●	●			
	注射	5416	ABK	●	●		●	●	▲		
	注射	5417	ISP	●	●	●	▲	▲			
CP系	注・口	5501	CP	●	●		●	●	●	●	●
キノロン系	経口	5626	NFLX	●	●	●	●	●	●	●	●
	経口	5628	OFLX	●	●	●	●	●	●	●	●
	注・口	5629	CPFX	●	●	●	●	●	●	●	●
	経口	5630	TFLX	●	●	●	●	●	●	●	●
	注・口	5634	LVFX	●	●	●	●	●	●	●	●
	経口	5638	PUFX	●	●	●	●	●	●	●	●
	経口	5639	MFLX	●	●	●	●	●	●	●	●
	経口	5640	GRNX	●	●	●	●	●	●	●	●
	経口	5641	STFX	●	●	●	●	●	●	●	●
	注射	5636	PZFX	●	●	●	●	●	●	●	●
リンコマイシン系	経口	5601	LCM				●		●		●
	経口	5602	CLDM				●		●		●
その他	経口	5624	ST	●	●		▲	▲		●	
	経口	5647	FOM	●	●	●	●	●	▲		
	経口	5671	FRPM	●	●		●		●		●
	注射	5606	LZD				●			●	
	注射	5653	VCM				▲	●	●	▲	
	注射	5655	TEIC				▲	●	●	▲	
	注射	5661	AZT	●	●	●					
	注射	5663	IPM	●	●	●	●			●	●
	注射	5665	MEPM	●	●	●	●		●	●	●
	注射	5666	BIPM	●	●	●	●		●	●	●
注射	5667	DRPM	●	●	●	●		●	●	●	

## 抗酸菌検査の進め方



### ① 塗抹検査

- 【5951】 抗酸菌塗抹 : チール・ネルゼン染色
- 【5988】 抗酸菌塗抹 (蛍光法) : 蛍光染色
- 【5953】 抗酸菌塗抹 (集菌蛍光法) : 蛍光染色

☆集菌蛍光法における検出菌数の記載方法

記載法*	集菌蛍光染色 ×200	チール・ネルゼン染色 ×1000	備考** (ガフキー号数)
—	0/30視野	0/300視野	G 0
±	1~2/30視野	1~2/300視野	G 1
1+	2~19/10視野	1~9/100視野	G 2
2+	≥20/10視野	≥10/100視野	G 5
3+	≥100/1視野	≥10/1視野	G 9

※結果報告は、—、±、1+、2+、3+で記載致します。

※※相当するガフキー号数とされています。

### ② 培養検査

- 【5955】 抗酸菌分離培養 (小川培地法)  
4, 6, 8週目で報告します
- 【5960】 抗酸菌液体培養 (MGIT)  
2, 4, 6週目で報告します

### ③ 抗原同定検査

- 【5962】 結核菌群 (抗原) 同定 (3~4日)
- 判定 : (陽性) 結核菌群  
(陰性) 非結核菌群

### ④ 抗酸菌核酸同定検査

- 【5966】 抗酸菌群核酸同定 (DDH) (7~15日)  
(同定可能菌種)
1. *M.tuberculosis* complex\*\*
  2. *M.kansasii*
  3. *M.marinum*
  4. *M.simiae*
  5. *M.scrofulaceum*
  6. *M.gordonae*
  7. *M.szulgai*
  8. *M.avium*
  9. *M.intracellulare*
  10. *M.gastri*
  11. *M.xenopi*
  12. *M.nonchromogenicum*
  13. *M.terrae*
  14. *M.triviale*
  15. *M.fortuitum*
  16. *M.chelonae*
  17. *M.abscessus*
  18. *M.peregrinum*

### ⑤ 薬剤感受性検査

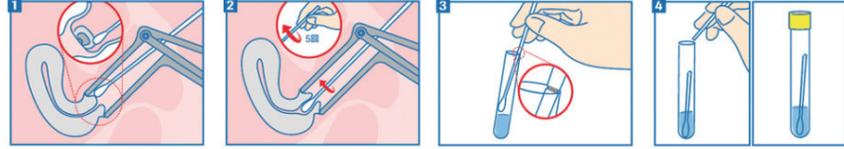
- 【4105】 抗酸菌薬剤感受性セット(4週以上)  
INH, RFP, SM, EB, KM, EVM,  
TH, CS, PAS, LVFX(10種)

### ⑥ 遺伝子検査 (リアルタイムPCR法)

- 【1834】 結核菌群核酸同定 (2~3日)
- 判定 : (陽性) 結核菌群、(陰性) 非結核菌群または、抗酸菌を認めず
- 【1831】 マイコバクテリウムアビウム・イントラセラー核酸同定 (2~3日)
- 判定 : (陽性) マイコバクテリウムアビウム・イントラセラー  
(陰性) マイコバクテリウムアビウム・イントラセラー以外の非結核菌群または、抗酸菌を認めず

\*\**M.tuberculosis* complex には、*M.bovis*、*M.africanum*、*M.microti*が含まれますが、臨床検体からは、ほとんど検出されません。

## 【クラミジアトラコマチス・淋菌核酸同定（クラミジアRT-PCR・淋菌RT-PCR）】

容 器	材 料	採 取 方 法
Sa：淋菌・クラミジアトラコマチス 核酸同定尿・うがい液容器 	尿 検 体	採取セット添付文章参照 ●尿検体：最後の排尿から少なくとも1時間以上経過後の初尿を採取して下さい。 ①滅菌済みカップに初尿を採取し、滅菌済みスポイトを用いて初尿を専用容器に移します。 ②専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように初尿を加えて下さい。 ③専用容器のキャップをしっかりと閉めて下さい。 ④専用容器を5回転倒混和して冷蔵保存にて提出して下さい。
	う がい 液	●うがい液：検体採取前の食事・うがい・歯磨き・ガムを噛むことなどは避けて下さい。 ①滅菌生理食塩水をカップに15～20mL入れ口に含み、顔を上に向けて10～20秒間、勢いよくうがいを行います。 ②うがい液全量をコップに回収し、スポイトで専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように添加します。 ③専用容器のキャップをしっかりと閉め、5回転倒混和して冷蔵保存にて提出して下さい。
S9：淋菌・クラミジアトラコマチス 核酸同定スワブ容器 	スワブ検体（分泌物）	採取セット添付文章参照 ①スワブパック内のドライスワブで子宮頸管とその周辺部の過剰な粘液を拭いとります。このスワブは廃棄します。 ②検体を採取するためにスワブパック内のフロックスワブを子宮頸管内に挿入します。同じ方向にそっと5回スワブを回します。 ③専用容器のキャップを開け、採取したスワブの先端の綿球が容器内の溶液に漬からないよう注意しながら入れ、柄につけられた黒い線を専用容器の縁に合わせます。 ④専用容器の縁を利用して、スワブの柄につけられた線で折り入れ、手元に残った折られた柄は廃棄します。専用容器のキャップをしっかりと閉め、冷蔵保存にて提出して下さい。 

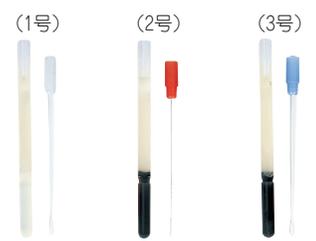
## 細菌検査材料採取方法

容 器	材料・採取量	採 取 方 法	保 存 ②
P1：滅菌容器 	尿 ≥1mL （淋菌、抗酸菌を 目的とする場合は ≥10mL）	患者様に採取方法を十分説明して下さい。（特に女性） 雑菌の混入を防ぐため尿道口を消毒し、早朝1回目の中間尿を採取して下さい。 抗生剤投与中であれば、一時中止又は次回投与前に採取して下さい。 淋菌を目的とする場合は別容器に初尿を採取して下さい。	冷蔵保存 ※淋菌検査の場合は ふらん器(37℃)で保存
	胆 汁 5～10mL	口腔内を十分うがいさせ、十二指腸液ソノデを使用し採取して下さい。（A、B、C胆汁） 嫌気性菌を疑う場合は嫌気ポーターの使用又は、容器を検体で満たして提出して下さい。	冷蔵保存（遮光）
	液 胸 水 水 腹 水 液 関 節 液 一般細菌≥1mL 抗酸菌≥10mL ①	穿刺部位の消毒を十分行ない採取し速やかに提出して下さい。嫌気性菌を疑う場合は嫌気ポーターの使用又は、容器を検体で満たして提出して下さい。	冷蔵保存（遮光） ※化膿性髄膜炎を疑う場合は寒冷にさらされないよう保温して下さい。
	皮 膚 爪 毛 髪	病変部位を70%アルコールで清拭して下さい。 皮膚：病変部位の皮膚をピンセットで掻き取り採取して下さい。水疱は疱膜を切り取り採取して下さい。綿棒での採取は避けて下さい。 爪：感染部をハサミで切り取り提出して下さい。 毛髪：毛髪を抜き皮膚病変部の角質層を掻き取り採取して下さい。	室温保存
カテーテル先端 （先端部分を 5～6cm）	抜去前に刺入部周囲の皮膚を十分に消毒して下さい。 カテーテルの体外側を上方に保持しながら、周囲の皮膚に触れないよう滅菌ピンセットでカテーテルを引き抜き、皮内走行部～血管内先端部までを無菌的に切り取り滅菌容器に入れて下さい。長いものは、皮内走行部と血管内先端部の5～6cmをそれぞれ無菌的に切り取り滅菌容器に入れて下さい。	冷蔵保存	

① 血液、穿刺液材料で一般細菌培養検査を行う場合は、抗凝固剤を使用しないで下さい。雑菌が混入する恐れがあります。また、血液で抗酸菌検査を行う場合、抗凝固剤はEDTAを使用して下さい。ヘパリン添加は検査ができません。

② 冷蔵保存をするために冷蔵庫が利用できない場合は、クーラーボックスに保冷剤等を入れて低温で保存して下さい。

# 微生物学検査

容 器	材 料	採 取 方 法	保 存 ②
<b>P3：輸送用培地スワブキット</b>  (1号) (2号) (3号) (糞使用) (耳鼻咽喉科用) (咽頭、淋菌、膣用)	咽頭分泌物 鼻腔分泌物 副鼻腔分泌物	病変部を滅菌綿棒で強くこすり分泌物を採取し提出して下さい。百日咳を疑う場合は前鼻孔から滅菌綿棒を挿入し、鼻咽腔粘液を採取して下さい。綿棒の乾燥又は嫌気性菌を疑う場合はスワブキットを使用して下さい。ジフテリア菌の検査は偽膜を採取して下さい。	冷蔵保存（遮光） ※トリコモナス原虫、 淋菌検査の場合は ふらん器（37℃） 又は室温で保存
	耳 漏	病変部を滅菌綿棒で強くこすり、十分に膿を浸み込ませて提出して下さい。	
	膣分泌物	外陰部を消毒後膣鏡を挿入し、滅菌綿棒で採取して下さい。	
	外 陰 部	外陰部は正常でも細菌が多数存在するため膿、苔状物を目標に材料を採取して下さい。	
<b>P2：滅菌綿棒入試験管</b> 	子宮分泌物	膣洗浄を十分に行ない子宮膣部をよく消毒し、子宮内容採取器を用いて採取して下さい。	冷蔵保存（遮光） ※トリコモナス原虫、 淋菌検査の場合は ふらん器（37℃） 又は室温で保存
	尿道分泌物	排尿後少なくとも1時間以上経過後採取して下さい。 男性:尿道口を消毒し滅菌ガーゼでよく拭き取った後、尿道圧搾をして分泌物を圧出し採取して下さい。 女性:尿道口を消毒し滅菌ガーゼでよく拭き取った後、膣を通じて尿道の圧迫とマッサージを行ない分泌物を採取して下さい。	
	結膜膿分泌物	滅菌綿棒でぬぐいとり、採取後はスワブキットに穿刺して提出して下さい。 滅菌ガーゼ、滅菌綿球で採取された場合は嫌気ポーターを使用して下さい。	
<b>P4：輸送用培地嫌気ポーター</b> 	開放性膿瘍	病巣周囲を清拭、消毒し病変部を滅菌綿棒で軽く拭って表面の膿や分泌物を除去した後、新鮮な膿又は滲出液を滅菌綿棒で採取して下さい。	冷蔵保存（遮光）
	非開放性膿瘍	穿刺部位を十分に消毒し、注射器を用いて空気を混入させないように注意して吸引し出来るだけ多量に採取して下さい。容器を検体で満たせる量が採取できない場合は嫌気ポーターに移して速やかに提出して下さい。	冷蔵保存（遮光）
	一般細菌培養検査には、原則としてP3：輸送用培地スワブキットを使用して下さい。又、綿棒で採取できない材料で嫌気性菌が疑われる場合は、嫌気ポーターを使用して下さい。 P2：滅菌綿棒入試験管を使用した場合、一部の細菌（百日咳菌、淋菌、結核菌など）に対して発育阻害をもたらすことがあります。又ご使用の際は、材料の乾燥を防ぐために滅菌生理食塩水を数滴入れることをお勧めします。		
<b>L：喀痰容器</b> 	咳 痰 ≥2~5mL ①	患者様に採取方法を十分説明して下さい。口腔および上気道の汚染を最小限度にとどめるために浄水で3~5回以上うがいしてから採取して下さい。（歯磨き後が望ましい） 一般的に望ましいのは早朝起床時に採取された痰です。 下気道感染症において膿性痰や粘性痰が起炎菌の検索に適しています。唾液や鼻粘液の混入したもの、喀血の血液凝固物は一般的に検査材料として不適です。	冷蔵保存（遮光）
<b>P7：ヘリコポーター培地</b> 	胃 粘 膜	内視鏡で採取された胃粘膜を滅菌されたピンセットでヘリコポーターに入れて、指定された線まで胃粘膜を押し込んで下さい。ヘリコバクターは非常に死滅しやすいため、胃粘膜を採取後のヘリコポーターは、必ず冷蔵保存して下さい。	冷蔵保存（遮光）

① 検査精度向上のため、喀痰のスワブでの提出はお勧め出来ません。

② 冷蔵保存をするために冷蔵庫が利用できない場合は、クーラーボックスに保冷剤等を入れて低温で保存して下さい。

容 器	材料・採取量	採 取 方 法	保 存 ①
<b>K：便容器</b> 	便 母 指 頭 大	糞便中に膿、粘液、血液があれば、その部分を採取し速やかに提出して下さい。病原性嫌気性菌を疑う場合は嫌気ポーターを使用して下さい。排泄便が得られない場合は、スワブキットの綿棒を肛門から約5cm挿入して十分に便をしみ込ませて培地に穿刺して下さい。	培養検査の場合 室温保存(遮光15～20℃)  直接抗原検査実施の場合 冷蔵保存(4℃)
<b>P5：血液培養ボトル</b>  ①嫌気性 ②好気性 ③小児用	血 液 1セット20mL (好気用 10mL) (嫌気用 10mL) ②	穿刺部位の皮膚を嚴重に消毒して下さい。発熱の初期に検出率が高いことからこの時期に採血して下さい。 採血部位は通常、肘正中静脈から行なって下さい。(動脈血と静脈血で検出率に大きな差はありません。)2セット採取する場合は、右腕と左腕のように部位を変えて採血して下さい。1回の採血量は20mLで好気用ボトルと嫌気用ボトルに各々10mL入れて下さい。採血量が十分でない場合は好気用ボトルを優先して接種して下さい。 小児用ボトルの採血の適量は1～3mLです。このボトルは好気性培養にのみ対応しており、嫌気性培養は対象となっていません。血液接種後はボトルの内容をよく混和して下さい。	採取後、室温保存 冷蔵庫保存は不可
<b>P8：トリコモナスTNC培地</b> 	婦 人 科 材 料	外陰部を消毒後、陰鏡を挿入し滅菌綿棒で採取して下さい。採取した滅菌綿棒をトリコモナス専用培地の底まで入れて下さい。	37℃保存

- ① 冷蔵保存をするために冷蔵庫が利用できない場合は、クーラーボックスに保冷剤等を入れて低温で保存して下さい。  
 ② 血液培養検査では、検出率の向上および検出菌が汚染菌か否かの判断のために、2セット採血が推奨されています。

## 喀痰の採取法

①採取前に歯磨き、うがいをする。



②少量の水を飲む



③鼻から息を吸う。  
(ゆっくりとおなかを膨らませる)



4～5回繰り返す

④口をすぼめて、息を吐く。  
(ゆっくりとおなかをへこませる)



⑤大きく深呼吸した後、  
強く咳ばらいをする。



⑥なるべく多くの喀痰をとる。



## 血液培養採血時の皮膚の消毒方法

①血液培養ボトルのプラスチックキャップをはずします。



②アルコールでゴム栓部分を消毒します。



③採血部位をアルコール綿で広範囲に消毒します。  
皮脂や汚れを取り除き、消毒効果を向上させる。



④0.5%以上のクロルヘキシジンアルコールまたは10%ポビドンヨードを塗布し、作用時間を十分に保つこと。クロルヘキシジンアルコールは30秒、ポビドンヨードは2分作用させます。



⑤採血を行います。原則的に異なる2ヶ所から1セットずつ採血します。



⑥ボトルに適量の血液を注入します。好気用ボトル、嫌気用ボトルには、8～10mL小児用ボトルには1～3mLが適量です。注入後は、ボトル内で凝固しない様に静かに転倒混和して下さい。



# 病理検査

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存方法	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考
細胞診	婦人科LBC ThinPrep法	1本	S8	室温	3~6	24 (一部位につき) 150+36 病理	TP染色法	3	①⑤ 婦人科頸部細胞診はベセスダシステムによる判定と旧日母分類による判定を併記して報告します。
		1本					R2		室温
	婦人科材料	塗抹標本 1枚	U	室温	4~6	④ 150 病理	主に パバニコロウ染色法		⑤ 細胞診塗抹固定法はP93を参照下さい。 婦人科頸部細胞診はベセスダシステムによる判定と旧日母分類による判定を併記して報告します。
	その他材料	塗抹標本1~5枚 または 生検体10mL	U または 専用容器	標本は室温 生検体は冷蔵	3~6	④ 190 病理	主にパバニコロウ染色 ギムザ染色、PAS染色 など他の染色を行う 場合があります。		細胞診塗抹固定法はP93を参照下さい。 採取部位により発生する腫瘍が異なるため、ご依頼の際は詳しく記入して下さい。
	細胞診標本作製	塗抹標本 生検体10mL	U または 専用容器	標本は室温 生検体は冷蔵	2~3				

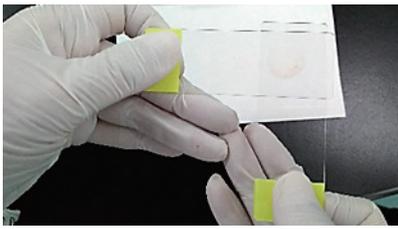
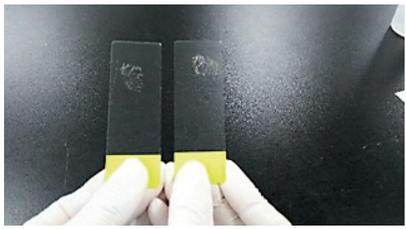
- HPV検査が追加可能です。検体提出から4週間以内にご依頼下さい。HPV検査に関してはP55を参照下さい。
- [婦人科材料等液化検体細胞診加算] 固定保存液に回収した検体から標本を作製して、判定を行った場合には、婦人科材料等液化検体細胞診加算として、36点を所定点数に加算します。この加算は、採取と同時にを行った場合に算定できます。なお、過去に穿刺し又は採取し、固定保存液に回収した検体から標本を作製し、判定を行った場合には算定できません。
- 細胞診検査は生化学検査や血液学検査等のような健康状態の正常値の範囲は存在しません。個々患者の検査材料により癌細胞の可能性を細胞形態から推察し、それを各種分類法により判定する検査です。
- 同一または近接した部位より同時に数検体を採取して標本作製を行った場合であっても、1回として算定します。
- 婦人科頸部ではベセスダ分類を行うため採取器具の記載が必須です。また、性周期やホルモン剤使用の有無などもご依頼の際は詳しく記入して下さい。

## 細胞診検査を提出時の留意点

細胞診検査を提出される際には以下の点にご注意ください。

依頼書への記入	年齢、性別、臨床所見、検査材料、採取部位が非常に重要です。発生する腫瘍の種類が異なるため詳細にご記入下さい。
受付できない検体	病理組織用のホルマリン入り容器（R容器）に採取された検体 輸送用培地スワブキット（P3容器）に採取された検体 組織片
検体不適正について	検査材料によっては【標的細胞少数】【乾燥・固定不良】【著しい出血】【白血球多数】【厚層塗抹】などにより不適正検体と判断されることがあります。 婦人科細胞診で綿棒採取、月経中の検体採取、粘液・白血球を拭わず採取された場合は不適正になることがあります。
判定方法について	各種癌取り扱い規約に準じた判定を行っています。

婦人科ThinPrep検体の提出方法	
S8	 <p>ThinPrep検体の容器内には採取器具を残さず、内容液でよく洗ってご提出下さい。 P56のヒトパピローマウイルス（HPV）ジェノタイプ型判定（S8容器）の採取方法を参照の上、ご提出下さい。 検査後4週間室温保管しています。 HPVDNA各種検査、HPVジェノタイプ判定検査の追加検査が可能です。</p>
婦人科SurePath検体の提出方法	
R2	 <p>SurePath検体は採取器具を容器内でよく洗う、器具の先を外す・切るなどして容器内に入れたままご提出下さい。 綿球などは容器内に入れたままにすると液を吸収して検査が出来なくなる場合があります。 器具の先を切る場合はSurePath検体容器の蓋がしっかりと閉まる長さになるよう注意して下さい。 HPVDNA各種検査、HPVジェノタイプ判定は追加できません。ご注意ください。</p>
婦人科標本の提出方法	
U	 <p>採取器具を転がすようにしながら採取器具全体からガラス全面に塗抹して下さい。 塗抹後は素早く全面に十分量の固定剤をかけ、室温放置で乾燥してご提出下さい。 マッペ収納時には標本破損に注意し、しっかり封をして下さい。 破損標本はベセスダシステムで不合格検体となり、検体不適正となります。</p>

<b>喀痰の提出方法</b>		
<b>L</b> 	生材料の場合は冷蔵保存でご提出下さい。 細胞成分少数やDUST CELL（肺深部由来の組織球）が見られない場合は判定不能となる場合があります。	
<b>保存喀痰の提出方法</b>		
<b>Q</b> 	室温保管可能な容器です。 2週間以内にご提出下さい。 A～E判定区分（集団検診における喀痰細胞診の判定基準と指導区分）で判定します。 細胞成分少数やDUST CELL（肺深部由来の組織球）が見られない場合は材料不適となる場合があります。	
<b>液状材料（尿、胸・腹水、髄液、関節液、嚢胞液、洗浄液など）の提出方法</b>		
<b>P1</b> 	<b>M</b> 	
冷蔵保存してご提出下さい。 尿や胸・腹水は採取後30分間放置後、上清を静かに捨てて細胞成分の豊富な底の部分を10mL程度提出して下さい。 胸腹水などで血液が多く混入した場合はヘパリン入容器を使用するなど、抗凝固剤を添加して下さい。		
<b>擦過・針穿刺吸引材料の提出方法</b>		
<b>U</b> 	ブラシ、綿棒などで擦過して採取した材料は乾燥させないように直ちにスライドガラスに転がすように塗抹し、速やかに湿潤固定して下さい。 強くスライドガラスに押し付けると細胞挫滅による判定の妨げの原因になります。 針穿刺吸引は採取された材料をスライドガラスに噴出し、もう一枚のガラスを合わせて毛細管現象で広げ、ガラスを上下に引き離したのち湿潤固定を行います。 血液が多い場合は落として塗抹することも有用です。 必要に応じて特殊染色を行いますので1～2枚の湿潤固定標本と1枚の乾燥固定標本を作製して下さい。（標本5枚までを1検体として取り扱います。） 針穿刺にて液体が採取された場合は液状材料を参考の上ご提出下さい。	
<b>《針穿刺吸引の塗抹方法》</b>		
		
1. ガラスに材料を吹き出します。	2. 2枚のガラスを重ね合わせます。	3. ガラスを上下に引き離し、固定を行います。

## 固定方法について

固定は細胞の変性・融解等の変化を停止させ、細胞観察に適した状態を保つため塗抹後速やかに行う必要があります。固定が遅れた場合は染色性の低下を招き、観察が困難となり、誤判定の大きな原因となります。

### ①湿潤固定

細胞診で一般的なパニコロウ染色やPAS染色など幅広い染色で使用されます。

材料塗抹後、乾燥させる事なく速やかに（2～3秒以内）固定剤（噴霧式又は滴下式）を塗抹面に使用して下さい。固定後は固定剤を自然乾燥させた後、マップケース（U容器）に収納して下さい。

### ②乾燥固定

ギムザ染色で用いられる固定方法です。

材料塗抹後、直ちに塗抹面にドライヤー等の冷風を当て急速に強制乾燥させて下さい。自然放置乾燥は染色不良の原因となりますので避けて下さい。

## スライドガラスの返却について

予め返却を希望される場合は依頼書の所定欄にチェックをお願いいたします。

毎回必ず全ての標本返却・疑陽性以上の場合のみ標本返却も対応可能です。

営業担当者にお申し付け下さい。

当社保管分の標本返却についても営業担当者にお申し付け下さい。

# 病理検査

コード	検査項目	検査材料	容器	保存方法	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値	備考
	病理組織 (標本作製+病理判定)	ホルマリン固定組織	R	室温	4~8 <sup>(注)</sup>	1臓器 860 2臓器 1720 3臓器以上 2580 病理	ヘマトキシリン エオジン染色		(注)所要日数は、標本作製工程上(再固定・脱灰等)の必要に応じ、さらに日数を要する場合がありますので、予めご了承下さい。また、特殊染色・免疫染色を同時依頼された場合、検査結果がコンサルテーションにまわった場合も日数を要する場合があります。
		パラフィンブロック							
		未染スライド	U						
	病理判定	染色済み標本		室温	3~4				
	染色標本作製	ホルマリン固定組織	R	室温	3~6 <sup>(注)</sup>				(注)所要日数は、標本作製工程上(再固定・脱灰等)の必要に応じ、さらに日数を要する場合がありますので、予めご了承下さい。また、手術材料、特殊染色、免疫染色等につきましても、日数を要する場合があります。
		パラフィンブロック							
		未染スライド	U						
	未染標本作製	ホルマリン固定組織	R	室温	3~4				
		パラフィンブロック							
3940	エストロゲンレセプター (IHC)	パラフィンブロック (腫瘍組織)		室温	5~7	① 720 病理	酵素抗体法		1) 本検査は病理検査により確定診断がなされた症例について治療の方針を判定するための検査ですので依頼書に病理診断名・組織型をご記入の上、ご依頼下さい。 2) 癌細胞の有無、組織型が不明な場合がありますので、検査依頼時に病理報告書(コピー)の添付をお願い致します(ただし、当社で一般病理検査を実施している場合は不要です)。なお、諸事情により添付できない場合には、依頼書に病理診断名(組織型等)の他、臨床情報等可能な範囲での記載をお願い致します。
3941	プロゲステロンレセプター (IHC)								
3076	乳癌HER2タンパク (IHC)	パラフィンブロック		室温	5~7	② 690 病理	酵素抗体法		
4382	乳癌HER2遺伝子 (FISH法)	パラフィンブロック		室温	10~14	② 2700 病理	FISH法		1) HER2 遺伝子 (FISH 法) 検査をご依頼の場合で、HER2 タンパク (染色法) の検査をすでに実施済みの場合には、依頼書にその検査成績の記載をお願い致します。 <sup>(12)</sup>
3705	胃癌HER2タンパク (IHC)	パラフィンブロック		室温	5~7	② 690 病理	酵素抗体法		
		未染標本スライド4枚	U						
3990	胃癌HER2遺伝子 (FISH法)	パラフィンブロック		室温	10~13	② 2700 病理	FISH法		
		未染標本スライド4枚	U						
533	肺癌ALK遺伝子 (FISH)	未染標本スライド3枚	U	室温	9~14	6520 病理	FISH法		<sup>(12)</sup>
540	肺癌PD-L1タンパク(IHC)22C3	未染標本スライド4枚	U	室温	7~9	2700 病理	免疫組織化学染色法		<sup>(12)</sup>
560	肺癌PD-L1タンパク(IHC)28-8	未染標本スライド4枚	U	室温	7~9	2700 病理	免疫組織化学染色法		<sup>(12)</sup>
3814	EGFR変異解析v2.0	未染標本スライド 5~10枚	U	室温	5~8	③ 2500 遺伝子 <sup>(注7)</sup>	PCR (リアルタイム PCR) 法		提出の際には、HE染色標本により腫瘍細胞が確認されたホルマリン固定パラフィン包埋組織ブロックより10μmの厚さの連続切片にてスライド作成願います。作成した未染標本スライドは、マップケース(U)に入れ、室温保存にてご提出下さい。なお、病理検査材料は、組織のホルマリン固定によりDNAが断片化されているため、固定液の種類や、固定時間といった保存状況、保存年数によっては、解析不可能なことがありますので、あらかじめご了承下さい。 <sup>(12)</sup> 他項目との重複依頼は避けて下さい。
1567	RAS・BRAF遺伝子変異解析	5枚	U	室温	6~9	③ 4000 遺伝子	PCR-rSSO法		<sup>(12)</sup>

- ① 「エストロゲンレセプター」、「プロゲステロンレセプター」を同一月に実施した場合は、いずれかの主たる病理組織標本作製の所定点数及び加算(180点)のみを算定します。
- ② 抗HER2ヒト化モノクローナル抗体抗悪性腫瘍剤の投与の適応を判断することを目的として、FISH法又はSISH法又はCISH法により遺伝子増幅標本作製を行った場合に、当該抗悪性腫瘍剤の投与方針の決定までの間に1回を限度として算定します。尚、「乳癌HER2遺伝子」と「乳癌HER2タンパク」もしくは「胃癌HER2タンパク」と「胃癌HER2遺伝子」を同一の目的で実施した場合はN005「2」により3050点を算定します。
- ③ 患者から1回に採取した組織等を用いて同一がん種に対して検査を実施した場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて算定する。

病理組織

病理検査

## 病理組織検査実施上の留意点

選択的な検索依頼につきましては、ヘマトキシリン・エオジン染色以外に特殊染色が必要となり、別途検査料金が加算されます。予めご了承下さい。

(例)

検索項目	特殊染色名
ヘリコバクター・ピロリ菌	ギムザ染色
真菌	PAS染色
結核菌	チール・ネルゼン染色
アミロイド	コンゴレッド染色

検査を実施する上で、HE染色および上記特殊染色以外に各種染色・酵素抗体染色等が必要となった場合は追加オーダーさせていただくことがありますので、予めご了承下さい。

## 検査実施料の算定方法

臓器数	実施料	算定例
1臓器	860点	胃生検、十二指腸生検、食道生検、肺生検、肝生検、腎生検、乳腺腫瘍等
2臓器	1,720点	卵巣+輸卵管、胃潰瘍(胃+1所属リンパ節)、子宮筋腫(子宮+卵巣)等
3臓器以上	2,580点	胃癌(胃+2所属リンパ節)、乳癌(皮膚+乳腺+胸腺+所属リンパ節)等

(病理標本作製に当たって、3臓器以上の標本作製を行った場合は、3臓器を限度として算定します。)

リンパ節については、所属リンパ節ごとに1臓器として数えますが、複数の所属リンパ節が1臓器について存在する場合は、当該複数の所属リンパ節を1臓器として数えます。) 1臓器から多数のブロック、標本等を作製した場合であっても1臓器の標本作製として算定します。また悪性腫瘍がある臓器又はその疑いがある臓器から多数のブロックを作製、又は連続切片標本を作製した場合であっても、所定点数のみ算定します。

## 検査材料の提出方法

病理学的検査材料のご提出の際はホルマリン固定組織、パラフィンブロック、未染標本スライドをお願いいたします。

### ■ホルマリン固定組織

- ① 摘出した組織を自家融解、乾燥から防ぐために速やかに10～20%ホルマリン入容器に入れ固定して下さい。
- ② 固定液は、10～20%ホルマリン液を使用し、組織の20倍を目安とし十分量を使用して下さい。
- ③ 胃生検等の微小組織片をご提出の場合は濾紙等に張り付け10～20%ホルマリン液へ入れて下さい。  
(なお、複数個ご提出の際は、濾紙ヘナンバー等を鉛筆で記入するか、または採取部位ごとに10～20%ホルマリンの入った容器に入れて下さい。)
- ④ 1容器に1臓器を入れ、ご提出して下さい。

注1) 下記の組織を提出される際は、表中の点に注意して下さい。

組 織	注 意 事 項
消化器・胆嚢	薄い板に粘膜面を上にして、虫ピン等で固定し、10～20%ホルマリン液に入れ、十分に固定が行われた後、上記方法にてご提出して下さい。
肺	切り出した面の気管支断面から10～20%ホルマリン液を注入し、上記方法にてご提出して下さい。
子宮・乳房・腎	子宮や大きい臓器などでは固定が不十分となることが多いので、あらかじめ断面を入れてから固定して下さい。
胃、腸などの パンチバイオプシー (濾紙につける場合)	生検材料の水分をよく取り除き、濾紙の上に20秒程度のせたのちにそのまま10～20%ホルマリン液に入れて下さい。 (組織を乾燥させないように十分注意して下さい。)

### ■パラフィンブロック

既に作製済みのパラフィンブロックを破損のないようガーゼなどで包みビニール袋等に入れご提出して下さい。

### ■未染標本スライド

未染標本スライドにより各種染色をご依頼される場合は、スライドガラスにナンバー等を記入の上、切片が傷つかないようにしてご提出して下さい。

また、スライド枚数は項目数+2・3枚提出して下さい。

### ■極微細組織

極微細組織などで、検査の材料の有無が不明の検体につきましては、再確認のため検体をご返却させていただく場合がございます。

## 病理スライド、パラフィンブロックの返却について

予め返却を希望される場合は、依頼書の所定欄にチェックをお願いいたします。当社保管分につきましては、営業担当にお申し付け下さい。



## 免疫染色抗体一覧

組織マーカー		
検査項目	染色部位	正常陽性細胞
D2-40	細胞膜	リンパ管内皮細胞.
ファクターXⅢa	細胞質	真皮の間質の樹枝状細胞や紡錘形細胞の一部で陽性.
GFAP	細胞質	星状膠細胞,上皮細胞,末梢神経,脈絡膜,Schwann細胞,下垂体,軟骨(乏突起膠細胞およびニューロンは陰性).
MUC1	上皮細胞の細胞膜	乳腺,膵臓,胃底腺の腺上皮.
MUC2	粘液	小腸,大腸の杯細胞.
MUC5AC	粘膜	胃腺窩上皮細胞.
MUC6	胃腺窩上の細胞質	胃幽門腺,膵門腺,Brunner腺.
S100	核+細胞質,核が重要	神経,脂肪組織,軟骨細胞,Langerhans細胞,指状嵌入細胞,稀なT細胞など
SMA	細胞質	平滑筋,筋上皮細胞,血管壁,筋線維芽細胞.横紋筋は陰性.
グリコフォリンA	細胞膜	赤芽球,赤血球
クロモグラニンA	細胞質	腸管などの神経内分泌細胞,膵臓島細胞,副甲状腺,副腎髄質,下垂体前葉,甲状腺C細胞,Kulchisky細胞
シナプトフィジン	細胞質顆粒状	神経ないし神経内分泌系細胞
デスミン	細胞質	骨格筋細胞,平滑筋細胞,筋線維芽細胞
ニューロフィラメント	細胞質	神経細胞,神経内分泌細胞
ピメンチン	細胞質	卵膜(脱落膜),消化管粘膜など
CDX-2	核	十二指腸から直腸までの粘膜上皮の核に出現
第Ⅶ因子関連抗原	細胞質	骨髄巨細胞,血管内皮細胞とその腫瘍
血漿蛋白		
IgA	細胞質	一部の形質細胞.
IgD	細胞質	特にリンパ濾胞マントル帯.
IgG	細胞質	一部の形質細胞.
IgG4	細胞質	一部の形質細胞.
IgM	細胞質	一部の形質細胞.
α1-アンチトリプシン	細胞質	組織球などの免疫細胞など
κ鎖(Kappa)	細胞質,時に細胞膜やGolgi野	形質細胞
λ鎖(Lambda)	細胞質,時に細胞膜やGolgi野	形質細胞
酵素		
NSE	細胞質	神経細胞,神経内分泌細胞.
細菌・ウイルス		
CMV	核±細胞質	
ヘリコバクター・ピロリ	菌体	
HSV-I	HSV感染組織	
EBV	Epstein-Barr virus	
細胞増殖マーカー		
bcl-2	細胞質+細胞膜	胚中心を除くB細胞,T細胞
bcl-6	核	リンパ濾胞の胚中心.
E-カドヘリン	細胞膜	上皮細胞
Ki-67	核	リンパ濾胞胚中心,上皮基底層などに陽性.
マンマグロビン	細胞質および細胞膜	乳管上皮と正常皮膚のアポクリン腺やエクリン腺の上皮細胞
MUM-1	細胞質および核	一部のB細胞,特に活性化B細胞や形質細胞など.一部のT細胞.
p53	核	ごく少数の陽性細胞をみるのみ.
P57(Kip 2)	核	正常細胞は陽性.
p63	核	基底細胞,筋上皮.
サイクリンD1	核	腸管の上皮,組織球,血管内皮
腫瘍マーカー		
AFP	細胞質	胎児肝,胎児腸管,胎児神経上皮など,成熟した組織には陰性.
CA19-9	膜表面や分泌物	乳腺・腎臓・唾液腺・汗腺の導管・肺の気管支上皮・大腸の管腔上皮・前立腺の導管上皮.
CEA	細胞膜,細胞質	大腸粘膜,胃粘膜で陽性.膵管,膵腺房細胞,細胞管,Kupffer細胞,膵臓および血中の単球,好中球,リンパ球は陰性.
DOG1	細胞質+細胞膜	
ER	核	乳腺導管上皮,生殖器など.
GCDFP-15	細胞質	乳腺アポクリン化生上皮または皮膚アポクリン汗腺.
HER2	細胞膜	乳癌陽性症例
HMB45	細胞質	胎児,新生児期のメラノサイト,一部の母斑(青色母斑,接合部母斑など).真皮内母斑細胞は基本的には陰性.
p16	核・細胞質	正常では,胎児期には胸腺のみ,成人では増殖期内膜,乳腺,胃,食道扁平上皮,唾液腺,一部の神経内分泌細胞にも陽性になる。
PGR	核	乳腺導管上皮,生殖器など.
PSA	細胞質	前立腺腺管
TTF-1	核	肺胞上皮,甲状腺濾胞上皮
β-カテニン	核・細胞質・細胞膜	正常細胞
Hep-Per-1	細胞質	肝細胞
Alk-1	細胞質±核(ただし, fu-sionの形式によってパターンが異なる)	
メラノA	細胞質	メラノサイト

# 病理検査

上皮系		
34βE12	細胞質	扁平上皮、基底細胞など
AE1/AE3	細胞質	ほぼ全ての上皮細胞反応する。
CAM5.2	細胞質	扁平上皮以外の上皮細胞
CK5/6	細胞質	CK5は重層上皮、移行上皮、混合腺、中皮細胞に発現する。CK6は増殖期の扁平上皮細胞に発現する。
EMA	細胞膜(非腫瘍でより一般的) and/or 細胞質(腫瘍で一般的に陽性)	上皮細胞、髄膜細胞、形質細胞、神経鞘膜、くも膜細胞。
EpCAM	細胞膜	様々なcarcinomaの膜に陽性。
p40	核	扁平上皮、尿路上皮・気管支線毛円柱上皮・前立腺(基底細胞)・乳腺・唾液腺(筋上皮細胞)など
a-methylacyl COA racemase(AMACR): P504S	細胞質顆粒状	近位尿管管など
サイトケラチン 19	細胞質	ほとんどの単層上皮と非角化型扁平上皮に存在し、角化型扁平上皮細胞・肝細胞・数種の腺房細胞には存在しない
サイトケラチン 20	細胞質	大腸、腸管上皮、尿路上皮被蓋細胞、Merkel細胞など
サイトケラチン 7	細胞質	正常細胞では重層扁平上皮、肝細胞、大腸上皮、一部の前立腺上皮が陰性となるが、その他全ての上皮細胞と血管内皮が陽性となる。
ホルモン		
hCG	細胞膜	合胞性trophoblasts.
ガストリン	細胞質	胃から十二指腸の粘膜内
カルレチニン	細胞質+核	中皮、神経や松果体の一部、卵巣胚上皮、Schwann細胞
ソマトスタチン	細胞質	脳の視床下部、膵島D細胞、消化管の内分泌細胞
血球マーカー		
CD10	細胞膜	1) 胚中心のB細胞、前駆リンパ球、顆粒球 2) 胚中心のT細胞 3) 一部の上皮細胞 4) 乳腺間質の繊維芽細胞 5) 内膜間質 6) 婦人科領域mesonephric lesions.
CD117 (c-kit)	細胞膜±細胞質	正常のCajal細胞、肥満細胞。
CD15	Golgi野±細胞膜	正常では好中球、単球、組織球(顆粒状)、CMV感染細胞、近位尿管管など
CD1a	細胞質	胸腺皮質細胞(未熟T細胞)、Langerhans細胞。
CD20 (L26)	細胞膜	B細胞
CD21	細胞膜±細胞質	リンパ濾胞の濾胞樹状細胞
CD23	細胞膜±細胞質	リンパ濾胞の濾胞樹状細胞の一部に陽性。B細胞の一部に陽性。
CD3	細胞質	T細胞 late thymocytes以降のT細胞、NIK細胞には染色されない。
CD30	Golgi野±細胞膜	活性化B細胞および活性化T細胞に発現。
CD31	細胞質±細胞膜	血管内皮、巨核球の他、一部の血球系細胞にも弱陽性
CD34	細胞膜±細胞質	造血管前駆細胞、血管内皮細胞、ある種の間葉系細胞。
CD38	細胞質	活性化T細胞・B細胞、NK細胞、単球、形質細胞及び胸腺髄質細胞
CD4	細胞膜	T細胞、組織球、Langerhans細胞
CD43	細胞膜±Golgi野	T細胞、組織球、骨髄球系、形質細胞、巨核球、EBV、感染B細胞
CD45 (LCA)	細胞膜	白血球
CD45R (MB1)	細胞膜	形質細胞及び一部の成熟T細胞を除くすべてのB細胞
CD45RO (UCHL-1)	細胞膜	T細胞、組織球、骨髄球系に陽性
CD5	細胞膜	T細胞、胸腺上皮、正常のB細胞のごく一部に陽性。
CD56	細胞膜	NK細胞、T細胞の一部、形質細胞、神経細胞、Schwann細胞
CD57	細胞膜	NK細胞、T細胞の一部、神経、神経内分泌細胞、前立腺、膵臓、Langerhans島、Schwann細胞
CD68 (KP-1)	細胞質・細胞膜	マクロファージ、単球、破骨細胞、好中球、好酸球、Kupffer細胞、肥満細胞
CD79a	細胞質	B細胞
CD8	細胞膜	細胞障害性-サブプレッサーT細胞、一部のNK細胞、脾臓類洞内皮。
CD99	細胞膜	胸腺皮質、卵巣顆粒膜細胞、精巢セルトリ細胞、膵 Langerhans島細胞や内皮細胞の一部
MPO	細胞質	顆粒球系細胞
TdT	核	リンパ芽球、胸腺がよいコントロールとなる
グランザイムB	細胞質顆粒状	細胞障害性T細胞(主にCD8、CD4も一部)およびNK細胞に陽性

## 各種染色一覧

染色法	目的	結果
ヘマトキシリン・エオジン(HE)染色	一般染色	細胞核、軟骨、細菌、未脱灰石灰化部-青藍色(ヘマトキシリン)、細胞質、結合組織、筋組織、赤血球-種々の紅~赤紅色(エオジン)
ギムザ染色	ピロリ菌	ヘリコバクター・ピロリ菌-青紫色 組織内血液細胞の染色
PAS染色	糖原(グリコーゲン)	グリコーゲン-赤~赤紫色、核-青藍色(ヘマトキシリン)、真菌
チール・ネルゼン染色	抗酸菌染色	抗酸菌-赤、背景-淡い青色(メチレン青)
ベルリン青染色	鉄	ヘモジデリン-青、背景-淡紅色(ケルンエヒトロート)
コンゴ赤染色	アミロイド染色	アミロイド-赤橙色(偏光顕微鏡下で緑色複屈折)、核-青藍色
アルシアン青染色	酸性粘液多糖類	酸性粘液多糖類-青色、核-赤色(ケルンエヒトロート)
マッソン・トリクローム染色	膠原線維	核-黒褐色(ワイゲルト鉄ヘマトキシリン) 使用する染色液により結果が異なる
エラスチカ・ワンギーン染色	膠原線維	膠原線維-鮮紅色(酸フクシン)、筋線維、赤血球、細胞質-黄色(ピクリン酸)、核-黒褐色(ワイゲルト鉄ヘマトキシリン)、弾性線維-黒紫色
過ヨウ素酸メセミン銀(PAM染色)	腎の染色	腎糸球体基底膜、細網線維-黒色
銀染色	細網線維	好銀線維(細網線維)-黒色、膠原線維-赤紫色
アルシアン青染色	酸性粘液多糖類	酸性粘液多糖類-青色、核-赤色(ケルンエヒトロート)

# 検体情報

## 検査データに影響を与える要因

検査項目	変動要因	日内変動	食 後	立 位	運 動	妊 娠	性 差	溶 血	乳 糜	黄 疸	EDTA-2K	NaF	ヘパリン
含窒素成分	総蛋白	(昼高夜低)	-	↑↑	↑	↓	-	↑	↑	やや↓	-	↓	-
	尿素窒素	(昼低夜高)	↑?	-	↑	↑後半は↓	♂↑	-	-	-	-	-	-
	尿酸	(昼高夜低)	↑?	-	↑	↓~↑	♂↑↑	-	-	やや↓	↓	↓	-
	クレアチニン	?	-	-	↑	-	♂↑↑	-	-	↓	-	やや↓	-
	アンモニア (全血)	●?	-?	?	↑	↓	?						
	ビリルビン	●	↓?	↑-?	-	-	♂↑	総一直-	総一直-		総一直やや↑	総やや↓直やや↑	-
電 解 質	ナトリウム (Na)	-	↑-	-	-?	-	-	-	-	-	不能	不能	-
	カリウム (K)	(朝低昼高)	-↓	-	↓の後↑	↓?	♂↑?	↑↑	-	-	不能	-	やや↓
	カルシウム (Ca)	(朝高夜低)	-	↑	-	↓	♂↑?	やや↑	-	-	不能	不能	-
	クロール (Cl)	-	-	↑?	-?	-	-	-	-	-	不能	不能	-
	P	(昼低夜高)	↓↓	-	↑	-	♂↑?	やや↑	-	-	やや↓	やや↓	-
	血清鉄 (Fe)	(朝高夕低)	↑-?	?	-?	↓↓	♂↑↑	↑	やや↓	-	不能	不能	-
	血清銅 (Cu)	(朝低昼高)	-			↑↑	♀↑	やや↑	やや↓	↑	不能	不能	-
	Mg	-	-			↓?	-	-	-	-	不能	不能	-
	糖 質 ・ 脂 質	血糖	●	↑↑	?	↓の後↑	↑↑	-	-	-	↓		
ケトン体		◎	昼食、夕 食前高値		↑			↓↓	やや↑	↑	↓	-	-
総コレステロール		-	-	↑	?	↑↑	♀高齢↑	-	-	-	やや↓	↓	-
燐脂質		●	-	↑	-	↑↑	-?	-	-	やや↓	やや↓	↓↓	やや↓
中性脂肪		(昼低夜高)	↑↑	↑?	↑の後↓	↑↑	♂↑	やや↑	↑↑	やや↓	やや↓	↓	-
遊離脂肪酸		(昼高夜低)	↓↓	↑?	↑	↑	♀↑?	やや↓	-	やや↓	やや↓	↓	やや↑
β-リポ蛋白		●	↑↑			↑↑	♂↑	やや↑	↑↑	-	↑↑	↑↑	↑↑
LDL-コレステロール		-	-			↑		-	-	-	-	↓↓	-
HDL-コレステロール		-	-		長期による↑	↑↑	♀↑	やや↓	-	-	やや↓	↓	やや↓
胆汁酸		-	↑↑	?		-	-	↑↑	やや↑	やや↑	不能	不能	不能
酵 素	アルカリフォスファターゼ	(昼低夜高)	?	↑	-	↑↑	♂↑	↓	やや↑	-	不能	不能	-
	総酸性フォスファターゼ	-?	-	↑	-	-	♂↑	↑↑	-	-	不能	-	-
	コリンエステラーゼ	-	-	↑	-	↓	♂↑	-	-	-	不能	不能	-
	AST (GOT)	-	-	-	↑↑	-	♂↑	↑↑	-	-	やや↑	↓	-
	ALT (GPT)	-	-	-	↑↑	-	♂↑	↑	-	-	-	↓	-
	LD (LDH)	-	↓-?	↑	↑↑	↑↑	♀↑?	↑↑	-	-	↑	やや↓	-
	アミラーゼ	(昼低夜高)	-	-	-	-	♀↑	やや↓	-	-	やや↓	↓	-
	LAP	-	-		↑	↑↑	♂↑	やや↓	やや↑	-	不能	不能	-
	γ-GT		アルコール 飲用↑		-	後期↓	♂↑	やや↓	-	-	-	やや↓	-
	CK (CPK)	●	↑↑?	↑	↑↑↑	初期↓	♂↑	↑	-	-	-	↓	-
	ALD	-			↑	後期↑	♂↑	↑↑	-	↑↓	↑	-	-
m-AST (m-GOT)			-	↑	-	-	↑	-	↑	-	-	-	
血 球	赤血球数		-	-	↑	↓	♂↑↑						
	白血球数	(朝低夜高)	-	-	↑	↑	-						
	血色素量	(朝高夜低)	-	-	↑	↓	♂↑↑						
	血小板数		-	-	-	?	-						
内 分 泌	コルチゾール	(朝高夕低)	-	-	↑	↑	-						
	ACTH	(朝高夕低)	-	-	?	-	-	↓					
	レニン活性	(朝高夕低)	↓~↑	↑↑	?	↑↑	-						

●変化有 ◎顕著な変化有 ↑高値 ↓低値 -変化ナシ ?不明

## 放置によるおもな血中成分の変化と対策

成分	変化	保存対策
アンモニア	1. 血液中の成分は採取後、放置により急速に分解し、CO <sub>2</sub> の喪失に伴い多量のアンモニアを生成する。 2. 外界からのわずかな汚染によっても、顕著な影響をうける。	1. 採取後直ちに除蛋白（アンモニア用容器）し、血液中の諸酵素を失活させ、アンモニア値の上昇を最小限にする。 2. ただちに遠心分離し、上清を他の容器にうつし密栓して出検する。
血糖	解糖作用（赤血球中の解糖系酵素による）により、血糖値が減少する（NaFを加えず全血放置により、1時間当たり約10%の減少を示すとされています）。	1. NaF入り専用容器に採取し、よく転倒混和する。
ナトリウム(Na) カリウム(K)	1. 冷蔵保存で赤血球膜の透過性が変化して、Kが赤血球内より流出して上昇し、Naは低下する。 2. 溶血があると、K値は大幅に高くなり、Na値は低目となる。	1. 溶血は絶対避ける。 2. 速やかに血清を分離し、血餅と別にするのが望ましいが、全血のまま放置する際は冷蔵室にはおかない。 3. 極力早く検査をする。
ビリルビン	空気中の酸素により酸化をうけて、緑色のビリベルジンになる。	1. 黄疸指数の高い場合、極力早く測定する。 2. 遮光し、また酸化を防ぐよう留意する。

## 検体採取のタイミングによる血中成分の変動

### 【食餌により変動する血中成分】

成分	変化
グルコース	↑ 食後約30分で最高値、3時間後に空腹時値
中性脂肪	↑ 食後上昇、12～18時間で空腹時値
遊離脂肪酸	↓ 食後低下、12～18時間で空腹時値
無機リン	↓ 食後低下、3時間後に空腹時値
インスリン	↑ 糖の増減によりフィードバックされて変動
CPR	↑ 糖の増減によりフィードバックされて変動

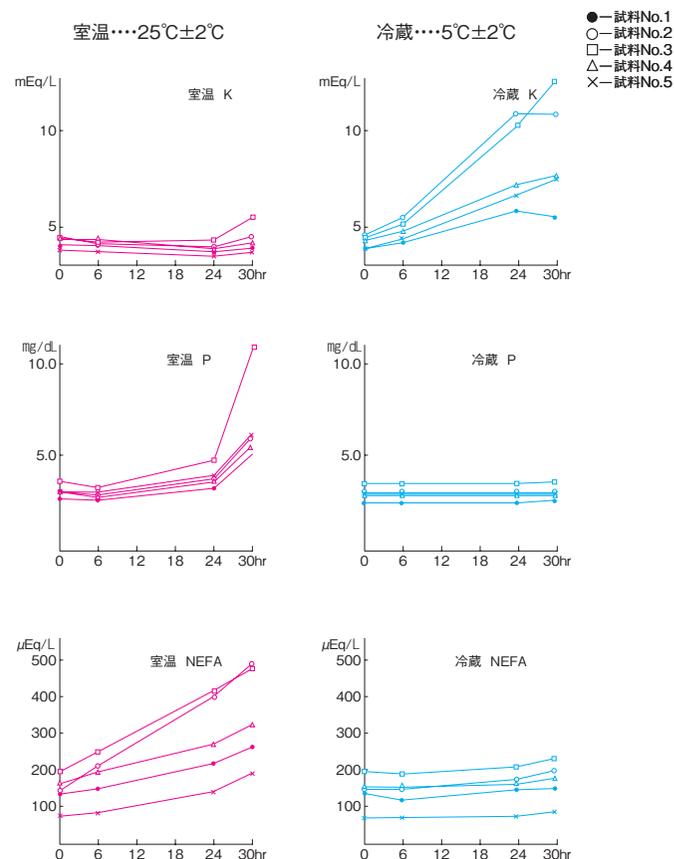
### 【日内変動の激しい血中成分】

成分	変化
ACTH	早朝に最高値、夕刻におよそ1/2
コルチゾール	早朝に最高値、夕刻におよそ1/2
TSH	深夜に最高値
GH	夜間睡眠時に高く、日中低い
プロラクチン	睡眠時に高く、日中低下
カテコールアミン	日中高く、夜間に低い
レニン活性	午前中は高値、夕刻に低値
サイクリックAMP	午後に最高値
血清鉄	午前が高く（～2倍）、午後は低い
血清銅	午前に低く、午後は高い
カルシウム	夜間に低下
カリウム	午前に低く、午後は高い
ヘモグロビン	午前が高く、午後は低い、夜間は最低

### 【運動により変動する血中成分】

成分	変化	成分	変化
中性脂肪	↑の後↓	LD (LDH)	↑
遊離脂肪酸	↑	AST (GOT)	↑
乳酸	↑	ALT (GPT)	↑
ビリルビン	↑	CK (CPK)	↑

## 全血放置による血清成分の変動例



## 便中ヒトヘモグロビンの保存状態による経時変化



生化学検査

検査項目	血清(漿)の安定性			全血の安定性	備考	
	室温	冷蔵庫	フリーザー			
蛋白・含窒素成分	総蛋白	1週	1ヶ月	1年	不適當	
	アルブミン	1週	1ヶ月	1年	不適當	
	蛋白分画	3日	1週	>1ヶ月	不適當	
	免疫グロブリン	1週	1ヶ月	1年	不適當	
	α1-アンチトリプシン	1週	1ヶ月	1年	不適當	
	β2マイクログロブリン		3週	>3週		※1
	尿素窒素	3日	1週	6ヶ月	5日	
	クレアチニン	3日	1週	6ヶ月	3日	
	尿酸	3日	<1週	6ヶ月		
	アンモニア(全血)	不安定	1時間	1週		※2
	アミノ窒素	1日	4日	>1ヶ月	5日	血漿使用
	糖関連物質	血糖(全血)			不安定	※3
血糖(血清)		8時間	1週	>1年		
乳酸(全血)		不安定				※4
ピルビン酸(全血)		不安定				
脂質関連物質	総コレステロール	1週	1週	>1年	1日	
	中性脂肪	2日	4日	>1ヶ月		
	燐脂質	1日	1週	>1ヶ月		
	NEFA	不安定	<1日	<1日	不適當	ただちに分析
	HDL-コレステロール	1週	2週	3ヶ月		
	β-リポ蛋白	3日	1ヶ月	6ヶ月		
	リポ蛋白分画	不安定	1週	6ヶ月		※5
	アセト酢酸	<10分	<60分	<1日		
無機質関連物質	ナトリウム(Na)	1~2週間	1ヶ月	1年	不適當	
	カリウム(K)	1~2週間	1ヶ月	1年	不適當	※6
	クロール(Cl)	1~2週間	1ヶ月	1年	2日	
	カルシウム(Ca)	1週	2週	1年	不適當	※7
	マグネシウム(Mg)	1週	2週	1年	不適當	
	無機燐(IP)	3日	1週	>1ヶ月	不適當	
	鉄(血清)	1週	2週	6ヶ月	不適當	
	TIBC・UIBC	4日	1週	6ヶ月	不適當	
	トランスフェリン	1週	2週	6ヶ月	不適當	
	銅	1週	2週	6ヶ月	不適當	
	セルロプラスミン	不安定	2週	1年	不適當	
亜鉛	1週	1ヶ月	1年	不適當		
肝機能検査	ビリルビン	2日(遮光)	1週(遮光)	1ヶ月(遮光)	3日(遮光)	※8
	ICG	10時間				ただちに分析
	胆汁酸	1週	6ヶ月	1年		
酵素	アルカリフォスファターゼ	<1日	1日	6ヶ月	<1日	※9
	AST(GOT)	3日	1週	>4ヶ月	不適當	
	ALT(GPT)	1日	3日	>1ヶ月	不適當	
	LD(LDH)	5日	2日	不安定	不適當	※10
	CK(CPK)	(2日)	(1週)	(1ヶ月)	不適當	※11

検査項目	血清(漿)の安定性			全血の安定性	備考	
	室温	冷蔵庫	フリーザー			
酵素	コリンエステラーゼ	1週	2週	6ヶ月	4日	
	γ-GT	2日	1ヶ月	>6ヶ月	不適當	
	LAP	1日	1週	3ヶ月	不適當	
	アミラーゼ	1週	1ヶ月	1年	不適當	※12
	リパーゼ	1週	1ヶ月	6ヶ月	不適當	
	アルドラーゼ	<1日	3~4日	2週	不適當	
	リゾチーム	1~4日	1週			
ホルモン関連物質	AVP			45日	不適當	
	ACTH			45日	不適當	※13
	成長ホルモン	1日	1日	>6ヶ月	3日	
	LH・FSH	1日	1日	>6ヶ月	3日	
	TSH	1日	1日	>6ヶ月	3日	
	トリヨードサイロニン(T <sub>3</sub> )	数日	2週	>6ヶ月	3日	
	サイロキシニン(T <sub>4</sub> )	数日	2週	>6ヶ月	1ヶ月	
	コルチゾール	1日	10日	>6ヶ月	半日	
	アルドステロン	1日	2日	>1年	3日	
	エストロジェン			>6ヶ月	3日	
	テストステロン			2~4ヶ月	3日	
	インスリン	1日	数日	>6ヶ月	不適當	
	副甲状腺ホルモン	不安定	不安定	3ヶ月		
	アンギオテンシンI・II	不安定	不安定	半月	不適當	低温で血漿分離
カテコールアミン	2時間	1~2日	1ヶ月	不適當		
ビタミン	セロトニン	不安定	不安定	半月	不適當	
	HPL	<1日	2日	1週	2日	
	レニン活性	3時間	3日	2ヶ月	2~3時間	
	VA・カロチン		2週(遮光)			
	VC	不安定				※14
	VE		2週			
	VB <sub>12</sub>	4日				
	葉酸		1週			

## 尿検査

検査項目	室温		冷蔵庫	フリーザー	備考
	安定剤(-)	安定剤(+)			
蛋白	不安定	不適當	2週	1年	
ベンズグロブリン	不安定	不適當	1週	1年	※15
尿糖	不安定	>1日	1週		※16
尿素窒素	不安定	>1日	1週		※17
クレアチニン	2日	3日	1週	6ヶ月	
尿酸	3日	>3日			
ナトリウム (Na)	2週		>3ヶ月	>6ヶ月	
カリウム (K)	1週		>3ヶ月	>6ヶ月	
カルシウム (Ca)	1週	>1ヶ月	3ヶ月	>6ヶ月	※18
浸透圧	1週	不適當	>3ヶ月	>6ヶ月	
アミラーゼ	1週	不適當	1ヶ月	<1ヶ月	※19
γ-GT	5日	不適當	2週	不安定	※20
NAG	<1日	不適當	2週	1ヶ月	
エストロゲン		必要なし	6ヶ月		
アルドステロン			>1年		※21
AVP		45日			
カテコールアミン	不安定	7日 (pH3)	1ヶ月 (pH3)	1ヶ月 (pH3)	
VMA					
ケトン体	不安定		1日	1週	
ポルフィリン体		4日	1週	1ヶ月	
ウロビリノーゲン	不安定			1ヶ月	
δ-アミノレブリン酸		2週			※18
潜血反応	1週		>1ヶ月	>6ヶ月	

- ※1 血清の凍結融解を繰り返すと減少する。尿中は冷蔵庫保存でも減少していく。
- ※2 放置により増加するので、ただちに測定するか、あるいはただちに除タンパクしてからフリーザー中に保存する。
- ※3 全血のままであると速やかに減少していくがNaFを添加すると室温でも1週間は安定。
- ※4 全血室温放置で増加するので、採血後ただちに除タンパクする。
- ※5 血清を室温放置するとプレβ-リポタンパクが変化しやすい。凍結融解の繰り返しは不可。
- ※6 全血冷蔵保存で、血清Kは増加する。
- ※7 全血放置で、血清Caは負誤差、Mgと無機燐は正誤差を示す。
- ※8 血清または全血を窓際に放置すると30分で約半分に減少する。(光酸化)
- ※9 室温に血清放置すると1日で5~30%、冷蔵庫中でも1~2日で活性が増加してくる。
- ※10 LD、同アインザムは室温保存がもっとも安定、冷蔵庫やフリーザー中ではLD<sub>4・5</sub>、さらにLD<sub>3</sub>が減少し、LD<sub>1・2</sub>の相対的増加がみられる。
- ※11 CKは血清室温放置5時間ですでに減少するが、CK測定試験薬中の活性化剤で再活性化されるので、実際的には( )内日数安定。
- ※12 総アミラーゼ活性はきわめて安定であるが、アミラーゼアインザムの場合にはかならずフリーザー中に血清を保存。
- ※13 凍結融解を繰り返すと減少する。
- ※14 採血後ただちに血清分離し、専用容器に入れさらに遠心分離、凍結する。
- ※15 尿保存により偽陽性、または偽陰性をしめすことがあり、新鮮尿で検査のこと。
- ※16 血糖と同じくNaFを加えるか、又はトルエンを添加すると室温でも1日は変化しない。
- ※17 トルエンを添加すると室温で1日以上安定。
- ※18 尿のpHを3.5~5.0に調節して保存。
- ※19 凍結保存で速やかに失活することがあるので、むしろ凍結しないで低温で保存。
- ※20 -20℃保存で90%も失活する。
- ※21 尿のpHを3.0以下に調節して保存。
- ※22 NaFを加えると安定化。

## 髄液・穿刺液検査

検査項目	室温	冷蔵庫	フリーザー	備考
蛋白	2日	2週	>6ヶ月	
糖	不安定	1週	>6ヶ月	※22
電解質	2週	1ヶ月	1年	

## 感染症法に基づく届け出疾患一覧

(厚生労働省HP、感染症法に基づく医師の届出のお願いより引用)

### 1. 全ての医師が、全ての患者の発生について届出を行う感染症

#### 二類感染症（診断後直ちに届出）の一部抜粋

感染症名	定義	検査方法	注釈
結核	結核菌群 ( <i>Mycobacterium tuberculosis</i> complex, ただし <i>Mycobacterium bovis</i> BCGを除く) による感染症	※塗抹検査による病原体の検出 ※分離・同定による病原体の検出 ※核酸増幅法による病原体遺伝子の検出 病理検査における特異的所見の確認 ツベルクリン反応検査（発赤、硬結、水疱、壊死の有無） リンパ球の特異異蛋白刺激による放出インターフェロング試験 胸部エックス線、CT等画像検査における所見の確認	注釈1
ジフテリア	ジフテリア毒素を産生するジフテリア菌 ( <i>Corynebacterium diphtheriae</i> ) の感染による急性感染症	病変（感染）部位から採取した材料から分離・同定による病原体の検出、かつ、分離菌株のジフテリア毒素産生性の確認。 (※) 但し、ジフテリア菌 ( <i>Corynebacterium diphtheriae</i> ) であっても、ジフテリア毒素非産生性の菌は届出の対象ではない。	注釈2

#### 三類感染症（診断後直ちに届出）

感染症名	定義	検査方法	注釈
コレラ	コレラ毒素(CT)産生性コレラ菌 ( <i>Vibrio cholerae</i> O1) 又は <i>V. cholerae</i> O139による急性感染性腸炎	分離・同定による病原体の検出、かつ分離菌におけるコレラ毒素の確認患者（確定例）および無症状病原体保有者が対象	注釈3
細菌性赤痢	赤痢菌 ( <i>Shigella dysenteriae</i> , <i>S. flexneri</i> , <i>S. boydii</i> , <i>S. sonnei</i> ) の経口感染で起こる急性感染性大腸炎	分離・同定による病原体の検出患者（確定例）および無症状病原体保有者が対象	-
腸管出血性大腸菌感染症	ベロ毒素 (Verotoxin, VT) を産生する腸管出血性大腸菌 (enterohemorrhagic <i>E. coli</i> , EHEC, Shigatoxin-producing <i>E. coli</i> , STECなど) の感染によって起こる全身性疾患	糞便からの分離・同定による病原体の検出、かつ分離菌におけるベロ毒素の確認。または、糞便からのベロ毒素の検出（HUS発症例に限る）血清中のO抗原凝集抗体の検出（HUS発症例に限る）患者（確定例）および無症状病原体保有者が対象	-
腸チフス	チフス菌 ( <i>Salmonella</i> serovar Typhi) の感染による全身性疾患	血液、髄液、便、尿、胆汁からの分離・同定による病原体の検出患者（確定例）および無症状病原体保有者が対象	-
パラチフス	パラチフスA菌 ( <i>Salmonella</i> serovar Paratyphi A) の感染によって起こる全身性疾患 ( <i>Salmonella</i> Paratyphi B, <i>Salmonella</i> Paratyphi Cによる感染症はパラチフスから除外され、サルモネラ症として取り扱われる)	血液、髄液、便、尿、胆汁からの分離・同定による病原体の検出患者（確定例）および無症状病原体保有者が対象	-

#### 五類感染症（診断後直ちに届出）の一部抜粋

侵襲性髄膜炎菌感染症	<i>Neisseria meningitidis</i> による侵襲性感染症のうち、本菌が髄液又は血液から検出された感染症	髄液、血液からの分離・同定による病原体の検出	-
------------	--	------------------------	---

#### 五類感染症（診断から7日以内に届出）の一部抜粋

感染症名	定義	検査方法	注釈
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	メロペネムなどのカルバペネム系薬剤及び広域β-ラクタム剤に対して耐性を示す腸内細菌科細菌による感染症	メロペネムのMIC値が2μg/mL以上（判定値又はR）または、イミペネムのMIC値が2μg/mL以上（判定値又はR）かつセフメタゾールのMIC値が64μg/mL以上（判定値R）	注釈4
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	β溶血を示すレンサ球菌を原因とし、突発的に発症して急激に進行する敗血症性ショック病態	通常無菌的な材料（血液、髄液、胸水、腹水）および、生検組織、手術創、壊死軟部組織からの分離・同定による病原体の検出	注釈5
侵襲性インフルエンザ菌感染症	<i>Haemophilus influenzae</i> による侵襲性感染症のうち、本菌が髄液又は血液から検出された感染症	髄液、血液からの分離・同定による病原体の検出 髄液のラテックス法による病原体抗原の検出	*1
侵襲性肺炎球菌感染症	<i>Streptococcus pneumoniae</i> による侵襲性感染症のうち、本菌が髄液又は血液から検出された感染症	髄液、血液からの分離・同定による病原体の検出 髄液のラテックス法又はイムノクロマト法による病原体抗原の検出	*2
播種性クリプトコックス症	Cryptococcus属真菌による感染症のうち、本菌が髄液、血液などの無菌的臨床検体から検出された感染症又は脳脊髄液のクリプトコックス荚膜抗原が陽性となった感染症	血液、腹水、胸水、髄液からの分離・同定による病原体の検出 髄液、血液のラテックス凝集法によるクリプトコックス荚膜抗原の検出 髄液、組織の病理組織学的診断（組織診断又は細胞診断で荚膜を有する酵母細胞の証明）	*3
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	獲得型バンコマイシン耐性遺伝子を保有し、バンコマイシン耐性を示す黄色ブドウ球菌による感染症	黄色ブドウ球菌に対するバンコマイシンのMIC値が16μg/mL以上（判定値I又はR）	注釈6
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	バンコマイシンに対して耐性を示す腸球菌（VRE）による感染症	分離・同定による腸球菌の検出、かつバンコマイシンのMIC値が16μg/mL以上（判定値I又はR）	注釈7
薬剤耐性アシネトバクター感染症	広域β-ラクタム剤、アミノ配糖体、フルオロキノロンの3系統の薬剤に対して耐性を示すアシネトバクター属菌による感染症	分離・同定によるアシネトバクターの検出、かつイミペネムのMIC値が16μg/mL以上（判定値R）、アミカシンのMIC値が32μg/mL以上（判定値I又はR）シプロフロキサシンのMIC値が4μg/mL以上（判定値R）	注釈8 注釈9
百日咳	<i>Bordetella pertussis</i> による急性の気道感染症	鼻腔、咽頭、気管支などから採取された検体からの分離・同定による病原体の検出または、PCR法による病原体の遺伝子の検出 血清からの抗体の検出（ペア血清による抗体陽転又は抗体価の有意な上昇、又は単一血清で抗体価の高値）	-

## 2. 指定した医療機関が、患者の発生について届出を行う感染症から一部抜粋

### 五類感染症（小児科定点；週単位で報告）

感染症名	定義	検査方法	注釈
A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	A群レンサ球菌による上気道感染症	咽頭材料からの培養・同定による病原体の検出 咽頭材料での迅速診断キットによる病原体の抗原の検出 ASO法又はASK法による抗体の検出（ペア血清での抗体陽転又は抗体価の有意の上昇）	-

### 五類感染症（基幹定点；週単位で報告）

感染症名	定義	検査方法	注釈
感染性胃腸炎（病原体がロ タウイルスであるものに限 る。）	ロタウイルスの感染による下痢、嘔吐、発熱を主症状とする感染症	糞便から抗原の検出（イムノクロマト法による病原体抗原の検出）	-

### 五類感染症（基幹定点；月単位で報告）

感染症名	定義	検査方法	注釈
ペニシリン耐性肺炎球菌 感染症	ペニシリンGに対して耐性を示す肺炎球菌による感染症	分離・同定による肺炎球菌の検出、かつ ペニシリンのMIC値が0.125 µg/mL以上（判定値I又はR）又は、 オキサシリンの感受性ディスク(KB)の阻止円の直径が19mm以下	注釈10
メチシリン耐性黄色ブドウ 球菌感染症	メチシリンなどのペニシリン剤をはじめとして、β- ラクタム剤、アミノ配糖体剤、マクロライド剤などの 多くの薬剤に対し多剤耐性を示す黄色ブドウ球菌によ る感染症	分離・同定による黄色ブドウ球菌の検出、かつ オキサシリンのMIC値が4 µg/mL以上（判定値R）、又は オキサシリンの感受性ディスク(KB)の阻止円の直径が10mm以下	注釈11
薬剤耐性緑膿菌感染症	広域β-ラクタム剤、アミノ配糖体、フルオロキノロン の3系統の薬剤に対して耐性を示す緑膿菌による感染症	分離・同定による緑膿菌の検出、かつ イミペネムのMIC値が16 µg/mL以上（判定値R）、 アミカシンのMIC値が32 µg/mL以上（判定値I又はR）、 シプロフロキサシンのMIC値が4 µg/mL以上（判定値R）	注釈 9 注釈12

注釈1 表内の※印は病原体検出検査です。病原体及び病原体遺伝子の検出検査方法以外による検査方法については、当該検査所見に加え、問診等により医師が結核患者であると診断するに足る判断がなされる場合に限り届出を行う。鑑別を必要とする疾患は、他の原因による肺炎、非結核性抗酸菌症、肺癌、気管支拡張症、良性腫瘍等である。

注釈2 シフテリア毒素産生性については当社では実施できません。届け出の際、所轄の保健所にご相談ください。

注釈3 コレラトキシン（CT）については当社では実施できません。届け出の際、所轄の保健所にご相談ください。

注釈4 血液、腹水、胸水、髄液、その他の通常無菌的であるべき検体から本菌を検出した場合、または、喀痰、膿、尿、その他の通常無菌的ではない検体から本菌を検出し感染症の起病菌と判定され、かつカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症患者と診断した場合には、規定による届出を7日以内に届け出なければならない。

注釈5 届出のために必要な臨床症状

(ア) ショック症状

(イ) (以下の症状のうち2つ以上)

肝不全、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、DIC、軟部組織炎（壊死性筋膜炎を含む）、全身性紅斑性発疹、痙攣・意識消失などの中枢神経症状

注釈6 血液、腹水、胸水、髄液、その他の通常無菌的であるべき検体から本菌を検出した場合、または、喀痰、膿、尿、その他の通常無菌的ではない検体から本菌を検出し感染症の起病菌と判定され、かつバンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症患者と診断した場合には、規定による届出を7日以内に届け出なければならない。

注釈7 血液、腹水、胸水、髄液、その他の通常無菌的であるべき検体から本菌を検出した場合、または、喀痰、膿、尿、その他の通常無菌的ではない検体から本菌を検出し感染症の起病菌と判定され、かつバンコマイシン耐性腸球菌感染症患者と診断した場合には、規定による届出を7日以内に届け出なければならない。

注釈8 血液、腹水、胸水、髄液、その他の通常無菌的であるべき検体から本菌を検出した場合、または、喀痰、膿、尿、その他の通常無菌的ではない検体から本菌を検出し感染症の起病菌と判定され、かつ薬剤耐性アシネトバクター感染症患者と診断した場合には、規定による届出を7日以内に届け出なければならない。

注釈9 イミペネム以外のカルバペネム系薬剤により検査を実施した場合は、その検査により耐性の結果が得られた場合も判断基準を満たすものとし、その検査方法を届出のために必要な検査方法とする。また、シプロフロキサシン以外のフルオロキノロン系薬剤により検査を実施した場合は、その検査により耐性が得られた場合も判断基準を満たすものとし、その検査方法を届出のために必要な検査方法とする。

注釈10 血液、腹水、胸水、髄液、その他の通常無菌的であるべき検体から本菌を検出した場合、または、喀痰、膿、尿、その他の通常無菌的ではない検体から本菌を検出し感染症の起病菌と判定され、かつペニシリン耐性肺炎球菌感染症患者と診断した場合には、規定による届出を月単位で、翌月の初日に届け出なければならない。

注釈11 血液、腹水、胸水、髄液、その他の通常無菌的であるべき検体から本菌を検出した場合、または、喀痰、膿、尿、その他の通常無菌的ではない検体から本菌を検出し感染症の起病菌と判定され、かつメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症患者と診断した場合には、規定による届出を月単位で、翌月の初日に届け出なければならない。

注釈12 血液、腹水、胸水、髄液、その他の通常無菌的であるべき検体から本菌を検出した場合、または、喀痰、膿、尿、その他の通常無菌的ではない検体から本菌を検出し感染症の起病菌と判定され、かつ薬剤耐性緑膿菌感染症患者と診断した場合には、規定による届出を月単位で、翌月の初日に届け出なければならない。

\* 1 髄液中の*Haemophilus influenzae*抗原検出検査は受託できません。

\* 2 髄液中の*Streptococcus pneumoniae*（肺炎球菌）抗原検出検査は受託できません。

\* 3 髄液、血液中のクリプトコックス荚膜抗原検出検査は受託できません。

## 〈生化学検査〉

AST (GOT) .....	血清GOT活性測定法に対する標準的測定法：日本臨床化学会分析部会, 1981.
ALT (GPT) .....	血清ALT活性測定法に対する標準的測定法試案：日本臨床化学会分析部会, 1982.
アルカリフォスファターゼ .....	臨床化学25：515, 1989.
コリンエステラーゼ .....	J. Lab. & Clin. Med August. 70：343, 1967.
$\gamma$ -GT .....	Clin. Chem. 15：124, 1969.
LAP .....	臨床病理(特集第55号)：146, 1983.
乳酸脱水素酵素 .....	Z. Klin. Chem. Kin. Biochem. 10：287, 1972.
クレアチンキナーゼ .....	J. Clin. Chem. Clin. Biochem. 15：255, 1977.
アルドラーゼ(ALD) .....	三浦 雅一,他：臨床検査機器・試薬 12(5)：1005～1009,1989.
アデノシンデアミナーゼ .....	新薬と臨床31：1017, 1982.
アミラーゼ .....	Clin. Chem. 28：1791, 1982.
リパーゼ .....	胆と膵7：1037, 1986.
トリブシン .....	河野幹彦, 他：医学と薬学53, 635, 2005.
ペブシノーゲン I・II .....	検査機器・試薬38, 5：607～612, 1998.
膵ホスホリパーゼA <sub>2</sub> (膵PLA <sub>2</sub> ) .....	竹田 昌弘,他：ホルモンと臨床 38(7)：729～734, 1990.
リゾチーム .....	北村 元仕：実践臨床化学 増補：432～436, 1982.
アンギオテンシン転換酵素 .....	Clin. Chem. 27：1922, 1981.
総ビリルビン .....	臨床化学22(2)：116, 1993.
直接ビリルビン .....	臨床化学22(2)：116, 1993.
総胆汁酸 .....	今野稔：臨床検査機器・試薬第16巻第3号(平成5年6月)別冊
グリココール酸(CG) .....	金森 勇雄,他：日本放射線技師会雑誌 26(4)：17～22, 1978.
尿素窒素 .....	森下芳孝：Medical Technology 26(6)：695～700, 1998.
尿酸 .....	Clin. Chem. 19：522, 1973.
クレアチニン .....	Medical Technology Vol.26 No.4(P998.4)P389.
クレアチン .....	今野 稔：Medical Technology 12(3)：270～276,1984.
シスタチンC .....	齊藤のり子, 他：日臨検自動化会誌30, 463, 2005.
血中アンモニア .....	最新医学21：622, 1966.
蛋白分画 .....	電気泳動実験法：電気泳動学会編, 1978.
総蛋白[TP] .....	衛生検査22：379, 1973.
アルブミン .....	佐々木 真弓,他：機器・試薬 26(4)：335～338, 2003.
A/G比 .....	浅井 孝道：検査と技術 7(10)：815～820, 1979.
$\alpha$ 1-マイクログロブリン .....	臨床化学13：286, 1984.
プロコラーゲンⅢペプチド(P-Ⅲ-P) [CLIA] .....	北原 志穂,他：医学と薬学 72(9)：1579～1590, 2015.
M型コラーゲン・7S .....	長田 篤雄,他：医学と薬学 20(6)：1507～1515, 1988.
セルロプラスミン .....	櫻林 郁之介,他：臨床病理 特(53)：71～81, 1983.
心筋トロポニンT .....	太田 直孝,他：臨床検査機器・試薬 22(6)：531～535, 1999.
フェリチン[CLEIA] .....	唐澤美佳, 他：医療と検査機器・試薬29(5)：491～497, 2006.
心室筋ミオシン軽鎖 I .....	宮崎 修一,他：医学と薬学 52(3)：443～449, 2004.
総脂質 .....	Med. Technol. 8：1006, 1980.
燐脂質 .....	J. Biochem. 82：157, 1977.
中性脂肪 .....	Tamaoku K et al：Chem Pharm Bull 30-7-2492～2497 1982
総コレステロール .....	桜井 強：医学検査 47(4)：747～752, 1998.
遊離コレステロール .....	Med. Technol. 8 (Supple)：1060, 1980.
エステル型コレステロール .....	Med. Technol. 8 (Supple)：1060, 1980.
遊離脂肪酸 .....	日本農芸化学会講演要旨集55：38, 1980.
HDLコレステロール .....	小田部真沙子, 他：臨床検査機器・試薬8, 143, 1985.
$\beta$ -リポ蛋白 .....	内科24：29, 1969.
リポ蛋白リパーゼ(LPL) .....	Kobayashi J et al：Clinica Chimica Acta 216：113～123, 1993.
リポ蛋白分画[アガロース膜電気泳動法] .....	Med. Technol. 8：1276, 1980.
リポ蛋白分画精密[ポリアクリルアミドディスク電気泳動法] .....	菅原 和行,他：衛生検査 27(5)：624～627, 1978.
コレステロール分画 .....	検査と技術第29号第8号, 2001.7.1 臨床病理第49巻第10号(平成13年10月)別冊 The LIPID9：487-494, 1998.
全脂肪酸分画(24成分) .....	小沢 昭夫,他：分析化学 31：87～91, 1982.
血中脂肪酸分画(4分画) .....	小沢 昭夫,他：分析化学 31：87～91, 1982.
レムナント様リポ蛋白コレステロール .....	中嶋克行, 他：動脈硬化20, 79, 1992.
リポ蛋白(a) .....	THERAPEURIC RESEARCH別刷：12, 12, 1991.
LDL-Cコレステロール(LDL-C) .....	菅野剛史, 他：医学と薬学37(3)：635～644, 1997.
血糖(グルコース) .....	日本臨床化学会試薬専門委員会：臨床化学 20(4)：247～254, 1991.
グリコアルブミン .....	阿部房江, 他：糖尿病32, 183, 1989.
ケトン体定量 .....	Biochem. J. 82：90, 1962.
ケトン体分画 .....	機器・試薬9：519, 1986. 機器・試薬9：614, 1985.
ケトン体分画(動脈血) .....	西ヶ谷 晴美,他：医学検査 45-3-353 1996
ビルビン酸 .....	浅沼 和子,他：生物試料分析 8(3)：16～24, 1985.
乳酸 .....	浅沼 和子,他：生物試料分析 8(3)：16～24, 1985.
ヒアルロン酸 .....	臨床検査23：1057, 1979.
1,5-アンヒドログリシトール(1.5AG) .....	糖尿病33：41, 1990.
ナトリウム(Na) .....	臨床検査法提要34版：662～664, 金原出版, 2015.

# 検査方法参考文献

クロール(Cl) .....	臨床検査法提要34版：666～667, 金原出版, 2015.
カリウム(K) .....	臨床検査法提要34版：664～666, 金原出版, 2015.
カルシウム(Ca) .....	臨床検査法提要34版：535～540, 金原出版, 2015.
イオン化カルシウム .....	桑克彦：検査と技術19(2)：119～124, 1991.
無機燐(IP) .....	Clin. Chem. 18：263, 1972.
マグネシウム(Mg) .....	分析化学2：635, 1977.
鉄(Fe) [血清] .....	Clin. Chem. 12：47, 1966.
鉄(Fe) [尿中] .....	溝口 秀昭：臨床医 8(10)：1624～1626, 1982.
総鉄結合能(TIBC) [Nitroso-PSAP法] .....	Clin. Chem. 12：47, 1966.
不飽和鉄結合能(UIBC) [Nitroso-PSAP法] .....	Clin. Chem. 12：47, 1966.
クロム(Cr) .....	松岡 澄：産業医学13(6)：525～537, 1971. と田中 俊行, 他：医学と生物学101(5)：277～281, 1980.
マンガン(Mn) .....	Tsalev DL et al：Bulletin of Environmental Contamination & Toxicology 17(6)：660～666, 1977.
鉛(Pb) [血液] .....	労働省労働基準局労働衛生課(監修)：鉛健康診断のすすめ方, p56, (社) 全国労働衛生団体連合会事務局, 1990.
水銀(Hg) .....	宮永昭一, 他：食品衛生学雑誌25, 30, 1984.
銅(Cu) [血清] .....	Am. J. Clin. Path. 29：590, 1958.
銅(Cu) [尿中] .....	Ichida T et al：Clinica Chimica Acta 24：299～303, 1969.
亜鉛(Zn) .....	Meret S et al：Clinical Chemistry 17(5)：369～373, 1971.
アルミニウム(Al) .....	Oster O：Clinica Chimica Acta 114：53～60, 1981.
CK(CPK) アイソザイム .....	高木 康, 他：臨床検査 32(11)：1309～1315, 1988.
CK(CPK)-MB [UV法] .....	医学と薬学, 42(3), 461-467, 1999.
[CLIA法] .....	米田孝司, 他：医学と薬学42(3)：461～467, 1999.
LD(LDH) アイソザイム .....	森山 隆則, 他：Medical Technology 25(1)：45～51, 1997.
ALPアイソザイム .....	芝 紀代子：目でみる電気泳動法2 (医歯薬出版)：55～71, 1989.
AMYアイソザイム .....	芝 紀代子：目でみる電気泳動法1 (医歯薬出版)：79～88, 1998.
P型アミラーゼ .....	臨床病理37：802, 1989.
ミトコンドリアAST(m-AST)(m-GOT) .....	日本臨床化学会年会記録27：101, 1987.
ビタミンA(VA) .....	須原 聡, 他：臨床検査 36(3)：235～239, 1992.
ビタミンB1 .....	木村 美恵子, 他：ビタミン 55(4)：185～189, 1981.
ビタミンB2 .....	大石 誠子：ビタミンハンドブック3 ビタミン分析法 (化学同人)：71～80, 1989.
ビタミンB6(VB6) .....	吉田 継親, 他：薬学雑誌 98(10)：1319～1326, 1978.
ビタミンB12(VB12：コバラミン) .....	The Ligand Quarterly 4：37, 1981.
ビタミンC(VC：アスコルビン酸) .....	Lykkesfeldt J et al：Analytical Biochemistry 229：329～335, 1995.
1,25ジヒドロキシビタミンD3 .....	Fraser WD et al：Ann Clin Biochem 34：632～637, 1997.
25-ヒドロキシビタミンD .....	2014年ビタミンD欠乏性くる病・低カルシウム血症の診断の手引き
25-OH ビタミンD .....	BatistaMC, et al：Clin Chem Lab Med/doi:10.1515/cclm-2018-0406：jun11, 2018.
ビタミンE .....	阿部 皓一, 他：栄養と食糧 28(5)：277～280, 1975.
葉酸 .....	機器・試薬, 25(5)：441-448, 2002.
カルニチン分画 .....	伊丹 儀友, 他：臨床検査 58(5)：651～658, 2014.
ミオグロビン .....	日本臨床検査自動化学会誌, 27(4)：467, 2002.
ミオグロビン(尿中) .....	吉川 文雄, 他：医学と薬学 37(5)：1243～1253, 1997.
血中コプロポルフィリン .....	Salmi M et al：Clinical Chemistry 26(13)：1832～1835, 1980.
エリスロポエチン(EPO) .....	金尾 啓右, 他：医学と薬学 21(4)：659～664, 1989.
エンドトキシン定量 .....	土谷 正和, 他：日本細菌学雑誌 45(6)：903～911, 1990.
ヘパリン .....	teien A et al：Thrombosis Reseach 8(3)：413～416, 1976.
エタノール(エチルアルコール) .....	馬嶋 正隆, 他：北里医学 14：424～430, 1984.
アセトン .....	深掘 すみ江, 他：労働科学 59(12)：555～562, 1983.
クエン酸 .....	Warty VS et al：Clinical Chemistry 30(7)：1231～1233, 1984.
肝細胞増殖因子(HGF) .....	二井谷 好行, 他：臨床検査 35(13)：1360～1364, 1991.
可溶性インターロイキン2レセプター(sIL-2R) .....	林 圭織, 他：医学と薬学 75(12)：1611～1620, 2018.
トロンボモジュリン(TM) .....	横内 敬二, 他：医学と薬学 44(4)：795～802, 2000.
シアル化糖鎖抗原(KL-6) .....	河野修興, 他：臨床と研究, 別冊75(5), 217～222, 1998.
SP-D(肺サーファクタントプロテインD) .....	田中 誠仁, 佐藤 高明, 他：医学と薬学 59(3)：439～446, 2008.
SP-A(肺サーファクタントプロテインA) .....	阿部庄作, 他：日胸疾会誌33(11)：1219-1225, 1995.
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP) .....	朝山 久美子, 他：臨床検査機器・試薬 17(5)：943～950, 1994.
尿中デオキシピリジノリン(Dpd) .....	CLINICAL CALCIUM Vol.3, No5, 1993.
BAP(骨型アルカリフォスファターゼ) .....	医学と薬学55巻(2)：279～284(2006)
I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx) [骨粗鬆症] .....	Hanson DS et al：Journal of Bone and Mineral Research 7(11)：1251～1258, 1992.
TRACP-5b(骨型酒石酸抵抗性ACP) .....	医学と薬学 別冊Vol.54 No.5 709-717 2005 医学と薬学 別冊Vol.55 No.3 443-466 2006 医学と薬学 別冊Vol.55 No.4 593-614 2006
total P1NP (I型プロコラーゲン-N-テロペプチド) .....	日高好博：医学と薬学70(2)：357～365, 2013.
25-OH ビタミンD [RIA] .....	岡崎 亮：臨床検査ガイド2013～2014(文光堂)：403～406.
プロカルシトニン .....	小林 一三, 他：医学と薬学 73(4)：459～467, 2016.
<b>〈機能検査〉</b>	
クレアチニンクリアランス .....	JJCLA Vol.21 No.5 1996 P702.
24時間内因性クレアチニンクリアランス .....	JJCLA Vol.21 No.5 1996 P702.
尿素クリアランス .....	臨床検査法提要34版：1545, 金原出版：2015.

尿酸クリアランス…………… 検査と技術15 : 1083, 1987.  
 無機燐クリアランス…………… 臨床検査法提要34版 : 713, 金原出版 : 2015.  
 PFDテスト…………… Yamato C et al : Analytical Biochemistry 98 : 13 ~ 17, 1979.  
 ICGテスト…………… 臨床病理28 : 1251, 1981.

## 〈腫瘍関連検査〉

癌胎児性抗原 (CEA)…………… 鈴木尚子, 他 : 医学と薬学56 (6) : 897 ~ 907, 2006.  
 $\alpha$ -フェトプロテイン [CLIA]…………… 鈴木尚子, 他 : 医学と薬学56 (6) : 897 ~ 907, 2006.  
 前立腺特異抗原 (PSA)…………… 黒田雅頭, 他 : 医学と薬学56 (3) : 449 ~ 454, 2006.  
 $\gamma$ -セミノプロテイン…………… 佐藤達郎, 他 : 医学と薬学43 (1) : 97~106, 2000.  
 エラスターゼ1…………… 臨床病理32 : 413, 1984.  
 CA19-9…………… 鈴木尚子, 他 : 医学と薬学56 (6) : 897 ~ 907, 2006.  
 DUPAN-2…………… 櫻林 郁之介, 他 : 臨床病理 34 (6) : 705 ~ 710, 1986.  
 SPan-1…………… 梅山 馨, 他 : 脾臓 3 (4) : 528 ~ 539, 1988.  
 シアリルLeX-i抗原…………… 井村 裕夫, 他 : 癌と化学療法 14 (5) : 1315 ~ 1321, 1987.  
 シアリルLeX抗原 (CSLEX)…………… 三嶋 芳樹, 他 : 医学と薬学 29-5-1193 ~ 1200 1993  
 SCC抗原 (扁平上皮癌関連抗原)…………… 高木康, 他 : 医学と薬学52 (3) : 413~421, 2004.  
 CA125…………… 機器・試薬29 (6) : 589 ~ 595, 2006.  
 CA15-3…………… 機器・試薬29 (6) : 589 ~ 595, 2006.  
 BCA225…………… 石 和久, 他 : 基礎と臨床 23 (15) : 6087 ~ 6095, 1989.  
 NCC-ST-439…………… 吉岡 久, 他 : 臨床病理 35 (11) : 1233 ~ 1238, 1987.  
 CA72-4…………… 青山 昭, 他 : 医学と薬学 49 (1) : 127 ~ 135, 2003.  
 CA54/61…………… 野澤 志朗, 他 : 癌と化学療法 19-12-2085 ~ 2093 1992  
 CA602…………… 野澤 志朗, 他 : 癌と化学療法 19-12-2085 ~ 2093 1992  
 組織ポリペプチド抗原 (TPA)…………… 吉川 文雄, 他 : 医学と薬学 34 (4) : 749 ~ 757, 1995.  
 神経特異エノラーゼ (NSE)…………… 花田 浩之, 他 : 医学と薬学 60 (4) : 657 ~ 663, 2008.  
 PIVKA-II…………… 高津 和子, 他 : 臨床と研究73 (11) : 2656~2664, 1996.  
 シアリルTn抗原 (STN)…………… 井村 裕夫, 他 : 癌と化学療法 16 (9) : 3213 ~ 3219, 1989.  
 シフラ (サイトケラチン19フラグメント)…………… 機器・試薬29 (6) : 597 ~ 602, 2006.  
 チミジンキナーゼ活性…………… 鳥住 和民, 他 : 核医学 25 (6) : 561 ~ 567, 1988.  
 ガストリン放出ペプチド前駆体 (Pro GRP)…………… 山本 典江, 他 : 医療と検査機器・試薬 32 (2) : 263 ~ 267, 2009.  
 PSA-ACT…………… 大野 明美, 他 : 医学と薬学 49 (2) : 325 ~ 332, 2003.  
 尿中核マトリックスプロテイン22 (NMP22)…………… 赤座英之, 他 : 癌と化学療法24 (7) : 829-836, 1997.  
 PSA F/T比…………… 武田悟, 他 : Prog. Med.21 : 2279~2283, 2001.  
 高感度PSAタンデム…………… 医学と薬学51巻 (1) : 179 ~ 186 (2004)  
 5-S-システニルドーパ (5-S-CD)…………… Wakamatsu K et al : Clinical Chemistry 40 (3) : 495 ~ 496, 1997.  
 I型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTx) [腫瘍マーカー]…………… Hanson DA et al : Journal of Bone and Mineral Research 7 (11) : 1251 ~ 1258, 1992.  
 PSA-ACT…………… 大野 明美, 他 : 医学と薬学 49 (2) : 325 ~ 332, 2003.  
 血清抗p53抗体…………… 島田 英昭, 他 : 日本臨床外科学会雑誌 64 (7) : 1551 ~ 1559, 2003.  
 I型コラーゲンC末端 テロペプチド (ICTP)…………… 清原 剛, 他 : ホルモンと臨床 42 (12) : 1189 ~ 1193, 1994.  
 HER2蛋白 (血清)…………… LuftnerD, et al : The International Journal of Biological Markers 19(3) : 175 ~ 182, 2004.  
 可溶性メソテリン関連ペプチド…………… 中町 衛, 他 : 医学と薬学 65(2) : 261 ~ 267, 2011

## 〈内分泌学検査〉

甲状腺刺激ホルモン (TSH)…………… 佐藤幸男, 他 : 医学と薬学45 (1) : 147 ~ 154, 2001.  
 成長ホルモン (GH) [血清]…………… 石渡 尚子, 他 : ホルモンと臨床 38 (6) : 601 ~ 606, 1990.  
 黄体化ホルモン (LH)…………… 古屋 実, 他 : 医学と薬学74 (7) : 819 ~ 830, 2017.  
 卵巣刺激ホルモン (FSH)…………… 古屋 実, 他 : 医学と薬学74 (7) : 819 ~ 830, 2017.  
 プロラクチン…………… 古屋 実, 他 : 医学と薬学74 (7) : 819 ~ 830, 2017.  
 副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)…………… 阿部 正樹, 他 : 医学と薬学 57 (2) : 239 ~ 244, 2007.  
 ソマトメジンC (IGF-I)…………… 高須 重人, 他 : ホルモンと臨床 44 (4) : 383 ~ 391, 1996.  
 T3 (トリヨードサイロニン)…………… 上條桂一, 他 : 医学と薬学40 (2) : 387~394, 1998.  
 T4 (総サイロキシン)…………… 上條桂一, 他 : 医学と薬学40 (2) : 387~394, 1998.  
 FT3 (遊離トリヨードサイロニン)…………… 上條桂一, 他 : 医学と薬学40 (2) : 387~394, 1998.  
 FT4 (遊離サイロキシン)…………… 上條桂一, 他 : 医学と薬学40 (2) : 387~394, 1998.  
 サイロキシン結合グロブリン (TBG)…………… 海瀬 信子, 他 : 核医学16 (5) : 777 ~ 783, 1979.  
 サイログロブリン (Tg)…………… 山口伸之, 他 : 医学と薬学33(2) : 525 ~ 533, 1995.  
 副甲状腺ホルモンintact (PTH intact)…………… Osteoporosis Japan vol12 : no3, 2004.  
 副甲状腺ホルモン関連蛋白intact (PTHrP)…………… 福本 誠二, 他 : ホルモンと臨床 40 (12) : 1309 ~ 1314, 1992.  
 ホールPTH…………… 森山 和重, 他 : 医学と薬学 70 (4) : 829 ~ 836, 2013.  
 カルシトニン (CT)…………… 北側 亘, 他 : 医学と薬学 72 (1) : 97 ~ 108, 2015.  
 岩瀬 克己 : 外科治療 105 (4) : 347 ~ 352, 2011.  
 カテコールアミン (3分画) [血漿]…………… 辻 潮, 他 : 臨床検査機器・試薬 11 (4) : 635 ~ 641, 1988.  
 カテコールアミン (総・3分画) [尿]…………… Honda S et al : Analytica Chimica Acta 149 : 297 ~ 303, 1983.  
 メタネフリン・ノルメタネフリン分画…………… Shoup RE et al : Clinical Chemistry 23 (7) : 1268 ~ 1274, 1977.  
 バニルマンデル酸 [尿] (VMA定量)…………… Gironi A et al : Clinical Chemistry 34 (12) : 2504 ~ 2506, 1988.  
 [髄液]…………… Gironi A et al : Clinical Chemistry 34 (12) : 2504 ~ 2506, 1988.

ホモバニリン酸(HVA定量)〔蓄尿〕…………… Gironi A et al : Clinical Chemistry 34 (12) : 2504 ~ 2506, 1988.  
 ホモバニリン酸(HVA定量)〔髄液〕…………… Gironi A. et al : Clinical Chemistry 34 (12) : 2504 ~ 2506, 1988.  
 5-ハイドロキシインドール酢酸(5-HIAA)〔蓄尿〕…………… Mailman RB et al : Clinical Chemistry 31 (11) : 1849 ~ 1854, 1985.  
 5-ハイドロキシインドール酢酸(5-HIAA)〔髄液〕…………… 小島 司,他:臨床化学 21 (2) : 119 ~ 126, 1992.  
 トーバミン(総)…………… 守 和子:産業医学 17 : 170 ~ 171, 1975.  
 セロトニン…………… Anderson GM et al : Gastroenterology 88 : 86 ~ 89, 1985.  
 アルドステロン…………… 塩之入 洋,他:医学と薬学 21 (2) : 293 ~ 302, 1989.  
 コルチゾール…………… 福島 靖恵,他:臨床検査機器・試薬 22 (6) : 509 ~ 514, 1999.  
 遊離コルチゾール(非抱合型コルチゾール)…………… 福島靖恵,他:機器・試薬22, 509, 1999.  
 17-ケトステロイド分画…………… 石田 孝,他:臨床化学 15 (1) : 13 ~ 19, 1986.  
 11-ハイドロキシコルチコステロイド…………… 宇田川 美佐子,他:臨床化学 5 (3) : 321 ~ 325, 1977.  
 デヒドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)…………… 増戸 梨恵,他:医学と薬学 56 (3) : 443 ~ 448, 2006.  
 ヒト絨毛性ゴナドトロピン[CLEIA法][血清]…………… Cole LA et al : Clinical Chemistry 47 (2) : 308 ~ 315, 2001.  
 [ECLIA法][尿]…………… 遊離型β-HCGの検出のための高感度及び高特異性自動化化学発光酵素抗体アッセイ: AACC 1995要旨集  
 HCG-βサブユニット(遊離HCG-β)…………… 菅原 由人,他:臨床検査機器・試薬 14 (3) : 467 ~ 474, 1991.  
 エストラジオール(E2)…………… 古屋 実,他:医学と薬学74 (7) : 819 ~ 830, 2017.  
 プログステロン…………… 古屋 実,他:医学と薬学74 (7) : 819 ~ 830, 2017.  
 プレグナジオール…………… 平井 利生,他:日本臨床検査自動化学会誌JJCLA 9 (2) : 564 ~ 567, 1984.  
 プレグナントリオール…………… 平井 利生,他:日本臨床検査自動化学会誌JJCLA 9 (2) : 564 ~ 567, 1984.  
 フリーテストステロン…………… \*鈴木 啓悦:日本臨床 68(増7) : 471 ~ 474, 2010.  
 総エストロジェン(妊婦)…………… 産婦人科の世界33 : 81, 1981.  
 妊娠反応定性…………… 産科と婦人科58 (8) : 1413, 1991.  
 インスリン…………… 唐澤 美佳,他:医療と検査機器・試薬 29 (5) : 479 ~ 484, 2006.  
 ガストリン…………… 飯沼 一茂,他:Radioisotopes 31 (7) : 350 ~ 356, 1982.  
 レニン活性…………… 廣井 直樹,他:医学と薬学 32 (1) : 81 ~ 86, 1994.  
 レニン定量…………… 土屋 ますみ 他:医学と薬学 32-3-529 ~ 534 1994  
 アンギオテンシン I…………… 岩鼻 美佐,他:医学と薬学 36 (2) : 297 ~ 303, 1996.  
 アンギオテンシン II…………… 岩鼻 美佐,他:医学と薬学 36 (2) : 297 ~ 303, 1996.  
 ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)…………… 浜典男,他:基礎と臨床25 (13) : 4205~4212, 1991.  
 オステオカルシン…………… 高見 博,他:ホルモンと臨床 38 (11) : 1183 ~ 1186, 1990.  
 サイクリックAMP…………… 孫 孝義,他:日本内分泌学会雑誌 61 (9) : 912 ~ 923, 1985.  
 総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比…………… 杉山正康,他:臨床病理, 40, 673, 1992.  
 ヒト脳性Na利尿ペプチド(BNP)…………… 伊藤 洋子,他:医学と薬学64 (6) : 931 ~ 939, 2010.  
 ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)…………… 清野精彦,他:Bio Clinica 2004年19巻6号 P47 ~ P53  
 頭管腔分泌液中癌胎児性フィブロネクチン…………… Lockwood CJ et al : The New England Journal of Medicine 325 (10) : 669 ~ 674, 1991.  
 子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ…………… 北村 光,他:臨床検査機器・試薬 21 (4) : 357 ~ 361, 1998.  
 抗利尿ホルモン(AVP)…………… 田中 誠仁,他:医学と薬学 72 (8) : 1379 ~ 1388, 2015.  
 村瀬孝司,大磯ユタカ:日本臨床 68 (増刊7) : 260 ~ 263, 2010.

## 〈免疫学検査〉

リウマチ因子RF…………… 内田 直史,他:臨床検査31 (6) : 603 ~ 609, 1987.  
 IgG型リウマチ因子…………… 栗原 夕子,他:リウマチ科 22 (5) : 449 ~ 510, 1999.  
 抗シトルリン化ペプチド抗体(抗CCP抗体)…………… 抗CCP抗体測定キット(ARCHITECTAnti-ccp)の臨床的評価:医学と薬学別刷Vol. 64 No5, 2010.  
 寒冷凝集反応…………… 臨床検査23 : 389, 1979.  
 抗核抗体…………… 臨床検査30 : 711, 1986.  
 抗DNA抗体[RIA]…………… 鈴木 王洋,他:臨床免疫 25 (8) : 1096 ~ 1102, 1993.  
 抗ds-DNAIgG抗体…………… 陣内 記代,他:日本臨床検査自動化学会誌 26 (6) : 747 ~ 753, 2001.  
 抗ds-DNAIgM抗体…………… 山下雅樹,他:医学と薬学 58 (5) : 763 ~ 767, 2007.  
 抗ss-DNAIgG抗体…………… 陣内 記代,他:日本臨床検査自動化学会誌 26 (6) : 747 ~ 753, 2001.  
 抗ss-DNAIgM抗体…………… 山下雅樹,他:医学と薬学 58 (5) : 763 ~ 767, 2007.  
 デスモグレイン1抗体…………… 黒田 慶子,他:医学と薬学 49 (1) : 108 ~ 116, 2003.  
 デスモグレイン3抗体…………… 黒田 慶子,他:医学と薬学 49 (1) : 108 ~ 116, 2003.  
 抗BP180抗体…………… 黒田 慶子,他:医学と薬学 57 (5) : 751 ~ 757, 2007.  
 マイクロゾームテスト…………… ホルモンと臨床34 : 963, 1986.  
 サイロイドテスト…………… ホルモンと臨床34 : 963, 1986.  
 抗RNP抗体[オクタロニー法]…………… 金井 正光,他:臨床検査法提要 第30版 (金原出版) : 973 ~ 975, 1993.  
 [ELISA法]…………… 西山 進,他:医学と薬学 68 (2) : 345 ~ 355, 2012.  
 抗Sm抗体[オクタロニー法]…………… 金井 正光,他:臨床検査法提要 第30版 (金原出版) : 973 ~ 975, 1993.  
 抗Sm抗体[ELISA法]…………… 西山 進,他:医学と薬学 68 (2) : 345 ~ 355, 2012.  
 抗SS-A/Ro抗体[オクタロニー法]…………… 金井 正光,他:臨床検査法提要 第30版 (金原出版) : 973 ~ 975, 1993.  
 抗SS-A/Ro抗体[ELISA法]…………… 西山 進,他:医学と薬学 68 (2) : 345 ~ 355, 2012.  
 抗SS-B/La抗体[オクタロニー法]…………… 金井 正光,他:臨床検査法提要 第30版 (金原出版) : 973 ~ 975, 1993.  
 抗SS-B/La抗体[ELISA法]…………… 西山 進,他:医学と薬学 68 (2) : 345 ~ 355, 2012.  
 抗Scl-70抗体[オクタロニー法]…………… 金井 正光,他:臨床検査法提要 第30版 (金原出版) : 973 ~ 975, 1993.  
 抗Scl-70抗体[ELISA法]…………… 松下 雅和,他:医学と薬学 70 (1) : 109 ~ 117, 2013.  
 抗セントロメア抗体…………… 宮脇 昌二,他:医学と薬学 45 (1) : 129 ~ 135, 2001.  
 抗JO-1抗体[オクタロニー法]…………… 西海 正彦:臨床検査機器・試薬 13 (4) : 835 ~ 838, 1990.  
 抗JO-1抗体[ELISA法]…………… 松下 雅和,他:医学と薬学 70 (1) : 109 ~ 117, 2013.  
 抗ミトコンドリア抗体…………… 山内 進,他:臨床免疫 7 (7) : 825 ~ 830, 1975.

抗ミトコンドリアM2抗体 ..... 丹野 瑞木, 他: 医学と薬学67(3): 485 ~ 495, 2012.

抗平滑筋抗体 ..... 山内 進: 臨床免疫 7(7): 825 ~ 830, 1975.

抗胃壁細胞抗体 ..... 山内 進: 衛生検査 22(12): 1085 ~ 1089, 1973.

インスリン抗体 ..... 内湯 安子, 他: 医学と薬学 65(4): 525 ~ 530, 2011.

抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体 ..... 森田 新二, 他: 医学と薬学 55(5): 775 ~ 782, 2006.

抗糸球体基底膜抗体 (抗GBM抗体) ..... 長澤 俊彦, 他: 臨床検査機器・試薬 20(3): 367 ~ 374, 1997.

抗サイログロブリン抗体 ..... 森田 新二, 他: 医学と薬学 55(5): 775 ~ 782, 2006.

TSHレセプター抗体 (TRAb) (TBII) ..... 吉村 弘, 他: 医学と薬学 59(6): 1111 ~ 1120, 2008.

TSH刺激性レセプター抗体 (TSAb) ..... 長田 篤雄, 他: ホルモンと臨床 41(10): 1023 ~ 1030, 1993.

抗アセチルコリン受容体結合抗体 ..... 太田 光昭, 他: ホルモンと臨床 48(1): 89 ~ 93, 2000.

ミエリン塩基性蛋白 (MBP) ..... Ohta M et al: Clinical Chemistry 46(9): 1326 ~ 1330, 2000.

免疫複合体 (C1q) ..... 中村 敏男, 他: 臨床免疫 14(S5): 92 ~ 100, 1982.

免疫複合体 (モノクローナルRF) ..... 森 勝志, 他: 医学と薬学 27-2-347 ~ 354 1992

抗カルシオリピン-β2 GPI複合体抗体 ..... 野島 順三, 他: 医学と薬学 32(6): 1315 ~ 1320, 1994.

抗カルシオリピン抗体IgG ..... 岡田 純, 他: 医学と薬学 36(6): 1389 ~ 1394, 1996.

抗好中球細胞質抗体 (PR3-ANCA) ..... 梅景 資子, 他: 臨床検査機器・試薬 22(6): 523 ~ 529, 1999.

抗LKM-1抗体 ..... 竹村 真理, 他: 医学と薬学 46(1): 109 ~ 114, 2001.

抗好中球細胞質抗体 (MPO-ANCA) ..... 有村 義宏, 他: 臨床病理 49(6): 571 ~ 574, 2001.

抗GAD抗体 ..... 及川 洋一, 他: 医学と薬学 72(9): 1551 ~ 1560, 2015.

抗IA-2抗体 ..... 川崎 英二, 他: 医学と薬学 66(2): 345 ~ 352, 2011.

抗ガラクトース欠損IgG抗体 ..... 平山吉朗, 他: 医学と薬学42(5): 817~828, 1999.

MMP-3(マトリックスメタロプロテイナーゼ3) ..... 横内敬二, 他: 新薬と臨床50: 215-221, 2001.

ループス抗凝固因子 (ループスアンチコアグラント) ..... 佐藤 久美子, 他: 臨床病理 43(3): 263 ~ 268, 1995.

抗MDA5抗体 ..... \*臨床検査 アップデート14.(9).モダンメディア 63, 4, 2017

抗Mi-2抗体 ..... \*臨床検査 アップデート14.(9).モダンメディア 63, 4, 2017

抗TIF1-γ抗体 ..... \*臨床検査 アップデート14.(9).モダンメディア 63, 4, 2017

抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体 ..... 本村 政勝, 他: 医学と薬学 70(2): 421 ~ 428, 2013.

抗アクアポリン4抗体 ..... 高橋 利幸, 他: 医学と薬学73(10):1297 ~ 1300, 2016.

抗ARS抗体 ..... 山田 祐介, 他: リウマチ科 45(2): 133 ~ 138, 2011.

抗ストレプトリジン-O ..... 機器・試薬10: 544, 1987.

抗ストレプトキナーゼ ..... 機器・試薬7: 417, 1984.

抗百日咳菌抗体 ..... 芦原 義守, 他: Medical Technology 6(1): 39 ~ 44, 1978.

百日咳抗体IgA ..... \*小児呼吸器感染症診療ガイドライン作成委員会:  
小児呼吸器感染症診療ガイドライン2017(協和企画):236 ~ 240, 2016.

百日咳抗体IgM ..... \*小児呼吸器感染症診療ガイドライン作成委員会:  
小児呼吸器感染症診療ガイドライン2017(協和企画):236 ~ 240, 2016.

百日咳菌DNA ..... Kamachi K, et al: J Clin Microbiol 44(5): 1899 ~ 1902, 2006.

トキソプラズマIgG抗体 [ELISA法] ..... 亀井 喜世子, 他: 臨床病理 42(7): 743 ~ 747, 1994.

トキソプラズマIgM抗体 [ELISA法] ..... 亀井 喜世子, 他: 臨床病理 42(7): 743 ~ 747, 1994.

マイコプラズマ抗体 [PA法] ..... 中井 利昭: 検査値のみかた 中外医学社: 628 ~ 630.

マイコプラズマ抗体 [CF法] ..... 北村 元仕, 他: 臨床検査マニュアル (文光堂): 880 ~ 886, 1988.

ヘリコバクター・ピロリ抗体 ..... 菊地 正悟, 他: 医学と薬学 43(3): 581 ~ 586, 2000.

クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原 ..... 篠田 孝子, 他: 真菌と真菌症 30(3): 211 ~ 221, 1989.

アスペルギルス抗原 ..... 見手倉 久治, 他: 医学と薬学 42(1): 207 ~ 212, 1999.

アスペルギルス抗体 ..... 浜本 恒男: 臨床と微生物 15(3): 352 ~ 356, 1988.

カンジダ抗原 ..... 機器・試薬10: 1183, 1987.

(1→3)-β-D-グルカン ..... 吉田 耕一郎, 他: 感染症学雑誌 79(7): 433 ~ 442, 2005.

クラミドフィラニューモニエIgG ..... 松本 明: 第22回日本臨床微生物学会総会 ワークショップ1

クラミドフィラニューモニエIgA ..... 松本 明: 第22回日本臨床微生物学会総会ワークショップ1

クラミドフィラニューモニエIgM ..... 宮下修行, 他: 小児科診療 71(1): 95 ~ 99, 2008.

クラミジアトラコマチス核酸同定 (PCR) ..... 態本悦明, 他: 医学と薬学66(6): 1007 ~ 1014, 2011.

淋菌核酸同定 (PCR) ..... 態本悦明, 他: 医学と薬学66(6): 1007 ~ 1014, 2011.

淋菌・クラミジアトラコマチス核酸同時同定 ..... 態本悦明, 他: 医学と薬学66(6): 1007 ~ 1014, 2011.

単純ヘルペスウイルス特異抗原 ..... 川名 尚, 他: 感染症学雑誌 61(9): 1030 ~ 1037, 1987.

HTLV-I 抗体 (ATLA) [PA] ..... 臨床免疫18: 837, 1986.

[CLEIA] ..... 堀江 昭伸, 他: 医学と薬学 31(2): 367 ~ 374, 1994.

HIV-1 RNA定量 (TaqMan PCR) ..... D.Sizmann, et al: Journal of Clinical Virology 49: 41 ~ 46, 2010.

HIV抗原・抗体 ..... 新田幸一, 他: 医学と薬学57(2): 231 ~ 237, 2007.

トリコスポロン・アサヒ抗体 ..... 三宅 修司, 他: 日本呼吸器学会誌 39(1): 7 ~ 11, 2001.

A群β溶連菌迅速試験 ..... ラビットテスタ®ストレプトA添付文書2018年6月改訂(第8版)

クロストリジウムディフィシル抗原 ..... 蔵田 訓, 他: 臨床と微生物37(5): 465 ~ 470, 2010.

糞便中アデノウイルス抗原 ..... ディップスティック「栄研」アデノ添付文書2009年8月改訂(第8版)

大腸菌O157抗原 ..... 大腸菌O157抗原キット キャピリア®O157添付文書2015年12月改訂(第8版)

クォンティフェロン ..... Kekkaku, vol. 79 No.11 637 ~ 643(2004).

梅毒定性・定量 [RPR法] ..... 福岡良男, 他: 臨床免疫学(新編臨床検査講座23), 388, 医歯薬出版, 1990.

[TPHA] ..... 新編臨床検査講座23(臨床免疫): 433, 医歯薬出版, 1987.

梅毒定性 [TP抗体] ..... 医学と薬学53巻5号 2005年5月 649 ~ 654

FTA-ABS ..... 山屋駿一: 微生物検査必携 細菌・真菌検査第3版: H83 ~ H91, 1995.

IgM FTA-ABS ..... 山屋駿一: 微生物検査必携 細菌・真菌検査第3版: H83 ~ H91, 1995.

血液型 [ABO式] ..... 新輸血検査の実際: 日臨技, 2008.

[Rh(D) 因子] ..... 新輸血検査の実際: 日臨技, 2008.

[Rh-Hr式] ..... 長田 広司: 医薬ジャーナル 32(S1): 215 ~ 219, 1996.

血液型不適合妊娠…………… 支倉 逸人：日本臨床 26(2)：262～272, 1968.

直接クームス試験定性…………… 石田萌子,他：機器・試薬20, 863, 1997.

間接クームス試験定性…………… 浅井隆善：医学のあゆみ167(9)：700, 1993.

不規則性抗体…………… 浅井隆善：医学のあゆみ167(9)：700, 1993.

抗血小板抗体…………… 柴田 洋一：輸血学 (中外医学社)：457～470, 1978.

HBs抗原 [MAT]…………… 臨床検査機器・試薬 第18巻 第3号：1995, 553-558.

    [CLIA]…………… 櫻井慶造,他：医学と薬学47(3):501～509, 2002.

HBs抗体 [PHA]…………… 基礎と臨床, 29(17):4545～4550, 1995.

    [CLIA]…………… 藤原拓樹,他：医学と薬学42(4):623～627, 1999.

HBe抗原 [CLIA]…………… 宮川正明,他：医学と薬学52(4):621～628, 2004.

HBe抗体 [CLIA]…………… 宮川正明,他：医学と薬学52(4):621～628, 2004.

HBc抗体 [PHA]…………… 森藤 隆夫,他：臨床病理 特(67)：101～108, 1986.

    [CLIA]…………… 飯田健一,他：Prog.Med22:1037～1046, 2002.

IgM-HBc抗体…………… 中尾瑠美子,他：医学と薬学52(5):847～858, 2004.

HBcrAg(B型肝炎ウイルスコア関連抗原)…………… 田中 靖人：臨床病理 54(7)：692～698, 2006

HCV抗体-II…………… 山口芳子,他：臨床検査機器・試薬17(6)：1161～1166, 1994.

高感度HCVコア抗原…………… 熊田博光, 清澤研道,他：消化器科 第45巻4号 別刷：454～466, 2007.

HCVセロタイプ(群別)…………… 青木 芳和,他：臨床検査機器・試薬 17(3)：601～608, 1994.

HCV核酸定量検査(HCV-RNA定量：TaqMan PCR)…………… 熊田博光, 他：医学と薬学58(4)：595～605, 2007.

HCV RNAコアジェノタイプ…………… Ohno T et al：Journal of Clinical Microbiology 35(1)：201～207, 1997.

IgA-HEV抗体定性…………… 飯野四郎,他：医学と薬学 53(4)：461-469, 2005

HBVゲノタイプ…………… 田中 靖人,他：臨床病理 57(1)：42～47, 2009.

C反応性蛋白(CRP)…………… 検査と技術13：989, 1985.

血清補体価…………… 臨床検査としての補体価測定法, 1984. 医学と薬学 67巻2号・2012年2月 67(2)：291-295, 2012.

C1q…………… 櫻林 郁之介,他：臨床病理 特(53)：71～81, 1983.

C3…………… 検査と技術12：510, 1984. 臨床病理(特集101号)：102, 1996.

C4…………… 検査と技術12：510, 1984. 臨床病理(特集101号)：102, 1996.

C1インアクチベーター活性…………… Dick W et al：Immun Infekt 13：113～118, 1985.

IgG…………… 自動化学誌10(Supple)：236, 1985. 臨床病理(特集101号)：102, 1996.

IgA…………… 自動化学誌10(Supple)：236, 1985. 臨床病理(特集101号)：102, 1996.

IgM…………… 自動化学誌10(Supple)：236, 1985. 臨床病理(特集101号)：102, 1996.

IgG4…………… 松木友里：医学と薬学75(7)：849～858, 2018.

レチノール結合蛋白(RBP)…………… 古田島 伸雄,他：日本臨床検査自動化学会誌 32(1)：84～88, 2007.

アポリポ蛋白…………… 衛生検査33：453, 1984.

トランスフェリン…………… 血漿蛋白の分析とその臨床応用：43, ヘキスト.

プレアルブミン…………… 古田島 伸雄,他：日本臨床検査自動化学会誌 32(1)：84～88, 2007.

$\beta$ 2-マイクログロブリン…………… 金沢医大誌6：71, 1981.

$\alpha$ 1酸性糖蛋白( $\alpha$ 1AG)…………… 櫻林 郁之介,他：臨床病理 特(53)：71～81, 1983.

血清アミロイドA蛋白(SAA)…………… 永徳 広美,他：生物物理化学 37(1)：19～23, 1993.

ハプトグロビン(Hp) (型判定)…………… 大城孟：臨床検査 26, 764, 1982.

    [判定なし]…………… 大城孟：臨床検査 26, 764, 1982.

クリオグロブリン定性…………… 日本臨床43(秋季増刊)：141, 1985.

パイログロブリン…………… 臨床検査法提要34版：781, 金原出版, 2015.

免疫電気泳動…………… 大谷 英樹,他：日常検査法シリーズ11 免疫電気泳動 2版：8～26, 1977.

フリーライトチェーン(免疫グロブリン遊離L鎖 $\kappa$ / $\lambda$ 比)…………… 伊藤早織, 他：医学と薬学64(1):111～117, 2010.

非特異IgE…………… 黒木辰雄, 他：医学検査49(9)：1317～1322, 2000.

MAST48mix…………… 中川武正, 他：アレルギーの臨床26(3)：238～242, 2006.

    岩崎栄作, 他：日本小児アレルギー学会誌4(1)：87～95, 1990.

    黒木辰雄, 他：医学検査49(9)：1317～1322, 2000.

    奥田 勲, 他：医学検査 46(10)：1525～1530, 1997.

    奥田 勲, 他：医学検査 46-10-1525～1530 1997

    奥田 勲, 他：医学検査 46(10)：1525～1530, 1997.

    林 悟,他：臨床病理 32(11)：1253～1257, 1984.

    石田 俊雄,他：医学と薬学 58(6)：901～907, 2007.

**〈ウイルス関連検査〉**

ウイルス抗体価(HI法)

    風疹…………… 芦原義守：血清学的検査法, 臨床とウイルス, 1975 別冊, 77(1975).

    麻疹…………… 国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：214～225, 1973.

    ムンプス…………… 国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：214～225, 1973.

    日本脳炎…………… 国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：214～225, 1973.

    インフルエンザ…………… 厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第2分冊：81～97, 1987.

    パラインフルエンザ…………… 国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.

    エコー…………… 国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：214～225, 1973.

ウイルス抗体価(CF法)

    ムンプス…………… 北村 元仕,他：臨床検査マニュアル (文光堂)：880～886, 1988.

    インフルエンザ…………… 北村 元仕,他：臨床検査マニュアル (文光堂)：880～886, 1988.

    単純ヘルペス…………… 北村 元仕,他：臨床検査マニュアル (文光堂)：880～886, 1988.

    水痘・帯状疱疹…………… 北村 元仕,他：臨床検査マニュアル (文光堂)：880～886, 1988.

    日本脳炎…………… 北村 元仕,他：臨床検査マニュアル (文光堂)：880～886, 1988.

    RS…………… 北村 元仕,他：臨床検査マニュアル (文光堂)：880～886, 1988.

アデノ……………北村 元仕,他:臨床検査マニュアル (文光堂):880~886,1988.

コクサッキー A群……………北村 元仕,他:臨床検査マニュアル (文光堂):880~886,1988.

コクサッキー B群……………北村 元仕,他:臨床検査マニュアル (文光堂):880~886,1988.

オーム病(クラミドフィラシタシ)……………北村 元仕,他:臨床検査マニュアル (文光堂):880~886,1988.

サイトメガロ……………北村 元仕,他:臨床検査マニュアル (文光堂):880~886,1988.

ウイルス抗体価(FA法)

EB抗VCA IgG……………日沼 頼夫,他:臨床病理 特(35):179~189,1978.

EB抗VCA IgA……………日沼 頼夫,他:臨床病理 特(35):179~189,1978.

EB抗VCA IgM……………日沼 頼夫,他:臨床病理 特(35):179~189,1978.

EB抗EB NA……………日沼 頼夫,他:臨床病理 特(35):179~189,1978.

EB抗EB NA-IgG……………脇口 宏,他:医学と薬学 58(2):363~369,2007.

EB抗EA-IgG……………脇口 宏,他:医学と薬学 58(2):363~369,2007.

EB抗EA-DR IgG……………日沼 頼夫,他:臨床病理 特(35):179~189,1978.

EB抗EA-DR IgA……………日沼 頼夫,他:臨床病理 特(35):179~189,1978.

EB抗EA-DR IgM……………日沼 頼夫,他:臨床病理 特(35):179~189,1978.

ウイルス抗体価(NT法)

アデノ……………国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学 総論 2版 (丸善):260~274,1973.

麻疹……………国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学 総論 2版 (丸善):260~274,1973.

ムンプス……………国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学 総論 2版 (丸善):260~274,1973.

単純ヘルペス……………国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学 総論 2版 (丸善):260~274,1973.

RS……………国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学 総論 2版 (丸善):260~274,1973.

コクサッキー A群……………国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学 総論 2版 (丸善):260~274,1973.

コクサッキーウイルス A群5型……………国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学 総論 2版 (丸善):260~274,1973.

コクサッキー B群……………国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学 総論 2版 (丸善):260~274,1973.

エコー……………国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学 総論 2版 (丸善):260~274,1973.

エンテロ70型……………国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学 総論 2版 (丸善):260~274,1973.

エンテロ71型……………国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学 総論 2版 (丸善):260~274,1973.

ウイルス抗体価(EIA法)

ムンプス IgM……………厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊:48~61,1987.

ムンプス IgG……………厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊:48~61,1987.

麻疹 IgM……………厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊:48~61,1987.

麻疹 IgG……………厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊:48~61,1987.

風疹 IgM……………厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊:48~61,1987.

風疹 IgG……………厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊:48~61,1987.

単純ヘルペス IgM……………厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊:48~61,1987.

単純ヘルペス IgG……………厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊:48~61,1987.

水痘・帯状ヘルペス IgM……………厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊:48~61,1987.

水痘・帯状ヘルペス IgG……………厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊:48~61,1987.

サイトメガロ IgM……………厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊:48~61,1987.

サイトメガロ IgG……………厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊:48~61,1988.

ヒトパルボウイルスB19……………要藤 裕孝,他:感染症学雑誌 69(10):1135~1140,1995.

ウイルス分離……………Hsiung GD: Diagnostic Virology An Illustrated Handbook :3~20,1973.

ウイルス同定……………Hsiung GD: Diagnostic Virology An Illustrated Handbook :3~20,1973.

ヒトパピローマウイルスDNA(ハイリスクグループ)……………Clavel Cet al:Diagnostic Molecular Pathology 9(3):145~150,2000.

ヒトパピローマウイルスDNA(ローリスクグループ)……………Clavel Cet al:Diagnostic Molecular Pathology 9(3):145~150,2000.

ヒトパピローマウイルス(HPV)ジェノタイプ判定……………尾崎 聡,他:臨床病理60(7):621~626,2012.

**〈細胞性免疫検査〉**

T細胞・B細胞百分率……………Wauwe JV et al: Immunology 44:865~871,1981.

IgG-FcR<sup>+</sup>・T細胞百分率……………Perussia B et al: The Journal of Immunology 130(5):2133~2141,1983.

B細胞表面免疫グロブリン……………Ip SH et al: Clinical Chemistry 28(9):1905~1909,1982.

リンパ球幼若化試験……………笠原 忠,他:臨床検査 23(7):660~667,1979.

薬剤によるリンパ球刺激試験……………北見 啓之,他:臨床免疫 15(9):727~736,1983.

NK細胞活性……………康 浩一,他: Medical Technology 21(7):574~580,1993.

モノクローナル抗体によるリンパ球検査……………Ip SH et al: Clinical Chemistry 28(9):1905~1909,1982.

白血球・リンパ腫解析検査(LLA)……………Borowitz MJ et al: American Journal of Clinical Pathology 100:534~540,1993.

悪性リンパ腫解析(MLA)……………Borowitz MJ et al: American Journal of Clinical Pathology 100:534~540,1993.

悪性リンパ腫 7AAD解析……………HASSERT J, ET AL: CYTOMETRY 22:264~281,1995.

CD38マルチ解析……………HASSERT J, ET AL: CYTOMETRY 22:264~281,1995.

**〈血液学検査〉**

末梢血液一般……………小笠原 由佳,他:医学と薬学 58:769~775,2007.

全血比重……………検査と技術14:193,1986.

網状赤血球数……………小笠原 由佳,他:医学と薬学 58:769~775,2007.

# 検査方法参考文献

好酸球数…………… ウイリアムズ血液学, 臨床血液全書, 血液病アトラス, 血液細胞アトラス  
 血液像…………… 小笠原 由佳,他:医学と薬学 58:769~775,2007.  
 赤血球沈降速度…………… 臨床検査法提要34版:349,金原出版,2015.  
 ALP染色…………… 染色法のすべて:132,医歯薬出版,1980.  
 PAS染色…………… 染色法のすべて:84,医歯薬出版,1980.  
 ベルオキシダーゼ染色…………… 染色法のすべて:138,医歯薬出版,1980.  
 鉄染色…………… 染色法のすべて:166,医歯薬出版,1980.  
 エステラーゼ染色…………… 染色法のすべて:134,医歯薬出版,1980.  
 ヘモグロビンA1C…………… グリコヘモグロビンと糖尿病:50,東洋書達工業,1985.  
 ヘモグロビンF…………… 松井昌彦,林長蔵:グリコヘモグロビンと糖尿病,p50-68,東洋書達工業,東京,1985.  
 血液浸透圧…………… 臨床検査24:13,1980.  
 骨髓像…………… 臨床検査法提要34版:279,金原出版,2015.  
 鼻汁好酸球…………… 医歯薬出版 Medical Technology 1981年12月臨時増刊(分泌液検査のすべて)P1175  
 プロトロンビン時間…………… 高宮 脩:臨床検査機器・試薬 17(6):1079~1085,1994.  
 活性化部分トロンボプラスチン時間…………… 日野 志郎:臨床検査講座15 血液学:244~250,1984.  
 トロンボテスト…………… 磯貝 広輝,他:医学と薬学 29:1019~1025,1993.  
 フィブリノーゲン定量(Fib)…………… 金井 正光,他:臨床検査法提要 第33版(金原出版):358~360,2010.  
 可溶性フィブリンモノマー複合体…………… Largo R et al: Blood 47(6):991~1002,1976.  
 フィブリンモノマー複合体定量…………… 内藤 澄悦,他:医学と薬学 48(4):595~599,2002.  
 FDP[血液]…………… 盛谷 亮介,他:医学と薬学 47:977~984,2002.  
 Dダイマー [ラテックス免疫比濁法]…………… 大平知沙子,他:医学と薬学56,95,2006.  
 $\alpha$ 2マクログロブリン…………… 櫻林 郁之介,他:臨床病理 特(53):71~81,1983.  
 $\alpha$ 1アンチトリプシン…………… 櫻林 郁之介,他:臨床病理 特(53):71~81,1983.  
 アンチトロンビンⅢ[合成基質法]…………… Med. Technol. 13:748,1985.  
 プラスミノゲン[合成基質法]…………… Med. Technol. 13:731,1985.  
 $\alpha$ 2プラスミンインヒビター [合成基質法]…………… Med. Technol. 13:753,1985.  
 トロンピンアンチトロンビンⅢ複合体…………… 田中 朝志,他:医学と薬学31(1):203~208,1994.  
 プロトロンビンフラグメントF1+2(F1+2)……………  
 $\alpha$ 2プラスミンインヒビタープラスミン複合体…………… 徐 吉夫,他:臨床検査機器・試薬 16(6):1107~1113,1993.  
 トータルPAI-1…………… 曾我部 万紀 他:医学のあゆみ 173-12-997~998 1995  
 プロテインC〔抗原量〕…………… 筒井 聡明,他:検査と技術 12(7):581~587,1984.  
 プロテインC活性…………… 高橋 芳右,他:血液と脈管 18(6):548~556,1987.  
 プロテインS…………… 鬼沢 実,他:臨床検査機器・試薬 15(2):166~171,1992.  
 プロテインS〔抗原量〕…………… 鬼沢実:臨床検査機器・試薬13(4):579~583,1990.  
 プロテインS活性…………… 鬼沢 実,他:臨床検査機器・試薬 15(2):166~171,1992.  
 凝固因子活性検査[第Ⅱ,第Ⅴ,第Ⅶ,第Ⅷ,第Ⅸ,第Ⅹ,第Ⅺ,第Ⅻ]…………… 安達 眞二:Medical Technology 24(6):629~633,1996.  
 凝固抑制因子検査[第Ⅶ,第Ⅸ]…………… Sirtidge MS et al: Laboratory Evaluation of Hemostasis and Thrombosis 3rd:196~198,1983.  
 フォン・ウィルブランド因子活性…………… Macfarlane DE et al: Thrombos Diathes Haemorth 34:306~308,1975.  
 フォン・ウィルブランド因子抗原定量…………… 高橋 幸博:日本臨床 53-増-100~104,1995.  
 $\beta$ -トロンボグロブリン…………… 高橋 芳右,他:血液と脈管 18(4):326~335,1987.  
 血小板第4因子…………… 高橋 芳右,他:血液と脈管 18(4):326~335,1987.

## 〈染色体・HLA 検査〉

先天異常染色体〔Gバンド分染法〕…………… Seabright M: The Lancet 2:971~972,1971.  
 先天異常染色体〔Qバンド分染法〕…………… Caspersson T et al: Hereditas 67:89~102,1971.  
 先天異常染色体〔Cバンド分染法〕…………… Sumner AT et al: Exp Cell Res 75:304~306,1972.  
 先天異常染色体〔高精度分染法〕…………… Ikeuchi T et al: Proc Japan Acad 55(1):15~18,1979.  
 血液疾患染色体〔Gバンド分染法〕…………… Seabright M: The Lancet 2:971~972,1971.  
 HLA 型判定 A,B Locus…………… 吉川枝里,他:MHC10,21,2003.  
 HLA 型判定 DR Locus…………… 吉川枝里,他:MHC10,21,2003.

## 〈薬物検査〉

フェノバルビタール…………… 新薬と臨床J. New Rem. and Clin. Vol.49 No1 2000. 医学と薬学 42巻 6号. 1999年12月  
 プリミドン…………… 宮本 侃治:臨床化学 6(3):202~211,1978.  
 フェニトイン…………… 新薬と臨床J. New Rem. and Clin. Vol.49 No1 2000. 医学と薬学 42巻 6号. 1999年12月  
 遊離フェニトイン…………… 木村 英樹 他:日本臨床検査自動化学会誌 33(5):860~864,2008.  
 カルバマゼピン…………… 新薬と臨床J. New Rem. and Clin. Vol.49 No1 2000. 医学と薬学 42巻 6号. 1999年12月  
 バルプロ酸ナトリウム…………… 新薬と臨床J. New Rem. and Clin. Vol.49 No1 2000. 医学と薬学 42巻 6号. 1999年12月  
 エトスクシミド…………… 宮本 侃治:臨床化学 6(3):202~211,1978.  
 トリメタジオン…………… 和田 豊治:てんかん薬剤治療の実際225~226,1971. 臨床てんかん学(金原出版):381~383,1972.  
 クロナゼパム…………… Heazewood RL et al: Journal of Chromatography 336:229~233,1984.  
 アセタゾラミド…………… Sadee W et al: ドラッグレベルモニタリング:90~91,1982.  
 ジアゼパム…………… Brodie RR et al: Journal of Chromatography 150:361~366,1978.  
 ニトラゼパム…………… Heazewood RL et al: Journal of Chromatography 336:229~233,1984.  
 ソニサミド…………… 野口 秀人,他:薬理と治療 16(12):4805~4811,1988.  
 クロバザム…………… Kunicki PK: Journal of Chromatography B 750:41~49,2001.  
 ガパベンチン…………… \*Tomson T, et al:Eur J Clin Pharmacol 55:697~705,2000  
 トピラマート…………… Matar, K M: Clinica Chimica Acta 411:729~734,2010.

ジゴキシン……………新薬と臨床J. New Rem. and Clin. Vol.49 No1 2000. 医学と薬学 42巻 6号. 1999年12月  
 テオフィリン……………新薬と臨床J. New Rem. and Clin. Vol.49 No1 2000. 医学と薬学 42巻 6号. 1999年12月  
 プロカインアミド……………木村 英樹,他:日本臨床検査自動化学会誌 33(5): 860 ~ 864, 2008.  
 シソピラミド……………扇谷 茂樹,他:臨床検査機器・試薬 6(2): 520 ~ 523, 1983.  
 ビルシカイニド……………上野 和行:Pharma Medica 11(4): 97 ~ 99, 1993.  
 リドカイン……………宮本 侃治:臨床化学 6(3): 202 ~ 211, 1978.  
 キニジン……………木村 英樹,他:日本臨床検査自動化学会誌 33(5): 860 ~ 864, 2008.  
 アプリンジン……………高田 充隆,他:病院薬学 14(4): 256 ~ 261, 1988.  
 メキシレチン……………坂本 伸哉,他:TDM研究 3(2): 126 ~ 128, 1986.  
 フレカイニド……………Piovan D et al : Pharmacological Research Communications 18(8): 739 ~ 745, 1986.  
 シベンソリン……………寺川 雅人,他:薬物動態 3(6): 761 ~ 771, 1988.  
 ビルメノール……………市川 林,他:臨床医薬 11(4): 903 ~ 906, 1995.  
 アミオダロン……………\*笠貫 宏: Cardiologist 3-9-566 ~ 571 1998  
 ペブリシル……………\*鎌倉 令 他: JPN. J. ELECTROCARDIOLOGY 31(2): 150 ~ 157, 2011.  
 ゲンタマイシン……………Jolley ME et al : Clinical Chemistry 27(7): 1190 ~ 1197, 1981.  
 トブラマイシン……………木村 英樹,他:日本臨床検査自動化学会誌 33(5): 860 ~ 864, 2008.  
 アミカシン……………木村 英樹,他:日本臨床検査自動化学会誌 33(5): 860 ~ 864, 2008.  
 アルベカシン……………久保 博昭,他:医学と薬学 19(6): 1545 ~ 1547, 1988.  
 パンコマイシン……………木村 英樹,他:日本臨床検査自動化学会誌 33(5): 860 ~ 864, 2008.  
 テイコブラニン……………松本 文夫,他:医学と薬学 38(3): 621 ~ 625, 1997.  
 ポリコナゾール……………\*Smith J et al : ANTIMICRO AGENT AND CHEMOTHERAPY 50(4): 1570 ~ 1572, 2006.  
 シクロスポリン……………古屋 実,他:医学と薬学70(5-6): 961 ~ 973, 2013.  
 タクロリムス……………古屋 実,他:医学と薬学70(5-6): 961 ~ 973, 2013.  
 ハロペリドール……………臨床医薬4: 639, 1988.  
 プロムペリドール……………白井 晶子,他:医学と薬学 50(1): 101 ~ 107, 2003.  
 リチウム……………日本臨床43(秋季増刊): 520, 1985.  
 アミトリプチリン……………奈女良昭,屋敷幹雄:薬物分析実践ハンドブック, p.222, じほう, 東京, 2002.  
 メトトレキサート……………宮崎 弘和,他:Therapeutic Research 2(1): 113 ~ 119, 1985.  
 サリチル酸……………木村 英樹,他:日本臨床検査自動化学会誌 33(5): 860 ~ 864, 2008.  
 アセトアミノフェン……………木村 英樹,他:日本臨床検査自動化学会誌 33(5): 860 ~ 864, 2008.  
 レドローパ……………守 和子:産業医学 17: 170 ~ 171, 1975.  
 バラコート……………日本法医学会:アルキルジピリジウム系農薬/HPLC. 薬物検査マニュアル1999年(日本法医学  
 会法医中毒学ワーキンググループ編), pp.64-65, 1999.  
 覚せい剤検査……………上館民夫,他:昭和59年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 No111,pp.1-16,1985.  
 プロパフェノン……………Steurer G et al : European Heart Journal 12: 526 ~ 532, 1991.

## 〈遺伝子関連検査〉

MajorBCR-ABL1mRNA/IS……………Hirohisa Nakamae, et al : International Journal of Hematology DOI 10.1007/s12185-015-1826-9, 2015.

## 〈尿・糞便検査〉

尿沈渣……………臨床検査法提要30版: 157, 金原出版, 1993.  
 日本臨床検査標準協議会誌 第15巻2号 2000  
 尿蛋白定性……………臨床検査法提要改訂34版: 133 ~ 135, 金原出版, 2015.  
 尿糖定性……………臨床検査法提要改訂34版: 139 ~ 140, 金原出版, 2015.  
 尿ウロビリノーゲン定性……………臨床検査法提要改訂34版: 146 ~ 147, 金原出版, 2015.  
 尿ビリルビン定性……………臨床検査法提要改訂34版: 144 ~ 145, 金原出版, 2015.  
 尿pH……………臨床検査法提要改訂34版: 128, 金原出版, 2015.  
 尿比重……………臨床検査法提要30版: 102, 金原出版, 1993.  
 尿潜血反応……………臨床検査法提要改訂34版: 156 ~ 159, 金原出版, 2015.  
 尿ケトン体……………臨床検査法提要改訂34版: 142 ~ 145, 金原出版, 2015.  
 尿蛋白定量……………臨床検査法提要改訂34版: 135 ~ 139, 金原出版, 2015.  
 尿糖定量……………臨床検査法提要改訂34版: 139 ~ 142, 金原出版, 2015.  
 尿中FDP……………堀内 伸純,他:臨床検査機器・試薬 14(2): 267 ~ 270, 1991.  
 尿浸透圧……………臨床検査24: 13, 1980.  
 尿中NAG……………臨床病理(特集第56号): 65, 1983.  
 ベンズジヨーンズ蛋白同定……………大谷 英樹,他:日常検査法シリーズ11 免疫電気泳動 2版: 8 ~ 26, 1977.  
 コプロポルフィリン定性……………臨床検査法提要改訂34版: 153 ~ 155, 金原出版, 2015.  
 コプロポルフィリン定量……………近藤 雅雄:日本臨床 53(6): 1377 ~ 1382, 1995.  
 ウロポルフィリン定量……………近藤 雅雄:日本臨床 53(6): 65 ~ 70, 1995.  
 尿中微量アルブミン……………医学と薬学15: 959, 1986.  
 尿中トランスフェリン……………齋藤 良一,他:日本臨床検査自動化学会誌JJCLA 25(5): 687 ~ 690, 2000.  
 尿中M型コラーゲン……………小幡 賢一,他:臨床検査機器・試薬 18(3): 439 ~ 444, 1995.  
 虫卵塗抹法……………臨床検査法提要改訂34版: 1168 ~ 1173, 金原出版, 2015.  
 虫卵集卵法……………臨床検査法提要改訂34版: 1168 ~ 1173, 金原出版, 2015.  
 糞便中ヒトヘモグロビン・トランスフェリン……………最新医学44: 2636, 1989.  
 糞便中ヒトヘモグロビン[L A]……………東医大誌: 46: 269, 1988.  
 L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)……………Diabetes Cave, volume 34: 691 ~ 696, March 2011.  
 便中カルプロテクチン……………\*Lobaton T, et al : Inflamm Bowel Dis 19(5): 1034 ~ 1042, 2013.  
 便中ヘリコバクターピロリ抗原(ヘリコ抗原)……………神谷 茂,他:感染症誌76: 378, 2002.  
 便原虫……………臨床検査法提要改訂34版: 1168 ~ 1173, 金原出版, 2015.

## 〈穿刺液・採取液検査〉

髄液 クロール……………臨床検査法提要34版：623, 金原出版, 2015  
 髄液一般検査……………臨床検査法提要30版：228, 金原出版, 1993.  
 髄液蛋白定量……………臨床検査法提要改訂34版：218～219, 金原出版, 2015.  
 髄液糖定量……………臨床検査法提要改訂34版：220～221, 金原出版, 2015.  
 胸水一般検査……………臨床検査法提要30版：211, 金原出版, 1993.  
 腹水一般検査……………臨床検査法提要30版：211, 金原出版, 1993.  
 穿刺液 蛋白定量……………臨床検査法提要34版：218～219, 金原出版, 2015  
 穿刺液 糖定量……………臨床検査法提要34版：220～221, 金原出版, 2015  
 関節液一般検査……………臨床検査法提要30版：220, 金原出版, 1993.  
 精液一般検査……………臨床検査法提要改訂34版：223～228, 金原出版, 2015.

## 〈産業医学関連検査〉

メチル馬尿酸……………産業医学31：9, 1989.  
 マンデル酸……………産業医学31：9, 1989.  
 馬尿酸……………産業医学31：9, 1989.  
 N-メチルホルムアミド……………Mraz J et al：Journal of Chromatography 414：399～404, 1987.  
 2,5-ヘキサジオン……………Iwata M et al：Int Arch Occup Environ Health 51：253～260, 1983.  
 トリクロル酢酸……………城山 康,他：松仁会医誌 25(2)：225～231, 1986.  
 総三塩化物……………城山 康,他：松仁会医誌 25(2)：225～231, 1986.  
 δアミノレブリン酸……………園藤 陽子,他：産業医学 35：126～127, 1993.  
 赤血球遊離プロトポルフィリン……………新沼 幸子,他：産業医学 23：254～259, 1981.

## 〈特殊分析〉

結石分析……………神 ちひろ,他：分析化学 53(7)：735～741, 2004.  
 アミノ酸分析 [39種類] ……Kazutaka Shimbo et al：Biomedical Chromatography 24：683～691,2010  
 アミノ酸分析 [9種類] ……Kazutaka Shimbo et al：Biomedical Chromatography 24：683～691,2010  
 γ-アミノ酪酸……………Fujiwara M et al:Analytical Biochemistry 166-72~78 1987  
 男性AICS (5種) ……\*Kazutaka Shimbo et al：Biomedical Chromatography 24：683～691,2010.  
 女性AICS (6種) ……\*Kazutaka Shimbo et al：Biomedical Chromatography 24：683～691,2010.  
 男性AIRS (8種) ……\*Kazutaka Shimbo et al：Biomedical Chromatography 24：683～691,2010.  
 女性AIRS (9種) ……\*Kazutaka Shimbo et al：Biomedical Chromatography 24：683～691,2010.  
 ハイドロキシプロリンー総……………鈴木 隆夫,他：日本臨床化学会年会記録 28：118～118, 1988.  
 総ホモシスティン……………Araki A et al：Journal of Chromatography 422-43～52 1987

## 〈骨塩定量検査〉

骨塩定量……………日本臨床：60巻 増刊号3(通巻798号)骨粗鬆症, 2002.  
 62巻 増刊号2(通巻840号)骨粗鬆症学, 312～315.

## 〈微生物学検査〉

細菌塗抹……………橋本 雅一,他：新編 臨床検査講座22 微生物学・臨床微生物学 1991年1月20日第2版 医歯薬出版 P20-P26  
 細菌培養同定検査……………小栗 豊子,他：臨床微生物検査ハンドブック第4版(三輪書店)：45～135,2011  
 嫌気性培養……………小栗 豊子,他：臨床微生物検査ハンドブック第4版(三輪書店)：174～184,2011.  
 下痢原性大腸菌(大腸菌血清型別) ……小栗 豊子,他：臨床微生物検査ハンドブック第4版(三輪書店)：55～59,2011.  
 大腸菌ベロトキシン検出検査(ベロ毒素 LA法) ……甲斐 明美,他：感染症学雑誌71(3)：248～253,1997.  
 細菌薬剤感受性検査……………本間 賢：臨床と微生物33(1)：3～9,2006.  
 金沢 裕：感受性ディスク法の基礎と臨床(一濃度法を中心として)：22～26,1994.  
 小栗 豊子,他：臨床微生物検査ハンドブック第4版(三輪書店)：213～215,1994.  
 ヘリコバクター……………ETEST APPLICATION SHEET EAS013 Helicobacter pylori 2009年9月  
 ヘリコバクター感受性検査……………松岡 喜美子：Medical Technology 23(7)：553～555,1995.  
 真菌塗抹……………阿部 美知子：Medical Technology 23(7)：571～578,1995.  
 真菌培養……………小栗 豊子,他：臨床微生物検査ハンドブック第4版(三輪書店)：282～285,2011  
 酵母様真菌薬剤感受性検査……………抗酸菌検査ガイド2016(日本結核病学会)：33～38,2016  
 抗酸菌塗抹(集菌・蛍光法) ……抗酸菌検査ガイド2016(日本結核病学会)：33～38,2016  
 抗酸菌塗抹(蛍光法) ……抗酸菌検査ガイド2016(日本結核病学会)：39～45,2016.  
 抗酸菌分離培養(小川法) ……抗酸菌検査ガイド2016(日本結核病学会)：39～45,2016.  
 抗酸菌液体培養(MGIT法) ……抗酸菌検査ガイド2016(日本結核病学会)：47～66,2016.  
 結核菌群(抗原)同定 ……抗酸菌検査ガイド2016(日本結核病学会)：47～66,2016.  
 抗酸菌薬剤感受性検査……………抗酸菌検査ガイド2016(日本結核病学会)：67～77,2016.  
 抗酸菌群核酸同定(DDH) ……抗酸菌検査ガイド2016(日本結核病学会)：47～66,2016.  
 結核菌群核酸同定(結核菌PCR) ……抗酸菌検査ガイド2016(日本結核病学会)：67～77,2016.  
 マイコバクテリウム アビウム・イントラセラー核酸同定(MAC-PCR) ……抗酸菌検査ガイド2016(日本結核病学会)：67～77,2016.  
 結核菌群核酸同定(結核菌LAMP) ……抗酸菌検査ガイド2016(日本結核病学会)：67～77,2016.  
 ノロウイルスRNA ……寺内 謙太 他：日本食品微生物学会雑誌2018年35巻4号P193-P198  
 A群β溶連菌迅速試験……………ラビッドテスタ® ストレップA 添付文書 2018年6月改訂(第8版)  
 クロストリジウム ディフィシル抗原……………蔵田 訓,他：臨床と微生物37(5)：465～470,2010.

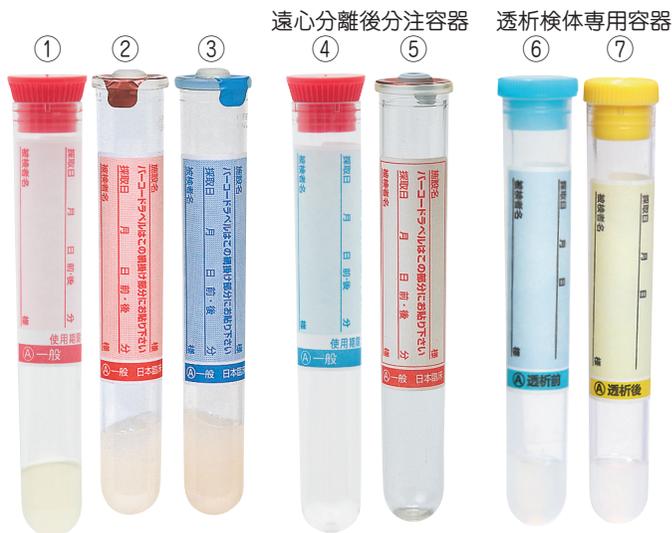
糞便中アデノウイルス抗原……………ディップスティック‘栄研’アデノ添付文書 2009年8月改訂(第3版)  
 大腸菌ペロトキシン検出検査(ペロ毒素 直接法 ELISA) ……渡辺 昌三 他：医学と薬学 39(2)：341-349,1998  
 大腸菌O157抗原 ……大腸菌O157抗原キット キャピリア<sup>®</sup>O157添付文書 2015年12改訂(第8版)  
 尿素呼吸試験-IR ……Ohara S, Kato M, Asaka M, et al：Studies of 13Cureabreath test for diagnosis of Helicobacter pylori infection in Japan. J Gastroenterol 1998；33：6-13

## 〈病理学検査〉

細胞診……………ベセスダシステム 2014 アトラス：丸善出版, 2016.  
 各種癌取り扱い規約：金原出版  
 細胞診ガイドライン：金原出版, 2015.  
 病理組織……………臨床検査講座(病理学)：医歯薬出版, 1974.  
 新染色法のすべて：医歯薬出版, 1999.  
 病理組織標本作製……………臨床検査講座(病理学)：医歯薬出版, 1974.  
 新染色法のすべて：医歯薬出版, 1999.  
 エストロゲンレセプター (IHC) ……Layfield LJ et al：Journal of Surgical Oncology 61：177～184, 1996.  
 プロゲステロンレセプター (IHC) ……Layfield LJ et al：Journal of Surgical Oncology 61：177～184, 1996.  
 乳癌HER2 タンパク (IHC) ……HER2検査ガイド乳癌編[第四版]：乳がんHER2検査病理部会作成 2014年4月  
 乳癌HER2 遺伝子 [FISH 法] ……Persons DL et al：Annals of Clinical Laboratory Science 30(1)：40～48, 2000.  
 胃癌HER2 タンパク (IHC) ……胃癌におけるHER2病理組織標本作製および病理診断のガイドライン・2015年4月13日改訂  
 胃癌HER2 遺伝子 [FISH 法] ……Persons DL et al：Ann ClinLab Sci 30(1)：41～48, 2000.  
 肺癌ALK遺伝子 (FISH)……………Scott J, Rodig et al.：CLINICAL CANCER RESEARCH 15(16)：5216～5223,2009  
 肺癌 PD-L1 タンパク (IHC)22C3 ……名倉 宏, 他：渡辺・中根 酵素抗体法 改訂四版(学際企画)：147～150, 2002.  
 肺癌 PD-L1 タンパク (IHC)28-8……………名倉 宏, 他：渡辺・中根 酵素抗体法 改訂四版(学際企画)：147～150, 2002.  
 EGFR変異解析v2.0……………Benlloch S et al：PLoS One 9(2)：e89518, 2014.  
 RAS・BRAF 遺伝子変異解析 ……Bando H et al.：BMC Cancer, 13：405, 2013.  
 免疫染色抗体一覧……………病理と臨床, Vol.25 臨時増刊号：診断に役立つ免疫組織化学 2007年3月

容器一覽

A 一般容器



分離剤入 (全血用)

(透析前) (透析後)

- [保存方法]  
①~⑦室温
- [有効期限] [採取量]
- |     |       |
|-----|-------|
| ①1年 | ①9mL  |
| ②1年 | ②9mL  |
| ③1年 | ③6mL  |
| ④1年 | ④10mL |
| ⑤2年 | ⑤10mL |
| ⑥1年 | ⑥9mL  |
| ⑦1年 | ⑦9mL  |
- [主な検査項目]
- 生化学検査一般
  - 血清学検査一般
  - 他

B 血糖容器 (フツ化Na入)



- [保存方法]
- ①室温
  - ②室温
  - ③室温
- [有効期限]
- ①1年
  - ②1年3ヶ月
  - ③2年
- [採取量]
- ①1.5mL
  - ②2mL
  - ③2mL
- [主な検査項目]
- 血糖
  - ヘモグロビンA1c

C 血球容器 (EDTA2K入)



- [保存方法]
- ①室温
  - ②室温
  - ③室温
- [有効期限]
- ①1年
  - ②1年3ヶ月
  - ③2年
- [採取量]
- ①2mL
  - ②2mL
  - ③2mL
- [主な検査項目]
- 血液一般検査

D アンモニア容器 (除蛋白液入)



除蛋白液4.0mL入

- [保存方法]
- 冷蔵
- [有効期限]
- 除蛋白液の有効期限に準ずる
- [採取量]
- 1mL
- [検査項目]
- 血中アンモニア
  - 尿中アンモニア

※D容器(除蛋白液4.0mL入)に血液もしくは尿1.0mLを注入混和し、遠心分離後上清2.5mLをWポリチューブで吸引しD容器(空)に入れ提出して下さい。

E 尿中FDP容器 (抗プラスミン剤入)



- [保存方法]
- 室温
- [有効期限]
- 2年
- [採取量]
- 2mL
- [検査項目]
- 尿中FDP

F 凝固容器 (クエン酸Na入)



- [保存方法]
- 室温
- [有効期限]
- 1年
- [採取量]
- 1.8mL
- [主な検査項目]
- PT
  - APTT
  - トロンボテスト
  - ヘパプラスチンテスト
  - フィブリノーゲン定量
  - アンチトロンビンⅢ
  - プラスミノーゲン
  - α<sub>2</sub>-PI
  - TAT
  - PIC
  - プロテインC
  - 凝固因子活性
  - 凝固抑制因子
  - フォン・ウィルブラント因子活性
  - C<sub>i</sub>インアクチベータ活性
  - Dタイマー
  - FDP(血中)

他

G

## EDTA2Na入容器



5mL

7mL

他

- [保存方法]  
●室温  
[有効期限]  
●2年  
[採取量]  
●5mL  
●7mL  
[主な検査項目]  
●ACTH  
●サイクリックAMP  
●サイクリックGMP  
●血中カテコールアミン  
●ドーパミン  
●レニン活性  
●アンギオテンシンI, II  
●HLA A,B Locus  
●HLA DR Locus  
●交差適合試験  
(クロスマッチ)  
●アミノ酸分画

H3

## 保存液入容器



- [保存方法]  
●凍結  
[有効期限]  
●色が薄いピンクの状態で使用して下さい。(凍結時は淡黄色ですが解凍すると薄いピンク色に戻ります。)  
[採取量]  
●1mL  
[主な検査項目]  
●血液疾患染色体  
(骨髓液)

I1

## EDTA2Naアプロチニン入容器



- [保存方法]  
●室温  
[有効期限]  
●2年  
[主な検査項目]  
●HANP  
●PTHrP (副甲状腺ホルモン関連蛋白intact)  
●グルカゴン (IRG)

12

## 尿中IV型コラーゲン専用採取キット



- [保存方法]  
●室温  
[有効期限]  
●2年  
[採取量]  
●5mL  
[主な検査項目]  
●尿中IV型コラーゲン

13

## テオフィリン入容器



- [保存方法]  
●冷蔵・遮光  
[有効期限]  
●1年  
[採取量]  
●2.7mL  
[主な検査項目]  
●β-トロンボグロブリン  
●血小板第4因子

14

## シクロスポリン・タクロリムス専用容器



- [保存方法]  
●室温  
[有効期限]  
●1年  
[採取量]  
●2mL  
[検査項目]  
●セロトニン  
●シクロスポリン  
●タクロリムス  
●ビタミンB<sub>1</sub>  
●ビタミンB<sub>2</sub>

15

## アルミニウム専用容器



- [保存方法]  
●室温  
[有効期限]  
●1年  
[採取量]  
●3mL  
[主な検査項目]  
●アルミニウム (Al)  
●ニッケル (Ni)

16

## エンドトキシン専用容器



- [保存方法]  
●室温  
[有効期限]  
●1年  
[採取量]  
●2mL  
[検査項目]  
●エンドトキシン  
●(1→3)-β-D-グルカン

17

## ミオグロビン (尿) 専用容器



- [保存方法]  
●室温  
[有効期限]  
●2年  
[採取量]  
●10mL  
[主な検査項目]  
●ミオグロビン (尿)

# 容器一覽

## 19 特殊専用容器



- 【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●1年  
(アルミシート開封後1ヶ月)  
【採取量】  
●7.5mL  
【主な検査項目】  
●PAIgG  
(血小板関連IgG)

## 1b 保存液入容器



- 【保存方法】  
●冷蔵  
【有効期限】  
●1年  
(アルミシート開封後1ヶ月)  
【容量】  
●5mL  
【主な検査項目】  
●NK細胞活性

## 1d 尿中核マトリックスプロテイン22専用容器



- 【保存方法】  
●室温・遮光  
【有効期限】  
●2年6ヶ月  
【採取量】  
●5mL  
【主な検査項目】  
●尿中核マトリックスプロ  
テイン22

## 1e 乳酸・ピルビン酸専用容器



- 【保存方法】  
●冷蔵  
【有効期限】  
●1年  
【採取量】  
●1mL  
【主な検査項目】  
●乳酸  
●ピルビン酸

## 1f コプロポルフィリン専用容器



- 【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●18ヶ月  
(アルミシート開封後1ヶ月)  
【容量】  
●4mL  
【主な検査項目】  
●血中コプロポルフィリン  
●赤血球中遊離プロ  
トポルフィリン

## 1g ビタミンC専用容器



- 【保存方法】  
●冷蔵  
【有効期限】  
●1年  
【採取量】  
●0.5mL  
【主な検査項目】  
●ビタミンC

## 1h 透析液エンドトキシン容器



- 【保存方法】  
●冷蔵  
【有効期限】  
●—  
【採取量】  
●4mL  
【主な検査項目】  
●透析液中エンドトキシン

## 1j 遮光ポリスピッツ



- 【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●3年  
【容量】  
●10mL  
【主な検査項目】  
●ヘンショーンズ蛋白同定  
●δアミノレブリン酸  
●コプロポルフィリン定量  
●ウロポルフィリン定量

## 1k FBS PBS 硫酸カナマイシン容器



- 【保存方法】  
●凍結  
【有効期限】  
●1年  
【主な検査項目】  
●FBS PBS  
硫酸カナマイシン

**J 尿容器**



[保存方法]  
 ●室温  
 [有効期限]  
 ●—  
 [採取量]  
 ●10mL  
 [主な検査項目]  
 ●尿一般検査  
 ●尿化学検査  
 他

**K 便容器**



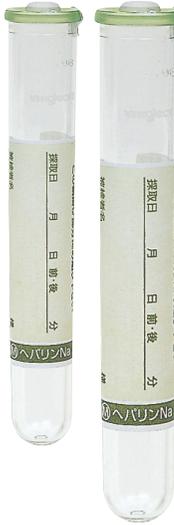
[保存方法]  
 ●室温  
 [有効期限]  
 ●—  
 [主な検査項目]  
 ●便一般検査  
 ●便細菌検査  
 ●便中ヘリコバクター  
 ピロリ抗原

**L 喀痰容器**



[保存方法] [主な検査項目]  
 ●室温 ●喀痰細菌検査  
 [有効期限] ●喀痰細胞診検査  
 ●— ●結核菌群核酸同  
 定検査  
 (結核菌PCR・  
 結核菌LAMP)  
 ●マイコバクテリウ  
 ムアピウム・イン  
 トラセルラー核  
 酸同定検査  
 (MAC-PCR)  
 ●マイコプラズマ  
 核酸同定

**M ヘパリンNa入容器**



[保存方法]  
 ●室温  
 [有効期限]  
 ●2年  
 [容量]  
 ●5mL  
 ●10mL  
 [主な検査項目]  
 ●総クロム  
 ●マンガン  
 ●水銀  
 ●カドミウム  
 ●鉛  
 ●エタノール  
 ●染色体検査  
 ●穿刺液一般検査  
 ●DLST  
 他

5mL 10mL

**N 尿容器 (蓄尿、遮光)**



[保存方法]  
 ●室温  
 [有効期限]  
 ●3年  
 [容量]  
 ●100mL  
 [主な検査項目]  
 ●尿中カテコールアミン  
 ●17-KGS  
 ●プレグナンジオール  
 ●プレグナントリオール  
 ●ポルフォピリノーゲン定量  
 他

**N3 金属分析専用容器**



[保存方法]  
 ●室温  
 [有効期限]  
 ●3年  
 [検査項目]  
 ●尿中铁 (Fe)  
 ●尿中クロム  
 ●尿中マンガン  
 ●尿中鉛  
 ●尿中水銀  
 ●尿中カドミウム  
 ●尿中亜鉛  
 ●尿銅

**O2 ウイルス遺伝子容器**



[保存方法]  
 ●室温  
 [有効期限]  
 ●1年  
 [採取量]  
 ●8mL  
 [主な検査項目]  
 ●HIV-1RNA定量

**P1 滅菌容器**



[保存方法]  
 ●室温  
 [有効期限]  
 ●1年  
 [採取量]  
 ●10mL  
 [主な検査項目]  
 ●細菌検査  
 ●髄液一般検査  
 ●胃液一般検査  
 ●十二指腸液一般検査  
 ●ピロリン酸Ca結晶  
 ●尿酸結晶

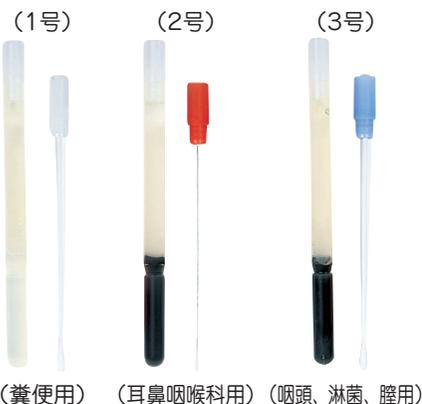
**P2 滅菌綿棒入容器**



[保存方法]  
 ●室温  
 [有効期限]  
 ●1年  
 [主な検査項目]  
 ●細菌検査

**P3 輸送用培地 スワブキット**

- 【保存方法】 ●室温  
【有効期限】 ●2年
- 【主な検査項目】 ●細菌検査



**P4 輸送用培地 嫌気ポーター**

- 【保存方法】 ●冷蔵  
【有効期限】 ●3年  
【主な検査項目】 ●細菌検査 (嫌気性菌用)



**P5 血液培養ボトル**

- 【保存方法】 ①～③室温  
【有効期限】 ①製造日から9ヶ月  
②製造日から9ヶ月  
③製造日から9ヶ月
- 【主な検査項目】 ●細菌検査 (血液)



**P6 呼気採取バッグ**

- 【保存方法】 ●室温  
【有効期限】 ●—  
【検査項目】 ●尿素呼気試験-IR



**P7 ヘリコポーター培地**

- 【保存方法】 ●4～9℃  
【有効期限】 ●4ヶ月  
【検査項目】 ●ヘリコバクター ●ヘリコバクター感受性



**P8 トリコモナスTNC培地**

- 【保存方法】 ●冷暗所4～10℃  
【有効期限】 ●8ヶ月  
【検査項目】 ●トリコモナス



**Q 3日(3回)連続喀痰細胞診容器**

- 【保存方法】 ●室温  
【有効期限】 ●1年
- 【検査項目】 ●喀痰細胞診検査



**Q2 YM式保存喀痰(蓄痰)細胞診容器**

- 【保存方法】 ●室温  
【有効期限】 ●1年  
【検査項目】 ●喀痰細胞診検査



**R 病理組織容器**

- 【保存方法】 ●室温  
【有効期限】 ●—  
【容量】 ●20mL ●50mL
- 【主な検査項目】 ●病理組織検査



## R2 細胞診LBC(SurePath)容器



- 【保存方法】  
●室温
- 【有効期限】  
●容器表示
- 【検査項目】  
●細胞診
- ヒトパピローマウイルス (16型、18型、その他 ハイリスクグループ)
- 単独または細胞診と同時検査は可能です。  
細胞診後の追加検査は出来ません。

## S3 単純ヘルペス特異抗原採取キット

- 【保存方法】  
●室温
- 【有効期限】  
●1年
- 【検査項目】  
●単純ヘルペスウイルス特異抗原



## S5 癌胎児性フィブロネクチン用容器

- 【保存方法】  
●室温
- 【有効期限】  
●1年
- 【主な検査項目】  
●頸管腔分泌液中癌胎児性フィブロネクチン



## S6 顆粒球エラストラーゼ用容器

- 【保存方法】  
●室温(抽出液は冷蔵)
- 【有効期限】  
●1年
- 【主な検査項目】  
●子宮頸管粘液中顆粒球エラストラーゼ



## S7 ヒトパピローマウイルスDNA専用容器

- 【保存方法】  
●室温
- 【有効期限】  
●3年
- 【検査項目】  
●ヒトパピローマウイルスDNA (ハイリスクグループ)
- ヒトパピローマウイルスDNA (ローリスクグループ)
- ※検体採取時に無理な力がかけられますと、綿棒が折れる可能性がありますので十分にご注意下さい。



## S8 ヒトパピローマウイルス(HPV)ジェノタイプ判定用容器 細胞診LBC(ThinPrep)容器

- 【保存方法】  
●室温
- 【有効期限】  
●容器表示
- 【検査項目】  
●ヒトパピローマウイルス (HPV) ジェノタイプ判定
- ヒトパピローマウイルス (16型・18型・その他 ハイリスクグループ)
  - 細胞診



## S9 淋菌・クラミジアトラコマチス核酸同定スワブ容器

- 【保存方法】  
●室温
- 【有効期限】  
●1年
- 【主な検査項目】  
●クラミジアトラコマチス核酸同定
- 淋菌核酸同定
  - 淋菌・クラミジアトラコマチス核酸同時同定



## Sa 淋菌・クラミジアトラコマチス核酸同定尿・うがい液容器

- 【保存方法】  
●室温
- 【有効期限】  
●1年
- 【主な検査項目】  
●クラミジアトラコマチス核酸同定
- 淋菌核酸同定
  - 淋菌・クラミジアトラコマチス核酸同時同定



## Se フロックスワブ

- 【保存方法】  
●室温
- 【有効期限】  
●1年
- 【主な検査項目】  
●百日咳菌DNA



# 容器一覧

## T1 ヒトヘモグロビン (LA) 採取容器

- 【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●1年6ヶ月  
【検査項目】  
●糞便中ヒトヘモグロビン (LA法)



## T3 ヒトヘモグロビン・トランスフェリン専用容器

- 【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●2年  
【検査項目】  
●糞便中ヒトヘモグロビン・トランスフェリン (金コロイド法)



## U マップケース

- 【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●—



## V ヘパリンリチウム入採血管(QFT用)

- 【保存方法】  
●4 ~ 25°C  
【有効期限】  
●—  
有効期限は採血管に表示  
【検査項目】  
●クオンティフェロン 4G ELISA  
【採取量】  
●6mL



## W ポリチューブ

- 【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●—  
【容量】  
●6mL  
●10mL



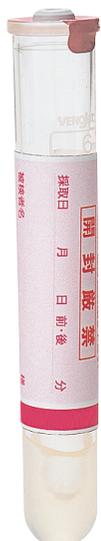
## X 肝炎関連核酸検査専用容器

- 【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●1年  
【採取量】  
●6mL  
【主な検査項目】  
●HCV核酸定量検査 (HCV RNA定量)  
●HCV RNA コアジェノタイプ  
●HBV核酸定量 (IU)  
●HBVプレコア/コアプロモーター変異検出 (PC変異)



## Y 間接クーモス容器

- 【保存方法】  
●室温  
【有効期限】  
●1年  
【採取量】  
●9mL  
【主な検査項目】  
●間接クーモス試験定性  
●不規則抗体 (間接クーモス同定)



## Z ウイルス分離・ウイルス同定専用容器

- 【保存方法】  
●冷蔵  
【有効期限】  
●6ヵ月  
【検査項目】  
●ウイルス分離  
●ウイルス同定



# 新規検査項目記入欄

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考

# 新規検査項目記入欄

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考

新規検査項目記入欄

# 新規検査項目記入欄

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考

# 新規検査項目記入欄

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考

新規検査項目記入欄

# 新規検査項目記入欄

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考

# 新規検査項目記入欄

コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	備考

新規検査項目記入欄